
最低からの脱出劇

とうぱぱ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最低からの脱出劇

【Nコード】

N2634F

【作者名】

とつぱは

【あらすじ】

正直：最低な男でした…。でも：人間って変われます。総額60万の借金…：1最低になるまでが長いです。2最低になっても長いです。3最低過ぎて気分を悪くする人もいるかもしれません。4途中脱線もすると思います。5突っ込みどころ満載です。6ちなみに今は改心しています。7恋愛話なのかな？8途中からドロドロのグダグダです。

始まり

この話はノンフィクションです。小説と言い難い作りになっています。

〈1章〉

まずは自己紹介です！

当時、年齢は20歳。短大生。皆からは『ふくちゃん』と呼ばれてました。

話の前に少し説明を…

中学、高校とやんちゃでしたが話が『最低からの脱出劇』とは違うので省略します。

多少被るところもありますが…当時、22歳の彼女が居ました。

俺は結婚願望が強くて結婚も考えていましたが…

最近…彼女の様子がおかしかった。

携帯を2つも持つてるし、昔はベタベタして来たのにして来ない…

そんな時…やっぱり言われた…別れようって。

ちよっと前には卒業したら（短大）結婚しようって言ってたのに…

皆も聞くと思うけど俺も聞いた…『何で？』って…

正直…聞いた事に後悔した。

「ごめん。…彼氏が出来た。…近いうちに結婚する…」

絶句した…

何も言えなかった…

いや混乱して言葉が出なかった…

でも俺もそんな事言われても納得出来ない！

彼女にどうしてもその男に合いたいと伝え、3人で合う事になった。

相手は結構ゴツくてかっこよかった…って褒めてんじゃねーよ！俺！

聞く所…族の特攻隊長だったみたい…

つかそんな話してくるって事は喧嘩売ってるだろ！

俺はやる気マンマンでいざ殴り掛かろうとした時…

いきなり土下座してきた。

『彼女を俺にくださいっ！必ず幸せにしますっ！』

ビックリしたが向こうが本気なのは分かった…

向こうも引けない。俺も引けない。でも彼女は向こうに惚れてる。

俺は小さな希望を持ちながら

『彼女に決めてもらおう』って言った。

最初から結果は分かってた…まじ見え見えだったよ…

でも目の前で言われるとショックだった…

「ふくちゃん。ごめんね…」って…

独り寂しく帰りの車の中…『ライオンハート』熱唱しながら涙を流した。

〈数日後〉

1通の手紙が届いた。この間別れた彼女からだった…内容をみて俺は驚愕した。

『結婚することになりました。今まで有難う。』

まだ別れてから1週間だぞ…ありえねーって…
なんだよそれ…

『結婚って何だよっ!』

地元の友達と毎日同じ話題で飲み明かした。

次第に短大に行かなくなり、バイトに行かなくなり、
飲んだあとは2〜3時間寝てスロットを打ちに行った。

夕方まで打った後は飲みに行ったり、麻雀しに行ったりしたが、

そんなに毎日豪遊してお金が続く訳でも無く次第にお金が無くなつて来た…

でもおかしい…仲間達はお金が減らない！バイトだって全然やって無いのに、

スロットだってちょこちょこしか勝ってないし俺と同じくらい減る筈だ…

俺は疑問をぶつけたが帰って来た返事は…

「ピピピだよ」

????

最初は意味が解らなかったが…説明を受けて初めて分かった！

消費者金融だった！

「ピピピするしかねーよ！」

最初は抵抗が在ったから断ったが…

借りてしまった！それほど金が無かったのだ…

借りてやっとな『ピピピ』の意味が分かった…

借りる時に暗証番号を『ピピピ』と押すからだ。

限度額は20万だった。抵抗が在ったし、出来るかぎり使わないようにした

が…

使った。
限度額一杯使った。
使ってしまった。

そして返済日後悔した。
使い終わった後の返済は痛かった…
たった1回の返済がまじ辛い…

金も無いし、する事無いから短大に行く事にしたが…

短大には……俺の人生を変える出来事が待っていた…

短大に酒を持っていき、飲んで騒いでる最中にバイトの話になった。

I 「俺風俗でバイトしてるんだ！」

『マジで？金いい？』

I 「金は普通かな。時給1000円だし、でも日払い！」

『あちい！俺もやりたい！』

「じゃあ〜今日バイトだから話しとくよ！」

I がバイトに行ったら速攻電話が掛かって来た！

「社長が名前が気に入ったって！要するに採用してくれるみたい！」

「マジで？サンキュー！じゃ〜履歴書持って何時行けば良い？」

「履歴書は要らないだって！今から来れる？」

「暇だしいいよ！」

「免許書持って来て！名前確認したいって！」

「了解！」

実は俺の名前は変わってて名前に「福」の字が入ってる。ここだけでは無く過去3回も電話で名前を言っただけで面接に受かったことがある。

アルバイト

とりあえずスーツを着て家を出た。

『つか業種聞いとけば良かったな…』

(この時の髪型は短い髪にパーマを掛けたらアイパーになったしまつてたし、

口髭と顎髭も生えてた。)

~~~~~

待ち合わせ場所に着いた。そこはマンションの前だった  
Iが外まで迎えに来てマンションの中に入った！

予想通り…中には恐いお兄さん達がたくさん居たのね…  
でも目線を逸らされて

「ちいーすっ」

「ご苦労様です」

とか言われたのでとりあえず会釈しといた…  
奥の部屋に社長らしきカジユアルな服を着て居る人が座って待って  
いた…

そして第一声が…

社長 『あっ…ふくちゃん？顔怖いね』

合っていきなりふくちゃんかよ…と思いつつ周りを見ると…  
何故か緊張の糸が切れたようにマッターしはじめた！

社長に免許書を見せると…

社長「君本当に20歳？30歳ぐらいに見えるけど？」

予想は出来た。俺が見たって30歳ぐらいのヤクザに見える！

社長「じゃあく採用ね！うちはデリヘルだから免許が無いと仕事出  
来ないしね！」

すると周りの人達が話し掛けて来た！

「マジでヤクザが入って来たかと思ったよ…」

「怖いからとりあえず目線逸らしといた。」

ってそこまで言わなくても良くないか…

社長「明日のお昼から来てね！」

『分かりました！』

そして明日からデリヘルの従業員になることになった。

今日は早く起きてスーツを着て家を出た。

着くなり変なオネーさんに睨まれた…

とりあえず挨拶をしたが、まだ睨んでる…

エス『私エス。とりあえず早番を仕切ってる。まだこの店は立ち上げたばかりだから！

凄く大変なんだし、私お前みたいなやつ…嫌い！…』

『えっ？…ハア…』

と返事したが内心は…

この人がエスさんてのも分かった。

立ち上げたばかりで忙しいってのも分かった。  
でも初対面でお前嫌いって

どーいう事だ？

かなり不思議な人だな…

俺…この店でやっていけるのか？まじで不安だ…

その日はある程度仕事内容を教えられた…

大体の仕事内容を覚えた時…店電が鳴った！

エス「じゃ〜今までのを踏まえて電話出て！」

『電話の対応はまだ教えて貰ってませんけど…』

エス「いいから出るよー！」

『はい！もしもし！』  
プープープー

『切れてますけど？』

エス『おめーが出るのおせーからだよ！明日からどーすんだよ！』

？？？

意味が分からない…

明日から何？

エス『今日は一人で全部できるように成るまで帰さない！』

金が貰えるし、遅くまでやるのは逆に嬉しかった！

……でも明日って何だろ？

何とか仕事は覚えた。（仕事内容は簡単。客への対応、拠点の町の道を覚えればいい。）

エス「もう夕方か…大体覚えただでしょ？」

『はい！ある程度出来ると思います！』

そんな時また店電が鳴った。

『はい！もしもし！～ですね？ただいまお伺い致します！』

『写真見せ入りました。行って来ます。』

（この店は当時デリヘルでは珍しい写真見せを行っていた）

エス「今女の子の入れ替え時間だからこの娘しかいないからこの娘で決めてきて！」

俺は運が良かったのか…

腕が良かったのか…

ビギナーズラックなのか…

とにかくその娘に決めさせた！

エス「やれば出来るじゃない！これで安心したわ！

じゃー明日からの早番の責任者はふくちゃんね！」

??????

全然意味が分からない…

エス「ここの店立ち上げたばかりで従業員が居ないの！

私は早番が来るまでのお手伝いだし、私夜行性だし…でもふくちゃんなら何とかなるよ！」

だから意味分かんないですけど…

俺・・・新人ですけど…

『えっ！？俺1人ですか？』

エス「もちろん」

早番から開放されたのかかなり御機嫌だ…

もちろん断ったが…  
言うまでも無い…

無理だった…

結局1人でやることになった。

でも…トラブル起きたらどーすんだ？っと思いつつ気が付いたら仕事場に着いていた…

朝10時到着

部屋の掃除

女の子の必需品補充

女の子の迎え

(駅まで)

オープン11時

つかその日に限ってすげー混んだ！女の子オープンから5人で待ち客もいた。  
新人なのにすげー頑張ったよ…

でも全て金のため…

借金返済のため…

1日10時間以上働いてた。これなら直ぐに返せるな…楽勝だよ！

1人でやり始めて1週間が経っていた。

馴れるまで大変だったためいつも仕事が終わってからすぐ家に帰っていた…

仕事にも慣れてきたし、明日の仕事の支障が出ないぐらいに

今日は久し振りに友達と飲みに行くか！

早速皆に電話したが急だったため親友のリーしか捕まらなかった。

まゝたまには2人で静かに飲むか！金使わなかったから金あるし、おごつてやるか！

居酒屋でリーと飲んで今やってる仕事の話したら…食い付いて来た！

リー「俺もやりてえ！俺にもやらせる！」

従業員も少なかったからだいぶ助かる！早速社長に電話して明日から来る事になった。

~~~~~

次の日リーと待ち合わせて仕事場に向かった！俺とリーで早番…

大体の仕事は教えた。リーは飲み込みが早く夕方には電話も出れるようになった…

夕方社長が来て軽い面接をしたあと…

社長「今日人居ないから通しでできる？」

(要するにオープンラストだ)

金も欲しかったからリーも俺も了解した。

社長「遅くなったら泊まってもいいよ！」

この言葉から俺達は毎日泊まり込みで仕事をするようになるのであった…

通しをやったりすると1日15000円〜20000円貰えた

(早番遅番で飯代10000つつ貰えたのも入れて)

かなりお金が入ってくるからウハウハだ…

いつもポケットには5万は入ってた。

…

…

…

でも不思議だ…

…

…

…

俺には貯金が無い。かといって返済日以外に返済してる訳でもない…

それは何故か…

日払いと言つ甘い罠が合ったからだ…

現金を持ったら使い、とりあえず5万はキープを続けていた…

それじゃあ貯まるはず無いな… 仕事終わってから毎日飯食いに高

い所に行つてたし…

現金と言う甘い罠にハマっていた…

そんな時実家に電話が鳴った。

短大からだった。

授業料が滞納してますって…

俺は辞めるつもりだったから親父に辞める事を伝えたら

親父『勝手に辞めるなら自分で授業料払えな！俺は知らないよ！ふくちゃんの自由にしな！』

考えたらその通りだ。親父には分かったと伝えた。でも幾らなんだろう？調べてみよ…

短大に連絡してみた。

授業料は15万だった。授業料を払ったら辞める事を伝え、今週中に払いに来るように言われた。

…

…

…

手持ちは5万…

今日は火曜日…

今日を入れて、火、水、木…金曜日に払いに行くとして…

足りねえ…

どう考えても足りねえ…

やべえなあ…

マジでやべえ…

やっぱり借金するしかないか…

いや駄目だ！

これ以上借りてどーすんだ？

返せないだろ！

絶対駄目だ！

…

…

…

借りた。

結局他社で借りた…

限度額20万…

…

…

全部借りた。

余裕で返せるだろ！

とこの時は思っていた…

15万払っても5万は残ったから豪遊した。

12月：バイトし始めて1ヶ月半が過ぎていた。そんな時また電話が鳴った…

お姉ちゃんからだった！

お姉「今年パパが還暦になったでしょ？しかも年始はふくちゃんの成人式じゃん！

ハワイ旅行こうよ！旅費はお祝いで出してあげるからお小遣い持ってきてなね！」

『マジで？行く行く！』

年始が少し過ぎてから5泊7日ぐらいの予定だった

よし！金貯めよ！

しかし日払いと言う罠にハマったまま貯められるのか？

でも貯めようとしても返済日があったり、リーに飲みに誘われたりした。

…つかリーに限っては断って横になっても上に乗って来て

リー「まじキレた！あ~~~~行くまで動かねえ！」

(性格上こんな奴だが、今まで会ってきた中でここまでウザイやつは居ない…)

泊まっているのは俺とリーだし俺にかまって来るしかない。

でも…

金貯めるから断った。

俺もリーも気前がいいからいつもどちらかの奢り！

飯に奢ってくれろって言われても、俺が払うってなるからって断った。

疲れたから寝るって言って横になった(ここまで言えばリーも誘って来ないだろ！)

リー「何処行く？」

『行かないって！』

…

…

…

『よし！今日はノリノリで飲むぞ！』

…

結局飲みに行く事になっていった弱い自分がいた…

年末年始は3 1 1 2が休み。もう1 2月2 0日…

1月5日から出発だから3日は出勤でも4日は休みたい。

小遣いは2 0万は欲しいからな…

フルに出るしか無いな…

…

…

が・・・風邪引いた…

…

…

フルに働けなかった。

あとは……………

駄目だ！それは駄目だ！

キレんぞ！俺！

…

…

…

借りた。

俺の良心はキレなかった。

他社から限度額10万。総額50万・・・

こんなの余裕だよ！

しかし絶対余裕じゃ無かった

借金と女

…ここまでは『借金の話をしました。借金の話もまだまだ続きますが…』

次はデリヘルに入ってから『女関係』について話します。

なぜ分けて書いたのか…

それは旅行から帰って来ると同時進行になるある事件が起きるからです…

今はフリーだし軽い女関係書いても面白くないしね！

さて 自己紹介とデリヘルの説明します。

デリヘルには1号店 2号店がありました。

場所はかなり遠いです。

これからの話に出て来る人達を店舗で分けて行きます。

I 俺を誘った張本人。 1号店。

社長 どちらかの店舗にいる。笑顔は天使みたいでハゲている。

エス 社長の愛人してる。いつもぼーっとしている。気分の気性が荒過ぎる。

機嫌が悪くても10秒で機嫌が良くなる。酔っ払うと可愛い。左手の小指がない。

リー 俺の親友 2号店

Yさん　いつもぼーっとしている。特になし。2号店

A　短大の友達　可愛い顔してるが非道。1号店。

まーくん　若くて俺より3歳上。かつこよくていつも織田裕二の緑色のジャンパーを着ている。2号店。

鍋さん　ゴツい。真面目　二枚目では無い。2号店。

Oさん　ロン毛のストレートでちょうかつこいい。両方に顔を出す。

みつさん　ゴツい。マジ怖い。俺には優しい。2号店

俺　2号店

リーと仕事をやり始めてからは毎日のように飲みに行ってた。

正直な話…手っ取り早く女を捕まえるには最高の場所だと思っていて…

それはリーも同じであった…

リー「ふくちゃん…誰狙うの？この際言っちゃいなよ…」

『リーから言えよ！』

リー「俺…は…ちびが良いかな！」

(ちびは可愛くてギャルギャルな女の子18歳)

『まじか！俺は…まだ決めて無いか…いや…しいて言えばエーち
ゃんかな…』

(21歳で顔は普通なのだが話すとは故か癒される。しかも初めて
会った時の印象が何故か強い。)

リー「じゃ〜決まりな！」

『何が？』

リー「どっちが先に口説けるか勝負しようぜ！」

『マジかよ！まだ決めてねえーって！』

…
…
…
…

勝手に決定された。

勝負と決まれば負けたくない。

でも…前の彼女の事をかなり引きずっていた…

だから仕事に没頭し、飲みに行つて忘れたかったのだ…

正直口説くでは無く、今は遊びたかった。

付き合つて同じ思いはしたくない… そう思い出したらキリが無か
ったからだ…

そんな時…

鍋さん「エーちゃん送ったら上がっていいよ。」

まじか…とりあえず送るか！

『何処まで送ればいい？』

エーちゃん「じゃ〜ジヨナサンで」

『誰かと待ち合わせ？』

エーちゃん「夜勤の仕事って言うてあるから夜中に家には帰れない。」

『まじか！1人じゃ危ないから俺も付き合っよ！』

ジヨナサンに着いて色々な話を聞いた。何故この業界に入ったのかとか家族の事とか…

「彼氏」の事とか「結婚も考えてる」とか…

彼氏もいて結婚も考えてるのか…めんどくせーな…
やっぱ口説くの辞めよ。

あっ…最後にアレだけ聞いてみよ！

『俺とリーどっちが好み？』

エーちゃん「リー君かな！」

…

…

…

まじキレた！この女口説き落としてやる！

結局口説く事になったのであった。

さて…口説くにも彼氏もいるし、結婚も考えてる…

普通口説きに行っても結果は見えてるな…

よし！まずはエーちゃんと彼氏の間に入り込まないと…だな！

まず女の子の予定表を確認する。エーちゃんが出勤時には俺も出勤する。

どうせエーちゃんは家に帰らないから俺も付き合っ…

仲良くなる…

口説く！

これで行こう！

絶対リーには負けねえ！

エーちゃんは2日出て（通し）1日休む。
かなり出勤率が高いので俺と遊ぶ時間も多い。

時にはカラオケ、居酒屋、ビリヤード、ボーリング…ほかに色々…
しかも全部向こう持ち！それじゃあ悪いのでガス代は自分で出した…
……
領収書を店に渡せばガス代は貰えたから…

リーの方も順調でいい感じだった。
次第に4人で遊ぶようになり、Wデートみたいな感じになっていた…
しかし！！

俺の人生そんなにうまく行く訳がない（三村風に）
当たり前だ…

ある日客用の写真を見ていた…

1人可愛い娘がいた…

ソファーに座っていてちょっと遠くから写ってるが可愛い…（店の写真は全部ポラロイド）
遠めだが顔は浜崎あゆみに似ている…

聞いてみた。

『この娘可愛いですね？見た事無いけど辞めた娘ですか？』

〇さん「……………人には好みがあるからね…その娘は姉妹店の娘だよ…」

ん？姉妹店？人には好みがあるからね？

『姉妹店なんてあつたんですか？つかこの娘可愛いですね！会ってみたいな〜』

〇さん「姉妹店は大阪にあるよ！…そんなにその娘に会いたいなら明日も出勤しな！
明日その娘来るよ！」

大阪に姉妹店なんてあつたんだ…

出勤すればじゃなくて毎日してるし…でも明日その娘来るのか！楽しみだな〜

名前はHさんね！よし！会っても間違えないようにしないと…

Hさんはエスさんと仲がいいみたいでたまに大阪から遊びに来るらしい。

長く滞在するからその間遊ぶ金の為2号店で働くらしい。

その日仕事が終わってから早番のマンションにビールなどを買って泊まりに行った。

(早番と遅番で違うマンションでやってる。警察対策らしい。)

ん？電気が付いている…

リーはまだ遅くなるって言ってたし…

消し忘れかな…

ドアの前まで行くと話し声が聞こえる…

誰か居るのかな……？

ガチャ…

…

「あ~~~~~!!ふくちゃん!!」

エスさんだ…

酔っ払ってる…

ん？ほかにも2人居るぞ…？

？「初めまして〜」

？「お疲れ様〜」

『ども…ふくちゃんです。』

？「メイです！よろしく〜」

メイさんは25歳前後の可愛いお姉さんだ…
この人もありだな…

?「あつふくちゃん!!私Hね!!…やだ〜ふくちゃん私好み〜!!」

えっ?今Hって言った?

アレ?浜崎あゆみは?

目の前に居るのって…

…

…

…

和田アキ子…に…めっちゃ似てるけど…

…

…

今…私好みって言ってなかった?
いや多分…空耳だ…

アッコ「ふくちゃん可愛い〜!」

…

…

…

空耳じゃねえ〜！！！

Hはこれからアッコとする。

アッコ「ふくちゃん隣来て〜一緒に飲もう〜！」

いや…勘弁してくれ…

アッコ「ほらっ！早く！」

…

…

無理矢理連れて行かれた…

マジやめてくれ…

エス「あゝ気が利くね〜！ビール買ってきてくれたの〜？」

お前にじゃねえーよ…

アッコ「ふくちゃんも飲みなよ〜！〜！」

この状況じゃ仕方ねえ〜 飲むか…

…

…

リー早く戻ってこい…

…

…

もうだいぶ先に飲んでたのか皆直ぐに寝てしまった…

つか俺の寝る場所取るなよ…

疲れた…ゆっくり寝れなかった…

疑問に思ったが…昨日はしょうがないが今日からアッコは何処に泊まるんだろっ？

…

まあ…いいか…

仕事中はごく普通に過ぎていった…

ただ1つ…写真指名でアッコを進める時に心が痛んだだけだった…

今日リーがアッコとメイさんに会った。

メイ「Hちゃんがふくちゃん行くなら私はリー君行こうかな！」

メイさんは直球だ！リーに直接言ってきた…

『いいな〜リーは…俺なんてアッコだよ…』

仕事も終わりそんな事言いながらマンションに戻った…

酒を買って来てリーと飲み始めた…

ガチャ

誰か来た…

!!!!!!!!!!!!!!

アッコだ!!!!!!

何故ここに来た？

忘れ物か？

多分忘れ物だろう…

アッコ「ただいま」

忘れ物じゃねえー！

ここに泊まる気だ！

（遅番のほうには他の人が泊まってる為俺とリーは早番のマンションに泊まってる）

…と思ったら俺の部屋に入って行った…

おいおい何する気だ？

パジャマに着替えて来た…

アッコ「ふくちゃん！！今日から同じ部屋ですが宜しくね！襲って来てもいいよ！」

とりあえず冷静に考えた…

いや冷静になれねーよ！

俺の部屋取るなよ！

つか襲いかわらないから安心しろ！

『じゃー俺リーと一緒に寝るんで部屋使ってくださいー！』

アッコ「ええやん！一緒に寝ようよ！」

『いやエスさんに怒られちゃいますよ！』

何とか逃げる事に成功した…

それからの日々はマジ付きまとわれた…

無理矢理買物に連れて行かれたし…仕事終わってからも電話掛かってきたりとか…

エーちゃんと飯食ってる時とか電話掛かってきて…

アッコ「ふくちゃん〜まだ〜早く帰って来てよ〜」

いや帰りたくないし…

リーが居ない日なんてもっと酷い…

帰ってから飲むとアッコにハマリそうなので外で飲んで帰って寝るだけの状態で帰るんだが、アッコはリーが居ないのを知っているのかテーブルには酒やつまみなどが並んでいる。しかもアッコは何も手を付けなくて待ってる。

そういう所は可愛いんだが…顔がアッコじゃ…

でも可哀相なので飲んだりはしたが流石に俺も眠い…先に寝ますと伝えて寝るのだが、必ず…

アッコ「隣りで寝ていい？」

と聞いて来る…

毎回丁重にお断りしている。

たまに朝に起きると隣りに居る時がある。

朝は機嫌が悪いので毎回キレていた…

俺も考えた…

このままじゃエーちゃん口説くのに邪魔になる…

…

…

…

!?

思い付いた！

早速行動しよう！

『エーちゃん今日仕事終わったら相談があるんだけど…』

エーちゃん「いいよ！じゃ〜飲みに行こう！」

そして仕事が終わって飲みに行く事になった。

事情を説明して作戦を伝えた。

アッコに俺とエーちゃんが仲が良いのをアピールしとく

アッコが纏わりつく

アッコの前でワザとエーちゃんを誘う（俺が誘えば文句は言っていない）

エーちゃんも付いて来る

アッコがベタベタしてくる

エーちゃんが邪魔をする。

そのうち諦める。（アッコの滞在時間は1ヶ月なので。因みに今は11月半ば）

エーちゃんと協力プレイでもっと親密に…

エーちゃんもノリノリで協力してくれた。

作戦実行！

…

…

エーちゃんを呼ぶ所まではいい感じで進んでいった…

しかし肝心なベタバタしてくるところを邪魔する所で…

アッコ「エーちゃん！邪魔せんといて！」

流石アッコだ…

一筋縄じゃいかない…

ん？様子がおかしい…

エーちゃんが見つからないように爆笑している…

助けてくれるんじゃないかなかったのか？

マジかよ…

結局エーちゃんは俺が嫌がっているのがツボに入りずっと爆笑していた…

作戦失敗…

次の日…

今日の仕事は一段と疲れた…
マンションに戻って寝よ…

『Hさん今日はマジ疲れたので寝ます。』

グッスリ寝れるのかと思いきや、中々寝付けない…
とりあえず目をつぶっていたら…隣りにアッコがやって来た…

アッコ「ふくちゃん可愛い…」

まさか隣りで寝るのか？
勘弁してくれ…

…

…

…

チュツ…

…

キスしてきやがった！
マジかよ！勘弁してくれ… 頼むよ…マジで…

とりあえずどうする俺！

1 起きてキレル

2 俺もムラムラモードに突入

3 寝てるふりをしてやり過ごす

∴

∴

∴

3 番以外無いでしょ。

1 番 2 番期待してた人ごめんなさい。

とりあえず寝たふりをしてやり過ごしたが、寝てるのを良い事に抱きついて来た。

寝てるふりしてるのでそれもやり過ごした…

いつの間にかに寝てた。

もう朝か〜

やっぱりアッコが隣りに居る…

∴

憂鬱だ…

アッコ「あっ…ふくちゃん起きたん？おはよ！」

やけに機嫌がいいな…

俺は憂鬱だった…

後半月も経たない内に大阪に帰る…

それまでの辛抱…

それから1週間ちよつとが経ったがアッコとの生活は変わらなかった…

その間エーちゃんは俺を見て爆笑していた…

しかし!!

アッコが帰ると言う情報が飛び込んで来たのだ!!

エス「Hちゃん今週中に帰っちゃうよ!」

来たー!ー!ー!ー!

遂に来た!

この瞬間をどのくらい待ちわびたか…

早速アッコと話してみよう!

『Hさん今週中に帰るんですか?』

アッコ「うん。明日帰る…ふくちゃんに会えなくなるの寂しいな…

そっだ!今日仕事終わったら買い物行くっ?」

最後だし…別にいいか!

~~~~~夜~~~~~

仕事も終わったしアッコと買い物でも行くか…

ドン・キホーテ到着

(夜中に買い物するため)

アッコが先頭で歩いてブランドコーナーに着いた。

アッコ「ふくちゃんに何かあげたいの…思い出になるでしょお？好きな物買って良いよ！」

まじか！でもここで何か買って後で…とか無いよね？

…

恐いからなるべく安い物にしよう…

…

…

『「これでも良いですか？」』

俺はGUCCIの3万の時計を選んだ。

アッコ「そんな安いのかかん！これにしゃ！」

GUCCIの6万の時計だった。

ラッキー

マンションに帰り軽く飲んで寝る筈が…

やっぱり隣りに来た…

アッコ「最後だから腕枕して…」

時計も買って貰ったし…しょうがないな…

腕枕をして寝た。勿論それ以上発展するわけがない。

そして次の日普通に帰っていったが…

アッコが帰って1週間が過ぎようとしていた…

同時にエーちゃんとは少しづつだか進展していた…

12月半ばのそんなある日…

エス「ふくちゃん！今から新横浜に行つて来て！」

『何ですか？』

エス「新幹線でHちゃんが来るから迎えに行つて！」

今何て言った？

アッコが帰って1週間しか経って無いけど？

『仕事中ですけどっ。』

エス『いいから行ってこいよー!』

すんげー遠いし…

帰りの車の中…俺いやなんですけど…

…

…

…

憂鬱だ…

…

やっと着いた…

1時間半掛かったけど… 帰りの1時間半どうしよう…

…

来た!奴が来た!

アッコ「お待たせ〜!ふくちゃんに会いたかったから来ちゃった!」

和田アキ子に言われても嬉しくない。

車に乗り込んで来たが、スカートがすげーミニ…  
運転席から見ても見えるんじゃないか？ぐらいミニ…顔はアッコで  
もいい体している…

俺も男…どーしても見てしまう。

だからと言ってアッコには手を出しませんから…

駅からすぐ移動するとホテル街があるのだが、そこを通り過ぎる時…

アッコ「ふくちゃん…ホテルいかへん？」

『ははは…行きませんよ…』

何度も言うけどアッコには手を出しませんから…

やっとマンションに着いた。長い道のりだった…

アッコは助手席からベタバタしてくるし…マジ運転の邪魔だから…

また今日から俺とリーとアッコの3人で過ごすのか…

だが俺も成長したのかアッコの対応に慣れて来た。

流石に疲れている時は違うが…

勿論エーちゃんは爆笑していた…

何だかんだで年末の30日になっていた…

仕事納めの日だ。この日は全従業員が集まって飲み会をする。

女の子達は来ないがエスさんと仲がいいアッコは来るだろう。

飲み会の時間になって少しづつ人が集まり出した！

俺はリーとEとAで仲良く座ってたが…

やっぱりアッコ登場。

普通に俺の間に割り込んで来た…

リー、I、A…爆笑…

笑ってんじゃねーよ！

社長が話しを始めて皆にお小遣いを渡して来た。俺の番になり、

社長「ふくちゃんが1番頑張ったね！今月45万も稼いでたよ！頑張ったからお小遣い奮発しといたよ！」

マジっすか！3万円も貰った。ラッキー

ん？冷静に考えた凄くね？45万って事は…時給1000円だから13時間働いたとして13000円、

通しの飯代が20000円で15000円…15000円でも30日働かないと行かないじゃん！

しかも風邪引いて途中離脱したし…どんだけ働いてんだよ！俺！

つか金…お小遣い入れて10万しか無いのは何故？

たしかに高いスーツとか買ったりしたけど…

使い道はご想像におまかせします。

(薬とかはやってません。キャバクラも行ってません。)

残りは1月3日に働いて4日は休んで5日からハワイだ！

そして3日は通しで働いた…3日だと女の子も結構出勤してお店も大繁盛だった。

勿論エーちゃんも出勤していた。

『すげー疲れた。マンションで寝てから帰る…』

これが不味かった…

事件が起きるのである…

俺が寝ようとしてるとまたアッコが隣りに来た…

マジ眠いから俺リアクション出来ないよ…

…

ガチャ…

…

チュツ

…

…

またして来たよ…

マジ勘弁してくれ…

…

ん？ガチャって聞こえたよっな…

エーちゃん「Hさん！何してるんですか！ふくちゃん寝てる時にそんな事してるんですか？」

…忘れ物取りに来ただけなのでもう帰ります！！」

…

エーちゃんかよ〜

まじタイミング悪り〜

どうする？

1 エーちゃんを追いかける

2 俺ムラムラモードに突入

3 眠いので寝る

…

…

…

3の寝るでファイナルアンサー

…

マジめんどくせー

寝てるふりして2人ともに気付かなかった事にしとこつ…

次の日、俺はエーちゃんに電話した…

エーちゃんは昨日あった出来ごとを俺に説明してくれた。

勿論俺は知っているが芸人張りのリアクションをしといた…

少し疑っていたが寝て居たふりはバレ無かった…

最後には機嫌を取る為にお土産などの話しをして上手くまとめた。

しかしハワイから帰って来ると事態はいっぺんしていた…

## 番外編

この章はデリヘル中のハプニングを話したいと思います。

まーくん編

当時うちの店ではステカン（電柱とかに貼ってある長細い看板）とかデンバリ（電柱に貼ってある張り紙）で宣伝をしていた。勿論警察に見つかったら「道路交通方違反」で捕まってしまう。

まーくんはその日デンバリしていた…

警察「おい！何してる！」

まーくんはダッシュで逃げた！しかし警察は次第に人数が増えて追いかけて来る…

細かい道に入ってもう逃げられないと思ったまーくんは電柱に登った！

流石の警察も上は見ない。まーくんが居なくなった場所を重点的に探してる…

まーくんからは丸見えだ！ふと下を見ると警官達がまーくんの電柱に集まって会議している…

警察「あいつ何処に行った！ここの辺に隠れてるはずだが…」

…

…

…

ピリリリリリ…

たまたま用事があって俺が電話してしまった！

警官達が全員見上げた。

警察「あついた…」

まーくん…ごめん…

タバコ買って来て欲しかっただけだったんだ…

俺編 1

たまたま早く仕事が終わったので1号店のAに会いに行った。

着いた時点でトラブル発生！

ホテルの中で女の子が無理矢理生でやられた…

その日の責任者のみつさんは夜食のラーメンにお湯を注いだばかりだった…

みつさん「参ったな〜お湯入れたばかりなんだよね…」

A「みつさん！ふくちゃんなら大丈夫そうじゃないですか？」

みつさん「そうだね！ふくちゃん顔悪いし、なんとかなるでしょ？」

『マジっすか？』

みつさん「頑張つて〜あつ相手やくざだから！」

A…余計なこと言うなよ…

場所が分からないのでAにも付いて来てもらった…

しかし事態は一刻を争う。女の子から助けてコールが鳴ってから5分以内には着いた！

ドアを開けたら…

女の子が飛び出て来た…

部屋の中には裸でアソコはピンピンで身体に刺繍が入っている人が仁王立ちしていた…

俺内心かなりびびってたが

『お客さんなら分かると思いますが…トラブルにしたいんですか？お金払って遊ぶんだから楽しく遊ばないと損でしょ！素人じゃないんだからこれからはルール守って楽しく遊んで下さいよ！』

(さりげなくまだトラブルになって無い事をアピール)

男「おう！」

『じゃーオプション代7000円になります。』

男「おう！」

オプション代を払えばトラブルにならない事が分かったのか素直に渡してくれた。

俺の咄嗟の言い方が良かったのか俺の顔が恐かったのか分からんが助かった…

多分相手もびびってたと思われる。(おう以外喋ってないし…)

これにて一件落着！

エスさん編

俺とエスさんと駅の繁華街をドライブしていた。

(結構栄えてる町なので歩行者天国並みに人がいる)

運転をしていたのはエスさんと人がかなり多かったのでノロノロ運転でイライラしていた。

エス「マジつざい…」

少しスピードを上げた瞬間ミラーが若いイケイケのお兄ちゃんに当たった…

イケイケ「痛いよーおねーさん！」

(軽でスモークは貼って無かったので丸見えだった)

エスさん…シカト…

でも相手はイケイケのおにーちゃん…

シカトしながらノロノロ運転しているがイケイケは追いかけて車を叩いてくる…

『いいんですか?』

エス「避けないガキが悪い！」

段々スピードが上がってくるにつれてイケイケが徐々に小さくなっていった…

イケイケのおにーちゃん…ごめんね…

小さくなっていくおにーちゃん見て笑っちゃったよ…

俺編2

早番のマンションでの話し…

暇だったので大掃除していた…自分の部屋のクローゼットの中を掃除しているとき、

上の段の1番奥からデカイリュックサックが出てきた…

興味本位で降ろしてみると…

糞重い…

構えて無かったので、腰がやばかった！30キロはあったと思う。実際リュックを持ったらリュックが破れそうになった。

なんだろう？

中を開けてみると

…

…

…

車のナンバープレートが山程…  
見たら不味い物かもしれない…

…

…

見なかった事にしよう…

○さん編

テレクラでスカウトしようとした時の話

小泉今日子似の娘と約束出来た！

○さん「白いワンピースに黄色いバックね！」

待ち合わせ場所に着いた！ え〜っと…居た！あの後ろ姿のあの娘だ！

○さんは手を振って駆け寄った！

○さん「おい！」

振り返った娘は…

…

ダダだった…

(ウルトラマンに出て来る怪獣)

そのまま手を振って走って通り過ぎた。

めげずにまたテレクラ

宮沢りえ似の娘と約束出来た！

Oさん「白いコートに水色のスカートね！」

待ち合わせ場所に着いた！え〜つと…居た！後ろ姿のあの娘だ！

Oさんは手を振って駆け寄った！

振り返った娘は…

…

…

この間のダダだった。

(ウルトラマンに出て来る怪獣)

そのまま手を振って走って通り過ぎた。

Oさんはテレクラに行かなくなった…

以上でとりあえず話を元に戻します！

帰ってきたら・・・

忘れてるかもしれませんが、借金50万。

ハワイはすげー楽しかった…

地元の人みたいな格好していたら色々な人達に話掛けられた！その度に

『アイ アム ジャパニーズ！』

つと言っていたが1番気まずかったのが、エレベーターの中で外国人のおばさんと2人の時に話し掛けられた事だった。

おばさん「○£%¢\$ %」

『アイ アム ジャパニーズ』

おばさん「オ〜OK!OK!」

それは俺の英語が初めて通じた時でもあった……ってこんな話しどーでもいい…

勿論お土産には気を使った！

店にはチョコレート

エスさんには1番安いハワイアンジュエリー

エーちゃんには デイオールの香水と高いハワイアンジュエリー

アッコには安い香水を買った。

ここで失敗談。皆さんも参考になると思います！

地元の友達にはショッピングモールで売ってた1個50セントの貝殻の長いネックレスみたいのを買っていった…

友達「ありがとー！」

友達「サンキュー！」

とか言つて貰つてくれたのだが…

友達「あれ？これさ…」

『ん？なに？』

友達「メイド イン チャイナ って書いてあるけど？」

友達「やっぱいらね！」

友達「俺もいらね！日本でも買えるだろ！」

無理矢理渡した記憶がある！

皆も メイド イン チャイナ には注意しよう！

自分にはかなり気に入ったハワイアンジュエリーとホワイトゴールドのネックレスを買った！

残金数千円

本当に20万全部使った…

帰って来た日にエーちゃんに電話した…

『ただいま』

エーちゃん「あ…おかえり…」

『どした？元気ないじゃん？』

エーちゃん「うん…実はこの間のキスしてた事でHさんと話したんだけど…Hさんは何でそんな話するの？ってそんなに気になるって事は好きなんじゃないの？って…」

『それで…？』

エーちゃん「それで初めて気付いたの…ふくちゃんの事…好き…なのかなって…」

正直…何て言っているのか分らなかった…  
付き合ってからまた裏切られるんじゃないかと…  
でもこの気持ち嫌じゃない…

とりあえず明日の仕事のあと飲みに行く事になった…

飲みに行って俺は正直に話した…今までの事…  
そしてもう少し時間がほしい事…

お互いに正直に話したらかなり盛り上がった！  
その場の勢いで1月22日に泊まりでデイスニーランドに行く事になった…

金あるのか？俺！

いや…ない…

また借金するか…

他社に借りに行ったが… 借り始めてからの時期が短く返済回数も少ない事から借りれなかった…

どーしょ…金がない…

…

…

あつ！短大人った時に作って家に置きっ放しにしていたカードがあったじゃないか！

これは使っしかねえ

デートの前日までフルで働いた…

アッコは俺があげた香水を毎日付けてた…

あまり良い匂いじゃなかった…

エスさんはあげたハワイアンジュエリーを付けずに、俺が付けていた高いハワイアンジュエリーを奪っていった…

その後…壊れて帰って来たのは言うまでも無い…

デート前日の仕事はかなり遅くなった…  
エーちゃんは先にながって待ち合わせ場所で待っている…  
俺も早く仕度しないとかなり待たせてる…

アッコ「ふくちゃん何処いくん？」

『今日休みで用事あるんで実家帰ります！』

アッコ「エーちゃんと遊びに行くん？」

！？

『ははは…そんな訳ないですよ…』

まじびびった！

女の勘は凄い…

やっとエーちゃんの待ち合わせ場所に着いた！エーちゃんも車だったので1度俺の実家に行つてエーちゃんの車を置いてデイズニールに寝ないで向かった！勿論カードも持ってきた！

デイズニールはかなり面白かった！かなり盛り上がり、まるで恋人同士だった…

俺も彼女と別れてから初めて異性と心から楽しく過ごせた時間だった…

(普通のデートだったので特に書く事は無い。ごめんなさい…)

寝てないから疲れていたが最後まで楽しく過ごして、  
デイズニールランドの周りにある予約してあったホテルに向かった…

ホテルに着き食事を取って部屋に戻りマッサージを頼んだ！

お互いにすげー疲れたしマッサージがマジで気持ち良くて2人とも  
いつの間にかに寝てしまった…

マッサージが終わり起こされてサインしてお互いに『疲れた〜』と  
か『気持ちよかった〜』とか話して本当はお互いに寝たかったが、  
儀式というか、ヤラないといけないというか、そんな状況で結局こ  
の日に結ばれた…

結ばれた後お互いそのまま寝てしまった…

むしろ結ばれた後何時寝たか覚えて無いぐらい爆睡した…

…

…

朝…起きると窓の向こうが眩しい…

お互いに窓辺に寄り添って行くと…

…

…

…

一面雪で真っ白だった…

『付き合いおう…』

自然に出た言葉だった…

エーちゃん「うん…」

1月23日…この瞬間だけは凄く幸せだった…

(なぜ日にちを覚えているかをいうと…1月23日の123ダーで覚えたからだ…)

いきなり、リーの話題になるが…

俺と同じ時期にちびと付き合いってた…

いつのまに…

リー勝負はどうなった？

まっ…どうでもいいか…

エーちゃんと付き合いあって1週間で俺の実家で同棲する事になった。今考えるとすげー早い。俺の親は女関係では何も言わない人だった。

仕事も順調に過ぎてく…

アッコは俺が実家に帰ることが不満だったのか、いつも以上に絡んで来た！

周りもアッコはふくちゃんが好きって事はバレバレで気を使っていた…

たとえばアッコと一緒に上がっていいよとか、勿論断っていたが苦痛だった…

付き合った後もエーちゃんは働いていた…

写真見せとか俺が行ったら絶対に薦めなかった！

それはリーも同じでエーちゃんとちびに限っては絶対に薦めない！俺はトークに自信があったのでエーちゃんやちびを指名されても他の娘をゴリ押し出来たが、リーなんて…

リー「あつ…この娘は今日休みです！」

とか言っていた。

さすがリーだ…

はつきり言ってデリヘルって凄く危険だ…

箱と違って従業員が居ない。つまり客と完全に2人になる…

エーちゃんいわく、目の前で薬やってる客とかに薬を進められたりとか

危険な事を言い出したらキリがない！

俺、リー、エーちゃん、ちびで話し合った結果2人とも辞める事に

なつた…

しかもちびに限っては実は17才になつたばかりだと言う！  
尚更危ないし…って歳誤魔化して働いてんじゃねーよ！  
だがそこはリーがしっかりと説教していた。

アッコについてはエスさんに「邪魔だから帰れ！」と言われ無理矢理帰ることに…

でも帰る日…いつもと様子が違っていた…

アッコが何故か俺にキレてるのだ…

アッコ「ふくちゃん！私本当に帰るよ！いいの？帰っちゃうんだよ！  
！ふくちゃんの言葉は何も無いの？」

そんな事言われても…引き止める理由もないし…何て言えばいいんだ？

と…とりあえずキレてるし、何か言わないと…

『Hさん！道中気を付けて下さい！』

逆効果だった…

アッコ「なんで引き止めてくれないの！何考えてるの？私が本当に帰っちゃってもいいって事ね！」

と…とりあえずまた何か言わないと…

『お…お疲れ様でした…え…え…とまた遊びに来て下さい！』

逆効果だった…

アッコ「ふくちゃんなんか大嫌い！」

…

…

帰ってしまった…

…

1 アッコを追いかける

2 アッコを追いかける

3 そのまま見送る。

…

3 そのまま見送るでお願いします。

俺は静かにそのまま見送った…

…

…

アッコが新幹線に乗る前に俺に電話を掛けてきた…

アッコ「さつきはごめんなさい…ふくちゃんに引き止めて欲しかった…でもまたふくちゃんに会いにくるね…」

別に来なくてもいいが…

『分かりました！また来てくださいね！』

当り障りないように言っというた。

アッコが帰って俺も寂しさを感じ…

感じなかったですから

むしろ嬉しかったですから

エーちゃんとちびが辞めた後、俺とリーはフルで働かないようにして彼女の時間を作っていた…

俺達が仕事の時はエーちゃんとちびはカラオケとか漫画喫茶とかに行つて俺達が終わると

毎回のようにならで飲みに行つてた…

そして…

気が付いたらバレンタインデーになっていた。

勿論仕事は休んでエーちゃんとデート！

この日だけはリーとも遊ぶわけが無い！

まず食事！（酒も）

カラオケ！（酒も）

居酒屋！（酒メイン）

ホテル

すげー楽しく過ごせた！

朝2人で家に帰ると、ベッドの上に大きな包みが置いてあった…

『何あれ？』

エーちゃん「開けてみて！」

包みを開けると…

…

…

大きなGUCCIの箱が出てきた…

箱の中身は…

…

！？

GUCCIのコートだった！

『すげー！ありがと！』

でも…金大丈夫だったのか？ エーちゃん年末に車買ってるし、金  
なかったはず…

『これ高いんじゃないの？金平気なの？』

エーちゃん「私のカードで買った！」

『何回払い？』

エーちゃん「一括だよ！」

『今働いてないじゃん！平気なのかよ…』

エーちゃん「そっか…考えてなかった…」

おいおい…金銭感覚が麻痺してるな…

どーすんだ？これ…

エーちゃん「支払いがきたら考えるよ！」

はは… とりあえず俺…働かないと…

(エーちゃんはこの時病気で手術するまで働く事が出来なかった。  
デリヘルは普通の仕事が出来ない為にやっていた。手術予定は8月)

コートを貰ってからは出勤している時、通しで働いた…とにかく貯

めないと…

俺が出勤している間にエーちゃんは彼氏と別れた…  
長く付き合ってたので会ってきちんと別れてきた。

リーはというと金が無くなったら働くって感じで過ごしていた。  
俺もこの時かなり体力的に疲れていたので思いきって当分休む事に  
決めた！

それからと言うと毎日スロットしにいった！勿論エーちゃんと一緒に！

アゲマンなのかすげー出る！

エーちゃんはビギナーズラックですげー出る！

そんな毎日を送っている時にリーから電話が入った…

## 抵抗が無い

リー「今からデイズニーランドいかね？」

『いかね！』

リー「奢るから行くこう！」

『行く！』

いきなり決まった！俺の車1台で出発！とりあえず持っていた20万持っていった！

デイズニーランドはやっぱり楽しかった！

1度休憩して俺とリーはトイレに向かった…

実はこの時…俺とリーの体は病魔に侵されていたのだ…

トイレに並んでおっこをしながら…

…

…

唸った…

『ぐぐあ…ぐあ』

リー「ぐうぐう」

お　っ　こが焼けるようだ…　まるでタバスコのお　っ　こをしてるぐ  
らい熱い！

…

…

そう…淋病だ…

『これ絶対エーちゃんから移ったよ…』

リー「俺もちび以外考えられない…」

でもお互いエーちゃんとちびには言えなかった…

（お互い本当に浮気してないし、彼女が出来てから風俗にも行っ  
ない。）

もう下ネタは置いて……最初は最期まで居よって話だっ  
たが…

リー「なんか…旅したい気分じゃね？」

『そうか？別に…だけど？』

リー「なんか旅したい気分じゃね？」

出た……リーの必殺言い出したら止まらない病…

『仮に行くとしたら何処に行くの？』

リー「行き先は…決めない旅に行こうぜ！」

『いつから?』

リー「今から！」

やべ…リーのテンションに俺もノリノリになってきた…

『金も使うだろうから稼ぎながら行かね?』

リー「いいね!まず何処に向かう?」

『今千葉に居るから千葉でいいんじゃない?』

リー「よし!出発しよう!」

そして…目的のない旅に行く事になった…

軽くルールを説明

- 1 着いた日はスロットで稼ぐ
- 2 次の日は観光
- 3 泊まる場所はなるべく安い所、最悪車の中
- 4 なるべくお金は使わない

以上!

早速出発した！まずは千葉駅方面に行く事になった。

初日は着いた時点で夜だったのでビジネスホテルに泊まる事になった…

軽く食事を取ったらまだ21時だったので目の前のパチンコ屋に入  
った！

…

…

…

たった1時間で+4万になった！リーは負けてた…

次の日は木更津のほうに向かってスーパー銭湯に入って1度地元  
に戻った。

その日は皆俺の家に泊まって次の日洋服などを持っていざ出発！  
まだ3月だし北は寒いから南に行く事にした！

まずは浜松に到着！出発したのが夕方だったのでもう夜だった…

早速パチンコ屋に入る…

…

…

しまった店に入ったみたいだ…

客もないし、台も出ない…

やっちまった…

- 2万…

そのあと焼肉食べに行ってラブホに泊まった…

リー&amp;mp・ちび「同じ部屋に泊まって4人ですか？」

…

丁重に断りました。

そんな趣味はございません。

本格的に動き始めたのはこの日からだった。

『さ〜浜松探索すぞ!』

まずは駅前でお土産を山程買った。もっと詳しく言うと手当たり次第買った!お新香からお茶、ウナギパイ、まんじゅう…皆で選ぶ訳ではなく、個々が勝手に選ぶという感じで。

駅前で写真撮影もしてこれから何処に行こうかと迷ってた。観光出来る場所を探しても…グツと来る場所がなかった…

浜松の方すいませんm(´`´´)m

リー「こりゃ〜移動じゃね？」

『だな!』

飯食って移動。

早速南に行く。

俺達の食事はかなり豪華だ…

夜なんかは焼肉。4人で3万〜4万はいく。

不味ければ、直ぐに店を出てまた探す。必然的に旨い所に行くと値段も高くなる。

支払いは俺とリーでジャンケンで負けた方が払う。昼は比較的安く1万前後だった。

ガソリン代は順番で高速代は早い物勝ち（俺とリーは見栄張りで直ぐに払いたがるため）

金の動き方はこんな感じかな。今考えると大馬鹿者としか考えられない…

ま〜今でも酔っ払うと見栄を張るが…

この間新宿で飲んで会計の時『これ足しにして』と言って全財産渡した記憶が多少残ってる。結局電車賃がなくてリーに借りた。最近では飲み行く時1万しか持っていないようにしている。

さて高速に乗って南に向かった。

場所も決まってるし何処いっても決まってる。  
俺も結構運転したのでたまにはリーに運転して貰ってちょっと昼寝した。

…

…

リー「着いたぞ！」

！？

何処だここ？

リー「多分岐阜！」

多分ってなんだよ…

まゝ何処でもいいか…

周りを見ても…

何も無い…

本当に何も無い…

少し進むと…

…

パチンコ屋がぽつんとあった。仕方が無いから入るか…

入ってビックリ…すげー出てる店だ！俺とリーは並んで打ち始めた！

…

…

すげーでねえ！

ちょっと休憩してエーちゃん達を見に行くと…

2人並んでめっちゃめっちゃ出してる…

結局この日は俺グループ+10万 リーグループ+15万 勝った！

夜はやっぱり焼肉！

飲みながら「明日も行くべ！」とか話してまたラブホに泊まりに行  
った。

リー&amp;mp・ちび「同じ部屋に泊まって4人でする？」

エーちゃん「ふくちゃんが良いならいいよ！」

…

…

…

丁重にお断りしました。

そんな趣味はございません。

次の日も4人で行った…

結果から言つと…

…

…

…

お互いに10万負けた…

もう疲れたし、名古屋の方に向かって24時間やっているスーパー銭湯に入った。

4人ともマツサージとかアカスリをやって休息をとった。

俺とリーはアカスリ初体験！隣り同士のベットに横になりアカスリ開始！

これが驚く事に

…

…

…

糞痛い！マジ殺られてる間は気合いで我慢！でもたまに声が漏れる。「グウツ」とか「ウツ」とか…しかも長いコースの60分コース…

地獄だ…

リーはどうなんだ？と隣りを見ると…

…

…

…

俺以上に我慢してる…

むしろ我慢しすぎて震えてる…

リーもたまに声が漏れる… 「ふん…グウ〜」とか「イツ…ヒィ〜」  
とか…

やっぱり俺以上に我慢してそうだった…

地獄の60分が終わり…歩き始めたら体がヒリヒリする…

リーに限っては関節を曲げられない！

リー「お…俺アトピーだから…だ…ダメだ…もう…二度とやらない  
…」

同意見だ…もう二度とやらない…

シャワーを浴びたら…

シミル！身体にシミル！

リーなんて叫びながら浴びた。相当シミタのである。

出たあとは4人で宴会して寝た。

宴会中…ずっと「アカスリはもうやらねー」って言っていたリーだった。

次の日…

リーはまだ痛がっていた…

さゝ出発！

その日は観光して色々回ってお土産買いまきった！

昼飯は俺の希望で味噌カツになったが…

店を間違えたのか…味は普通だった…

食ったあとは次の場所へ移動する為に高速に戻った…

途中岐阜初日に出した店に寄って少し打ってみた。

俺グループは+5万！リーグループは…

…

…

…

破産した…

俺達もそろそろ金が無い…今日勝っても8万無いぐらいだった…  
この旅もそろそろ潮時か…って時に…

エーちゃん「カードでキャッシングするよ!」

『マジで?じゃ〜貸してよ!』

…

…

エーちゃんは20万キャッシングしてきて俺に10万、リーに10万貸してくれた…

そしてその夜は高速のパーキングでお金削減の為車の中で寝ることになった。

次の日は京都まで行った!

まず着いてからやっぱりパチンコ屋に行ったが何処も行った店は出て無かった…

スロットは諦めて仕方ないので観光した!

清水寺とか、なんとか寺とか、なんとか寺とか…

ここでもお土産を沢山買った…

気が付いたら車の後部座席が一杯になってるぐらい溢れてたし…  
浜松で買ったまんじゅうなんて賞味期限過ぎてたし…買った意味ないし…

そんな時エーちゃんが週に1回は飲まないといけない薬を持ってきて無い事に気が付き、  
当分の無い旅はここで再開になってしまった…

夜に京都を出た。帰りはノンストップで俺が運転して皆爆睡…

…

…

…

ちよつとイラつとした…

素で疲れた運転でした…

帰ってきてまた俺の家に泊まった…

夜中だったが皆寝てた為すげー元気だ…俺はすげー眠い…

やっぱり元気な皆を見てまた少しイラつとした。

さゝ反省会だ…

結局ルールは全て守れなかった。

金の方は…40万〜50万使った。何故かエーちゃんに借りた金もそこを尽き掛けていた。

リー達も同じぐらい使って居たのでこんな小旅行で80万〜100万使っていたのだ…

ひどすぎる…

でもかなり面白い旅になった…

今でも覚えてるけど、これから先も忘れる事は無いだろう！

でもこんな旅行は二度としません。

帰って来てからも店にも顔を出さずただ遊んでた…

そんな時俺のディズニーランドのホテルで使ったカード料金6万が届いた。

金もないし…どーすんだ？ダメ元でどっかに借りにいくか…でも前回断られてるしな…と思っっている時にリーから電話が入った！

リー「今借りて来たんだけど審査が甘い所があるんだよ！」

！？

早速行ってみた。

…

…

…

やべえ…いかちいゝいきなり限度額30万きたよ！もちMAX借りね！

借りた金でカードは返した…

この時…もう借りる事に関しては抵抗は無くなっていた…

その日の夜またリー達とスーパ―銭湯に行く事になったが、  
今考えるとこれが俺を変える出来事になったのであった。

早速風呂に入ったり、サウナでリーと勝負したりと中々楽しんだ！  
アカスリとかもあったが、リーは「絶対しねえ」と言っていた…

風呂から出たらお決まりの宴会！ここでもかなり盛り上がる！俺が  
酔っ払いだした頃を見計らって、ちびが…

ちび「エーちゃん言っちゃいなよ！ふくちゃんも怒らないでね！約  
束出来る？」

？

『よくわかんねーが（酔っ払い始めていた為）いいよ！』

エーちゃん「実はこの間…病院に（病気の為）行くって言ってデリ  
ヘルの面接受けてその日から働くつもりだったの…でもお客に付く  
前にやっぱり恐くなってお店に生理になったから帰りますって言っ  
て帰ってきた…ごめんね…ふくちゃん…」

俺は酔っ払っていた為全然気にならなかつたから普通に

『よくわかんねーけど許すよ！』

って言ってその日は飲み明かした！

次の日、俺はスロットにエーちゃんを誘ったが体調が悪いので俺の家で寝てるとのこと…  
仕方ないので1人でスロットに行った…

その日のスロットは1人で打っていると色々な事を考えてしまった…

風俗（女）の人は凄く強い意思もしくは強い目的為でやっている人以外は結局風俗に戻ってしまう。中には戻らない人もいるが、約8割が戻ってくると言われている…

エーちゃん大丈夫かな…

俺は元彼女に酷い振られかたしてる分…マイナスのほうに考えてしまった…

…

…

…

考えた結果…

1 女はいつか裏切る

2 裏切られるなら俺も遊ぼ…

という結果になってしまった…

今考えると幼稚すぎる考え方だ…エーちゃんを信用してやれ！俺！

## それからの日々

それからの日々はいつもと変わらなかったが、仕事だけには行かなかった…

初めて聞いた時はビックリした…

…

…

エーちゃんは従業員の鍋に犯され掛けて事が合ったのだ…

エーちゃんと付き合っているのは店に内緒だし、鍋を見たら殴り掛かってしまいかもしれない…殴り掛かれれば事情を話さずおえない…

だから…行かなくなった…

借金も真面目に（借金して借金に）返していた為限度額が増量…1件目と2件目に借りたところが10万つつ増えた。

勿論借りてエーちゃんに借りてた分を返した…

でもエーちゃんに

…

…

…  
カードの支払いが届くのであった…

エーちゃんにカードの支払いが届いた…

でも金がないから払えない… 俺も金を集めたけど働いてないし、全然足りない… エーちゃんと話し合ったが結局払えない…

仕方ないのでカード会社に電話して正直に病気で働く事出来ないの  
で少しづつ返済させてほしいと言ったら

…

…

…

全然普通に対応してくれた…

案外言ってみるもんだ！

考えてみるとお互いに働いてないし、毎日一緒にいるバガツプルだ  
…でもそろそろ働きたい…

リーは…デリヘルで働いて居た！俺が働けない理由も知っていた…

俺とリーは上の人間皆にかなり可愛がって貰っていて、事情は言えないので言葉巧みに鍋を1号店に異動させてもらった！

これで俺も働ける！でかした！リー！

早速明日から出勤だ！

旅行前から約1ヶ月休んでいた為人が少なくなつて  
姉妹店から人を借りても人数がギリギリだった…

俺が帰つて来てくれて皆喜んでいた…

今度は遅番からでやらせてもらうことになつていた…

中には辞めた人も居たし、新しい人もいたが久し振りに会つたので  
話しも盛り上がった！

盛り上がつてるとここで客に写真見せが入つたので、久し振りに向か  
つた！

戻つてくるとリーが

リー「名古屋でアカスリしたんですけどマジで痛かつたんですよ！  
そのあと4人で宴会して爆睡しましたよ！あつふくちゃん！おかせ  
り！」

早速話に混ざつた！

『そそ！あのアカスリは地獄だったよ〜でそのあと宴会したよね〜  
ん？リー…4人でつて言つてなかった？

エーちゃんやちびと付き合つてるのバレたらぶっ飛ばされるぞ…  
さすがにリーも分かつてるよな…多分男4人つて設定だな…合わせ  
ないと…

リー「んでエーちゃんが…」

えっ？

リー「薬忘れてたんですよ！」

…

…

…

おーーーーーい！

馬鹿じゃねーの？

俺とリー…今日生きて帰れるのか？

終わったな…

リー「あつふくちゃん何渋い顔してるの？」

『……………』

リー「エーちゃんの事もちびの事も皆知ってるよ！」

『えっ？』

リー「ごめん！喋っちゃった！」

ゴさん「知ってるよ！でもこれ以上手を出さないようにね！ふくち

やんとリーだけは特別扱いだから！社長がいいよって！」

ゴさんは前1号店で働いていたが理由があつて俺が入る前に辞めて最近戻つて来た人。

今は2号店の責任者をしている。

正直ビビった！

でもリー…言うなよ…

それから…社長に話した…

嫌な汗が沢山出しながら話しをした…

社長「知ってるよ！2人で頑張つてね！」

天使の微笑みだ…

風俗業界でここまで優しく接してくれるのはこの社長だけだと思う。  
でもほかの人なら埋めるとも言われた…

どんだけ俺とリー気に入られてるんだよ…

社長「エスちゃんだけには自分で伝えてね！」

！？

エスさんはほかの人よりも先に自分が知っていないと…ぶちキレる！  
自分はなんでも知っていないと気がすまない人だ…

最後に言う人がエスさんか…

…

…

…

怖いな…

言うのいつでもいいか！

また働き始めて2週間が過ぎた頃…俺はいつも通り写真見せに向かった！

…

『???さんですか？店の者です！』

客「待つてましたよ〜早速写真見せて！」

客の車に乗り込み写真を見せた！前に2人後ろに1人の3人で俺は後ろに座った。

客「皆可愛いな〜！でさ〜本番つてあるの？」

なんか…普通の客と違和感がある…なんたるこの違和感…

『ははは…大人のお遊びで色々なオプシヨンがありますよ！』

客「へ〜どんなオプション？」

『色々ですよ！大人のお遊びですから…』

客「お遊びって何よ？本番？」

ん？やっぱり…あやしい…俺のアンテナ反応している…（俺はかなりの悪運の持ち主）  
やっぱり…違和感がある…

ん？普通なら写真に夢中になって女の子決めてからこういう話するのに…

こいつら全然写真見てねえ…

『遊びなれてるなら分かりますよね？大人のお遊びですよ！』

客「遊びなれてないんだよね〜！本番があるのか無いのかどっちなのか？」

…こいつら警察だな…

俺のこういう時の勘は絶対に外れない！

『つーかあんたら写真も見ないで冷やかしか？本番なんてねーよ！顔も覚えたし、ナンバーも控えたからもう二度とうちの店に来るんじゃないねーよ！』

客達は苦笑いをしていた…

店に帰って報告！奴等は出禁！社長に少しの間目立たないように伝えた…

仕事も終わり…明日から二連休！エーちゃんとスーパー銭湯でも行  
こ

俺は夜行性なので朝寝て夕方に起きる。その日も夕方に起きた！

早速準備してスーパー銭湯へ向かう！

スーパー銭湯では1人サウナで自分の限界を目指す！

…

そんな事をして風呂から出てエーちゃんと宴会を始めた…

結構酔っ払い始めた時、店の責任者のゴさんから電話が鳴った…

『もしもし！お疲れ様です！』

ゴさん「ふくちゃん！…やばい！…！」

『どーしたんですか？』

…

…

…

ゴさん「飯食いに行って帰って来たら…店に警察が入ってる！…！」

『えっ？マジですか？』

ゴさん「俺責任者だから今から店に戻るわ！ふくちゃんとりーはエスさんから電話が来るまでの待機してて！」

(ゴさんは隠れて様子を伺っていたらしい。)

……………やっぱり俺の思った通りだった…

捕まった日に俺が居ないって本当に悪運いいな…俺…

どーする俺？

1 心配なので現場に向かう

2 俺が行ってなにか出来る事があるかもしれないから現場に向かう

3 飲み直す

…

…

3の飲み直すで…

さあ飲み直すかって時にエスさんから電話が入った！

『お疲れ様です！』

エス「ふくちゃん！店に警察が来た！ふくちゃんとりーはスカウトマンで店とはあまり関わりが無いって事にしといて！また電話する！非通知と知らない番号に出るなよ！」

了解しました。今俺に出来る事は無い…  
さあ〜飲み直すぞ！

本当は少し先に分かるのだが説明します！

俺と客みたいな状況で本番があると言って女の子呼ぶ。

他の従業員が女の子を連れてくる。二人と写真見せの従業員を逮捕！

遅番のマンションに捜索に入る

てな感じでもっと詳しく言つと…

写真見せの従業員が暴れてどさくさに紛れて店に電話して「警察」と一言いったとこで押さえ付けられる。

夜の事務所にいるエスさんは大事な書類を持って女の子とマンションの1、2階にあるカラオケに逃げた。

ゴさんは飯から帰ると様子が違う事に気が付き、隠れて様子を伺った。

捕まったのは写真見せしていた従業員と女の子を連れて来た従業員とその女の子、事務所にわざと残った社長の4人。

ゴさんは責任者だったが社長が捕まった為、調書だけですんだ。

…  
…  
…  
警察は女の子に逃げられるし大事な書類も無い…  
警察は本当に要領が悪い…この言葉の意味もこの先にすぐ分かりま  
す。

俺とリーはエスさんとゴさんからの連絡を待つ！  
次の日電話するがまた待機してと言われる。

…  
…  
…  
1週間目…いつまで待機なんだ？

…  
…  
…  
10日目…限界…こっちから電話する。

ゴさん「あれ〜久し振り！従業員も皆逃げちゃったからふくちゃん  
とリーも逃げたのかと思ったよ！」

はっ？あんたが待機してろって言ったじゃねーか！俺とリーは警察  
ごときで逃げませんよ！

『いやゴさんに待機してろって言うから待ってたんですけど？』

ゴさん「あれ？そうだっけ？じゃ人居ないから手伝ってよ！」

『勿論ですよ！今から出勤しますね！』

出勤すると従業員2人とプラスのエスさんしか居ない…幹部しか  
残ってない…

幹部達は逃げた従業員は追わないし逆に居てもむかつくだけだ…  
俺とリーは逃げたと思われていたみたいだ…

…

…

…

待機していただけなのに…

忘れてんじゃねーよ！

まあ〜誤解は溶けたが…

それから俺とリーも来て手伝った！人が居ないから凄く忙しい…  
エスさんいわく捕まったのは社長と写真見せ従業員（姉妹店援軍以  
後レイさん）、女の子を連れて来た従業員（姉妹店援軍以後けんさ

ん)で女の子は全部喋って直ぐに釈放になったらしい。

3人には凄腕弁護士がついた！

社長は全てを否認。

けんさんは従業員になって1週間だったので「新人だから」と言っ  
て何も知らないで通した。

レイさんは…全て黙秘。名前とか以外は沈黙を貫いた！（カッコい  
い！）

この事件は全国ニュースでも取り上げられ、脱税1億と言われてい  
たが…

…

…

実際は証拠不十分で不起訴。道路交通法違反で罰金のみ。

何の為に捕まえたんだか分からないよね…

警察は完全に空回り…

全国ニュースになったし新聞も各社脱税1億とか言っていたけど、  
警察の無能な捜査で不起訴だもんな…

俺達はラッキーでしたけど

これ以上書くと分かる人もいるので事件の話は終りにします！

社長達も戻って来ていつも通りの日々に戻っていった。

俺は1社目と最後に借りた所の限度額が50万に増えて借りた事でまたフラフラな日々になって仕事にも行かなくなってしまうた。

俺的には自由な日々でエーちゃんとも仲良く過ごしていたし、借金の金もあったので働かなくても普通に暮らしていた…

## 新しい仕事

リーも同じ生活をしていたが、やっぱり俺達も男…たまに無性に働きたくなる。

リーと一緒に仕事を探し次に見つけた会社が…また凄い…

初任給30万プラス！

かなりあちい！プラス ってどのくらい付くんだよ！っと思いつつリーと面接しにいった（勿論バラバラに）

面接は…ごく普通だった。仕事内容は営業で掃除機を売ると言う事。出勤時間は9時～18時。多少遅くなる事もあるし朝が早い時もある。

夜行性なので昼間の仕事に多少抵抗感があったが、金も良かったから勤める事にした。

ただ…面接官がちょっと怪しかった…

イケイケスーツに金縁メガネ、少し歳は逝ってるがどっからどう見ても…

ホストクラブのオーナーだ…

でも金も良いし問題ないか！

出勤初日30分前には出勤していた…

社員達は勉強会をしている…

9時に朝の朝会があるのだが事務の人に外に連れていかれた。

事務員「うちの朝会はかなり激しいから最初は引くよ…」

そんなに激しいのか…

やべ気になる！

その日から3日間は事務所ですは掃除機の性能のお勉強…

4日目から実演のマニュアルに沿ってお勉強…

でも…素でビックリした…俺が売る掃除機ってのは…

…

1台…

…

40万!!

どんだけの掃除機だよ！

買う奴いるのか？

確かにあんな性能がいい掃除機は百貨店では見た事はないし、売ってもない。

でも1番恐ろしいのが客を洗脳して売るよりも…

…  
…  
…  
社員を洗脳する事だ。

確かに洗脳してない奴が売るより、洗脳した奴が売ったほうが売上が全然違うし、社員を洗脳出来なくては客は勿論洗脳されない。

幸い俺はその時の状況を冷静に考えてしまふ性格で毎日毎日自我を強く持っていた為洗脳はされなかった。

でも流石の俺もグラつときた時もあったが踏ん張った！人間洗脳しようと思ったら大体の人は洗脳出来る。中には俺みたいに洗脳されない人もいるが、俺は平気だよ！って思っている人ほど洗脳されやすい。

洗脳されていない俺から見て社員の中で洗脳されていない人が2人いた。

売上は普通だがかなり強い自我を持つてる。この会社には実習もあってベテランと一緒に行動する。その時に

社員「君は強いね。この会社でやって行くには洗脳されたふりしない」と言われた。

あと1人は4ヶ月勤めてるいるがまだ1台も売って無い人。マニキュアル通りやれば絶対に売れるはずだが洗脳されてないし、トークが

弱いのも合ったと思う。

洗脳された人の目は…伝え難いが俺はすぐ分かる。  
薬が決まってる時の目に似てるいるからだ！掃除機の話になると目がギラギラしている。

初めて実習する事になった。ベテランと一緒に回るのだ…これは嫌だった…  
朝から晩まで掃除機の話だ。その人はもう使う事が趣味になっている…

実際休み時間の時や終わった後の会話は掃除機の話ししかない！

しかも新人（俺リー）と洗脳されてない2人以外の人は皆この掃除機を買っていた…

社員割引で30万円…それでも高い！

俺も買えと言われたから今金もないしお金が貯まったら絶対買うつもりと嘘を言つて難を逃れた。（絶対を付ける事でローンを組めと言われるのを避ける為）

この頃…初めて朝会に出るようになった…

朝会は…B・Zが爆音で流れる！普通話しても隣りの人には聞こえないぐらい爆音…

社員達はそれぞれ武器を持っている…

丸めた新聞紙を持ったり、丸めた雑誌、座布団、中にはカラーバツトを持って…踊る…

武器を持ちながら机を叩きながら爆音の中でも皆に聞こえるように

「売るぞ！売るぞ！」

「次お前！」（一人づつ回っていく）

「絶対1台！売るぞ！」

「声が小さい！もう一回」

「絶対1台！売るまで戻らねえ！」

…

…

…

曲が終るまでこれが続く！

丸めた新聞は粉碎してる。

丸めた雑誌は原型をとどめてない。もう読めないだろう。

カラーバットは…折れてる…

…

確かに開いた口が閉じなかった。

しかし…次の日からやるのであった…

「次ふくちゃん！」

皆と同じ事言ってもつまらない…

『やれるのか？じゃなくてやるんだ！売ってこそ勝ち組だ！結果が全て！売るぞ！』

新聞紙を粉碎させた！

その後はあの台詞をかなり褒められたが、ストレス発散しただけで言っただけ…

実際は朝6時から勉強会。仕事終り次第勉強会。残業代なし。

つか…朝早いのでやる気しない。俺は売る気もないので、辞める事を決意した。(なんか売ってもいいが相手は貧乏学生とか老人とか見境無い為俺の信念に反するから)

リーは洗脳されかけていた。

リー「掃除機買おうかな」

とか言っていたがアトピーと喘息のせいで掃除機売るのは辛い。まゝ3台は売れたが…  
リーも辞める事になった。

洗脳されないアドバイスを少し教えます。

相手は洗脳されてるプロです。最初は掃除してるので自分は忙しいふりをする。

洗濯したり洗い物したり。

そのうち呼ばれて色々言われるが「別に気になりません」と何を言われても言ってください。最後まで興味ないようにしてれば平気だと思います。人に寄ってはゴリ押ししてくる場合も

あると思いますが、どんなに良い性能でも『興味ない』と言ってください。買えば必ず後悔します。この会社の掃除機も永久保障と書いていましたが、壊れて直す場合高額な請求されました。

でも最後に決めるのは自分です。

買うのか…

買わないかは…

あなた次第です。

この仕事で勉強になったのは人の洗脳の仕方ぐらいかな…

リーも同じ生活をしていたが、やっぱり俺達も男…たまに無性に働きたくなる。

リーと一緒に仕事を探し次に見つけた会社が…また凄い…

初任給30万プラス！

かなりあちい！プラス ってどのくらい付くんだよ！っと思いつつリーと面接しにいった（勿論バラバラに）

面接は…ごく普通だった。仕事内容は営業で掃除機を売ると言う事。出勤時間は9時～18時。多少遅くなる事もあるし朝が早い時もある。

夜行性なので昼間の仕事に多少抵抗感があったが、金も良かったから勤める事にした。

ただ…面接官がちょっと怪しかった…  
イケイケスーツに金縁メガネ、少し歳は逝ってるがどっからどう見ても…

ホストクラブのオーナーだ…

でも金も良いし問題ないか！

出勤初日30分前には出勤していた…

社員達は勉強会をしている…

9時に朝の朝会があるのだが事務の人に外に連れていかれた。

事務員「うちの朝会はかなり激しいから最初は引くよ…」

そんなに激しいのか…

やべ気になる！

その日から3日間は事務所ですまは掃除機の性能のお勉強…

4日目から実演のマニュアルに沿ってお勉強…

でも…素でビックリした…俺が売る掃除機ってのは…

…

1台…

…

40万！！

どんだけの掃除機だよ！

買う奴いるのか？

確かにあんな性能がいい掃除機は百貨店では見た事はないし、売ってもない。

でも1番恐ろしいのが客を洗脳して売るよりも…

…

…

…

社員を洗脳する事だ。

確かに洗脳してない奴が売るより、洗脳した奴が売ったほうが売上が全然違うし、社員を洗脳出来なくては客は勿論洗脳されない。

幸い俺はその時の状況を冷静に考えてしまつ性格で毎日毎日自我を強く持っていた為洗脳はされなかった。

でも流石の俺もグラつときた時もあったが踏ん張つた！人間洗脳しようと思つたら大体の人は洗脳出来る。中には俺みたいに洗脳されない人もいるが、俺は平気だよ！って思っている人ほど洗脳されやすい。

洗脳されていない俺から見て社員の中で洗脳されていない人が2人いた。

売上は普通だがかなり強い自我を持つてる。この会社には実習もあってベテランと一緒に行動する。その時に

社員「君は強いね。この会社でやって行くには洗脳されたふりしない」と言われた。

あと1人は4ヶ月勤めてるいるがまだ1台も売って無い人。マニュアル通りやれば絶対に売れるはずだが洗脳されてないし、トークが弱いのも合ったと思う。

洗脳された人の目は…伝え難いが俺はすぐ分かる。

葉が決まってる時の目に似てるいるからだ！掃除機の話になると目がギラギラしている。

初めて実習する事なった。ベテランと一緒に回るのだ…これは嫌だった…

朝から晩まで掃除機の話だ。その人はもう使う事が趣味になっていく…

実際休み時間の時や終わった後の会話は掃除機の話ししかない！

しかも新人（俺リー）と洗脳されてない2人以外の人は皆この掃除機を買っていた…

社員割引きで30万円…それでも高い！

俺も買えと言われたから今金もないしお金が貯まったら絶対買うつもりと嘘を言っただけを逃れた。（絶対を付ける事でローンを組めと言われるのを避ける為）

この頃…初めて朝会に出るようになった…

朝会は… B・Zが爆音で流れる！普通話しても隣りの人には聞こえないぐらい爆音…

社員達はそれぞれ武器を持っている…

丸めた新聞紙を持ったり、丸めた雑誌、座布団、中にはカラーバットを持って…踊る…

武器を持ちながら机を叩きながら爆音の中でも皆に聞こえるように

「売るぞ！売るぞ！」

「次お前！」（一人づつ回っていく）

「絶対1台！売るぞ！」

「声が小さい！もう一回」

「絶対1台！売るまで戻らねえ！」

…

…

…

曲が終るまでこれが続く！

丸めた新聞は粉碎してる。

丸めた雑誌は原型をとどめてない。もう読めないだろう。

カラーバットは…折れてる…

…

確かに開いた口が閉じなかった。  
しかし…次の日からやるのであった…

「次ふくちゃん！」

皆と同じ事言ってもつまらない…

『やれるのか？じゃなくてやるんだ！売ってこそ勝ち組だ！結果が  
全て！売るぞ！』

新聞紙を粉碎させた！

その後はあの台詞をかなり褒められたが、ストレス発散しただけ  
だけで言っただけ…

実際は朝6時から勉強会。仕事終り次第勉強会。残業代なし。

つか…朝早いのでやる気しない。俺は売る気もないので、辞める事  
を決意した。（なんか売ってもいいが相手は貧乏学生とか老人とか  
見境無い為俺の信念に反するから）

リーは洗脳されかけていた。

リー「掃除機買おうかな」

とか言っていたがアトピーと喘息のせいで掃除機売るのは辛い。ま  
く3台は売れたが…  
リーも辞める事になった。

洗脳されないアドバイスを少し教えます。

相手は洗脳されてるプロです。最初は掃除してるので自分は忙しいふりをする。

洗濯したり洗い物したり。

そのうち呼ばれて色々言われるが「別に気になりません」と何を言われても言うてください。最後まで興味ないようにしてれば平気だと思います。人に寄ってはゴリ押ししてくる場合も

あると思いますが、どんなに良い性能でも『興味ない』と言ってください。買えば必ず後悔します。この会社の掃除機も永久保障と書いていましたが、壊れて直す場合高額な請求されました。

でも最後に決めるのは自分です。

買うのか…

買わないかは…

あなた次第です。

2 マニュアル内容は教える事は出来ません。

この仕事で勉強になったのは人の洗脳の仕方ぐらいかな…

## 最低な第1歩

掃除機販売を辞めたころエーちゃんの手術日が近付いていた…

エーちゃんは毎日怖いと言っていて、不安な日々を過ごしていた…  
1週間前から入院…検査などをして手術。手術後は2週間ほど様子を見て退院。

都内の病院で俺の家から車で1時間半前後掛かったがプーをしていたので  
毎日見舞いに行っていた。

エーちゃんは小説が好きだったがどんな小説が好きなのか分からな  
いから  
本屋が勧めてる色々な種類の小説を10冊ほど買って行ってあげた  
が…

…

…

…

官能小説だけ返されてしまった…

返されても俺もいらぬし…でも官能小説を少しだけ読んでみた。  
初体験だ…

⋮

⋮

⋮

官能小説は凄く不思議な表現をする。例えば…

赤い果実が…パチンつと弾けた…

⋮

意味わかんね。

どっちにしろ、俺は小説を読まないから捨てた。

時期は8月…正直…地獄だった。

何が地獄かと言つと…

⋮

⋮

⋮

車のエアコンが壊れていたからだ。

暑い…

初めて見舞いに行った時は、シャツとハーパンだったがプールに入ったようにビチョビチョになった。

2回目からは俺も学習した。洋服は持ってパンツ1枚で出発！窓全開！

俺を見た人はさぞかし変態だと思っただろう。でも残念ながら露出狂ではない。

そんな毎日であった。

たまに友達と見舞いに行ったが同じ様に、2人で裸だった。信号待ちとかすげー恥ずかしかったよ…

しかし帰りは違う。  
夜に帰るからだ！

どのように違うかと言うと…服を着ても窓を全開にしたら、暑いことは暑いビチョビチョになるほどでは無いから恥ずかしくは無かった！

エーちゃんはどんな病気かと言うと…「バセドウ病」だ！

甲状腺ホルモンのバランスが取れなくて体温調節が出来なくて汗が欠きにくい。いつも冷房MAXだ。動いても直ぐ疲れてくるし、病気をほっとくと目が飛び出てくる。(別に目が取れる訳では無い。人以上に目が出るだけ。)

俺が知っているのはこのくらい。詳しくは知らない。

何処を手術するかと言うと首の根元を横に20cmほど切る。その為傷は残る。時間が経つにつれて傷跡が薄くなっていく。

そこまで分かれば退院祝いも簡単だ。

傷を隠す事が出来るネックレスしかない。

でも安いネックレスは細くて傷が隠れない。

まずは値段がどのくらいするのか見に行っただが…

傷が隠れそうなネックレスは高い。しかもシルバーとかは安くて退院祝いには…合わない。

いやむしろシルバーは俺が嫌だった…

狙うは18金かプラチナだ…

ちょうど隠れそうなワンポイントが付いているネックレスは…ほとんど6万〜10万…

手持ちで足りない…

借金するしかないが、ここまで借りていると中々他社は貸してくれない。とりあえずリーに聞いてみた。

リー「マルイカードの審査は余裕だよ！」

作るしかない！

…

…

…

余裕で審査が通った！

買い物10万。

キャッシング10万。

やった！

買い物でまず10万のスーツを買った！クリーム色のダブルのスーツだ！

今でもそうだが基本はダブルが俺のスタイルだ！

そしてキャッシング…10万！

色々な所に周りやっと俺好みのネックレスを見つけた！

8万のワンポイントのプラチナのネックレスだ！即買いたした！

マジ俺って優しい！

借金で買ったただけだけど…

相変わらずエーちゃんの病院には毎日通った…

退院3日前までは…

…

ちょうど楽しみにしていたゲームが発売したのだ！（ドラクエがFかどっちか忘れたが、このシリーズだけは絶対にやってる。）

これをやっていると時間の感覚がない。眠くなったら寝る。起きたらやる。

エーちゃんの見舞いに行かないと……っと思いつながらゲームしまくった。

結局退院するまで見舞いに行かなかった。

退院の日はエーちゃんの親が迎えに行つたので、思い切りゲームしまくった。

今考えると冷たい奴だ。エーちゃんよりゲーム。最低だな。

エーちゃんは親に俺の家まで送って貰って帰ってきた。

プレゼントを渡すと泣きながら喜んでくれた。

借金で買ったんだけどね……

俺もこの頃まではエーちゃんを大事にして一筋だった……

次の仕事をするまでは……

只今借金160万

エーちゃんが退院してから2人でゆっくり療養していた。(俺はプー太郎だけど……ニートではない。金がいい仕事には食いつくから)

ゲームをやりつくした頃、前に勤めていたデリヘルから電話が入った。

社長「あっ！ふくちゃん？新事業立ち上げるから手伝ってよ！」

確かに俺も暇してるし、社長の頼みだ！断る事は出来ない。

『いいですよ！』

即答した。

マンションに行くところには女の子の待機場所だけになっていた。社長に電話すると事務所は移転したらしい。場所はすぐ近くにあった。

場所に着くとそこはテナントビルの4、5階にあった。まだ仕事内容は聞いてない…

なんでいつも俺は仕事内容を聞かないのである…

エレベーターを降りて鉄の非常扉みたいなドアを開けるとそこには

…

…

…

何も無かった…

中は工事中、しかも何も出来上がってない。

俺は????だった。

奥に進むとけんさんが作業着姿で一服していた…

けんさん「おっ！ふくちゃん手伝いに来たのか！」

いつも通り…

意味が分らなかった…

けんさんいわく新しく事務所を作るらしく人手が足りないらしい…

俺戦力にならないし…

内装工事経験ないんですけど…

業者に頼めよ…

でも結局手伝うはめになった…

しかもスーツだし…

でもジャージが用意してあった。働かせる気マンマンだ…

…

…

…

やっぱり足手まといだ。

く取ってって言われてもわからん。

俺いる意味ないし…

しかし約1週間で大体出来上がった。出来てない所は出来てないが…でも最後まで戦力にならなかった俺は途中から掃き掃除係りをして  
いた。  
掃除なら任せろ！前の仕事が役になった。

いやほうきだから前の仕事も役にたつてないから…

そして完成した！

何もやってないが達成感があった。

その間時給1000円…

俺は給料泥棒た…

女の子の待機場所が上で事務所が下と言う作りだ。  
つか俺はこの為に呼ばれたのか？

…

…

…

違った。これから先捕まる可能性がある為、捕まらない仕事を始める  
と言うのだ。

業種内容は

…

…

…

風俗情報誌…

つまり雑誌を作る為の営業をするのだ。でも俺の風貌は髪は普通だが口髭とあご髭が生えているけど…いいのか？

社長「別にいいよ！」

……いいらしい。

しかもこれからは社員として働くみたいだ。勝手に決められてる。

勿論時給ではなく月給だ！初任給は23万で手取りが23万…何故？どんな会社？

つかデリヘルで働いたほうが稼げるけど？

情報誌部署で働く人は逆に危ない橋は渡らないし、出勤時間も13時～21時までと楽だ。

人数は立ち上げということもあって、俺とエスさん、けんさん、あと姉妹店から来た兄貴でスタート。

兄貴が部長。

けんさんは課長。

俺は主任。

エスさんは社長の愛人…いや…エスさんに限っては全ての部署の経理をやっている。

むしろ影のボスだ…

エスさんの影のボス以外は最初から幹部だ。

俺は営業って言っても掃除機販売ぐらいで直ぐに辞めたし、こんな俺でいいのか？

社長「別にいいよ！」

…

…

いいらしい…

地域限定の風俗情報誌なので、結構風俗店が限られてくる。

兄貴のエリアは沢山ある。

けんさんのエリアはすげー沢山ある。

エスさんは気分次第でエリアを変えるが小指が無い人なので、こねが沢山ある。

俺のエリアは…両手で数えて指が余るぐらい少ない。キャバクラとホストクラブを入れれば、両手両足で数えても指が余るぐらい少ない。

こんなエリアで俺に何をしろと言うのだ？

でも仕方ない。与えられたエリアだ！逆にこのエリアで取ってきたら英雄だな！

早速営業に出た！

業種によって時間が違うので昼間から夜まで営業しないと…

…

…

…

全滅でした。

でも最初だし、まずは何回も顔を出して顔を覚えてもらわないと…  
次の日も昼々夜まで営業した。

…

全滅でした。

どうする俺？

とりあえず毎日昼々夜少ない店舗だけほとんどの店に顔を出した。  
少しずつではあったが色々な店長に顔を覚えられて仲良くなっていった！俺はなんかよくわからんが上の人間と仲良くなれる為、営業と言うより顔を出すとお茶を出されて、関係ない話ばかりしていた。

そんな俺が気に入ったのかその風俗店の店長がオーナーに駆け寄って  
てくれると言うのだ！

ほとんどの風俗店はグループ経営だ！場所によっては店長が独断で  
物事を決められるが、ほとんどはグループのオーナーの許可が無い  
と決められない。逆に店長が独断で決められる店のほうが珍しい。

オーナーに駆け寄ってくれるなんて、かなりラッキーだ！  
しかも…かなりデカイグループ！

チャンスだ！これを決めれば俺の給料の倍ぐらい行く！

そして駆け寄ってくれた結果…

…

…

…

全グループの掲載をゲットした！

流石にその日は浮かれて飲みに行った…

かなり酔っ払って事務所に帰るためにホテル街を1人歩いていた…

（デリヘルもやってる為ホテル街は目の前にある。）

そんな時…かなり俺好みのフィリピン人がよってきた。

常連のたちんぼは（ホテル街で客を捕まえてお金を貰って良い事する人達）俺の顔を知っている。デリヘルに従業員をしていた為ホテル街を周るから俺には声を掛けない。断わられるからだ。

でもその娘は違っていた。話し掛けて来たのだ！

女「おにちゃん！好き！わたし好き！」

意味が全然分からない。

詳しく聞き直しても全く同じ事しか言わない。

いつから日本に来たの？っと一生懸命伝えたら、分かったみたいだ…

女「日本きた。15前。」

要するにまだ2週間ぐらいだ！それじゃあ言葉も分からないな…  
俺は酔っ払ってるが浮気はした事無い。勿論断った。

女「嫌。あなた優しい。嫌。」

どーしても客を引きたいらしい…

また断った。

向こうも引き下がらない。

俺も酔っ払っているが何回断っただろうか…。  
断っても引き下がらないからマジ切れして…

…

…

…

気持ち良い事をした。

日本語分からないから断ってもあまり通じない。だから…した。

その後名前を教えたら俺の事を「ふーたん」と呼ぶようになった…

この気持ち良い事をきっかけに俺の中で何かが崩れた。

たちんぼも24時間働いている訳ではない。自由な時間もある。

俺は次の日、出勤前に事務所の近くのラーメン屋で飯を食べようと  
向かっていた。

すると後ろから

女「ふーたん！」

やべ昨日の女だ。女いわく「ここ歩いてる。」と言うので多分散歩  
である。

結構俺のタイプの顔なので食事に誘ったが…通じない。「  
ついてきて」と言う単語には反応した。ラーメンは諦めてファミレ  
スに入った。

「食べていいよ」と言う言葉も通じて食事をした。色々話してきた  
が…サツパリわからん。

俺も一生懸命教えた。食事も終わり出勤時間もあるし、  
ずっと居られないから仕事に行かなければならない。

最後に名前を聞いたがやっぱり何喋っているのかわからん。

仕方ないから名前の中で一部分「シー」と聞こえたので「シー」と  
あだ名を付けた。

あだ名を説明するのも疲れたが伝わった。

帰り際に

シー「ふーたん。優しい。ふーたん好き。」

と言われた。

片言のしゃべり方も

…

…

可愛い…

ジェスチャーもしないといけないから多少疲れるが…

仕事も順調だ。シーともたまに出合って食事する。（たまたま会つて）

シーは片言だが話も上手くなってきていた…

その日も大型グループの掲載が決まった！

俺のエリアは店舗数は少ないが、大型グループがほとんどなのだ。

またまたその日も浮かれた…

また酔っ払って事務所に帰った。（酔っ払っていても何故か怒られない。不思議な会社だ）

またまたホテル街を歩いていると後ろから…

シー「ふーたん！」

シーだ！酔っ払っているせいか、すげー可愛い…

駄目だ！今日は金がない！月給制になった為給料日前は金欠だ…

『今日は金が無いから無理だよ…』

と伝えたが…

シー「お金いらない。ふーたん好きだから！」

！？

マジか！でもシーにも悪い。実際たちんぼはやーさんに場所代を払

わないと駄目なのだ。

だからこそノルマをクリアしようとは皆必死なのだ。

たちんぼの場所代とか色々の相場は知っていますと言えませんが。

しかしシーはかなりの美人…余裕でノルマをクリアしてるらしく、俺は只でいいらしい…

『そんな…悪いよ…』

…

…

…

でもやっぱり気持ち良い事した…

大人のお遊び…最高！

浮気は1度でもすると抵抗が無くなる。

俺はどんどん落ちて逝った…

シーには彼女がいる事も伝えたが、それでもいいからと携帯の番号を教えてくれた。

いつしか俺が行くと必ず只でやらせてくれる仲になっていた。

この頃仕事も忙しく電話が鳴っても後で掛け直している状況でスツカリ借金の返済を忘れてた。

そして…

実家に1社から催促の手紙が届いたのだった。  
有名な消費者金融の手紙だから親も見るわな…

しっかりと親にバレた。

でも1社しかバレてないからなんとかなるでしょ…と甘い考えで親父と話したが…

…

…

実際俺の甘い考えは

…

…

…

通じた！

でも親父には今までも迷惑掛けて来たから、本当に自分で返すつもりだった。

次の日：親父は何も言わず俺を消費者金融の前まで連れて行き50万を手渡して、

親父「これで返していい。」

と言ったのだ。

俺は今までになく相当抵抗したが、

親父「いいから早く返してこい。」

…

…

『すまん。有難う。』

心から出た言葉だった。

俺は中学、高校とかなりやんちゃだったが親父とは仲が凄くいい。今でも世界で1番尊敬している。

流石にこの時だけは借金をした事に後悔した。

俺は何をしていたんだと…

この時だけは………

## 最低な男

マジで親父には感謝した。

もう借りないと心に誓った。

返済から1週間が過ぎた頃返済した消費者金融から電話が入った。限度額が上がるから借りませんか？という電話だ。

これだけは流石に断った。これで借りたら流石に心が痛い。

それからの日々は凄く忙しかった。大手のグループが2つ…  
1つのグループはオーナーが全店舗の掲載画を決めるが、もう1つのグループは店長が決める…  
…と言う事は全店舗に向わないと行けないのだ。はつきり言って仕事が終わるのは夜中だ…

疲れていても家に帰っていたが、朝方に終る時はエーちゃんには悪  
いが流石に泊まっていた。

泊まる時は必ず飲みに行く。1人ではなく兄貴やけんさんに連れて  
貰っていた。

この頃リーもいた。リーはデリヘル部門で俺とは時間が合わないが、  
時間が合った時には兄貴とけんさんに連れて行って貰っていた。兄  
貴やけんさんが行きたくない時は必殺リーの言い出したら止まらな  
い病だ…

2人ともこれには参っていた。だけど結局行く羽目に…

兄貴やけんさんが飲みに行くのは大概居酒屋だがたまにキャバクラに行った。

俺は正直キャバクラなんてどーかと思っていた。

女の子と話すのが何故そんなに楽しいのか？話したいならナンパすればいい。

歳を取って若い女の子と話す機会がなければ行く場所だと思っていた。

俺もリーも初体験！

早速キャバクラに連れて行って貰ったが

…

…

…

すげー面白い！

例えるなら非常に盛り上がった合コンみたいな感じなのだ！

キャバクラは楽しかったが仕事が忙しかった。

その為に中々帰る事が無かった。

しかし今日は給料日！

早速リーを待ってキャバクラにGO〜！

俺とリーはかなり見栄張りだ！

キャバクラに行く俺は必ずフルーツを頼む。しかも酒飲み放題じゃねーか！マジ最高！

しかも合コンみたいなのり！

マジでハマった！

これからは居酒屋なんて行かねえ！

その帰りはシーの所に行って大人のお遊び…

そんな生活が続いたが金が続くわけない…

キャバクラに行くと2人で行くと約5万〜6万ぐらい逝く。3万ぐらいだと安くて驚くぐらいだ。

そりゃ金も無くなるの早いよね。

でも毎日行く訳ではない。俺もエーちゃんのとこ（俺の実家）には休みを入れて週4は帰ってる。エーちゃんはまだ療養中だからお小遣いもあげていた…

しかも借金返済したら…1週間で金が無くなっていた…

マジで金がないな〜

…

…

…

これで暮らせて逝けるのか？

たしかに…給料日1週間で金が無くなるのは暮らして行けない…  
うちの会社は普通に前借り出来る。前借りしたところで結局は来月が  
辛い…

どーする…

あそこの会社は限度額上げてくれるって言うていたな…

でも初めて借りた時より抵抗がある…

親父が返してくれたし…やっぱり俺には借りの事は出来ない。

でも生活出来ない。

借りれない。

キャバクラ行きたい。

寿司食いたい。

エーちゃんとデートしたい。

スーツが買いたい。

エーちゃんにも服を買ってあげたい。

欲望が…

沢山ある…

我慢しないと…

親父が返してくれたし。

でもキャバクラに…行きたい…

…

…

欲望が勝った。

早速借りに行った。

限度額を聞くと…

驚いた！

80万…

やべ豪遊出来る。

全額借りた。

借りた後はすげー後悔した。

マジごめん。

親父…

その後は消費者金融のこつが分かった…  
大金を返して少し立てば限度額が上がる。

真似しないで下さい。

80万の内50万を1社に返して少しの間様子を見た。残り30万は勿論使う。

エーちゃんとも久し振りにデートもしたが、メインはキャバクラだ。たまたま仕事の雑誌の期日が迫っていた為にキャバクラにはいけなかった。

でも期日が過ぎた後は爆発した！

キャバクラに行きまくった。金も使いまくった。

すると借りた金で全額返済した所から限度額が上がると電話が入った。勿論借りる。

限度額80万：すげえ！

でも今はまだ手持ちがあるから借りなかったが無くなったら借りるつもりだ。

仕事は順調だった。

色々な店の店長やオーナーともかなり仲良くなった。

別に用事は無くても近くに行ったら顔を出していた… そうすると仲がいい人が立ち上げるとか色々情報が手に入るし、知り合いの店に紹介などもしてくれた。

もっとおいしい話は…暇な日とか只で遊ばせてくれたり、女の子のバックだけで遊ばせて貰ったりした。

講習がない店では新人相手に俺が只で付いてサービスを確認したりもした。

(講習とは男性が喜んでくれる行為の練習)

俺が契約を取ったエステ店に遊びに行くと(これも営業の一種)割引きもされて、店長直々に女の子に凄いサービスをしてあげてと言  
い、女の子はとてつもなく凄いサービスをして貰った事もあった。

俺的にはウハウハな仕事だ。

兄貴やけんさんは割引き止まりだったけどね…

(借りの順番にA B C D Eにしていきます。限度額はA 80万 B  
30万 C 10万 D 80万 E 20万 これはあくまで限度額で  
す。この時点ではDから借りてません。D以外はMAXでしたが…)

140

その日はたまたま仕事が早く終わった!地元に戻ってたまには友達  
と飲みに行こう!

飲みに誘ったのは「トツ」可愛い顔してエゲツない奴だ。

俺もリーも女関係は酷いものがあったが奴は違う。

酷いではなく…非道だ。

そして何故かわからんがトツも見栄張りだ。なんで俺の周りには馬  
鹿が多いのだろう。

俺はトツと2人で飲みに行った。(この日は居酒屋)

トツは俺がデリヘルをやっている事は知っていたがそれは昔の話。  
今は風俗情報誌の営業をしてる事を伝えたが

あまり興味無さそうだ。

でも営業マンの面白い話をしたら…

…

…

相当食い付いてきた。

そりゃ男なら誰でも羨ましい話だ。なんせ風俗が只で遊べたりする  
訳だからね。

トツ「俺もやりてえ！」

でた！リーと同じパターンだ。

『仕事内容は結構大変だよ！帰れない日もあるし、残業代なんてな  
いよ。いいの？』

トツ「全然構わないよ！俺も風俗只で遊びてえ！」

…

主旨が変わってる…

流石トツだ…

『何処の部署になるか分からないよ？いいの？』

トツ「営業がいい！」

…

一応社長に聞いてみるか…

社長「いいよ！明日一緒に連れてきな！」

これでトツも働く事になったのである。

次の日…

トツと一緒に会社に出勤。エスさん大興奮！

エス「トツちゃん可愛い〜！」

俺の時と全然態度が違うが…？

俺は…嫌いって言われましたけど…？

『エスさん…俺の時とリアクション違くない？俺いきなり嫌いって言われたけど？』

エス「昔は嫌いだったけど今は…す・き・よ！でもトツ君のほうが好き！」

ははは…何かジエラシー。

社長「本当に可愛い顔してるな！じゃ〜初任給23万な！あとふくちゃんの部下ね！ふくちゃん色々教えてあげて！……あっ…そうな

ると…ふくちゃんと同じ給料か…じゃあ…ふくちゃんは今月から2  
6万ね！」

!?

マジか！なんか知らんけど…ラッキー

リーは当たって碎ける系だが、トツは完璧に出来ない自信が持て  
ない系だ。その分リーは飲み込みが早いが、トツは飲み込みが遅い。  
ちなみに俺は少し当たって碎けるで、駄目なら知ったかぶり系だ。  
地元では知ったかぶりのふくちゃんと言われている…

俺の話はどうでもいいか…。

早速俺のエリアを案内する。そして顔を覚えさせる。まずはこれか  
らだ！

トツ「いつ風俗只で遊べるの？」

馬鹿か？いやむしろ…流石だ！

『仲良くならなないと遊べないよ。遊べるのは当分先だな。』

ある程度顔を出して掲載店の打ち合わせに行く。  
打ち合わせ中はトツも隣りにいるし、良い勉強にもなったはずだ。

数日間是一緒に仕事をしていた。でもそろそろ締切時だ…  
ここからが忙しくなる。家には帰れない。朝まで仕事…いやむしろ  
寝ないで仕事で朝からも仕事。そんな状況で夜中トツは何をしてい  
いか分からなく、いつの間にかに居なくなっていた…

俺は忙しいから気にしないが、気が付いたらトツが帰って来ていた。  
トツが居なくなってから約2時間ほどたっている。  
トツを見るとやけに…

…

ツヤツヤしている。  
しかも、感無量の顔だ。

…

…

…

こいつ抜いてきやがった…  
ちよいとイラっとしたが軽くスルーした。  
でも耳元で

トツ「抜いてきちゃった。」

『へへ良かったじゃん。』

イライラっとしたが軽くスルーした…

大体そんな日は休憩の時にシーに会いに行く。…で楽しい事をし  
てくる。

いつもこんなパターンだ！

だが締切後は楽だ…  
出勤してもゆっくり出来るし、遊びにも行ける。（主にスロット）  
後はキャバクラにもいける！

風俗代はあまり掛からないがキャバクラ代はかなりの出費だった。  
まだお金は残っていたが、Dから借りてBに返して限度額を増やす  
作戦を開始した！

…

数日後…見事に成功！

限度額が30万〜50万に上がった。ラッキー

ここら辺の日々はエーちゃんには悪いが酷かった。風俗に行けば（  
只じゃない所）3人に2人は番号を教えてくれる。大体後日会って  
楽しい事をする。

キャバクラの女の子は全員番号を覚えてくれるが、半分は営業電話  
残り半分は普通に遊んでくれる。中には楽しい事をしてくる娘もい  
た。

本当に最低な男だ…

最初は色々な事に抵抗があったのに…

気が付いたら抵抗さえない。

今が楽しければいい。

でもエーちゃんも好きだ！

そんなある日…

エーちゃんからこんな事を言われた…

エーちゃん「妊娠した…」

…

…

## 最低な男2

!?

『マジで?』

エーちゃん「妊娠検査薬で陽性出たから多分間違ない……」

『……………』

エーちゃん「……………」

妊娠と聞いて……

俺は……

正直……

…

…

…

嬉しかった。

この小説の冒頭にも書いてあるが、俺は結婚願望が強い。

子供が出来た事はすげー嬉しかった！

内心…結婚しないと…とかプロポーズしないと…とか色々考えた。

でも俺がクサイプロポーズしても似合わない。

ここは…サラッと言うか…

『じゃあ〜結婚するか！』

エーちゃんの反応は…

…

…

…

エーちゃん「えっ？」

…

…

…

エーちゃん「嫌だよ！」

！？

ふっ…フラれた！

『なんで？』

浮気がバレたのか？

借金のせい？

エーちゃん「手術したばかりだし、ホルモンのバランスが安定してないから…」

良かった…バレてない。

『なんとかなるんじゃない？』

エーちゃん「妊娠するとホルモンのバランスが安定しないから…それにバセドウ病は遺伝しやすいし…」

『でも…』

エーちゃん「…おろそう…」

…

…

…

ショックだった…

…

…

…

フラれた事よりも…なにより…小さな命が無くなるのが…とてもシ  
ョックだった…

とても辛かった。

俺は子供が大好きだし、子供が出来たのを聞いてどんな遊びをした  
りとか色々考えた…

でも…現実を考えると借金もあるし、ちゃんとした会社にも勤めて  
ない…

残念だけど…この子には縁が無かったのかもしれない…  
やり切れない思いだった。

直ぐにエーちゃんはおろしに行った。時間経つと…おろせなくなる  
からだ。

手術当日も引き止めたが…  
駄目だった。

仕方ないかもしれないが、辛かった…  
手術代は勿論借りて払った。

何が駄目だった？

借金のせい？

俺のだらしなさ？

病気のせい？

違う。今回は縁が無かった…

そう自分に言い聞かせた…

その後の俺は…もつと荒れた。

幸い限度額がかなり余っていたのでキャバクラや風俗、高級な店に飯を食いに行ったり…

最悪だった。

しかも中絶した後少しの間は夜の営みが出来ない分…いつも以上に遊んでいた。

勿論エーちゃんにもいつも以上に気を使った。

中絶した事によって精神的に参ったり、体力的に疲れたりするかもしれないから休みの時はずっと一緒にいて、ビデオをみたり、エーちゃんの食べたい物を食いに行ったりしていた。

そんなある日…

いつも以上に早く上がった。実際には21時ぐらいだ。こんなに早

く上がったのは初めてだったから良く覚えている。

たまにはエーちゃんと飲みに行こうと思い、帰宅している最中に1本の電話が入った…

シーからだった…

シー「ふーたん！怖い！警察いっぱい来た！ふーたん怖い！ふーたんに会いたい！」

…

…

摘発が入ったのか…  
とりあえず考えた…

シーは多分…いや絶対不法入国。

シーが捕まる。

所持品確認される。

携帯の履歴から俺発見。

俺はブローカーもしくは重要参考人で任意同行。

そんなのめんどくさい。

『シー！早く逃げろ！逃げたら少しの間誰とも連絡するな！時期を見て俺から電話する！』

シー「分かった！」

電話を切った後：

：

：

：

着信拒否完了！

もう俺からも電話する事は無いだろう…

：

さよなら…シー…

数日後：着信が沢山入ったけど、いつしか諦めて電話を掛けて来なくなっただ…

全く…最低な男だ…

2年後：シーがカッコいい彼氏と歩いているのを見掛けた。目が合った時、向こうもビックリしていたが…今のシーの幸せを壊す事など出来ない。そのまま俺は通り過ぎた。

シー…幸せにな…

営業も起動に乗って俺だけじゃ周れない所はトツに任せた。

そんな日々の中…時間が空いたら毎日のようにある営業先に入り浸っていた…

普通の営業先では裏で店長と話したりして女の子とは会えないものだが…

その店は違っていた。

女の子達と一緒に話をしたりしていたのだ。

営業目的ではあるけどその場所が好きだったのかもしれない。

しかも一番最初は追いかいされていた。店によっては暴言など吐かれて「二度と来るな！」と言われる店なども沢山あるが、この店は…その暴言を吐く店だったのだ！

最初なんか酷かった…

「てめーの顔が気に入らないから帰れ！」

とか、2回目に行った時は入口に入るなり顔を見ると…

「敷居をまたくなよ！帰れ！」

次は

「敷居またいだらぶつ飛ばすぞ！」

でも毎回敷居をまたいで

『こんにちは！失礼します！』

と入っていたが直ぐに追いかいされていた。

俺は結構イライラっとしたけど逆に絶対契約取ってやる！と意気込んで毎日必ず顔を出して追いかいされていた。

そんな日々が2週間ぐらい続いた。

たまたまその2週間が忙しく休みが無かった為先週分の休みを合わせて2連休になった。

これがその営業先と繋がるきっかけになった。

休み明け…

早速その営業先に顔を出した！

(その営業はこれから@にする)

どうせまた追いかいされるんだろ…な…

ドアを開けて

『こんにちは！失礼します！』

と言つと…

ボブ「あっ…来た。」

(これからここの店長をボブとする。ボブの部下をジョンとする。)

いつもと違つ…

いつもなら直ぐに帰されていた。

ボブ「2日間来なかったからもう諦めたと思ったよ！」

『ははは…諦めませんよ！休みだったんですよ！』

ボブ「諦めるよ！まあここまで頑張った奴は初めてだから名刺だけ交換してやるよ！」

今までも名刺を差し出していたが貰ってくれなかったし、机の上に名刺を置いて破られて捨てられていた…

それから考えると凄い進歩だ！

その日は名刺交換だけで帰った。

それから毎日顔を出した。日に日に態度が変わってくる。例えば…

ボブ「あれ？今日は客？」

とか段々優しくなってきた…

ここがチャンスだと思い勝負をかけた！

『違いますよ！遊んでもいいけど、営業の話聞いてくださいよ！』

ボブが客？と聞いた時点で今日は暇と判断して遊んでもいいけど…と言った！これはある意味駆け引きだ。

ボブ「じゃあ〜遊んでくれたら話聞くよ。」

よし来た！あとは遊んだ後…俺のトークで絶対に落とす！

⋮

⋮

⋮

スッキリした！

後は落とすのみ…

絶対に絶対に落としてやる！

そして初めて営業の話をした！

⋮

⋮

ボブ「じゃあ良い方向で考えるよ！20時ぐらいに社長が来るから話しとくよ！だから21時ぐらいに来いよ！」

ふっふっふっ…

聞いたか俺のトークを！

ここまで来たら社長も落としてやる！

⋮

⋮

⋮

時間通りに@に着いた！

そして初めて@の社長と会ったのだ…

大体話しは聞いていたみたいで中々の根性もあるとも聞かされていた！

社長とも名刺交換をして営業の話をした。

良い人そうなので時折ギャグを入れつつ話を進めた。

（経験上…風俗店の営業は固過ぎた営業は逆効果だ。仲良くなる一線を越えられない為だ。俺の営業の教訓は、まず仲良くなる事。多分人によって違ふと思いますが…営業の成績が上がらない人は試しに仲良くなってみてください。仲良くなった人はその内必ず役に立ちます。）

だいぶ脱線しましたが話し元に戻します。

色々無茶な事を言って来たが、そこはトークである程度駆引きして

社長を落とす！

これから何故か毎日顔を出していた癖がそのまま続き、入り浸るようになったのだ！

しかし…

…

…

…

この社長との出会いが

後々俺の人生に非常に

大きな影響を与える

関係になるのであった…

俺の営業は時間帯によって暇な時がある。

その度に@に営業と言つ名で遊びに行った。

行くと大体ジョンがお茶を出してくれたり、飯時なんか出前とか奢って貰った。段々行く時はトツも連れて行くようになり、時には仕事を手伝ったりもした。

その内女の子とも仲良くなり、暇な時は皆でたわいもない話をして盛り上がった。

そんなある日…

その日は土砂降り…

トツと一緒に@に遊びに行ったが…

雨のせいかな全然客が来なかつたらしい…

女の子と話してるといきなり割引き券を渡されて、女の子の前で

ボブ「指名料要らないから選んで！」

！？

意味わかんねえーし。

俺とトツは女の子全員と仲がいいんだよ？

しかも女の子目の前にいるし…

選べねえーって！

『いや…仲もいいし…それは無理ですよ…』

ボブ「じゃあ逆指名な！」

！？

マジかよ！

ボブ「逆指名する人は手を上げて！」

…

…

…

全員…手を上げやがった。

恥じらいはないのか？

結局ジャンケンで勝った2人が付く事になった…

俺達は無理矢理…

中には地雷もいるが、2人とも可愛い娘だったのが何よりも幸いだ…

お金を払う以上…

楽しむしかないか…

…

…

…

結局スッキリしてしまった…

終わった後…トツに付いて娘が

女「トツ君のデカかった…」

トツ君は顔真っ赤。

俺は知っていたが…

爆笑！

…

…

でもその後女の子と話す時…気まずかったのは言うまでも無い…

## 番外編 2

リー編

俺もデリヘルをやっている時の話。

その日は暇だった為、リーは部屋の掃除をしていた…  
俺の部屋の掃除をし終わって、クローゼットの中も掃除した。  
上の段の奥にリュックサックがある。  
興味本位で降ろしたら…

…

…

糞重い！

リュックサックの中身を確認すると…

…

…

車のナンバーがギッシリ詰まっている…

リーは焦ったのか…  
共犯にしたかったのか…  
俺を呼んだ…

リー「ふ…ふくちゃん！見てこれ！？何だよこれ！」

『あつ…見ちゃった？そつか…記憶から消去しようぜ…』

リー「わ…分かった…見なかった事にする…」

数日後…

リュックサックが見当たらない！リーが気が付いた！  
多分…エスさん関係だろう…  
興味本位でリーがエスさんに聞いてみた。

リー「クローゼットの中のリュックサックって…」

エス「あつ…見たの？それはね…ヒ・ミ・ツ！」

これで事件の真相は闇に葬られた…

俺編

( 凄く短いです。 )

アッコが帰ってから数日後…  
俺とエスさんに手紙が届いた…

差出人は勿論アッコだ。

中身はこうだった…

〈親愛なるふくちゃんへ〉

私は今捕まっています。

罪状は…覚せい剤所持です。

あの帰る時も薬を使っていました。だからあんなにふくちゃんに当たってしまったのでしょう。

これからはふくちゃんの為に薬は辞めます。

愛しています。

Hより

ビックリしたが最後の1行は要りません。  
頑張って薬辞めてください。

俺とリー編

まだデリヘルで働いている頃の話。

元タクシーの運転手の「傘」と言う人が入って来た。  
この人は昔シャブ中で捕まった事のある人だった。

更生したのか毎日真面目に働いていたが、免許はあっても車がない  
為、自転車で片道約30分かけて通っていた。

そんな傘さんをエスさんは不憫に思い、店の車の軽ワゴンのステカ  
ン号を貸してあげた。

（軽ワゴンはステカンを運ぶ時に大体使う為ステカン号と呼ばれて  
いた）

それから約1週間が過ぎた頃ステカン号に乗ったまま傘さんは来な  
くなくなってしまった…

電話しても出ない。

自宅に行っても居ない。

貸した張本人のエスさんは大激怒した！

エス「傘捕まえた奴には賞金10万あげるから絶対に捕まえる！」

従業員全員に言ったが仕事もある為に若い俺とリーが探す事になっ  
た…

その間…早番は他の従業員がやっていた…

しぶしぶ…

毎日24時間傘の家を張っていても誰も来なかった。

体力の限界もあるが、そこは若さでカバーだ！

そして何処で調べたのか分からんがエスさんが傘の実家を調べてきた！

その時すでに1週間がたっていた。

早速傘の実家に乗り込むが傘は居ないし、ステカン号もない。

〓次の日〓

俺は朝10時頃傘の実家に行ったら…

…

家の前にステカン号が置いてある！

早速ブザー（ピンポン）を押したが誰も出て来ない…

聞き耳を立てると…

微かに音が聞こえる。

絶対にいる！

すぐさまエスさんに電話した！

『傘いました！ステカン号もあります！』

エス「でかした！今すぐ行くけどリーにも行くように伝えとく！逃がすなよ！とりあえず捕まえておけ！」

久し振りにドキドキした！

なんか…楽しい…

裏口に周ると出窓があった！しかも鍵が開いてる！（カーテンは閉まってる）

窓を開けると…そこには…傘がいた！

イケイケモードで

『おい！傘！何バツクレてるんだよ！ちょっと出てこい！』

傘「すみません！すみません！」

いきなり謝りモードだが俺はイケイケモードだった為

『いいから出て来いよ！』

と叫んだ…ら…

傘の表情が変わった。

明らかに目が逝ってる！

目がキラキラだ。

あんな目見た事ない…

傘「何だと！この野郎！殺すぞ！」

多分…こいつキマってるな…

でも俺もイケイケモード！もうノリノリだ！いざ傘を引きずり出そ

うとした時!?

∴

∴

∴

!?

リー登場!

リーはいきなり上着を脱いで、

リー「ふくちゃん!持ってた!」

と言つて無理矢理渡された。

そして何も言わずに傘を引きずり出して…

殴りだした!

∴

傘∴サンドバック状態!

傘「すみません!すみません!」

リーがあんなにキレてるの初めて見た!

が…

少しウケた。

すると傘の親父さんが登場…  
リーも殴るのを辞めた。

傘の顔は腫れていたが、殴って直ぐに親父さんが登場した為案外平気な感じだった。

親父さんに事情を説明すると…

親父さん「傘…またやったのか…」

悲しい顔をしていた…

そして…エスさん登場！

見るからに不機嫌そうな顔だ！

そしてエスさんは何も言わずに傘を家の中に連れて行って、窓とカーテンを閉めた。

俺とリー、親父さんは意味解らず呆然…外で待機していた。

中では…説教と共に

「ドカツ！」とか

「ガンツ！」とか

聞こえた後…エスさんと傘が出てきたが

…

…

…

!?

傘の歯が2〜3本無い！

エスさん：中でいったい何をしたんだ？

そしてエスさんがその場で親父さんと話をしてエスさんの知り合いの山奥の施設で薬が完全に抜けるまで働く事になった。そう言う人が集まる施設らしい。

そして抜け出す事は不可能らしい…

エスさん：貴女は一体どんなコネを持って居るのですか？

でも俺のイケイケモードはどーすればいい？

いい所はリーに取られたし…でも10万貰えるし…いいか！

『エスさん！10万円ください！』

エスさん「そんな事言っただけ？」

結局：貰えなかったが焼肉をご馳走してくれた。

俺とエーちゃん編

その日はエーちゃんとデートをした！

映画を見て帰りは地元の居酒屋に行つてかなり飲んだ！

そして帰り…歩いて家に向かっている時近くの公園で休憩する事にした。

話しも盛り上がったが次第に無言も続きムードも出てきて…

誰も居ない公園…

雲一つ無い星空…

…

…

…

なんか…Hな気分になってきた…

俺は青姦（外でする事）した事が無く、いいムードになってかなり興奮した。

エーちゃんもその気になってきて、普通は服を着たままするんだろ  
うが俺は初青姦だったので興奮したのか…

…  
全部脱がせた。

…

全裸にすると…  
ますます興奮した…

酔っているせいもあるだろう。

興奮して…

俺は…

エーちゃんが脱いだ服を…

…

…

…

持って走って逃げた！

エーちゃんは必死で追いかけてくる！

俺も必死に逃げる！

…

が…

普通の女の子は泣くか怒るだろう…  
しかしエーちゃんは

…

…

…

爆笑しながら追いかけてきた！

結構逃げた後、服を返したら

エーちゃん「あのいいムードの中で…服を持って逃げるのかよ！」

服を着た後2人で腹を抱えて爆笑した。

ちなみに人に見られました。

皆は真似しないで下さい。

### 最低な男3

@の店には風俗以外にキャバクラもあった。

大体社長はそっちに居るのだが、かなり遠い為行った事は無かった。

ポブ「たまには社長にも顔を出してやれよ！」

その一言でキャバクラに行く事になった…

仕事も終わりトツと一緒にキャバクラにGO！

一応営業でだ。社長もいるし酔っ払う事も出来ない。ワンタイムで帰るつもりだった…

中に入り社長と話しをしてから飲みタイム。

しかし！

店には俺のかなりタイプの娘がいて…

…

速攻場内指名した！

(場内指名とは本指名とは違い、あの娘呼んでと言う意味。本指名とは本命の指名。)

ワンタイムいるつもりが話しも盛り上がりラストまで居てしまった。トツはかなり帰りがついていたが、

シカトしてやった。

これが俺が初めてハマったキャバクラであった。  
女の子の名前は「あーちゃん」歳は俺より2つ上だった。

あーちゃんは週3のシフトで入って居た為、出勤時には必ず飲みに行っていた…  
嫌がっていたトツを連れて…

社長も気を使いかなり安くしてくれていたが、週3回必ず飲みに行っていたら金も続かず、気が付いたら飲みに行く度に借金をしていった…

そして…

クリスマスがやってきた…

クリスマス…やっぱりカップルの季節…

でも仕事…

そして…あーちゃんはお勤…

じゃあ俺も出勤…

でもあーちゃんはどうしよう…

遅く帰ったら怪しまれるし…

かと言ってクリスマスに酔って帰ったら怪しまれるし…

…

…

!?

ナイスアイデア!

まず会社のパソコンでパー券を作る。(パーティー券)

営業先のキャバクラからパーティーに誘われたとエーちゃんに言う。

営業先だから断れない。

パー券を見せる。

帰りが遅くなる。

酔っ払っても平気。

バレない!

よし!完璧なストーリーだ!絶対これでいける!

クリスマス当日…

あらかじめエーちゃんには今からパーティーに行つて来ると電話し  
といた!

さあ

出発だ!

勿論トツも連れて行った。  
無理矢理…

そして…飲み開始！

いい感じに盛り上がり今度デートする約束もした！

2人でいいムードになってきた時俺はあーちゃんにプレゼントを渡した！

あーちゃんはいつも100円ライターだったから、ブランドのライターをあげたら…あーちゃんは俺に香水をプレゼントしてくれた！

なんか…

その場のふいんきで…

付き合っちゃおうみたいな感じになった！

…

…

…

が…

1件のメールが入った。

俺はあーちゃんが隣りにいるのに不用意にメールを開けてしまった。

(かなりくつついて居た為メールも丸見え。)

…

エーちゃんからだった。

「早く帰って来てね！」

あーちゃん「なにこれ？」

やばい！見られた！

あーちゃん「…彼女…居たんだ…」

やべ…言い訳出来ない…

『うん…いる。』

あーちゃん「じゃあこんな所に居ないで早く帰りなよ！」

『いや…今日別に平気だよ。』

あーちゃん「駄目だよ！帰って彼女を大事にしてあげて…今日は大切な日だよ………」

…

あーちゃん「社長！チェックで！」

(飲み終わる事)

社長にはバレてない為社長は気を付かって送り出しはあーちゃんだけだった…

あーちゃんは外まで来た…

あーちゃん「もう来ちゃ駄目だよ！」

………

あーちゃん「あとプレゼントありがとう！大切に使うね！」

『いや…また来るよ…営業もあるし、あーちゃんに会いに来るよ…』

あーちゃん「じゃあ、今度来た時は…私も営業ね！」

『……』

あーちゃん「ほら早く帰りなよ！あと香水は使ってね…」

…

…

…

あーちゃんは…

泣いていた…

俺もこれ以上何も言えない…

帰ろうとした時…

あーちゃん

「最後に言わせて…

私は好きだよ！

ふくちゃんは…

私の事…好きだった？」

正直に答えよう。

『気になる女性だった。このまま行ったら好きになったと思う。』

あーちゃん「今の彼女よりも…？」

『それは分からない…』

あーちゃん「ありがと！じゃあね！バイバイ！」

あーちゃんは本当に好きだったみたいだ。確かにアフターもしていたりしたし、電話もメールも毎日していた。

なんかあーちゃんが泣いているのを見て切なくなった…

この時からキャバクラの女の子に本気でアプローチするのは辞めた。キャバクラで実際にプレゼントをしたのはあーちゃんが最初で最後だった。

キャバクラは…

楽しく飲む場所。

切なさがあつた。

俺はあーちゃんの事を好きだったのかもしれない。

夜中に帰って来た俺を優しく迎えてくれたエーちゃん…

勿論エーちゃんも好きだったが切ないクリスマスだった…

ごめんね…

エーちゃん…

…

あつ…トツ忘れてた…

まっいいか。

## 最低な男4

限度額240万

借金190万

年も明けて新年だ！

エーちゃんも体調が良くなったので働く事になった！エーちゃんは看護師なのだ！

夜勤も入ると…俺よりも給料がいい…仕事は大変そうだったが…

新年早々の新年会では無く、少し遅い新年会をする事になった！従業員全員が来る訳では無く、営業部だけでする事になり社長から飲み会代を貰った！

飲み会に行つてビックリ…

なんと…

…

…

アッコが居たのだ！

流石に驚いた！

俺には内緒にしていたらしい。

飲み会はいつも通り盛り上がり今日は帰らないつもりだった！  
皆かなり酔っ払った頃アッコが明日早いから帰ると言うのだ。

エスさん「ふくちゃん送って行きな！」

兄貴「ふく！送ってこい！でも変な事するなよ！」

兄貴は大阪から来た為アッコと仲が良くてかなり強く言われた！  
まあ、治安が悪い町だ。夜中だし送らないと危ない…

『分かりました！送ってきます。』

アッコも酔っ払ったせいもあり腕を組んで歩いていた…  
俺もかなり、かなり酔っ払っていた。

どのくらい酔っていたかと言うと…

目は良いが、眉間にシワを寄せて見ないと焦点が合わないくらい酔っ払っていた…

むしろ送るといふより送って貰っている状態だった。

送る最中…ホテル街を歩いていた…

俺は腕を組まれたまま連れて行かれた。

…

…

…

ホテルに…

!?

『えっ？なんでホテル？』

酔っている為思考能力0です。

いつもなら突っ込みを入れていたが、この時は?????しか出て来  
なかった。

アッコ「だつてふくちゃんか…あゝセツ スしたい〜つて叫んでた  
やん！」

それは覚えているがアッコでは無く、たちんぼの金髪美女に言った  
のだ…

そんな事を考えている最中にアッコは部屋を決めてお金も払ってい  
て鍵も…持っていた…

そのまま腕を組まれて連れて行かれた…

抵抗する余力はすでに無かった…

…

…

そのまま連れて行かれてベッドに横になって寝ようとしたが…  
無理矢理服を脱がされて一緒に風呂に入った…

眉間シワを寄せないと良く見えない為…

あえて眉間にシワを寄せなかった。

でもアッコが2人に見えるがスタイルは抜群だ…

流石に今までも断っていた通り断ろうとしたが、思考が止まっている為断り方が分からない…

しかも…酔っている為…全部洗ってくれている…まるで風俗だ…

勘弁してくれ！と思いい生懸命断り方を考えた…ダメだ…やっぱり出てこない。

逆にここまでして断ったら傷付けるかもしれない…と言う結論に達した。

『Hさん…今日は酔ってるから気が付いたらここまで来てたけど、最初で最後ですよ。』

これから先、気を持たせない為に言った。もうあーちゃんて懲りている…

アッコ「ええよ！今日ふくちゃんと結ばれるならね！」

…

…

…

結局アッコと結ばれてしまった…

中々上手だった。

終わった後はマンションに帰るなり爆睡…

朝起きて結ばれた事を思い出し、かなり後悔しました。

年が明けた時は大体の人はそうだけど実家に帰ると思う。

俺には姉が2人居る。2人とも新年の挨拶をしに実家に帰ってきた。

(2人とも結婚している)

まあ俺の家族は仲が良い。だけど2番目の姉はうるさいから俺的に距離を置いている。

上の姉とはかなり仲がいい。

家族で飲んでいる時に俺の仕事の話になった。結構オープンな家族なので普通に話たら…

2番目の姉が食い付いてきた。

ちい姉「何処でやってるの？」

『ちい姉の店と同じ町だよ!』

(ちい姉は旦那とバーを営んでいる。)

ちい姉「ふくちゃん!水商売は辞めな!しかも凄く治安が悪い町だし、事件に巻き込まれるよ!」

『治安が悪いのは知ってるけど俺の会社は平気だよ!』

ちい姉「水商売するのは流れ物だからお金も泡銭だしお金貯まらないでしょ?あんた借金してんじゃないの?」

ちい姉も水商売上がりで昔銀座で月収200万稼いでいたホステスだった。俺も免許取ったばかりの時は良くタクシー変わりに夜中に迎えに行ってお小遣いを貰っていた。

そんなちい姉が言う事は間違なかった…  
ちなみに俺とちい姉は10歳差がある。

『確かに貯まらないね…でも借金はしてないよ…』

親父の前だったし、流石にあんだけして貰って、まだ借金してるとは言えなかった…

しかし…

この返事が大事件を起こす…

ちい姉「旦那の知り合いに銀行に勤めてる人がいるから調べてもいいの？」

やべえ…

嘘を貫き通すしかないな…

『いいよ！調べれば？』

心臓ドキドキ…

しかもちい姉の旦那はその町が地元で昔やんちゃをしていた為、周りは悪い人ばかり…俺が勤めてる会社の事も知っていた。(でもちい姉の旦那は今は真面目に働いている。バーの他にフランス料理店も経営している一流コックだ。…しかも昔…飯 愛と仲間内で悪い事を沢山していた。もしかしたら飯 愛が出した本にも登場してる人物かも…読んだ事ないが…)

話が反れましたが戻ります。

旦那いわく俺の会社は悪い人達から凄く評判の悪い会社らしい。  
店では無い)

確かにやり放題だが勤めてる分には問題ない。  
しかも旦那とエスさんは知り合いだった！

数日後…

旦那は自分の店に俺を呼び出して

旦那「ふくちゃん…悪い事は言わない…仕事を辞める。水商売しないなら俺が良い場所紹介してやる。あの会社は辞めておけ。」

『いや…そんなに悪い会社じゃないですよ！』

旦那「周りのヤクザからいい様に思われてない。事件が起こる前に辞める！」

『嫌ですよ！ガキじゃあるまいし、自分の仕事ぐらい自分で決めますよ！』

…

…

旦那も俺もイラっとしてきた。旦那も俺も男にはハッキリと言うほうなので…

旦那「なんだ？その態度？ちい姉に頼まれなかったらこんな事言わねえよ！」

『俺の人生勝手に決めんなよ！』

旦那「お前みたいな奴…大嫌いなんだよ！やんのか？表出るか？」

俺は正直迷った…

喧嘩してもいいが、ちい姉に悪い…

『やっても構わないけど俺の考えは変わらないよ！ちい姉にも悪いし、やっぱり喧嘩は辞めとくよ！わりーけど気分悪いから帰るわ！ちい姉にも仕事は辞めないって言っというて！』

旦那「帰る前に1つ答える！」

『なんだよ…』

旦那「お前借金してるのか？」

『してねーよ！じゃあ帰るわ。』

やべ啖呵切っちゃった…

ちい姉には悪い事したな…

その日は早く仕事が終わった為すぐに家に帰った…

次の日…

出勤すると…事態は一遍していた…  
出勤するなりエスさんに呼ばれた。なんか深刻な顔付きだ…

『エスさん…どうしたんですか？』

エスさん「昨日…あんたの義理の兄貴に呼び出されたんだ…」

『はあっ？』

俺はマジギレしてしまった…

『わりーけどエスさん今日仕事休むわ。ちょいぶっ飛ばして来る。』

…

…

でも…何の会話したんだ？事によってはぶっ飛ばすけど…元々知り  
合いだ。違う話してるかもしれない…

『つか…エスさん…その前に何の話したんですか？』

…

## 最低な男5

エスさん「昨日…夜中に旦那の店に行ったら…ふくちゃんを辞めさせろっていきなり喧嘩ごしで言われて頭に來たから、私もふざけんじゃないわよって喧嘩になっちゃってさ…」

『マジですか?』

マジで切れそう…

エスさん「それで話もこじれて帰ろうとした時…」

『時…?』

エスさん「土下座されて…ふくちゃんを辞めさせてくれって言われたんだよね…」

『別に辞める気はないですよ!』

エスさん「男が土下座つてわかる?あの糞生意気な旦那がふくちゃんのために土下座したんだよ?」(エスさんと旦那は犬猿の仲)

エスさん「ふくちゃん…この会社…辞めなさい。」

『はい?何言ってるんですか?』

エスさん「旦那に土下座されてさ…血の繋がってないふくちゃんに

そこまで出来る奴は居ないよ？私と話す前にふくちゃんと話して喧嘩したのも聞いた。」

『待つてくださいよ！辞めろって言われても借金もあるし、無理ですよ！』

エスさん「そこは旦那にも妥協して貰った。借金もあるから次の仕事が決まるまでと、営業の引き継ぎもあるから、最低でも1ヶ月は無いと会社にも迷惑が掛かるって言っといたよ。」

…

！？

借金！？

やべえ！

『借金ある事言っただんですか？』

エスさん「あれ？不味かった？でも私言ったら駄目って聞いてないし…別にいいでしょ！」

…

確かに言うなとは言っていないが…

どうしよ…

バレた…

エスさん「そう言う訳だから後1ヶ月で引き継ぎして！」

『マジですか？辞めたくないんですけど…』

エス「無理！旦那と約束したから！」

…

…

最悪だ…

仕事辞めたくないし。  
借金もバレたし。

旦那に何て言おう…

あんなに啖呵切ったし…

もう言い訳なんて必要ないな…考えるのめんどくさいし…  
正直に言うしかない。

まっ…いいか…成る様になるか！

俺はいつでもプラス思考だ。だから開き直れる。

仕事の方はエスさんに何を言っても無駄だろう… 1度決めたらもう変わらない人だ。

…

そして…やっぱり旦那から電話が掛かって来た。店に来いと…  
店に着いて開口一番…

旦那「てめー！何で嘘吐いたんだよ！」

『親父にあそこまでして貰って、まだ借金してるなんて言える訳ないだろ。』

旦那「調べたら200万以上借金あんじゃねーかよ！てめーの生活力で払えるのかよ？」

『借金がある事は認めるが：生活力はてめーに関係ないだろ！じゃー何だ？生活力無ければてめーが払ってくれんのかよ？俺の借金だ。俺が払うから文句言つなよ！』

旦那「分かった。てめー絶対に自分で払えよ！」

『分かってるよ！話そんだけでしょ？帰るわ。』

旦那「まだだよ！仕事も辞めろよ！エスに言つといたから。何なら俺が金が貯まる仕事紹介してやろうか？」

『余計なお世話だよ！次の仕事は自分で決めるよ。わりーけどもう帰るわ。話はもうねーだろ？』

旦那「借金の事はお父さんに伝えとくからな。」

『好きにすれば？借金ある事には変わらねーし。』

…

…

やっと話は終わった。

エスさんに土下座してくれた事があるから仕事を辞める事に対しては文句は言わなかった。

…

すげー言いたかったけど、エスさんが旦那と約束した以上…  
エスさんの顔を潰す事が出来なかった…

勿論親父からも話があるとされた…。

正直…怖い…

…

親父「何を考えてるんだ…」

『ごめん。ま〜でも自分で払うし、迷惑掛けないから。』

親父「当たり前だ！俺はもうノータッチだからな！」

『おう。問題はねえ。』

案外平気だった…

次は仕事だ…

引き継ぎめんどくせーな…

エスさんはトツに引き継ぎをさせるみたいだ。そりゃ一緒に行動していればトツになるわな…

俺は自分のエリアの店をトツに引き継ぎする為に周った。

俺は大体の店の店長と仲が良かった為、辞めると伝える度に…

「うちに来なよ！」とか

「幹部にするから来て」とか

ほとんどの店から言われた。実際は前から言われていたけど…。  
勿論仕事を辞める為

『検討させて下さい。』

と言っていた。

給料は何処もVIP待遇！

普通に入るよりかなり給料は高かった。

そして最後に@に行った…

@に着くと社長もいた！

丁度いい！社長とボブ、ジョンに辞める事を伝えて、これからはトツが引き継ぐ事も説明したら…やっぱり言われた…

社長「じゃー2人ともおいでよ！」

仲が良いからな…トツも誘うだろうと思っていたがその通りだった！  
ここも検討して1番待遇が良い所に就職しよ…

トツ「はい！働かせて下さい！」

！？

えっ？

今なんて言った？

待て待て…

今までの店にトツが引き継ぐって説明していたじゃねーか！

…

…

…

冗談だろ？

…

そう言う冗談は嫌いだ！

トツ「じゃあ〜1月いっぱいまで辞めるから2月からでもいいですか？」

冗談じゃない…

こいつ本気だ！

…

…

エスさんに何て言うんだ？

社長「ふくちゃんはどーする？」

『大事なお話なので今直ぐにお答え出来ません。検討したいので時間を下さい。』

社長「いいよ！」

『有難う御座います！』

社長「今度オープンしようと考えてるキャバクラの店長と今あるキャバクラの店長どっちがいい？」

（今あるキャバクラはあーちゃんがいる場所。人手がない為社長の彼女をママとしてやっている。だから大体社長はキャバクラの方にいるのだ。）

…

…

あーちゃんのキャバクラの店長か…

それもいいかも…

働こうかな…

『やっぱり働かせて下さい！』

社長「おっ！いいよ！…でどっちにする？」

トツ「今のキャバクラの店長をお願いします！」

!?

ちよつと待てよ!

それは俺が…

社長「じゃあ、ふくちゃんが新しい店の店長ね!」

!?

決まっちゃったよ…

『俺も今のキャバクラでやりたいんですけど…』

社長「早い者勝ちね!だからトツね!」

…

…

…

やっぱ…

やりたくない…

でも…

返事した以上…

やるしかないのかな…

トツはエスさんに親父の仕事を継ぐ事になったと伝えて辞める事になった…

結局俺のエリアは兄貴が担当する事になって引き継ぎも無事に終わ

った。

2月中旬の事だった。

つか…トツ…俺より早く辞めてるし…

俺が辞める日…

出勤すると社長室に呼ばれた。

兄貴と社長がいる。

兄貴「ふく！まだお前は若いから色々経験しろ！色々経験して…最後にはうちに戻ってこい！成長したふくを楽しみにしているぞ！」

社長「ふくちゃん…長い間…ご苦労さん。色々合ったけどいつでも戻っておいで！ふくちゃんは家族だから！」

すげー涙が出た…

止まらない…

はつきり言ってこんなに熱い会社はないだろう。

社長「今月はまだ残ってるけど今月分の給料！あと退職金なんてうちの会社にはないけど、これも受け取って！」

月給の他に15万円渡された。

社長「今日はもう仕事はいいから帰りな！」

「社長！兄貴！長い間…有難う御座いました！今度…遊びにきます  
」！」

兄貴「いつでもおいで！」

マジで涙が止まらなかった。

社長室を出てエスさんにも挨拶をしたらエスにも社長と同じ事を言われた。

今でも思っていますが最高の会社です！

本当に有難う御座いました。

## その後の仕事

1度ここで@の店関係を説明します。出てきてない店、出てきてない人もありますがここで全部名前を決めます

@店（風俗） 店長ボブ

ブルー店<sup>キャバクラ</sup> 店長トツ ママさん（あーちゃんがいるキャバクラ）

ルビー店（風俗） 店長ジョン（昇格した）

オニキス店（風俗） 店長オーさん

チューリップ店（新規オープン）のキャバクラ） 店長予定 俺

社長がこれからはショウウさん

実は経営しているショウウさんは全店舗リース店なのだ。（借りている店で1店舗につき家賃、電気、水道、ガス代込みで80万円）

そしてショウウさんは月に400万を社長と言う人に渡している…

しかし社長はリースしている以上経営には関与して来ない。店にも来ない。

その為に必ず1店舗に月のノルマがある。

まだオープンしていないチューリップも場所があるのでオープンし

てなくてもリリース代を払っていた為なるべく早くオープンさせたかった。

それを踏まえて話を進めて行きます！

新しい色々な店、人が出ますが皆早く覚えて下さい。

トツは俺よりも早く仕事辞めて先に働いていた…

俺も仕事を辞めてから直ぐにシヨウさんに話をしに行った。

そこでオープンにあたっての色々な予定を立てた…

時期は2月、オープンは女の子が揃い次第で出来れば5月か6月を目安、それまでは俺は入社しない形で俺は独自にスカウトすると言う事に決まった！

その時は正直やりたくなかったがシヨウさんに『働かせて下さい』と言った以上やるしかない。しかもオープンまでは給料がない…

どーやって生活するんだ？

そんな事ばかり考えていた…

エーちゃんにも事情を話すと

エーちゃん「そろそろ私も働こうと思う！だからふくちゃんはスカウト頑張つて！」

エーちゃんの体調もだいぶ良くなって働こうとしていた時期だったのだ。しかもエーちゃんは看護師なのだ！だから給料は良い。少しの間エーちゃんに食わせて貰う事になった…

要するに俺は無職になったのだ。無職と言うのは怖い…いつ起きても良いし、する事が無い為（本当はスカウトしないとイケないが…）逆に言ったら好きな事出来る。その魅力に俺はどんどんハマって逝った…

親父にはちゃんと説明してある為、働かなくても文句は言われなかった。

朝起きてスロット。

昼は外食。

夜はエーちゃんと借りてきた映画を見る。

最後に貰った給料はエーちゃんの給料が入るまでの生活費だ。（2月終わりに勤めても3月の給料が少ない。4月の給料までの2ヶ月を生活する為）

その為借金はMAXまで借りて俺は好きな生活をしていた…

何故だろう…

毎日スロットが出る…

止め時もあるさりしている為負けない！約1ヶ月の勝ち分だけで30万は勝った！それでまずは借金を返したが、俺の生活上それで生活出来る訳がない…特にスロットとかで勝つと無性に使いたくなる…

段々飯も豪華になる…  
朝起きてスロット

昼は寿司

夜エーちゃんと寿司

エーちゃんは毎日寿司で飽きていたが俺は…

全然飽きねえー！

マジ寿司依存症だった。(そんな依存症あんのか？と思うかもしれないが俺はそうだった。)

金は貯まらないがキャバクラや風俗などに行かなかったたので暮らす事に不自由は無かった…

不自由がない…

そんな俺はこう思っていた…

…

…

…

無職はパラダイスだ！と…

はっきりに言って…もう働きたく無かった…

キャバクラの店長の話も断ろうと思った時、エーちゃんにこう言わ

れた…

…

…

…

エー「ふくちゃん…」

『ん？どした？』

…

…

…

エーちゃん「また…」

『また？』

エーちゃん「子供が出来た…」

『…！…』

『…マジマ』

エーちゃん「マジマで…」

また一瞬で色々考えた…

子供事…

仕事の事…

プロポーズの事…

やっぱり俺はサラツと言った方がいい！

『そっか…じゃあ…結婚しようか！』

…

エーちゃん「嫌だよ！」

！？

またフラれた！

…

マジかよ…

でも2回目だし中絶は…

させたくない！

『いや…しろよ！』

エー「やだよ！生活力ないじゃん！」

『…確かにそうだけど…結婚するなら働くぜ!』

エーちゃん「それだけじゃないし…もういいよ…この話…」

『おいおい…大事な話だろ!もういいよって…』

エーちゃん「もういいって!」

『分かった!でも俺も引かない!毎日聞くわ!今日は駄目でも明日は分からねえ!』

エーちゃん「変わらないよ!」

『いや…分からねえ!』

前向きな考え方だ…

〈2日目〉

『結婚すつか!』

エーちゃん「しないから…」

〈3日目〉

エーちゃんは友達と飲みに行った…

帰ってきてから言った…

『結婚しない?』

「エーちゃん」……………しない。」

しづとい…

俺も負けねえ〜!

〜4日目〜

『結婚しよう!』

「エーちゃん」……………いいよ…」

『えっ?今何て?』

「エーちゃん」いいよ!結婚する!」

!?

『どーして!?!!』

何故か主旨が変わって来てる。

「エーちゃん」飲みに行った人が結婚してる人で色々相談に乗って貰ったから。私の考え方が変わったのかな…」

マジか!その人マジありがと!

…

こうしてかなり変な婚約になった！

やったぜ！俺！

…と思っていたが現実は無職だ。人生が楽ならどんなにいいか…

マジ石油王になりたい。

そんな馬鹿が先の事など真剣に考える事も出来るはずがない。

俺は具体的に何も考えて無かった…

その後の俺はあまり変わらなかった…

変わったと言うなら…

スカウトをし始めた事だけ…

でも実際スカウトしたっていつオープンするか分からない店に来る女の子なんて滅多に居ない… しかも時給なんて相場より下だ…

何人がゲットしたが、時期が経つにつれて連絡も取れなくなり結局ふりだしに戻る…気が付いたら5月半ば…

段々やってる意味があるのか？ 今自分は何をしているんだ？

そう思うようにもなり、家に帰ってエーちゃんに愚痴を聞いて貰う日々が続いていた…

しかし…

エーちゃんのたった一言で考え方が変わった。

「エーちゃん、友達みたいに仲がよければね〜！誘っても手伝ってくれるのにね〜！」

！？

それだ！

ナイス！エーちゃん！

流石エーちゃんマジ最高！

考え方はこうだ…

キャバクラに遊びに行く。

連絡先交換。

すげー仲良くなる！

引き抜く。

これしか無い！

エーちゃんにも納得して貰った…

俺の手持ちの金も少なくなってきた以上なるべく早く行動したい。まずはシヨウさんと話をしに向かった。

シヨウさんには、

オープン日を決めてほしい事

求人広告を出してほしい事

引き抜くに当たってNo.1を引き抜いたら時給はVIP待遇してほしい事

シヨウさんも全部了解してくれた。

そして…

オープンは…

7月25日！ 大体の人の給料日だ！広告やステカンも出す為後戻りは出来ない！

ある意味…崖っぷちだ！

## その後の仕事2

リーとトツにも手伝って貰う事になった！  
狙うはN o . 1！

大体N o . 1は太客にしかあまり付かない。要するに貧乏クサイ顧客には店も付けたりしない。  
俺達は一見若くて貧乏そうな客だが、金の使い方が違う。だから直ぐに店側も対応して来るだろう。

でも…俺…豪遊出来るほど金がない…

トツやリーに金がないって言ったら普通に奢ってくれるだろう…  
そう言う奴等だ… でもキャバクラに行くのは1回ですまないだろう…  
ますます奢って貰うのは気まずかった…

借金もMAXで何処も貸してくれない。

………

そんなに…俺は悩んでいたのか…  
そんなに…顔に出たのか…

エーちゃんが話し掛けて来た…

エーちゃん「お金無いんでしょ！私借金して来るよ！いくらあれば

足りる?」

『いや要らない。』

エーちゃん「そう言うと思ったから…もう借りて来た!ここに30万あるから使って!」

『はい?いつの間にお前借りたんだよ!要らないよ!』

エーちゃん「私が働けない時ふくちゃんは私のカード代とか洋服代、化粧品代、ほかに沢山出してきていたじゃん!私にも出させてよ!」

確かにお金を出していたのは俺だが…俺もほとんどが借金から出していた。

正直…迷った…

借りるか借りないか…

背中を押してくれたのもエーちゃんだった。

俺がどのくらい黙っていただろう…

エーちゃんが俺の手を持って無理矢理渡された。

…

『分かった…借りるけど絶対に返す…』

エーちゃんはどんだけ俺が考えてる事を分かってくれてるんだろう…

俺なんてエーちゃんの考えている事が何も分からねえのに…

マジありがとう。

さ〜舞台は整った！

いざ出陣！

時間はリーとトツの都合で2時半集合なので遅くまでやっている人  
気な店を選んだ…

ま〜まず柄の悪いスーツ姿の若い奴等が来たら店は若いギャルを出  
すだろう。その後の金使い次第では女の子を変えて来る。その娘達  
が店のトップに違いない。

だが…それは暇な時のパターンだ！  
混んでいたら誰でも付く。

幸いな事に今日は平日の夜中だ…  
後は空いている事願うだけだ…

…

店員「いらっしやいませ！」

…

…

…

来た！空いている！

展開は…

予想通りだ…

ギャルが付いた！

あとはこっちのペースだ！

まず最初はフルーツ

女の子にはドリンク…

わざと盛り上がらない。

すると…女の子がチェンジした！

ここまでは予定通りだった！

が…

来た女の子は…

やばい可愛い…

絶対N O . 1だ！

リーがすげー食い付いた！

リー「俺に譲ってくれない？マジ頼む！」

『いいよ！でも作戦は遂行してね！』

リー「了解した！」

その後は楽しく飲んで金を使った…

女の子の名前はみーちゃん。質素だが美人でノリもいい！勿論場内指名もした！

でも着いた時間が遅い為に2時間しか遊べなかった…

しかし！

みーちゃんが酔いながら、

みーちゃん「明日も来てくれないと嫌！」

リー「いいよ！じゃあ明日も来るよ！」

リーは…ノリノリだ…

店を出たあと…

リー「わりーけど…惚れたわ！俺あいつ落としてふくちゃんのキャバクラで働かせるよ！」

頼もしい…

今のリーに任せれば問題ないだろう…

トツ「…俺の可愛く無いんだけどさ…明日来た時、指名しないと駄

目かな…明日…やだな…」

トツは童顔な顔が好きなのだ…

トツはわがままで…

意見が通らないとすねる！

だがトツも戦力だ…

ここは来て貰いたい。

『別にいいじゃん！指名しなくても…弱肉強食だよ！』

トツ「そつだよな！」

…

リー「今…みーちゃんからメールが入ったけどさ…」

『…』

リー「今日の3人指名してね！だって…」

トツ「いかなー！」

リー「こいよ！頼むよ！俺の為にさー！」

『趣旨が変わってるから！俺の為だから！』

リー「うん！そうそう！だからトツ！俺の為に明日も頼むわー！」

話聞いてねーな…こいつ…

トツ「多分明日仕事で行けないよ！」

トツの得意技 「行きたくない時適当に断る病」

でも俺達には効かない。

リー「また3人で行くって返信しちゃったもん！」

『確定だな！』

リー「嫌だ！行かない！」

トツの得意技 「すねて行かない病」

だが俺達には効かない。

『じゃあ迎えに行くわ。』

リー「行くわ！」

トツ「くんな！」

トツも決定した。

〜次の日〜

リーは早めに上がってまずはトツの場所に飲みに行った！

トツ「いらっしやいませ！あっ！くんな！」

見回したが、あーちゃんは居なかった…

トツ「あーちゃんなら辞めたよ！」

『そっか…』

トツ「帰れ！」

リー「客に対してその態度なんだよ！」

勝手に座ってやった！

ママさん「久し振り〜！」

わざわざママさんが付いてくれた！

『ワンタイムですから…自分でやりますよ！トツ迎えに来ただけですし…』

ママさん「どっか行くの？」

『キャバクラで引き抜きしてきます！』

ママさん「バレないように頑張ってね！」

リー「任せてください！落としますから！」

ママさん「じゃあ今日は暇だしトツ早く上がりな！女の子送って来ていいよ！その間3人で飲んでよーね！」

トツ「マジすか！俺キャバクラ行きたくないですけど！」

ママさん「迎えに来てるから行ってきなさい。」

トツ「は…はい…」

『じゃあ早く送って来て！待ってるよ！』

…

3人で飲んでいると…

シヨウさんがやってきた…

シヨウさんとママさんは同棲してるのだ…

シヨウさん「お〜おつかれ！あれ？もう閉めたの？」

ママさん「今日は暇だしね！」

『お疲れ様です！』

リー「リーです！お疲れ様です！」

シヨウさん「お〜リーの話はよく聞いてるよ！よろしく！」

事情を説明して4人で飲んでリーもいるのに色々オープンにあたっ

の説明をした…

リー「任せてください！俺も頑張りますから」

まだ広告の募集は鳴ってないらしい。まだあと丁度2ヶ月だ…鳴ってくれるといいが…

そんな話をしていたらトツ登場！

トツ「お疲れ様です！」

シヨウさん「トツ早く行って来い！」

トツ「は…はい…」

『いくらですか？』

シヨウさん「要らないよ！その代わりに捕まえて来い！」

俺&amp;mp;リー『マジですか？あーざすー！』

よし！出発だ！

だが、車の中でもトツはいじけてた…

トツ「今日は金つかわね。」

トツの得意技 「ブルーの世界に入る病」

だから俺達には効かないって！

『無理ワリカン。』

リー「無理無理無理。」

ここまで来るとトツも諦める。

諦めるの遅過ぎ…

相手は俺とリーだから。

まゝいつも結局最後にトツは諦めるけどね…

着いた！トツもしぶしぶ付いて来る…

今日は早い！2時には着いたからラストまで3時間は飲める！

入ってまず本指名…

そして…お決まりのフルーツ！

女の子にドリンクを最初だけ飲ませて

フードも好きな物頼ませて

延長

俺達はボトルは入れない。酒をすげー飲むからだ！入れたところで直ぐ飲み終わるし、酔っ払ったら味も分からない…だからいつもハウスだ（飲み放題の酒）

でも女の子を酔わす為に今日はワザとボトルを入れる。女の子はハ  
ウスは飲んではいけないが、客が入れたボトルは飲める！今日は酔  
わせていいムードに持って行きたい！

…

…

つか…みーちゃんは酒に弱いのか…速攻酔っ払った…

リーとみーちゃんの空間を作って残りの4人で飲んでいた。

リーも気分が良ければ沢山飲むが、俺とトツは多分…かなり飲む方  
だ…

別に数えてる訳じゃないからあまり覚えて無いけど、3人なら多分

…6本前後は飲んでるはず…

まゝそんな話はどーでもいいので…メインの話に戻ります！

酒が入ればトツモノノリノリだ！俺もトツはかなり盛り上がり…

リーはいいムードだった！

このペースなら落とせるな。後はリーに任せよう。

そして…

気が付いたらもう閉店だった…

また今度来る事を約束して店を出た…

『リーどうなった？』

リー「彼氏がなくて寂しいらしい。しかも俺が好みらしい！」

『マジで！絶対落とせよ！』

リー「もう落とした！明日デートだぜ！」

！？

早えええ

トツ「早過ぎぬ…」

リー「もう明日パンパンだよ！」

(俺達の間言葉で、気持ち良い事する時の言葉)

〜次の日〜

夜リーに電話した。

『お疲れーい！今日どうだった？』

リー「まだ一緒にいるよ！」

『パンパンパン出来た？』

リー「ん？ん？よく聞こえない！」

…

…

誤魔化すって事は…

近くにいて返事に困ってるな…

俺は小さい声で…

『今ホテルだろ!』

リー「うん。とりあえずまた電話するわ!」

やっぱり…手を出すの早過ぎだな…

ちよつと羨ましく思ってしまった。

まゝ俺は結婚するし…しょうがないかな…

むしろ女遊びは出来ないとか考えた事は無かった…

子供が出来たから結婚する…

それしか考えて無かった…

結婚したら俺はどーなるんだろう…

結婚って縛られる物なのかな…

なんか…

結婚したく無くなってきた…

…

…

…

色々考えた…

結果…

俺は俺のままでいいじゃん！

そして…

何も変わろうとしない俺が誕生したのだった…

結局次の日電話が掛かって来てパンパンパンしたらしい…

しかも…

付き合ったらしい…

…

早過ぎだつて…

でもこれでみーちゃんは確定だな…

エーちゃんもお腹が目立って無ければ手伝って貰って…

…

全然足りねえ！

どーすんだよ…後2ヶ月切ってるぞ…

俺は仕事辞めてから女の子と遊んでないから友達いないし…  
トツにでも頼んでみるか…

…

『手伝ってくれそんな女の子いない？誰でもいいから！』

トツ「営業やっていた時のティッシュ配りの娘に聞いてみるよ！」

俺もスカウトに出たが、時給が良くないので引っ掛かりもしない…  
でも諦めないで頑張って大学1年生の女の子を捕まえた！

こっちに上京したばかりで夏休みにバイトでもしようと考えていた  
娘だ！

しかもオープンする場所から歩いて10分！

来た！

頑張って良かった

その娘の友達に全く同じ事を考えている娘もいるので誘ってくれる  
らしい…

最高！

めげずにやって良かった

…

トツの方は…ティツシュ配りの娘2人ゲットした！

リーはみーちゃんとみーちゃんのお姉さんをゲットしたが、この2人はVIP待遇だ…

客も持っているし…しょうがない。

あとは募集でどんだけ集まるかだ…

エーちゃんを入れて…

今7人。

7月を過ぎた頃…

問題が起きた！

俺がゲットした娘が8月から働きたく事になったのと、みーちゃんのお姉さんが8月中に入店する事になった…

しかも募集が鳴ってない…

7月に入って流石にシヨウさんもまずいと思ったのか… 沢山広告を出してくれた…

まゝ俺からしたら…そんなぐらい当たり前だ…と思っていたら実は…シヨウさんでは無く…

オニキス店 店長 オーさんが口出ししていたのだ…

要するにこうだ…

キャバクラなんて女の子はいくらでも集まるが風俗は集まらない…  
募集の電話が鳴ったら風俗の話をしていたのだ！  
しかもそれで2人も風俗に入れている…

俺的にかなり納得行かなかったが、メインは風俗だ…

グループは風俗グループ… 風俗の話をして何が悪い…と言われたら言い返せない。

でもマジで納得行かなかったので、オーさんには

『もう時間もないし、今回出した募集はキャバクラの話しか言わないでください！』

オーさん「いいよ！でもさ、女の子足りなくてオープン出来なかったらお前のせいだからな！」

…

…

約束はしてくれたが…

…

かなりイラッとした。

何処の会社にもいるむかつく奴だ…

多分…俺は打ち解ける事はないだろう…

ちなみに オーさんは今までの実績があつて、シヨウさんと仲が良かったと言うのもあり違う店から引き抜かれた人だった。

確かにオニキス店は繁盛している。

しかも色々シヨウさんに風俗店のアドバイスをしたり、オニキス店の経営もかなり良いのでシヨウさんが統括部長に任命したのだった。

水商売は結果が全てだから俺も結果を出していつかオーさんに文句を言つてやるうと思つた瞬間だった…

…

やつと募集の電話が鳴つた…

しかしその娘も8月から希望…

仕方ないが鳴らないよりマシだ。

そして…

結局オープン1週間前で募集で集まつたのは1人…あの8月から希望だった娘だけだった…

ステカンはもう出来ている…

スカウトは俺もトツもやつている。

俺達の地元の友達にも声を掛けたが、遠い為は無理…

オープンから1週間はそのままだと5人しか居ない…

それってキャバクラとは言えない…

スナックだろ…

…

俺もトツもスカウトに飽きてきた…

話を聞いてくれる人はいても…なんと…

時給1600円じゃ来ないって！

近所の相場は2500円だ…

俺が2人捕まえた事すら奇跡だ…

俺もトツもシヨウさんとオーさんに「無理だ！」と言う事にした。

トツのキャバクラはかなり田舎なので時給は1600円だが、オー

ブンする場所はキャバクラが盛んな町と町の間の中途半端な場所だ…

そんなに低い時給じゃ隣り町に取られるのは当たり前だ…

今までも言ってきたが、やっとシヨウさんもオーさんも時給を上げてくれる事を承諾してくれた…

ちなみにみーちゃんの店での時給は4500円だった…

No.1だったしね…

でもうちの店では…

時給2500円だ。

良くなってくれた！リー！

そして結局…他の女の子は時給は2000円〜になった…

これで新しく募集を出す事になった…

…

なんで俺はこんな店に入ってしまったのだろうか…

今戻れるなら。。。

働いてない！

それだけは言える…

オープン…そして…

借金

俺 240万

エーちゃん 30万

チューリップ open 3日前

従業員全員でステカンを張った！これから毎日ステカンを張る！と  
りあえずステカンを張る作業で誰かみたいに逃げる奴は居なかった。

結局オープンから1週間は5人でスタート。

1週間後に8人なる。

8月中にみーちゃんのお姉さんも来る…

幸いな事に皆レギュラーで入れる。最初の1週間は皆に出て貰う事  
になった…

またまた説明で申し訳ないけど見て下さい。

オープンはとりあえず18時〜2時まで3時ラスト。

セット1時間 2000円+ドリンク代(女の子)1000円 客  
は飲み放題。

タックス料 サービス料 消費税無し。

延長 1時間4000円+ドリンク代(女の子)1000円

ハーフ延長(30分) 2000円+ドリンク代(女の子)1000円

まとめ

1時間 3000円ドリンク付き

延長

1時間5000円ドリンク付き

ハーフ3000円ドリンク付き

本指名 2000円

場内指名 1000円

カラオケ5曲 1000円

書きながら思ったけど最初からまとめにしろ!って話だよね... 指  
が疲れたじゃねーか!

女の子

時給 2000円

バックは色々ありますが...1つだけ説明。

ドリンクバック 6杯目から500円バック

以上…

キャバクラに行った事ある人は分かると思うが…かなり…リーズナブルだ！

勿論指名が多くなれば時給も上がる。

逆に言えば時給も下がる。最低は1500円だ。上限は無い。

そして…経営側から言つと風俗店はフル回転した1日の売上上限は決まったいるが、

キャバクラには売上の上限は無い…

ある意味…魅力がある。

俺は店長だが初心者だ。だから最初は社長と2人でやる事になった。本当ならもつと従業員がほしい…

そして…俺の初任給は…20万スタート！  
期待していたがトツに釣られて給料聞く前に働かせて下さい…と言つてしまつたからだ…

トツの馬鹿野郎

くオープン当日

エーちゃんは仕事があるために遅れて来る…  
スタート4人…少し心配だ…  
しかもオープンも早い…

本当に客は来るのか？

夕方…店で準備していると…荷物が沢山届いた…

リーから花

ブルー店から花

前の会社から花

トツから花

なんか…感動した…

俺はかなり涙もろい。

オープンまで金も貰わず頑張って来たがまだ始まってないのに涙が出た…

そして…オープン10分前！

外で2客待っている…

これは行けるんじゃないのか！

と思ったら…

2客ともみーちゃんの客だった。少し残念だが、流石みーちゃんだ！

そして…

いざ…オープン！

『いらっしやいませ！』

2グループみーちゃん指名。

ま〜普通に延長するわな…

でも新規の客が来ない…

かなり心配…

7時…カラ〜ン！

来た！

…

エーちゃんだった…

思ったより早く来てくれた！

7時過ぎ…やつと来た！

なんか…安心…

それを起に沢山来たが…

女の子が足りない…

しかも…新規の客は金を落とさない…

ま〜最初だ！客も警戒しているのだろう。

その内にリーズナブルでかなり盛り上がる店になるだろう！

でも…なんだ…みーちゃんの客はすげー使っ！俺達レベルではないが…

しかもボトルも入れてくれるし、このまま行ったら幸先いいな！

そのままの調子で続いた！

ほかにもみーちゃんの客は来た… しかもタイミング良く！

多分みーちゃんがコントロールしているのだろう！すげーぞ！みーちゃん！

でも他の客は金使わねえー使わねえーセットだけで帰るから儲からない…

たまにフードを頼むぐらいだ…

マジでみーちゃん居なかったら終わっていたな…  
そして最後は…リーが1人で飲みに来た！

シヨウさんもみーちゃんの凄さには驚いたのか…  
高いボトルを御礼として出してくれた！

ヘネシーだ。

でもリーは自分でも高いボトルを入れてくれた！  
時間だった為延長は出来なかったがリーには残って貰って、他の客  
を返した…

トツも来て他の従業員も来てくれて俺は女の子を送りに行ったが、  
近い為直ぐに送って戻って来て皆で飲んだ！

(みーちゃんとエーちゃん以外)

飲んでる時に聞いたが、みーちゃんは女の子が居ないと聞いたから  
客を全然呼んで無かったみたいだ。

前の店ではみーちゃんの客だけで店が埋まった事もあったらしい…  
皆…すげーの一言。

でもとりあえず1ヶ月は今の給料でこのままのペースなら時給も上  
がると言う事になった。

ここでシヨウさんがトツが連れて来た女の子に触れた…

シヨウさん「なんか誰かに似てるんだよな…」

…

…

俺は直ぐに分かった…

アッコ以来アッコ系には敏感なのだ…

だがあえて触れなかった。

が…

トツ「和田アキ子に似てるかも…若いバージョンのアッコだよね！」

シヨウさん「確かにアッコに似ている…」

俺はアッコ系に縁があるのか？

まゝ今回は好まれてないから平気だろう！

そして…

明日の予定も決めてリーはみーちゃんと帰った…

エーちゃんは仕事なので帰ったが俺はステカン作業がある為に残る事になった…

終わったのは5時…

まゝ初日だし妥当な時間だな…

そしてやっと家に帰れる。

通勤時間は帰りは夜中なので45分前後。

行きは1時間半〜2時間。

これから通うの大変だ…

次の日も順調だった！

だが…キャバクラの仕事ってのはハンパない疲れる…

そりゃ人が居ないかもしれないから大変なのかもしれない…

いや…絶対そうだ！

シヨウさんはほとんどフード係りであとは俺に仕事を教えるだけだ…  
仕事に関しては俺は覚えるのは早いけど、覚える量が違う…

普通のキャバクラなら担当がいて初めて成立つが俺の場合は全て1人でやる。

要するに下積み時代がないからこそ全て1人で出来るようになるまで、

対応出来るまで部下は出来ない。

出来ないのと舐められてしまうからだ！

慣れるまでの俺の予定は

オープン3時間前に出勤。

掃除

トイレ掃除

全ての買い出し

テーブルのセット

オープン

1 客案内

2 ドリンク作り

3 チェック

4 片付け

5 テーブルのセット

1～5は繰り返し

店終了で女の子送り

ステカン（ある日と無い日がある）

戻って洗い物

売上長を付ける

細かい作業を入れたらもつとある…

キャバ嬢がこれを見たら多分わかると思うが有り得ない。  
なれるまでは酷く大変だった。

正直…逃げたそうとも思った…

実際3日目にトツに辞めていい？って聞いてしまったほど辛かった。

特に…トイレ掃除に厳しい！

素手で掃除して頬擦り出来るくらいピカピカにしろっと言われていた…

しかも初日以外はシヨウさんはあまり手伝わってくれない。手伝わないと回らない時だけ手伝う感じだ…

実際…忙しい日は朝6時ぐらいに終わっていた…

確かに全ての仕事を出来なくて何が店長だ…

俺は下積み時代をいっぺんにやっていたのだった…

オープン3日で売上平均15万。一見少なそうに見えるが月にしたら450万だ！

#### 豆知識

売上に対する女の子の理想の給料は約45%前後と言われている。

(た…多分)

レッドゾーンは60%以上なら客が来な過ぎ40%以下なら

客は居るのに女の子が居なさ過ぎなのだ…

中々いいんじゃないのかと思っていた時シヨウさんに

シヨウさん「売上が400万超えるか？超えないか？賭けする？」

『いいですよ！超えると思いますから！』

シヨウさん「よし！もし超えたらふくちゃん給料25万にしてあげるよ！超えなかったら15万な！」

!?

15万!?

それは悩む…

やっぱりやめよ…

『やっぱり賭け辞めます。』

シヨウさん「今やるって言ったじゃねーか！超えると思ってるんだろ?」

『超えると思います!』

シヨウさん「じゃー賭けるか?」

『分かりました!いいですよ!』

前代未聞の賭けだ…

まぐみーちゃんが居れば超えそうだし…まっいいか!

…

…

そして…

やっと1週間が終わった…

俺は家から通うのが大変なので、チューリップに泊まり込みで働きたく事にした…

まず家に帰って荷物を持っていざ出発！

かなり荷物を持った…

チューリップに着くなり荷物の整理をしていると…

…

…

あれ？

…

…

…財布が無い！

大体ショウさんは最後まで残らないので売上は俺が持っているのだ…

歩いた道と車の中、荷物の中…何処にも無い…

最後に覚えているのは…

実家だ！

直ぐにエーちゃんに電話して探してもらったが何処にも無いらしい…

最悪な事にその日の売上は25万…それプラス運営費5万…全部で30万落としたのだ…



オープン…そして…2

この業界（水商売の男）は最低な奴等が集まる場所…動機は何であ  
れ…

借金まみれ

夜行性

女にモテたい

楽して稼ぎたい

普通の昼間の仕事が出来ない奴等が集まる場所なのだ…

そんな奴等が金を落としたから売上がありません。 っと言った所で  
通用する訳がない。

もしそんな事があつたら一生下つ端だ…

信用出来ない奴等が集まる場所で信頼出来るようになるまで…どの  
くらい時間が必要か…

信頼した人だつて売上を盗んで逃げる奴がいるぐらいだ。

風俗業界で1番大事な物は、「信頼」なのだ。

シヨウさんは経営者だからこそ、その事を充分…分かっているだろ  
う。

…

…

頭の中…真っ白だ…

…

何も浮かばない。

どうしようも無い。

…

選択肢はひとつ…

…

正直に話す。

それしか無かった…

その日は寝る事も出来ず…

ただ…

オープンを待っただけだった…

時間が経つにつれて…

憂鬱になり…

嫌な汗もかき…

脇も臭かった…

夕方になった時…  
いきなりチューリップのドアが開いた！

オーブンまでだいが先だし、誰もくるはずがない。まだ掃除の時間  
帯だ…

「ふくちゃん！」

…

…

…

そこにはナース姿のエーちゃんがいた…

正直ビックリした…

『仕事はどうしたの？』

エーちゃん「電話しても出ないから不安になって途中で上がった！」

確かに電話は出なかった。誰とも話をしたく無かったからだ…

エー「給料入ったばかりだから…30万使って！」

!?

『マジで!』

『本当にいいの?』

エーちゃん「いいよ!ふくちゃんのおんな声聞いた事無かったから心配したよ!」

(朝方の無くした事に気が付いた時の声)

涙もろいとはいえ…

泣いた…

『ありがとうエーちゃん。』

エーちゃんにはマジで感謝しまくった!

もうその後は一気に不安も無くなり気も落ち着いた…

財布についてはシヨウウさんから渡された物だ… それについては謝ろう。

しかし…この結果が俺の今後を左右するのだった。

オープン前オーさんがやってきた…

言い忘れていたが店舗が同じビルなのだ。

オーさん「お疲れー!昨日はどーよ?」

俺は経緯を説明して正直に話をした。

『財布は落としましたけど売上分は用意しました。財布はシヨウウさ

んの物なので正直に話そうと思つのですが…』

オーさん「言わない方が良いでしょう。逆に信用出来ない奴に思われたらどーすんの？金を用意出来たら余計な事は言わない。それがこの業界だよ。」

何となく分かる気がした…

金も用意したし余計な事は言わない方がいいのかもしれない。

そして…

…

シヨウさんが来た…

『おはようございます！』

シヨウさん「オハヨ！昨日の売上は？」

『はい！どつぞー！』

…

『実は昨日の売上落としてしまってシヨウさんの財布ごと無くしてしまいました。すいません！』

シヨウさん「売上あるじゃねーか…」

『用意しました。』

シヨウさん「ふうん。落としたのはお前の責任だから金は渡さないよ。」

『それは分かっています。でも財布はすいませんでした!』

シヨウさん「おう! いいよ! あの財布は金が貯まる財布だったけどな!」

『すいません!』

シヨウさん「おう! これで明日金が貯まりそんな財布買ってこい!

そう言つて5万渡された...

『良いんですか?』

シヨウさん「おう! いいよ! 変な財布は辞めろよ! 金が10万しか入らない財布はそれ以上入らないけど、明日は100万以上入れられる財布を探して来い!」

確かにその通りだ...

折り畳みの財布に札束は入らない。だからそれ以上金も寄つて来ない。

勉強になった...

その日のシヨウさんはかなり機嫌が良かった...

そして飲みを誘われた...

仕事も終わり…待ち合わせの場所に行った…  
俺は他の従業員も来ると思っていたが…居たのはシヨウさん1人だ  
った…

向かったのは…寿司屋！

内心…来た！でもカキだけは食べねえー！

理由は番外編3に書きます。

…

『とりあえず生2つで！』

『いや〜とりあえず1週間はなんとかかかりましたね！』

シヨウさん「だな！このままのペースで行けばいいな！」

『はい！ですね！』

シヨウさん「な〜ふく…お前はこれから先もずっと水商売するのか  
…？」

う〜ん…考えた事無かったな…

そう言われると…悩むな…

でも…将来自分で水商売関係の店出したいな…

『そうですね…将来自分で店持ちたいですね…』

シヨウさん「そっか…骨沈める気はあるのか…」

『ま〜そう言う事になりますね!』

シヨウさん「そうか…」

『はい!』

…

シヨウさん「俺と一緒にやらねーか?」

『何をですか?』

シヨウさん「将来…いや近いうちに自分の店だしたらさ…一緒にやるぜ!」

『良いですよ!このグループですか?』

シヨウさん「皆に内緒だよ!」

『俺で良いんですか?』

シヨウさん「おう!利益は折半な!」

『えっ!?!悪いですよ!幹部として雇ってくださいよ!』

シヨウさん「いいんだよ!ま〜誰にも言つなよ!」

『分かりました!』

…

何か良い方向に向かってしまった…  
ただ正直に言っただけなのに…

その後俺達は、すげーいっぱい将来について語った。

ちなみにシヨウさんはこの時37歳 俺22歳

1週間で過ぎて女の子が3人増えた！

1週間女の子が5人だったからすぐ客離れするかと思ったが、  
逆に言えばまだオープンして1週間だから客は来る！

でも相変わらず本指名はみーちゃんだけしか来ない…

エーちゃんに関しては妊娠してる為、すぐに辞めてしまう。人数合  
わせのヘルプで入るようなものだから、指名が取れる訳がない。(  
ヘルプとは指名同士が重なって女の子が移動した後には話相手に入っ  
たり、盛り上がってる席で客のドリンクとか作る人。その為客とあ  
まり会話しない。)

シヨウさん「おかしいだろ！別にアッコ以外は問題ないぞ！ちゃん  
と連絡先とか教えてるのか？指名が無いって…逆に言えば魅力が無  
いって事だろ！」

…

その通りだ…

あいつら…1度来た奴と外で遊んでんじやないのか？

…

…

しかし次に指名を取ったのは…

…

…

エーちゃんだった…

これにはシヨウさんがかなりキレた…

シヨウさん「何でヘルプしか入って無いエーちゃんが指名取るんだよ！あいつら何やってんだ？」

『いや…確かに納得行かないですね…』

シヨウさん「おし！ふく！説教しろ！」

…

『俺がですか！？』

シヨウさん「俺が言っても意味が無いんだよ！店長はお前だろーが  
」！

そ…その通りだ…

でも俺は皆も分かると思うが…女の子には優しい…  
こんな俺が…言えるのか？

…

…

店が終わった後ミーティングになった…  
シヨウさんは裏で聞いている…  
とりあえず…ビシツと言わないと…

緊張する…

『今日…ヘルプのイーちゃんが指名取りました…ヘルプが指名取る  
って…おかしいよね？』

…

な…なんて言おう…

『皆…指名取るように頑張ってください！以上！』

…

…

勿論…

…

…  
シヨウさんに俺が怒られました…

シヨウさん「あれの何処がビシツとだ…」

と…少し笑いながら…

次からは…ビシツと言わないと…

勉強になりました…

仕事も何となく流れが分かって来た…  
オープンして半月ぐらい過ぎて居た頃だ…

お盆の8月13日…

俺はエーちゃんと入籍した…

俺は日にちとかあまり気にしないが、地元の皆からは…  
「流石にお盆は無いだろ！」と言われた…

今でも思うが…お盆はありだろ…皆覚えてくれるし…  
お盆と言えばふくちゃんみたいな感じで…  
皆も真似していいよ！

そして2人で婚姻届を出した後…そのまま借金しに行った…

俺にお金を貸してくれて2人共…金がない。

もう俺は何処も貸してくれないので、エーちゃんが借金する事にな  
った…

が…勢い余って…とんでもない行動をしまつた…

『借りれるだけ借りてみない？とりあえずカード作るだけでさ…』

エーちゃん「看護師だどのくらい逝くんだろうね？カード作って  
みよっか！」

…

馬鹿な夫婦だ…

入籍した日に借金する夫婦なんて中々いないだろう…

まずは審査が楽な場所から攻めた…

1件目…

2件目…

3件目…

…

…

…

すげー…

看護師ってすげー…

最初から限度額が違っ…

借りはしなかったがカードだけ作った…合計150万…  
1件の限度額が50万で…審査が甘いとは言え…すげー！

その日は10万だけ借りて昼飯を豪華に食べた…  
でもこれが…その内…最悪の状況を招くのだった…

オープン…そして…3

正直…お盆までは調子が良かった…

お盆に入った日から客が激減した…

流石のみーちゃんですえ客を呼んでも旅行だったり、田舎に帰っていたり…皆遊びに行っていた…

あまりの来なさに俺は…嫌な汗を欠いた…

しかもそんな日が続いたがシヨウウさん達はお盆はしょうがないと言  
うのだ。

でも…俺が言いたいのはそういう意味じゃない…

売上平均が下がるだろが！

俺の給料が減るだろーが！

マジで勘弁してくれよ…

結局お盆で売上がガクンと下がった。お盆が終わった時点で平均1  
3万くらいだったから、お盆も終わったし客も来るでしょ！つと…  
甘い考えを持っていた…

現実…お盆が終わったからこそ来ない。皆お盆で金を使って金が  
無いのだ…

平均は下がる一方だった…

そして…運命の24日…

…

…

売上平均足りてねえーよ…

シヨウさん「ふく！残念だったな…お前の今月の給料15万な！」

『はい…。でも来月からは20万ですよね？』

シヨウさん「俺の気分次第。」

『…そ…そんな…勘弁して下さい…』

シヨウさん「気分次第。」

こいつ…リーにソツクリだ…言い出したら止まらなねえ。  
働かなきゃ良かった…

つか…1人でやってると、休みが無い…とりあえず1ヶ月経ったし  
シヨウさんに聞いてみよ！

『シヨウさん！俺…そろそろ休日貰いたいんですけど？』

シヨウさん「休み？そんなの無いよ！」

『えっ？』

シヨウさん「誰がやるのこの店？休める訳ないじゃん！」

…

…

…

『マジっすか!』

シヨウさん「マジだよ!」

…

給料15万…休み無し…

辞めたい…

シヨウさん「じゃー俺明日から田舎帰るからよろしく!」

…

『…いつてぶっしゃい…』

シヨウさん「お土産買ってくるよ!」

『…ありがとうございます…』

いや要らねえし。

休みくれ。

辞めたい…

素でムカついた。

このグループ…従業員居なさ過ぎ…  
でもトツは日曜日休みだ…俺は無し…ひどすぎるぞ…

…

シヨウさんが田舎に帰っている時、忙しい日はトツが早く店を閉めて手伝いに来てくれた！トツと一緒に仕事をするのは楽しい！

フードを頼まれたら多めに作って2人で飲みながら働いていた…

やっぱり気の合う仲間と仕事するのは最高だ！

やりたい放題やりまくったが仕事もちゃんとしている！俺はこんな仕事を望んでいた…

カラン…

『いらつしゃいませ！』

オーさん「お疲れーい！」

…

やばい！

仕事しながら飲んでるのバレた！

…

オーさん「なんだ？お前達飲んでるのか？」

『はい！軽く飲んです！』

こう言う時トツは何も言わない。全部俺任せ。

オーさん「俺にも飲ませろ！」

！？

まじか！

そういう行動パターンは読んで無かった！

オーさん…あんたもやるね！俺あんたの事嫌いだったけど、ほんの少しだけ好感度アップ！

何かその場の乗りで

オーさん「終わったら飲みに行くか！」

俺& amp ;トツ『行きますす！』

…

仕事も終わり、待ち合わせ場所の居酒屋に行って皆で飲み始めた…

『いや〜従業員居なさ過ぎじゃ無いですか？』

オーさん「居ないな。」

トツ「部下がほしいっす！」

オーさん「おし！シヨウさん帰って来たら話してみるよ！」

『お願いします!』

なんだ…話せば良い人じゃん…  
そんな風に思ったのはこの時だけだった…

…次の日…

自分の店の用意も早く終わらせてオーさんの店に顔を出した!

『お早うございます!』

オーさん「おはよう!丁度いい!お前も仕事覚えていけ!」

俺は気軽に

『いいですよ!』

…

これがいけなかった…

それからと毎日何故か分からんが仕事を教えさせられた…

1人で準備出来るようになったら…

オーさんは俺に準備をさせるようになって、

最後には鍵を渡されて準備しとくように言われた…

自分の店もあるのに…

休みも無いのに…

そんなに俺を働かせて何になる！

まゝ俺はプラス思考な為にこの経験は将来…いつか…役に立つ！  
と自分に言い聞かせ、我慢しながら頑張った。

辛い…

何が辛かって風俗と違って客が酔っ払っている事…

風俗では酔っ払っていると普通の店では断られる店が多いがキャバクラは違う。

キャバクラは酒を飲ませる場所だ。つまり客は酔っ払う。その分もめる可能性も高い。

キャバクラでもめたらバツクが出てくる…

そんな店もあるかもしれないが普通の店ではまず出て来ない…

基本的に店員でも駄目なら警察に言う確率の方が高い。

ヤクザが暴れてバツク出せと言うなら話は別だが…

チューリップの客でも

暴れる客

タッチが多い客

泥酔する客

金を払わない客

…

ほかにも沢山あるが、言うときりが無い…

1番最初はシヨウウさんが見本として客と揉めた時、最前線に立った  
が2回目からは最前線は俺だ！

揉めて喧嘩になって…なら全然良いのだが…

絶対に手を出してはいけない。

借りに出されたとしていてもだ…

こっちは…我慢して警察を呼ぶ。

…

我慢して…

その内に番外編で沢山書いて行こうと思いますが、始めて俺が客と  
揉めた時の話を少しします。ちなみに注意して辞める、帰る客は揉  
める内に入りません。

お盆が過ぎて少し立った時の話だ…

みーちゃんの指名が重なった…

普通指名が重なると30分づつ指名した女の子が付く。

だが何が気に入らないのか…

多分…

30分しか付かなかったのが納得行かなかったのである…

客「店長出せよ。」

『私ですが…どう致しました?』

客「どーしたじゃねーんだよ! みーちゃん付けろよ!」

『申し訳ございません。只今指名が重なっているものなので少々お待ち頂けますか?』

客「呼ばれて来てんだよ! 早く付けろや!」

客はみーちゃんの客…

金も使う…

出来るだけ揉めたく無い…

いくら説明しても…駄目だ…

『じゃー今付けますので少々お待ち頂けますか?』

客「さっさとしろよ!」

1度みーちゃんを裏に呼び話をした。

『あの客…金落とすの?』

みーちゃん「うーん…持つてる時は使うかな…あと持って無い時は絶対に延長しない!」

まだワンタイムだ…

しかもそろそろ時間だし、みーちゃん戻して延長するかしらないか様子を見てみよう…

『そろそろ時間だから1度戻って延長するかしないか聞いてくれる？』

みーちゃん「うん！聞いてみます！」

普通指名同士が重なって金を持っている客なら、対抗して延長したりする。

例えるなら、

サウナに同時入った奴より絶対に早く出ない…あいつが出たら俺も出るみたいな感覚に似てる…中々出ない時とかワザと立ち上がって出口に向かうふりして相手が立ち上がったらストレッチをして出ないとか小技は沢山あるが…

やべ話がそれた！すまん！

…

みーちゃんが戻って来た…

みーちゃん「延長するって！」

『じゃーあと5分したら呼ぶから向こうに付いて！向こうも時間だから！』

みーちゃん「分かりました！」

（5分後）

『みーちゃんお願いします!』

みーちゃん「ちょっと行ってくるね!待っててね!」

客「…おい…店長…この店なんだ?俺を舐めてんのか?」

『どーしました?何かあったんですか?』

客「どーしたじゃねーんだよ!てめー!」

俺もイラッとしたが…我慢…

が…頭に酒を掛けられた…

俺…キレちゃった…

駄目だ俺…

『何してんだ?お前?てめーにも酒掛けてやるうか?何が不満なんだ?…言ってみろ!…!…!…!』(最後の言ってみろは怒鳴った。)

客「いや…すまん…ちょっと興奮して酒掛けたけど…ごめん!みーちゃんおしぼり持って来て!早く!」

俺はかなりの恐顔だ…

ビビるのは分かるが…ビビるの早過ぎだろ…しかし俺は止まらない。

『だから何が納得いかないんだよ!…!』

客「…いや…そういう意味じゃなくて…」

『文句がねえーならおとなしくしてろよ…』

裏に戻ったらみーちゃんが謝りに来た…泣いている…

みーちゃん「ごめんなさい…今のお客さん帰るって。」

『だろうね…ごめんね…キレちゃって。』

みーちゃん「本当にごめんなさい…」

なんか…みーちゃんの涙を見て俺も素に戻った…

が…客の顔を見たらイラツとしたので延長分もしっかり請求した…

『延長分込みで 円です!』

客「さっきはごめんね。そう言っつもりじゃなかったんだよ…」

まだ言ってる…

『 円です!』

お金を貰ってから一言

『また御来店御待ちしております!』

みーちゃん…まだ泣いてる…

ごめんね。みーちゃん。

俺は恐い顔してるが、若い為に客に舐められる。これから先も沢山キレちゃった事はあるが、常連さんは知っててこう言っ…

店長…恐いね…

もう1席のみーちゃんも客も延長して同じ事言っていたらしい。勿論常連さんになった。

シヨウさんからは

シヨウさん「手は出すなよ。」

それしか言われなかった。

これが俺が客と始めて揉めた話…  
いや俺が始めてキレた話…

揉めた時はもつと凄い…

それは番外編で…

### 番外編3

俺編

営業の時の話

アッコから会社にカキ（貝）が沢山届いた！

貝殻付きのカキだ！

手紙付きで新鮮と書いてある。

皆で今日はカキ鍋だ！とか言って盛り上がった！

すると兄貴やエスさんが貝殻を開けて生で食べた！

兄貴「すげー美味い！」

エスさん「美味い！」

それに釣られて俺とリー、トツも生で食べた！

皆：すげー美味い！とか言っているが

…

不味い！

まゝ気分を変えて仕事に行った！

夜カキ鍋をするから20時にマンションに集合だ！

…

…

… おかしい…

… 仕事中… なんか異常に疲れた。

… こんなのは初めてだ…

… 営業はトツに任せて俺は車で昼寝する事にした…

…

… どのくらい寝ただろう…

… 汗びっしょりだ…

…

… 駄目だ!!!

… 瞬間ドアを開けて吐いた!

… 気持ち悪い…

… 吐き気がやばい。

… フラフラする。

… 駄目だ! 耐えられない!

… 速攻トツを呼んでマンションに送って貰って車を降りたが…

歩けない…

トツに肩を借りてやっと歩けた…

これは…

絶対に当たった…

マンションで横になって寝ていたら…カキ鍋が始まった…

やめてくれ…

頼むよ…

兄貴「あっ…ふくちゃんに手紙が入ってたよ！」

くふくちゃんへく

ふくちゃんは貝類が好きだって聞いたから送りました！

私の愛情も沢山詰めておきました！沢山食べてね

Hより

…

…

…

ハートで吐きそうになった。

沢山詰めたって…

…

…

呪いか？

残念ながらもう要りません。

今充分にアッコの呪いに掛かっています…

トツ編

トツがまだ入社して1週間ぐらいの頃だった…

会社の近くのコンビニでヤクザに喧嘩を売られた…

俺やリーの場合は顔も知られている為、問題はない。

たまに会えば会話する程度ぐらいの顔見知りのヤクザだった。

しかも幹部の人だ！

幹部「何見とんじゃ！コラア！」

顔を知らないふざけた奴がいたら…そりゃ言われるわ…

トツ「あゝなんだよ！上等だ！この野郎！」

！？

流石トツ…

「会社の者です！すいません！つとえば済む物だし、最初は皆大体絡まれるので対処の仕方も教えている。勿論俺もリーも絡まれた事がある。

しかし誰かトツに対処の仕方…教えてたのか？

幹部「てめー何処の者だよ！」

トツ「組だよ！文句あんのか！」

！？

バックの名前出しちゃった…

そう言うのは表に出したらまずい…

幹部もそれを言われたら後ろに引けない…

それは暗黙の領海だ！

トツは喧嘩になったらやばいと思いき事務所にいたリーを呼んだ！  
リーが来た所で収集付く訳がない。

トツ

リー

エスさん

社長

こんな感じで登場！

相手は…

幹部

部下

部下

いや…むしろ…

幹部

幹部より下全員集合！約30人！

トツ…苦笑い…

トツ「…リー…俺まじり事しちゃった？」

リー「不味すぎだね…」

そこに社長とエスさん登場！

社長「リーとトツは会社に帰りな！大丈夫だよ！話つけるから！」

本当に平気なのか？

相手は30人だぞ…

でも…社長が戻れと言つので会社に帰つた…

大変だ…

会社の中も…

ピリピリしている…

…

…

…

が…

社長は5分で戻つて来た…

社長「ただいま〜！トツ〜もうあんな事言つたら駄目だよ〜」

…

5分つて…

あんなに相手怒っていたのに…

貴方は一体何者ですか？

…

でもトツはエスさんに…

グーで殴られた。

トツ…君はある意味凄い奴だよ…

???編

デリヘル時代の話…

南さんと言う人が従業員として入ってきた。

南さんは昔シャブ中で捕まって今は更生して他のデリヘルから転職し、うちに来たのだ。

仕事は真面目にやっているのだが、でん張りやステカンの時だけ

…

…

…

異常にビクビクしている…

確かに警察に見つかれば捕まる作業だから多少周りは気にするが…  
南さんは常にキョロキョロしたりただの人が来たりするだけで、

「私服警官だ」とか

「あいつ怪しい」とか

挙動不審になる。

しかも歩く時は必ず忍び足だ！俺の足音でもたまに…ビクッ…となる。

南さん運転で俺が助手席だった時…後ろにパトカーが居るだけで猛スピードで逃げる！

そんな人だった…

〈数日後〉

俺と南さんでステカン作業をしていた時…

丁度ステカンを貼り付けた所にパトカーが通り過ぎて行った…

大丈夫バレて無かったみたいだ…

『南さん危なかったね！』

って

南さん…いねーし！

何処行った！

…

…

遠くの方で走っている南さんが見えた…

そして…

そのまま会社に来る事は無かった…

どんだけ警察が恐いんだよ…

エスさん編

エーちゃんと付き合ってから5ヶ月がたった頃、ついにエーちゃんと付き合っている事を言うチャンス？バレル？時が来た…

従業員は皆俺とエーちゃんが付き合っている事を知っている…知らないのはエスさんだけ…

従業員皆で話してる時、リーがエーちゃんの名前をポロツと言ってしまった…

従業員皆…アツ…と言う顔をしている…

俺は軽くスルーして誤魔化そうとしたけど…エスさんはスルーしてくれなかった…

エスさん「えっ？何で今エーちゃんの名前が出たの？」

従業員皆が少しづつ離れて行くのが分かる…被害を合わない為だ…

エスさん「リー！どう言う事？正直に言いなさい…」

リー「俺じゃ無いです…」

そして…リーが顔を俺に向けた…  
俺は目をそらしたが…

エス「どう言う事？ふくちゃん？」

『いや…あの…実は…』

段々エスさんの顔が笑っていく…  
これなら言える！

『実は…エーちゃんと付き合ってるんですよ…』

エスさん「いつから？」

良し！怒ってない！

『1月からです！』

…

…

…

エスさんの笑顔がみるみる怒ってる顔に変わってきた…

エスさん「てめー！何で言わなかったんだよ！」

『言わなかったじゃなくて恐くて言えなかったんですよ…』

エス「私の何処が恐いんだよ!」

…と言ってグーで殴られた…

そういうところが恐いんですよ…

それから3日間会う度に蹴られ続けた…

本当に…ごめんなさい。

## エーちゃん編

その日は仕事で風俗店で営業ついでに遊んで女の子の名刺を貰った。  
夜はキャバクラで飲んでまた名刺を貰った。

いつもなら名刺を貰っても直ぐに捨ててしまおうが、  
その日に限って捨てずに持って帰ってしまった…

いつも通りにエーちゃんを起さずにスーツから荷物を出し、スーツ  
を脱いで一服する…

一服してる最中…荷物に紛れた名刺を見つけた!

やべえ…持って帰ってきちゃった…

酔っ払っていた為正常な判断が出来ない…

何を考えたのかわからんが…俺はその名刺を冷蔵庫の裏にセロテープで貼り付けた！（俺は当時自分の部屋に小さい冷蔵庫があった）

これでバレない！

（数日後）

エーちゃんから電話が入った。

エーちゃん「部屋模様替えしたいんだけどいい？」

『いいよ！』

…

すっかり忘れている俺…

仕事も早く終わり家に帰ると…

…

部屋でエーちゃんが仁王立ちしている…

何故かわからない俺…

『どした？』

エーちゃんは無言で2枚の名刺を差し出した…

…

俺…冷や汗…

エーちゃん「言い訳は？」

出来ません。証拠が目の前にありますよね？

『ごめんなさい…』

エーちゃん「ごつち向いて…」

…

…

…

グーです。

右ストレート…

いいパンチでした。

その後は普通に接してくれましたが、少しの間…気持ち良い事してくれませんでした。

## 限界

8月も終わり…大体客の流れが分かって来た…

18時台に客が来たら奇跡に近い。

19時台は客がたまに来る。

その為オープンが19時からになった。

だがそこに待っていたのは…18時からオープンのオーさんの店で手伝う事だった…

30分前には自分の店に戻る事が出来るが、何故俺が手伝わないといけないんだ？

でも風俗は久し振りで仕事内容が新鮮だった…最初だけ…

オーさんの店は風俗で言うならピンサロだ。

その為にマイクで案内するのだが、これが

…

…

…

すげー楽しい…

何が楽しいってキーワードさえ言えばあとは何を言ってもいい！オープン時はこんな感じだ。

『本日はオニキス御来店誠に有難う御座います！1番…1番シートには　さん30分コース！スラツと長い足で御周りください！』

とかね！好きな事を言っている！マジ楽しい！俺もマイクパホームンスやりたい…

それを…キャバクラに導入してみた…

閉店時…会計も終わった後に時間になってホールを少し明るくしてマイクを持ちホール入口に立つ…

『本日はチューリップ御指名御来店頂き…ま・こ・と・に有難う御座いました。残念ながら…チューリップは閉店のお時間になってしまいいました…またの御来店御待ちしております！本日は本当に有難う御座いました！』

…

…

…

大不評だった…

少し続けたが…

…

勿論大不評だった…

常連さんには大好評だったので…  
それから常連さんがいる時にだけ言うようになった…

9月に入り…チューリップに住むのに疲れて来た…  
エーちゃんも昼間の仕事が無い時は泊まっていた…

つか…限界だ…  
何が限界って…全部だ…

風呂もないし、寝る場所はソファを並べて寝る…やっぱり家が無いとストレスが溜まるし、妊娠しているエーちゃんの体にも悪い…

でも金がない…

エーちゃんも金が無い…

俺は借金出来ない…

エーちゃんは出来る…

!?

よし！借金しよう！  
まだ全然使って無かった為借金もまだ逝けた…  
いや…逝けるとこまで逝こう…

…

…

結果…

総額…300万以上逝けた…

す…すげ〜

そこから出産費、家を借りる、家具全部出そう！2人で話てそうなった。

早速家を探したが中々いい物件が無い…妥協はしたくないし、近い場所がいい！

金があれば使う。

そんな生活をしていれば当たり前前の事だが借金も増えて行った…

チューリップの方は皆がレギュラーで入れる為、客も飽きたのか…客入りも少なくなってきた…

これはまずい。

店の事をシヨウさんに相談すると飲みに行く事になった！  
また寿司だ！

飲みに行つて早速本題に入った…

『女の子増やしませんか？』

シヨウさん「そうだな…募集掛けるか！」

『来ますかね？』

シヨウさん「来るだろ！とりあえず来月は赤字になっても女の子を  
沢山出して女の子が増えた事をアピールしないとな！」

『ですね！あと従業員も増やしませんか？オーさんから聞いてませ  
ん？』

シヨウさん「聞いてないよ！」

！？

マジかよ！あいつ…  
うぜえー！

『結構自分…一杯一杯なんですけど…オニキスの準備とかも俺1人  
だし…』

シヨウさん「えっ？オニキスの準備もしてるの？」

『してますよ！知らなかったんですか？』

シヨウさん「知らないよ！聞いてない！お前体力あるな！すげーよ  
」！

『そついう事じゃなくて…従業員増やしましょうよ！』

シヨウさん「いいよ！ぶくがそこまでやってるとは知らなかったよ  
！いやウケるな！」

ウケてんじゃねーよ！

でもこの飲みをきっかけにシヨウさんとは何か壁が無くなった…

言いたい事を言って、それを聞いてくれたからかもしれない… 何か嬉しかった。

…

酒の勢いで給料も上げてって言うてみようかな…

『シヨウさん…給料も上げてくださいよ!』

シヨウさん「いいよ!今月は18万な!」

すくなっ!

まあ上がらないよりかいいか…

…調子に乗ってみよう…

『来月も18万ですか?』

シヨウさん「気分次第。」

…

多分…上がるな…

まあいつか!

…

それからと言うとよくシヨウさんと飲みに行く様になった。シヨウさんと俺はいつの間にかに親友みたいな感じになっていた…

9月中旬…

エーちゃんのお腹は限界だった… だから裏の仕事を手伝って貰っていた…

その為俺の負担もかなり減ってかなり楽になった…

シヨウさんは募集をしてくれて女の子の面接も増えて行ったが全てが働く訳ではない…

何人かは女の子も増えたが理想にはまだまだ足りなかった…

そして… 仲も良くなったのか… シヨウさんは俺を育てようと色々な事を叩き込ませた。

9月も終わった時にはもう1人で出来るようになっていた。シヨウさんはオニキスを手伝い、オニキスが終わる頃チューリップにやってきてチューリップが終わるまで待つていつも飲みに行っている…

大体いつもママさんとシヨウさん、俺とエーちゃん飲んでいたが… たまにトツも誘われ、ごく稀にオーさんも呼ばれた。

昼間はエーちゃんと飯を食いに行ったり、銭湯に行ったりして生活している…

夜飲みに行かない時はエーちゃんと飲みに行く。気が付くと借金も次第に増えていた。

そして…

ついに…

家が決まった！ボロいアパートだが中は綺麗だ！これがエーちゃんと俺の初めての新居になった…

後は家具…

つか…これを揃えたら…

すげー金が掛かった。

家具ってすげー金が掛かるって初めて知った…

テレビはデカいのがいい！とか冷蔵庫はこれがいいとか選んでいた  
ら…

借金がMAXまであと100万を割っていた…

まじ…使いすぎ…

後は俺の給料も少ないし、生活する為に残そう…

でもこの時…月の返済が2人合わせて15万前後になっていて生活  
も何も出来ない状態になっていたのだ…

流石の俺もかなりビビった。

借金を増やせば返済も増える。

そして…

元金は減らない…

月に15万返そうが元金は3万〜4万ぐらいしか減らない…

正直…舐めてた。

18万の給料に返済15万じゃやっていける訳が無い…子供も生ま

れる…

もう最後の手段しかない…

幸い闇金には手を出していない。

エーちゃんと話した結果、自己破産をする事になった…

でも自己破産は流石に抵抗があった。何故か…

それは…経営者になれないのだ！その事は出来れば避けたい。

返済はしてるからブラックにもなってる。俺は違う道を選んだ。

エーちゃん〓自己破産

俺〓債務整理

2人の中で決定した。

自己破産する為にエーちゃんは残り100万を借りた。

この100万を借りるか借りないかで命運を分けたと思う。

すぐに弁護士を頼みに行った。最近こつこつ依頼が増えて来てるらしい。俺達は依頼をしたら俺25万、エーちゃん35万掛かると言われ、分割に出来ないか？と聞いたら、良いですよ！って言うから少し安心したが、分割にするには頭金10万づつが必要らしい。

ここで借りた100万から20万を支払った。

丁度返済と弁護士に依頼したのが重なっていたので消費者金融から催促の電話が鳴りまくった！

全部説明してこれで平気かなと思ってても信用してないのか？

毎日電話が掛かってきた。毎日同じ事を聞いて来る。

返済はまだかと…

弁護士からの手紙が届かない以上返済しろと言っただい！

3日後

やっと弁護士から手紙が届いた為に電話が鳴らなくなった！  
この瞬間だけは…すげー安心した。

そしてチューリップの方はだいぶ女の子が増えてきた！

客は追い付いて無いが客が居なくても女の子を常時置いてる状態だった。

女の子が多いと送りも大変だ！

しかも奴等は

女「店長！お腹空いた！」

と毎日のように言ってくる！

だがこれもコミュニケーション…自腹だ。

給料18万で自腹…

大体ラーメンなのだが、たまに焼肉とか…カラオケとか馬鹿な事を言い出した…

…

結局自腹…

本当に金がねえーんだよ…  
勘弁してくれ…

飯食った後は金も無いので普通に家に帰ると

…

…

…

家にもエーちゃんが飯を作って待っている…  
今…ラーメンを食べたばかりなんですけど…  
でも…普通に食べた…

大体は酒を飲むので摘むのだが…  
時には辛い場合もあった。

コテコテのラーメンを食べて家に帰ると…

エーちゃん「おかえり！今日はふくちゃんの大好きな唐揚げだよ！  
いっぱい作ったから食べて！あつご飯も食べるでしょ？」

そんな時は「ちび　る子ちゃん」みたいに顔に線が入る…

でも…

『マジで？いや〜食べたかったんだよね！』

エーちゃん「でしょ！ふくちゃんもそう思ってると思ったよ！」

『う…うん!』

本当ならツマミ程度で酒を飲みたいが…  
これが俺の愛情表現だ!

『すげー美味しいよ!』

でもエーちゃんは俺の愛情表現に気が付いて無いだろう…  
でも1度だけ断った事がある…

カレーライスの日だ。

あいつにはライスがいる…流石に重い…

『酒…飲みたいからルーだけでいいよ…』

流石に少し太りました…

## 限界2

何でか分からんが、何故か限界が沢山あった…

本当に勘弁してほしい…

そう…

リーとみーちゃんの間限界が見えて来たのだ…

リー「ふくちゃん…悪いけどみーちゃんと別れたいんだけど…良いかな？」

『良いかな？じゃねーよ！別れたら店も辞めるだろうが！駄目だ！ゆるさん！』

リー「いや…そろそろ限界なんだよね…つかもう好きじゃないし…」

『好きじゃないのは分かった…が別れるのは駄目だ！まだ必要！今居なくなったらエースが居なくなる！エース候補が来るまで頑張ってくれ…』

リー「いつぐらいまで？」

『最低今年一杯…』

リー「長い！まゝふくちゃんの頼みなら頑張ってみるよ…」

そして…みーちゃんからは…

みーちゃん「ふくちゃん…」

みーちゃんが泣いている…

『どーした!?!』

みーちゃん「リーちゃんが起きてくれない…起せって言われたから起こしても起きてくれない…どうしようふくちゃん…」

…

…

えっ?それだけ?

『何処に居るの?』

みーちゃん「ホテル…起きてくれないよ」

まだ泣いてる…

『俺の名前使って起こして電話渡してみて!』

みーちゃん「うん…リーちゃん!ふくちゃんから電話!起きて!」

リー「ん?どした?」

『どしたじゃねーよ!みーちゃん泣いてるぞ!起きてくれないって…可愛いところもあるじゃん!』

リー「みー！いちいちそんな事でふくちゃんに電話してんなよ！」

『まあまあ怒るなよ！別に起きたからいいじゃねーかよ！』

リー「…そだな…わりーね！」

うん。悪いよ。

めんどくさいのはお断りだよ。

でも…リーがこれで終わる訳が無かった…

数日後

仕事中にみーちゃんがやってきた…

みーちゃん「今からお客さん来ます…それまでここにいても良いですか？」

『良いよ！』

みーちゃん「最近…リーちゃんが電話に出てくれない…」

知らねえーよ！

いや…知ってるか…

仕方ない…

適当に誤魔化すか…

『いや仕事が忙しいんだよ…しかも仕事中に彼女から電話掛かって来ても中々出ないよ…俺だって電話に出ない時だってあるし…』

みーちゃん「そうなのかな…」

違うな…

『そつだよ！特にこう言う商売していたら電話に出れない時だってある。みーちゃんだって客に付いてる時はリーの電話出れないですよ？』

みーちゃん「そつだね…そつだよね！」

『そそ！』

みーちゃん「でもメールだけで最近会ってくれないし…」

メールだけって…

電話掛け直してないのか？

『電話は掛け直して来ないの？』

みーちゃん「うん…」

あの馬鹿…電話ぐらいしてやれ！

『い…忙しいんだよ…俺にも電話ないし…』

みーちゃん「そっか…」

『後で電話しとくよ！』

マジで！

みーちゃん「お願いします。」

…

話終わったら直ぐに客が来た…

みーちゃんも気分を直して客に付いた！付いて直ぐにボトルが入った！やるな…みーちゃん…

みーちゃん「延長聞きに来なくて良いつて！そのまま延長で！」

丁度1時に入って来たのでラストまで居るらしい！

…

1時間経たないくらいで

みーちゃん「店長！ボトル2本追加で！」

おお！すげーな…みーちゃん…

ちよつと様子見とかないと…

この時俺1人だったのでホールの様子を見てなかったのだ…

…

とりあえず…普通に飲んでるな。これなら平気そうだ…

他の客は居ない。トツが手伝いに来てくれたので送りを頼んだ。

トツ「じゃーおつかね！」

愛想の無い奴だ…

俺は自分の仕事をやっていた為ホールは見てなかった…  
気が付いたら後10分しかない…っと思ったら客が来た…

客「みーちゃん潰れたから帰るわ。いくら？」

しまった！俺のミスだ！潰れるまで飲むなんて…マジでミスった…  
客が帰ったあと直ぐにホールに行った！

『おい！みーちゃん！』

みーちゃん「もう時間ですか？」

駄目だ…

吐かせよう…

トイレに連れて行って全部吐かせたら

みーちゃん「リーちゃんに会いたいよう」

泣き出して…直ぐ寝た…

とりあえずリーに電話しないと…

『リー！みーちゃんが潰れた！すまん俺のミスだ！』

リー「マジかよ！ふくちゃん頼むよ…仕事まだ終わらないから、終わったら直ぐに行くわ！」

『すまん…』

（2時間後）

リーが来た…

リー「お疲れーい！みー何処？」

『ホールで寝てる。』

リー「マジで次からあんまり飲まずなよ！こいつ酒弱いから！」

『分かった！わりーね！』

リー「おい！みー！起きろ！」

みーちゃん「あれ？何でリーちゃんが居るの？」

リー「お前飲み過ぎだよ！弱いのが知ってるだろ！」

みーちゃん「飲みたかったんだよ…会ってくれないんだもん…」

リー「悪かったよ！次からはあんまり飲むなよ！」

そう言ってるリーはおんぶして連れて行った！

何かドラマのワンシーンをみてるみたいだったな…  
何だかんだ言ってもリーは優しい…

俺達の中で一番悪いのは…トツだな…

あいつは…

すまん…  
やっぱり言えない…  
これ読んでるし…  
残念…

俺は夏ぐらいからオーさんに車を貸していた…  
いや…貸していた？

事の発端はシヨウさんがお盆に帰った時だった…

オーさん「送りするから車貸して！」

元々車を持って無いオーさんは普段はシヨウさんの車で送っていた  
が、

その日はシヨウさんがいない…だから俺に言って来たのだ！

俺は普通に貸した…

シヨウさんがいない間毎日…

送りが終わった後は返してくれるのだが、その日は送りが遠いから  
もしかしたら時間内に帰って来れないかも…と言って来た。

俺はエーちゃんも車を持っていたのでその日は返さなくて良いです  
よ！って言ってしまったのだ…

これが発端。

そのまま理由を付けて返してくれないのだ…

まあ俺も遠くに行く必要も無かったし、エーちゃんも持っていたから強く言わなかったのも原因だが、エーちゃんの車が車検切れになった為オーさんに強く言うきっかけになったのだ。

『オーさんそろそろ車返してください!』

オーさん「ふく…車持つてるだろ!」

『車検切れなんですよ。』

オーさん「お前さ…何でそう言う事先に言わないの?じゃー俺送りでーすればいいんだよ!」

『いや送りの時は貸しますよ!』

オーさん「予定とかあんだからもっと先に言えよ!」

はい?

何この人…

借りてるのは、貴方ですよね?

オーさん「分かったのかよ!」

かなりイラッとしたが、俺はこの人がキレて俺が納得行かない時は…

『分かりました。次からそうします!!!』

必ずこう答える。納得いかないから謝らないが、謝っているように聞こえるからだ。その代わり二度と同じ事はしない。それだけは守っていた。

そして車を返して貰えたが…  
すんなり終わるわけが無い。

返して貰って1週間が過ぎた頃…送り帰りに女の子が

女「店長！ラーメン食べたい！」

確かにその日の気分はラーメンだった為

『じゃ〜行くか！』

と言ってラーメン屋に向かった…

そのラーメン屋は結構人気で店の前が路駐でいつも一杯なのだ…

ラーメン屋に着いたが、店の前に路駐出来なかった為、俺は1番最後尾に車を停めたのだ。

ラーメン屋に入る時、カップルとすれ違った。

彼女は可愛い…ってどーでも良いけど…相手は食べ終わって帰る時だった…

並んでいると外で…

キキイイイイ

ドン！

ガンツ！

ドン！

つと音が鳴った…

女「近くない？車大丈夫？」

『一応見て来るわ。』

そう言ってドアを開けた時、すれ違った彼女が走って来て出ようとしていた俺に

美女「助けて下さい！」

今にも泣きそうになっている…

『どーした！』

もう美女は喋れなくて指を指すしか出来ない状態だった…

俺の前の車が現場だった…

走って向かった！

彼氏が倒れてる！

が…

彼氏は…

…

…

平気そうだった…

足を痛がっていたが…  
頭を打ったか聞いたが打ってないみたいだ…  
良かった…

少し安心してドライバーのそこに向かった…

『あんだ大丈夫？』

おっさんだった。

混乱していて返事が良く分からん。言い訳しているみたいだ…

とりあえず体はシートベルトもしていたし、車の壊れ具合を見て平気そうだからほうっておいた。

女の子達も来て居たので警察と救急車を指示、跳ねられた彼氏には保険の引っ張り方を教えていた時、1人女の子が

女の子『て…店長！く…車が…！』

俺の車を指差している…

直ぐに車を見たが正面から見ても分らなかつた。女の子が後ろを指差している…

後ろに回ると…

一発で分かつた…

…

廃車だ…

右後ろがグチャグチャでタイヤが変な方向むいている…  
こう言う時こそ冷静にならないと…

つて…なれねえ！  
俺には無理だったよ…

『コラーアーてめー何してんだ！』

女「店長！お…落ち着いて！」

女の子達は俺がキレるとやばい事を知っている為直ぐに止めてくれた…

正直危なかった…

その一言で冷静になれた…

とりあえずドライバーに怪我が無い事を確認して外に出して警察が来る前にやる事をやり始めた。

『免許見せて！』

免許の住所、本籍メモして返した後会社の名刺を貰った…（これ重要）

そこで警察登場！

警察が当事者に詳しく話を聞いている…

俺もなんですけど…

警察「君は何？何でここに居るの？」

『被害者なんですけど？』

とりあえずもつとドライバーと話したい…  
警察と適当に話した後…ドライバーに近寄ったら酒の匂いがする…  
このままじゃ保険が降りない…

俺はドライバーの近くで　を用意していた。（ある事をするときアルコール反応が出ない為。ある事とは言えません。2人に1人は持つていそうな物。俺はいつも持つている。）

だがお咎めなし。警察の誰もが何も言つて来なかった。

良かった…

そしてドライバーの近くに行つて

『とりあえず車が無いと仕事に影響あるから明日1度会社に電話するんでそれまでに対応して貰えます？』

（これ重要）

ドライバー「会社だけには…」

こう言つて来たら完璧だ！こつちのペース！この勝負貰つた！別にヤクザではないが…

『あれじゃ〜車…廃車だよな…参つたな〜。とりあえず保険屋に話しとして…俺が納得いくようにね。』

本当は一筆書かせたいが警察もいるし出来ない…はつきりと言わずに誤魔化しながら言いたい事を言つた…

ドライバー「分かりました。」

『じゃー保険屋からの電話待ってるよ！納得逝かなかつたら電話するから出てね！』

さつき会社と1度言っている為ここでは言う必要はない。ここで言ったら脅しになる。

その後は警察がレッカーをして女の子はタクシーで返して領収書も貰った。

もう朝だ…

ラーメン食い損ねた…

朝から家に帰っても酒も飲む事出来ねえ！。

かと言って寝るより先にやる事沢山あるし、結局…寝る事出来ずに仕事が終わったのは9時を回っていた…

すると1本の電話が入った…保険屋からだった。今から査定に行くと…

早い！中々あのおっさんやるね！でも俺が乗ってた車は査定額出ないだろう。18万キロ乗っていて色々ボロボロだったし…車屋に持って行っても廃車代貰わないと処分出来ないと言われるくらいボロボロだった。

足りない分はおっさんから貰うとしても最低50万はほしい…じゃないと車を買えない…

とりあえず…レンタカー借りに行こう。保険屋が指定した場所に向かって車を借りた。

そして…廃車確定なので荷物を全部取りに行った時保険屋が丁度帰る所だった。

「今から帰って直ぐ査定するので！」

いや…話が早過ぎる。

分かる人も多いと思うがこれは…異常に早い…まだ昼になる前だ…

でもまー保険で出ても20万ぐらいが関の山だろう…

とりあえず俺も家に帰って少し仮眠するか…

でもその日は電話が無く、保険屋から電話が入ったのは次の日の朝だった…

寝てるから非常に迷惑なんだが電話に出た。

『はい…もしもし…』

機嫌が悪い…

保険屋「今回はこちらの不注意で大変申し訳ありませんでした。」

『はい…』

保険屋「それで査定額の方がご迷惑を大変掛けたと言う事で…」

『はい…』

保険屋「80万円で…どうでしょうか？」

!?

『マジで!』

あの売れない車が!?

ごねる必要がない…

多分知り合いの保険屋なのだろう。じゃないとこんなに早く対応出来ないし、何より80万も出ない…

最高の結果になった…

直ぐに金が振り込まれて俺は50万ちょっとの車を買った。

勿論支払はキャツシユだ! やっぱりキャツシユは気分がいいな!

相手も見er目が変わる。そこが気持ち良い。

残りは久し振りに金を持った為…豪遊したくなった。

…

まずは…

キャバクラ!

やっぱり金があると安心して飲める!

多分ウツプンも溜まっていたのだろう。キャバクラだけじゃ物足りない…

しかもエーちゃんとも出来ない… 俺はリーのデリヘルに遊びに行った…

トツも誘って…

…

現地に着いて女の子選んでいる最中…

トツ「ふくちゃん…」

『どした？』

トツ「金貸してくんね？」

『えっ？金持っていないのに来たの？』

トツ「うん！」

『うん！じゃねーよ！』

トツ「うん！」

『うん！じゃねえーって！分かったよ…少しだけ出してやるよ…』

トツ「少しだけ？全部の間違いじゃね？」

『……………』

『分かったよ！出してやるよ！』

トツ「わりーね！」

…

遊んだ後…事務所に入り、れいさんのアンケートに答えていた…

…が…

そこに…エスさん登場！

エスさん「久し振り〜！何しに来たの？」

やべ…アンケート持つてる…  
直ぐ隠したが…

エスさん「何隠したの？…もしかして…」

やばい！キレてる顔になってる…！

エスさん「てめー！エーちゃんが居るのに何してんだ！」

『いや違うんです！違うんです！』

エスさん「何が違うんだよ！」

『違います！トツも遊びました！』  
(トツに責任転換)

エスさん「てめーもか！」

トツ「僕は彼女いません！」

エスさん「だったらふくちゃんを止めるよ！」

トツは殴られた…

多分…俺も殴られるだろう…

…

うん…

間違い無かった…

痛かったです…

## 最低な男6

10月に入った頃チューリップに「あゆ」と言う娘が入店した…  
別に顔は普通なのだが、男心をくすぐると言うか何と言うか…  
たまに上手い事を言っって心を掴むのだ…

客も次第に持ち始めて1ヶ月経つ頃には中々指名も取っていた…  
しかも家が遠いので、送日も最後になってしまう。  
と言う事は必然的に話す機会も増えると自然に仲良くなる…

女の子にしてみれば店長と仲良くしておきたい。  
でも俺は店長…：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：～  
でもあゆは…：：：：：：：：：：：：～

あゆ「店長の好きな歌何？」

『何だろ？そうだな…：：：：：：：：：：：：：：～』

あゆ「じゃ～次お客さんがカラオケ入れた時店長の為に歌うね！」

心掴まれました。

全く…：：～俺って…：：～駄目な男です。

～次の日～

客に付いて居るあゆが俺の元にやってきた…

『どした？』

あゆ「約束した歌店長の為に歌うね！聞いててね！」

…

本当に歌いました…

またあゆが来て、

あゆ「店長聞いてた？」

『聞いてたよ！中々良かったよ！』

あゆ「本当に？じゃー私の持ち歌にしょ！」

心打ち抜かれました。

本当に…俺は…駄目な男です。

あんな事言われたら調子に乗りますね。しかも送りが最後だし、話す機会も多い…

でも俺も店長ですから自分の腹の中は話さない。

逆に仲良くなって女の子達の腹の中を教えてくれないかな？と考え始めた…

なら仲良くなっておいたほうがいいな…こっちから寄る訳ではなく、向こうから来たから利用しよう！

『どお？この店？長続きしそう？』

あゆ「うん！ 凄い居やすい店だよ！」

『他の女の子はどうか？』

あゆ「どうか？ 聞いてみるよ！」

『わりーね！』

ここでとんでもない事を言い出した…

あゆ「私さ…昔からそうなんだけど…人を裏切らないと生きて行けないんだよね…今利用しようと思ったでしょ？ 別にいいよ！ 私もそう言う立場がほしいしね！」

！？

いきなり…何だ？

人を裏切らないと生きて行けない？ 変わってる奴だな…

『何で俺にそんな事言うの？』

あゆ「何でだろうね？ 私もこんな事人に言うの初めて…」

確かに人に話す事ではない…。

あゆ「高校の時から担任と不倫して、いい様に使われて来た…それからかな？ 人を裏切るようになったの…」

深い過去がありそうだけど…俺に何を言いたいんだ？ 何を求めて  
いるんだ？

『そつか…大変だったんだな…』

あゆ「うん…辛い過去だったよ…」

『それで俺に何をしてほしいの?』

あゆ「別にないよ。何か店長なら分かってくれそうな気がしたから  
言っただけ…」

何か…めんどくさくなりそうだな…

それからと言うと送りの時には色々な話を教えてくれた…自分以外  
の女の子の…

あの娘は客と寝たとか

あの娘はまだ処女だとか

あの娘は客と付き合い掛けてるとか…

何でも話してくる…

裏の事全て…

かなり役に立ったよ…

正直…

中にはクビにした女の子もいた。その女の子はシャブ中だった…

本当に嬉しそうに話す…

そんなに人を裏切るのが嬉しいのか?

俺には理解出来なかった。でもこんな娘を側に置いとくと仕事も楽

だ。  
でもいつか裏切る日が来るかもしれない…そんなかつとつをしてい  
た…

あゆも心を掴むのが上手いと説明したが、俺は何か不思議な魅力？  
危ない魅力？にハマって行った…

決して好きな訳では無かったがエーちゃんとの隙間に入り込んで来  
ていた。

そんな時…事件が起きた…

その日も話しをして家の前に着いた…

『お疲れ様〜！また明日ね！』

あゆ「お疲れ様！」

助手席から1度降りて

あゆ「あつ！忘れ物した！」

『何を？』

探したが分からない…

そしてあゆが乗ってきて…

…

俺にキスをした…

『えっ？』

あゆ「おやすみ！店長！」

.....

久し振りにドキドキしている。

何だろう？

悪い気はしなかった。

多分そのキスがきっかけだったのか…メールもするようになったし送り帰りには…キスもするようになっていた…

でも女の勘ってすげーのね…

たまにエーちゃんに送りを頼んでいて終わる前にチューリップに来て貰っていたが…

エーちゃん「何かあの娘…ふくちゃんに気があるんじゃない？」

『それはないでしょ？』

エーちゃん「あの娘の名前何て言うの？」

『あ…あゆだよ…』

エーちゃん「覚えておこう！」

ドキツとしたよ！

覚えなくていいから！

丁度11月に入った頃色々動きがあった…  
まず…借金の方なのだが話がまとまった。  
エーちゃんも春に裁判するみたい。

俺は240万が130万に減額になったのだが、弁護士のほうが分割を残り全部払ってくれと言っただけ…

2回払いだよ！  
金無いつて…

説明しても駄目だった…  
なら最初から2回払いって言ってくれよ…  
勿論金は借金した預金から金を全部払った。

何か余りにも冷たい弁護士だったので、文句を言ったら仲介役を降りると言い出して来た。(本当ならこれから先は弁護士を通して借金を返さないといけなかった)

『もう必要ないんで…こちらからお断りです。』

あとは各社に連絡をして決まった額を毎月返す事になった。  
実はこれが良かったのだ…

弁護士が仲介役に居ると決められた額しか返済する事が出来なかった為、

返済に3年近く掛かった。  
でも自分で交渉したらある時は幾らでも返して良いと言っただけ！  
これはラッキーだった…

そして…もう一つの動きは…

みーちゃんの事だった…

リーとみーちゃんの間は…冷えきっていた…

みーちゃんはリーの事が好きなのだが、リーは全然好きじゃない…その事は知っているのだが、みーちゃんの仕事に影響が出て来た…

仕事を休むようになって来たのだ…大体休む前の日はリーと喧嘩していたり…会えなかったり…

それを見ていたみーちゃんの姉ちゃんがリーに文句を言った…

みー姉「リー！あんた何考えてるの？もっと大事にしてやりなよ！」

リー「お前には関係ないだろ！文句言つなよ！」

こんな話をしたら…

俺も巻き込まれるのは間違いなかった…

みー姉「ちょっと店長！リー生意気過ぎるんだけど！どーにかしてよね！」

『分かったよ…説教しとく…』

勿論説教などしなかった。

『リー！もう限界？』

リー「もう無理だね！別れてもいい？」

『分かった。店として痛いけど仕方ないか…』

そして…その日にリーは別れた。

それからみーちゃんは1週間休んだ後出勤してきて

みーちゃん「ふくちゃんごめんね…お店辞めるよ…」

『分かった。リーの事は知ってる…ありがとね！これからも頑張つて！』

みーちゃん「はい…」

みーちゃんは泣いていた。俺は今までリーの彼女を沢山見てきたが多分…みーちゃんが1番良い娘だっただろう。

みーちゃんも辞めた事でみー姉も辞めて行った…

みー姉「お世話になりました。店長…リーと友達辞めたほうが良いよ！あいつ最低だし、いつか裏切られるよ！」

『男には良い奴だよ…お疲れ様！』

これでみーちゃんとみー姉ちゃんは居なくなってしまった…

## 最低な男7

2人が辞めて1番喜んでいたのはあゆだった。

確かにみーちゃんは俺と仲が良かったし、No.1のVIP待遇だったからあゆの性格上好むはずがない。これであゆはチューリップで敵は居なくなった。

店長とも1番仲が良くて、女の子達からも信頼を得ている。あゆとしては最高の居場所だ…

その頃ブルー店は経営が不安定だった為思い切って2月一杯で辞めて風俗に切り替える事になった！

トツ「なあ〜ふくちゃん…相談があるんだけどいいかい？」

『どした？ブルー店の事？』

トツ「そうなんだけど…これを機に仕事辞めようと思って…」

『マジで？』

トツ「マジで…俺も2月一杯で辞めるよ…」

『そっか…分かった…』

そして同時に従業員も増えた。この事でグループ内の大移動が始まった。ブルー店はママさん1人を見て、トツは辞めるまでオーさん

の店で働く。新しく入った新人は俺の店で働く事になった…

でも…正直…本当に色々な事があり過ぎて…考えるのもめんどくさかった…

多分…1番の原因は自分が親になるプレッシャーだろう…

俺も人間です。自分の事で一杯一杯なのに周りで出来事多過ぎ！

心身共に疲れきっていた…

そして…そんな疲れ切った俺を癒してくれたのは…あゆだった…

不思議な感覚だった…

あゆと居るとめんどくさい考えから逃げられる。考えなくても良い。元々あゆはめんどくさくなくなったら逃げる…そんな考え方だ…

いつの間に俺も同じ考え方をするようになっていた…

もうどーにでもなれ…

別にどーでもいいよ…

あゆが前に言っていた「店長なら分かってくれそうな気がした…」  
逆に俺は「あゆなら分かってくれそうな気がする…」

一緒に居るとお互いに、嫌な考えをしない逃げ場所になっていた。  
別に…好きな訳ではないが…  
逃げたいが為…

『付き合おうか?』

あゆ「うん…そうだね。」

俺にはエーちゃんもいるし、あゆには彼氏も居たが付き合ってた…

デートは特にしなかった。

送り帰りに飯やカラオケぐらいでいつも通りの会話しかなかった  
がお互いにそれで充分だった…

それは求めている物が普通のカップルとは違う物を求めていたから  
なのかな…

丁度その頃に入って来た新人従業員なのだが…  
実はこんな裏話があった…

名前は澤さわ

見た感じ…なよなよしてる。

喋ると何言ってるのか分からない…

理由は歯が無い…残り5、6本しかない…

歯が無い為滑舌が悪いのだ…

最初はオーさんの店で働かせたのだが、オーさんが嫌いなタイプだ  
…する事する事怒られる。

オーさん「ふく！あれお前の店で使えよ！風俗では使えねえ！」

『マジっすか？要らないなら使います！』

こうして澤がチューリップに来た…

でも確かに使えない…

何喋っているか分からない…

でも人間… 必ずいい所がある…

最初は分らなかったがやる事が細かい為に仕事が遅いのだ…。掃除とかやらせるとピカピカになる。要するに凄く真面目なのだ！

真面目にこした事はない！

色々話を聞くと… 可哀相なのだが、見た目がなよなよしてるし、歯が無い為接客する仕事が出来なくて、工場などでしか働けなかった。でも接客業がしてみたくて広告をみたらチューリップがあったから面接に応募したと言うのだ。

『そうか… そう言う経緯があったのか… でも入った以上仕事は昼間の仕事より厳しい部分が沢山あると思うよ…』

澤「頑張ります！」

…

多分… 頑張れないだろうな…  
つか… 絶対に客に絡まれる…  
先に… 対応だけおしえとこ…

澤が入った事で俺も給料が上がった！ 25万になった！

ありがとう… 澤…

でも… 澤の仕事の方は…

早速絡まれていた…

客「兄ちゃん新人か？」

澤「はい！% & a m p ; ; \$ #です！」

客「ん？何て言った？」

澤「% & a m p ; ; \$ #です！」

客「何て喋ってるか分かんねえよ！」

…

澤は滑舌も悪いのに齒が無い事を気にして口をなるべく閉じて話す…

まずそこから直さないと駄目か…

…

また絡まれている…

客「兄ちゃん！」

澤「は…はい！」

客「別に脅してるわけじゃねーんだからオドオドすんなよ！」

澤「すいません…」

そこは…直すの大変そうだな…

…

また客に絡まれてる！

客「よう！兄ちゃん！」

澤「はい！」

客「何で歯が無いんだ？」

やべ…それ俺も聞きたい…

でもこれって舐められてないか？

上手くかわせ！澤！

澤「元々歯が弱くて直ぐに虫歯になっちゃうんですよね！それで虫歯が治らなくて抜けちゃうんです！」

そう言う事なのか…

って…それかわして無いから…

これも直すの大変そうだな…

仕事も終わり送りを決める時…

『 x の4人送って！』

澤「分かりました！」

『じゃー x !澤に送って貰って！』

女「えー！ー！店長に送ってほしいんだけど！」

ここで…少しカチンと来た…  
とりあえず…理由を聞こう…

『なんで？』

女「何喋っているか分かんないんだもん！」

俺は最近イライラしてたからかもしれないけど…ブチキレてしまっ  
た！

まず澤を蹴った！

『おい！澤！2回も同じ事言わせるな！ゆっくり大きな声で話せ！』

澤「すいません！」

『それから × ……てめーら舐めてんのか？送ってもらえるだけ  
でも…有り難く思え！』

女「ご…ごめんなさい…」

『澤…お前さ…これからは納得いかない事あったらこいつらにキレ  
て良いからな！店長命令！』

『お前等も澤の言う事は店長が言ってる事と思っていいから……ちや  
んと言う事聞けよ…』

あゆ「はい！分かりました！」

あゆはこつこつ所で目立つ

…

キレちゃったな…

最近ムカついてたし…

まっ…いいか…

送り最中は俺は無言だった…流石に普通に話すのは気まずい…

…

…

最後まで無言だった…

その時電話がなった…澤からだ！

『お疲れー！』

澤「今送り終わりました！」

『分かった！後で飲みに行くぞ！チューリップに集合な！』

澤「分かりました！」

## 最低な男 8

しかし…まずいな…

客に舐められて…

女の子に舐められて…

俺以外の従業員からも舐められて…

何とかしないと…

待ち合わせ場所のチューリップに着いて澤と居酒屋に向かった…

『好きな物頼んでいいよ!』

澤「じゃ〜一口ステーキください!」

歯が無いのに…

た…食べれるのか?

『ステーキなんか食べれるの?』

澤「一口サイズなら何とかいけます!」

『そ…そっか…』

残りの歯…大事にしるよ…

やばいクセが出てきた…

『食べ物とか何が好きなの?』

澤「カレーです!」

カレーなら確かに食べるのに困らなそうだな…

澤「食べやすいですからね!」

そのまんまかよ!

『そ…そっか…』

本題に入らないと…

『澤…お前はちょっと舐められ過ぎだぞ!』

澤「はい…」

『今までキレた事あんの?』

澤「特にキレたりしないですね…」

『キレる事は良い事じゃないけど、この仕事していたらたまにはキレる事も必要だと思っよ…客に舐められて…女の子に舐められて…何とか出来ないか?』

…

『もっと男らしい所を見せたら皆も舐めたりしないよ。その一つとして客が最低限のマナーを守れなかったら…キレても良いよ。それによって女の子の見方が変わると思うよ!』

『お前に出来る?』

澤「出来ます!」

『じゃー次客と揉める時は合図出すから、澤…キレろ!言っても分からない奴にはキレるしかないから。』

澤「分かりました!」

澤もやる気あるじゃん!これなら何とかかなりそうだな…

〈数日後〉

チャンスがやってきた…  
客のタッチが多すぎる!

『澤!注意してこい!』

澤「分かりました!」

澤は普通に注意した。

…が少し経って…またタッチし始めた!

『澤!もう1回注意してこい!』

澤は強めに注意した!

…が…またタッチし始めた！

『澤！キレてこい！』

澤「分かりました！」

…

澤「何回% & a m p … \$ #だ！」

何喋ってるか分からねえ…

キレて早口になりやがった。

…

逆効果だ…

直ぐに間に入った…

『澤…下がってる。…お客様さん！何回言えば分かるんだよ！金払ってさっさと帰ってもらえる？』

…

とりあえず大事に至らなかった。

『澤…キレても早口になったら何喋ってるか分からないよ…もっとゆっくり喋ろ。分かった？』

澤「分かりました！」

本当にこいつ…  
この商売やれんのかな…？

11月も順調に進んだ…  
売上もそこそこ…  
これなら12月…期待出来る！

この風俗業界はボーナス月が1番忙しくなる…  
特に12月はやばい…金が入る時期には皆落とす…

そして…12月は…

…

俺が親になる月でもあった…

予定日出産の為…

12月20日が生まれる日だった。

本当に…嫌だった…

心の準備も出来てないし、凄く逃げたかった…

仕事中はかなり忙しく、考える事が出来ない分…仕事中は楽だった。

でも仕事が終わると…

親になるプレッシャーがのし掛かって来る…

その分…あゆといる時間は伸びていった…

あゆとの時間はただ話すだけ…求めている物が違うからセツ  
しない…

家に帰って寝ても直ぐに起きてしまい、朝からスロット…

そんな生活を送っていたが…

その日は直ぐにやってきた…

予定日出産なので3日から入院する病院だった。

俺も毎日、お見舞いに足を運んだ。周りの人達は凄く明るく見えた。  
病院内で1番元気が無かったのは…俺だろう。エーちゃんも気を使  
ってくれた…

エーちゃん「ふくちゃん…顔色悪いよ…家に帰って少し休みな！」

『うん…そうするよ…』

俺にも…どーしていいのか分らなかった…

子供が生まれる当日は恐くて寝る事が出来なかった…

そして…朝を迎えた…

病院に着くと陣痛が始まっていた！

俺はずっと隣りに居たが

『頑張れ！』

としか言えなかった…

昼を過ぎた頃…看護師さんに

看護師「まだ生まれなさそうだからご飯食べて来てもいいですよ！」

『平気ですよ。』

エーちゃん「長く掛かりそうだから食べて来ていいよ！」

『そお？じゃー食べてくる…』

病院を出て直ぐのラーメン屋で飯を食べる事にした…

ビールを頼み、一服して…休憩を取り始めたが、

ため息しか出て来ない…

ラーメンが出てきても…あまり食べる事は出来なかった…

無性に歯がゆい…

これが俺が望んでいた結婚なのか？

こんなん俺は親になれるのか？

全てに…自信が無い…

そんな時…病院から電話が入った…

看護師「奥さん子供生まれなさそうです！早く来てください！」

！？

直ぐに向かった！

…

分娩室に入り、エーちゃんのもとに駆け寄ったら…

…

…

…

もう…生まれていた…

看護師「男の子ですよ！」

そう言っつて赤ちゃんを渡された…

抱き方なんて…知らない！

焦ったけど…

抱いたら…

柔らかく…

温かった…

その瞬間…

悩みが全部吹き飛んだ…

何でこんなちっぽけな事で悩んで居たんだろう…

親になるって…

この子を愛してあげる事だったんだ…

…俺は逆に子供に救われたかもしれない…

エーちゃんは少し休むという事だったので、俺も帰る事にした…

帰り際

『良く頑張ったね！お疲れ様。』

エーちゃん「ありがと。少し休むよ。」

…

そして…

俺は帰りの車の中で…

号泣した…

プレッシャーから開放された俺は…忙しかった！

送りの時…あゆと2人になったが、早く家に帰りたかったので普通に送ろうと思っていた。

あゆ「何か良い事あったの？」

『あつたよ！悩みから開放されたただけだけどね！』

あゆ「ふーん…そうなんだ…」

この時のあゆは羨ましそうに俺を見ていた…

多分この日からお互いに壁が出来て触れる事も無くなった…  
俺はさっさと帰り1人で酒を飲みながら名前を考えたり、  
とにかく…早く子供に会いたくて仕方が無かった！

もう…こつからは親バカね。

誰も居ない部屋で俺は1人で喋っていた。  
気分が変わると酒も美味し酔いも早い！

『俺の息子はプロ野球選手になる』とか

『こいつにはイチローを超えさせる！』とか

『プロ野球選手になったら契約金で家買って貰おう！』とか

『打倒松坂！』とか

…野球の事しか想像出来なかったが、考えるのは凄く楽しかった！  
勿論毎日お見舞いに行った！生まれた後と前では笑顔が全然違った  
と思う。息子は新生児室に居る為に窓越しからしか見れないがそれ  
が楽しみだった！

しかも…この時…店の方では奇跡が起きようとしていたのだ！  
気分も変わると全てが変わるものなのか？

俺はいつもオーさんに馬鹿にされていた。

オーさん「おう！今日はどうだよ？たまには俺の店より利益出して

くれよ！頼むぞふく！」

この業界は結果が全て…

馬鹿にされようが結果を出さないと何を言われても仕方が無い…  
しかしオーさんはすげー人を馬鹿にする…

オーさん「おい！澤！ふくの店で役に立ってるか？ちゃんと仕事しろよ！ふくの足引つ張るなよ！」

『忙しいからだ！ぶ助かってますよ！』

オーさん「忙しいってのは俺の店のような事を言っただよ！」

『そうですか…』

…

など言われて来たが…

ついに…来た！

12月は逝けるかもしれない！

但し…このまま平均が落ちなければ…

まゝ今の俺は落ちる事を知らない！ぜってー負けねえ！

毎日がドキドキだ…

年末は曜日など関係無く客が来る！毎日仕事が終わってから1人で  
ウハウハ飲み会！

早く…オーさんに結果見せてえ！

…

年末に掛けて特に心配など無かった…むしろ…売上も上がってきた！  
そして…30日…今年最後の日が来た…  
客の入りは問題無い…  
2時頃になりオーさんがやって来た…

オーさん「今月はどーよ？まあまあか？」

『まあまあでしたね…』

オーさん「今月の売上表見せてみる。」

『どうぞー！』

オーさん「……………」

『……………』

オーさん「お前！誤魔化してんじゃねーよ！！！！！！」

えっ？逆キレですか？

『誤魔化して無いですよ！本当です。』

オーさん「あつそ…」

…

そのまま帰ってしまった…

それはそうだろう…

この時の純利益は…

200万を超えていた…

グループ内で1番儲けてしまった…

お小遣いいけないかな…シヨウさん…

『お疲れ様です！やりましたよ！今月の利益今日入れて200万超えましたよ！』

シヨウさん「おつかね！良く頑張ったな！」

『はい！』

シヨウさん「じゃー俺田舎帰るからもっ行くわ！」

『えっ？あつ…お…お疲れ様でした…』

…

…

…

お小遣い…無しですか？

…

すげーショックだ…

こういう商売ってプラス があるから面白いんじゃないの？  
これじゃ〜何の為に仕事してるんだ…？  
でも明日から3連休だし…

とりあえず…まあ…いいか…

これが俺に取って初めての休みだったからすげー嬉しくて…  
多分…休みがなければ辞めていたかもしれない…

「半年も休み無しで安月給で良く頑張りました！」と言う事で1人  
居酒屋で忘年会しました。

安月給でも…辛い仕事でも…達成感があると…続くもんですね…  
疲れが溜まっていたのでその日は好きなだけ寝ました…

最高の連休でしたよ…

本当に…

## 番外編 4

客が しちゃった編

キャバクラには色々な人が飲みにくる…中でも1番厄介なのは…

暴れる客でも無い…

文句をつけて来る客でも無い…

絡んで来る客でも無い…

最悪なのは泥酔する客なのだ…

連れが居るなら特に問題はない。1人で来て泥酔する客は…どーにもならない…

寝てるし、起こしても起きない！会計が終わらないのだ！勝手に財布から取ったら犯罪だ…

大体携帯の中身は見させて貰う事はあるがそれで連絡取れる場合はいい！

誰とも連絡取れないと…起こすしかないが、起きる人はいない…もし直ぐに起きる人ならここまで問題にならない…

マジで最悪だよ…

いびきはうるさい…

寝ながら痰を吐く…

寝ながら服を脱ぐ…

会計もしてないし、シートからも動かす事出来ない…  
仕方ないから様子を見るのだ。

大体2時間ぐらい寝ると叩き起こせる！これは俺が見つけた法則だが、俺もその頃にはキレてる…向こうは何も分かってないから全部説明して説教して帰すが

痰を吐いた客には痰を拭かせる。

当たり前だ…

誰が床を掃除してると思っているんだよ！

1人の客には大体こんな感じ…  
でも俺が書きたいのは…

それは2人組の客だった…  
結構若いのだがノリも良くて金も使う！中々の客だがペースが早い…  
酒強いのか？とか思ったら延長した所で片方が潰れた…  
ほぼストレートで2本も空ければ強く無い人は気持ち良く逝けるだろう。

でも片方は強いみたいでノリノリだ！潰れた方は端の方で寝てる。  
1人でもテンションが高いが片方が潰れていれば延長は無いだろう  
と思っていたが、なんと延長が入った！

いい感じだ！

片方が寝ていようが2人組だから安心だ…

その日は客の入りも良くて満席だった！

だが…

2回目の延長が入ってから30分ぐらいたった頃…

悪夢が起きた…

ホールから…女の子達の騒ぎ声が上がってきた…

キヤー！

店長ー！

大変！

どした？客がゲロでも吐いたか？めんどくせーな…  
ホールに向かうと…啞然としてしまった…

…

…

寝ていた客がち こを出して立っている…

あのポーズは…

まずい！！！！

『お客さん！』

あっ…

間に合わなかった…

…

寝ていた客は…シヨ ベンをぶちまけた…

テーブルに向かって…

女の子皆逃げてくる…

他の客啞然…

俺も啞然…確かにデカいがトツの方がデカい。いや…そっちじゃなく…

してる最中に止めに入っても無駄だ。男は止まらない…  
見てるだけしか出来なかった…

しかもなげえ…

終わったかと思っただららズボンを履いてそのまま寝だした…  
とりあえず周りの客に謝りに行ったよ。男だし汚い物を見ても怒る  
客は居なかったのは良かったが…

相棒の客がキレてそのまま帰ってしまった…  
片付けもしないで…

周りの客も延長しないで帰ってしまった…  
ホールには寝ている客だけ…

閉店には早いが店を閉めて女の子を送ってきて、その間にシヨウウさ

んが客を起こしていた…

送りから帰って来ると客は丁度起きた所だった…

説明すると謝って来たが、客も覚えてないし悪気もない為普通に許してあげた。

金は足りなかった為免許のコピーを取って、明日持って来る事を約束して帰らせた。

あとは片付けだ…ここでトツが手伝いに来た。

手に袋を巻いて掃除したが、シヨウさんはそのまま掃除し始めた！

シヨウさんが素手な以上俺もトツも素手に変更！

綺麗に掃除したよ…

客は次の日に相棒と金を持って来て出禁にした…

『もう来ないで下さい。』

でも…女の子達は昨日の客の何気にデカかったね！っと言っていたので、

トツの方がデカイ事を教えといた…

太っている…

眼鏡を掛けている…

しかも若い…

いつも襟付きのシャツにチノパンだ…

来る度に…アッコ並に可愛くない娘を指名している。金はまあまあ使うし、頻繁に来るし、中々良い客だ。

付いている女の子は別にゲームとかには詳しくないのだが、話し声からしてゲームの話だ…

興味がなければ全くつまらない話だ！でも女の子は聞き上手なのか、ぼーっとしているのか、たまにうなずく程度だ…

その接客で良く指名取れるな…

といつも思っていた。

客は最初の内の支払いは良かったのだが段々金が無くなって来たのか…金を使わなくなってきたて最初の事件が起きた…

支払いの時、金がたりずにツケをお願いしてきたのだ。

店は平気なのだが、女の子の了解がいる。

もしツケを払わなかったら指名している女の子の給料から引かれるからだ…

女の子OKと言う事で、ツケを了解した…

うちの店はツケは次回払いで3万まで！その日は1万ぐらいだった…

これで調子に乗ったのか、毎回ツケをして帰った…

そして数回目に来た時…支払いがカードに変わったのだ…

あるなら最初からカードで払えよ！マジで…  
そんな時に重なったのが女の子の誕生日だ…

女の子は出勤…

男としては店に行かなくてはならない。

しかも…かつこよく同伴！（同伴とは女の子と一緒に来る事で高い料金が掛かる。）

使い方も良い！

マナーも良い！

申し分ない！

そして延長…

延長…

延長…

支払いは5万を超えていた…

そして帰る時が来た！

支払いは…勿論カードだ…

しかしカードを機械に通すと

…

…

…

カードが通らねえ…

裏技で通す方法もあるのだが…あのタイプは自滅タイプだ…女の子を呼んで事情を話して

お灸をすえる事にした…

『お客さん…カード通りませんよ?』

客「えっ?本当ですか?じゃーツケでお願いします!」

『カードが通らない以上支払い能力が無いと見てツケは出来ません。』

客「えっ?」

『親と同居しているんですよね?電話してお金借りて貰えますか?』

客「…わかりました…」

…

客「もしもし!母ちゃん?飲んでたら金が足りなくて…貸してください?」

そのあとの話は聞いてられなかった…

間違いなく…怒られていた…

そして親が今払いに来る事になった…

…

親到着！

沢山謝ってきた…

でもここはお灸…

全ての事情を話した。

親…ビックリ…

でも俺もビックリ…

実は…ツケを始めた頃に仕事を辞めていたのだ！

仕事を辞めているのに飲みに来ている事に親はビックリ…

俺は仕事を辞めている事にビックリ…

親が支払いをして出禁にしました。

俺みたいにドツボにハマる前に気付けた事は彼にプラスになるだろう。

これで駄目なら俺の道だな…

今回のお灸が効いてくれていると嬉しいけどね！

## 番外編4【2】

### 友達編

俺の友達は遠いのに良く飲みに来てくれた！

友達からは金を取る訳には行かないのでかなり安くしてやった！

5000円で2時間飲み放題。

フード付き。

女の子のドリンク付き。

俺のドリンク付き。

カラオケは別料金だがかなり安い。その代わり忙しくなったら女の子が付かない場合もある。それは安く飲む以上…仕方ない。

いつも閉店際に来て最後までいる…

その日は3人で来て、帰る時トイレ待ちして立っていた友達に対して女の子に

『クンに抱き付いてこい！』（クンとは友達）

女「店長！了解しました！」

距離があったのか…

スピードが付いてしまった…

女「クン君〜！」

クン「ん？グフウ！」

クンは…吹っ飛んだ…

抱き付くと言うより

…

タツクルだった…

良い角度から突っ込んだ。

アメリカンフットボールのワンシートのようなタツクルに吹っ飛び方だった…

皆爆笑…タツクルした娘も爆笑…

クンだけ唸ってる。

皆大爆笑…

クン「ふくちゃん！こいつに教育しとけよ！客にタツクルは駄目だつて！何教え込んでるんだよ！」

そして次の日…

クンはあまりの痛さに病院に行ったら肋骨が折れてた。

それを聞いてかなり爆笑しちゃったけど、ちゃんと教育しときました！

タツクルは駄目だよ！って…

## 社長編

社長はショウさんとリース契約している人。普段は温厚で凄く良い人なのだがビール1杯でも飲むと…人が変わるらしい…残念ながら俺は飲んだ社長に会った事ない…だから俺は社長の事が好きなのだが俺以外に社長を好きな人はいない…

その日は初めてトツの店にやってきた…

社長は最初に会計をする。大体30万ぐらい渡して飲み始める。

ここまでではすげー良い人。

しかし社長はいつもビールしか飲まないのだが、1杯飲み終わると

社長「おい！トツ！ビール持ってこい！」

直ぐに持って行かないと…

社長「てめー！仕事も出来ないのか？この能無し！」

すぐキレるし暴言も酷い…

付いている女の子も皆…泣いてしまう…

最低な事ばかり言ってくる。正直小説に書けないぐらいの暴言なのだ…(だったら書くなって話だがストーリーにもその内出て来るので説明もかねて番外編に書きます。)

たまたまその日は忙しくビールを出すのが少し遅れた…

これに社長は激怒…  
トツを殴って暴れ始めた！

周りの客は延長しない。客は誰も居なくなってしまった…  
流石のトツもこれには激怒！シヨウさんに電話して

トツ「このじじい殴ってもいいですか？」

シヨウさん「待て待て！それはまずい！」

トツ「もう限界なんですけど…！」

シヨウさん「ならもう店閉めて女の子送って帰っていいよ！社長は  
1人でも飲むから！」

電話が終わって社長を見るとグダグダに酔っ払って床でゴロゴロし  
ている。

トツは言われた通り店を閉めてそのまま帰った。

次の日出勤すると社長が寝ていた場所に水溜まりがある…

絶対シヨ ベンだ…

それ以来トツは社長が大嫌いになった…

## 俺ブチギレ編

その日はエーちゃんがシーフードカレーを作ってオープン前に持つ

て来てくれた！  
味が…少し変わっているカレーだったがあくまでもカレーの味だったので普通に食べた…

オープンして直ぐに客が来た！2人組だ！まあまあ使う客だったが、態度がかなりデカい。

まあ…でもそんな客沢山いる。いちいちかまっていたら大変だし！しかし延長を聞きに行った時に少しイラツとした…

『お客様そろそろ御時間になります。が御延長いたしますでしょうか？』

客「3回周ってワンって言ったら延長してもいいよ！」

『はい？出来ませんが御延長いたしますか？』

客「出来ないのかよ！使えない店員だな！じゃー延長で！」

『店長ですけど？延長ですね？有難う御座います。』

客「店長なのかよ！だせー奴だな！」

…  
キレそうだがシカトしてやった。

…  
また時間に近付いて来た頃…体調が悪くなってきた…  
でも…聞きに行かないと…

『お客様そろそろ御時間ですが延長なさいますか?』

客「えっ?もう時間かよ!あと30分ぐらいあるだろ?」

限界だ…吐きそう…

お願いだから今は絡んで来ないでくれ…

『御時間ですが延長なさいますか?』

客「あと30分あんだろが!時計も読めないのかよ!てめー馬鹿か?」

『延長するか?しないか?どっちですか?』

いつもならもっと上手く答えられるのだが、今は駄目だ…

客「なんだその態度?」

爆発した…

『なんだ?てめーのその態度?延長なんてしないでいいからもう帰れよ!』

客「なんだとこの野郎!」

『ガタガタうつせーんだよ!金払ってさっさと帰れ!』

客は金を投げ捨てて、

客「釣りは要らねえよ！なんだ？この店？もう二度と来ねえよ！」

『二度とうちの敷居跨ぐな！さっさと消え失せろ！』

客「なんだ？やんのか？」

『てめーが喧嘩売ってるんだろーが！』

俺はいつもならこんなに早くキレない。そんな態度にシヨウさんは気付いたのか？間に入って客を店の外に放り出した！外では客が吠えてる！

シヨウさん「ふく！どーしたんだよ！いつものふくじゃねーぞ？」

やばい…

胃が痙攣してる…

吐く！

ダッシュでトイレに向かって吐いた…

シヨウさん意味が分からず?????

吐き終わって事情を説明して俺の態度にも納得して貰った…でもそのままダウン…

シヨウさんが直ぐにエーちゃんに電話して迎えに来て貰った。幸いに妊娠していたエーちゃんは食べて無かったので良かった！

病院に行き、その日は家でゆっくりした。

本当ならあんな事でキレたりしないんだけどね…

体調悪いと人間キレやすくなるよ…

カラオケ編

トツが送りを手伝いに来てくれた。  
仕事も終わり送ろうとしたら女の子達が…

女「店長〜！カラオケ行きたい！」

…金が無いって…

『トツもいるからトツがいいなら良いよ。』

…トツ…断れ！

目で合図した！

…

トツも目で合図してきた！分かってくれたみたいだ！流石俺とトツの仲！

…

トツ「いいよー！」

！？

えっ？マジっすか？  
そりゃ無いっすよ…

帰る娘は俺が送って、カラオケ行く娘はトツが連れて行く事になっ  
た…

送り終わり現地に着くとトツが車で寝てると言い出した…  
って事は…支払い俺だけだ…金無いって…  
確かに…カラオケは盛り上がったけどさ…  
トツが良いって言ったんだろ？責任もてや！！！！

そして…そろそろ帰ると言う時に俺はトイレに行った…

ん？

誰か…潰れてる…

別に…どーでもいいか！

仕事でも介抱してるからここではシカトしてやった…

会計の時から何故か女の子が腕を組んでくる…

しかも両腕だ…

不思議に思いつつ外に出たら…

カップルが外にいて男が引きずられている…

あの男はトイレで潰れていた男だ…

なんか…叫んでる…

男「おい！ロン毛！生意気なんだよ！」

俺はこの時ロン毛

誰に言ってるんだろ？

男「喧嘩買ってやるよ！聞いてんのかよ！」

周りを見渡しても誰も居ない…

男「お前だよ！お前！」

『えっ？俺？』

女「店長…絶対駄目だよ！手出したら駄目！」

だから両腕ロックしてるのか…

でも喧嘩売られて黙ってられない。しかも客じゃねえ。

『喧嘩したかったら掛かってこいよ！』

男「上等だ！こら！」

そのまま引きずられてどっかに行ってしまった…

追いかけて喧嘩しても良かったが…彼女連れだ…ボコボコにしたら彼女が可哀相だ…

全く…彼女連れで喧嘩売る奴の気持ちからん…  
車に入るとトツが俺の車で寝ていやがった！

女「トツさん！今店長危なかつたんですよ！キレそうでした！」

事情を話すとトツ…イケイケモード！しかもメリケンサック装備して

トツ「何処にいんの？ちよい殺つてくる！」

『酔っ払いだし辞めとけよ！』

トツ「なんで俺居なかったんだよ！次から喧嘩誘って！」

女の子…啞然としてました。俺よりもトツの方が危ない奴だと…

その通りです。

## 事件

1月になり、借金返済が始まった…

それと同時にエーちゃんから話があるとされた…

エーちゃん「ふくちゃん…家にお金入れてくれないかな…もう限界だよ…」

そう…俺はお金を入れて無かったのだ…

支払い分しか今まで渡して無くて、買い物とかは一緒に行って買っていた…

最低な亭主だ…

自分だけ好きな事をして過ごしてきた…

エーちゃん「本当は全部欲しいけど…」

『う…うん…』

エーちゃん「ふくちゃんにも生活があるから半分でいいよ…でもそれじゃ…暮らして行けないから…また看護師やるよ…」

『ごめんなさい…』

素直に謝った。

そりゃ…悪いのは俺だし…

今までごめんよ…

そのうち金持ったら家に沢山入れるから！

エーちゃんって本当に優しいな…

…

その頃…また店に新人従業員が入ってきた！

こいつがまた…いかつい…

名前は十さん…怖い顔では俺を超えたね！

これでまた人事異動が始まった…

3月からブルー店は風俗になる為にオーさんは3月からブルー店に移動する…

十さんはオーさんとブルー店に行くので2月一杯までオニキスで働く。

3月からオニキスはショウさんと俺と澤でやる事になった。

難しくてごめんなさい…

トツが2月一杯で辞めるからややこしくなるんだよ！！！！

1月の店は…正月明けから少しの間は…順調だったが…いきなり客が来なくなつた！

そう…これは…

沢山お金を使ってしまつてお金が無くなつてしまつたゾーンに突入したのだ…

このゾーンは…厄介だつた…

ステカン打つたつて…

女の子が営業しても…

客は来なかった…

オーさんには…

オーさん「あれ？先月の勢いは何処に行ったの？あんまりデカイ事  
言うなよ…」

デカイ事は言っていないが…言い返せなかった。

もう最終手段…

地元の友達しか居ない！

…

…

…

駄目だった…

確かに遠いし、皆金も無いし…仕方ないか…

俺は給料入ったら皆来るだろう…と甘い考えだった…

でも…このゾーンは…もっと厄介だったのだ…

給料後は客も来た！

いつも通りに来る！

これなら安心出来ると思ったけど…

また月が変わった瞬間に客が来なくなつた…

地獄の客が来ないゾーン…2月だ…

この月はトツが辞める月だが…そんなのどーでもいい！  
とにかく…客が来なかった。

…

…

客が来なくてイライラしてる時、トツは仕事終りに毎日やって来て  
ビール飲んでるし…

ビール代払えよ！

…

…

…

勝手にツマミ作って食べてるし…

レーズンバター代払えよ！

毎日…冷かしに来てんじゃねえ！！

何かいつもオーさんはトツに優しい…

あのオーさんがトツにだけ怒らないし、特別扱いをしているが…め  
んどくさい話ばかり俺に頼んでくる…

その1つが…

オーさん「ブルーに行くのに足が必要なんだよね……」

車でも貸してくれって言うのか？

オーさん「車買う時の名義さお前にするから書類用意して！」

『はい？無理っすよ！名義は後々めんどくさいし、嫌です。』

オーさん「誰にも迷惑掛けないからさ！金はこっちで出すし、問題ないだろ！」

『後々めんどくさいんですよ！』

オーさん「車検通してキレる2年しか乗らないから安心しろ！それともお前仕事辞める気があるから断ってるのか？」

『いや…辞める気は無いですよ！』

オーさん「なら決まりな！」

『えっ？マジっすか？』

まあ2年しか乗らないなら問題なさそうだな…

何故オーさんがこんな事聞いて来るかと言うと…知らない間にグループのNo.3になっていたからなのだ…

経営者 ショウウさん

統括部長　オーさん

部長　俺…

いつの間に幹部になっていたんだ？

幹部と言う事で他にも色々頼まれた…

3月から女の子を増やすにあたって寮を借りるのに俺の名前を使っ  
た…

寮は10件ぐらい借りたかな？最初オーさんに頼まれたから断った  
が、シヨウさんから頼まれた。仲も凄く良かったし、シヨウさん  
が保証人をやると言うから俺は承諾した…

俺はそこまでシヨウさんを信用していた…

店の方は…撃沈した…

一方トツは普通に会社を辞めていった…

最後の日は皆で送別会をして…酔っ払って、俺の家に泊まっていっ  
た…

最後まで迷惑掛けやがって…

でも…お疲れさん！

そして心機一転して3月を迎えた…

ブルー店は風俗になる為…工事に入る…作業するのは…

従業員皆だ！

マジ…業者に頼めよ！

俺日曜大工出来ないから足手まといになるって！

でも…ここは幹部…

支持を出すだけで平気かな？

…

…

…

やっぱり動かないと駄目だった…

十さんはこう言う仕事を経験した事があり即戦力だった…

十さん「ふく店長！ここ押さえて貰えますか？」

『お…おっ…』

そのぐらいなら任せる！

…

足手まといでした…

すみません…

2週間ほどで工事は終了！新しく部屋まで作って本格的な工事だったな！

完成した時は…達成感が溢れた。

何も出来なくて買い物係りだったが…

夜は完成祝賀パーティー！

オープン初日はシヨウさんもブルーに居たいのでオニキスは俺に任された。

…

…

そしてついにオープン！

新しい環境が始まり出した…

3月の店は多少上昇してきていた！澤も少しなら1人でも対応出来るようになっていたので…俺はシヨウさんと一緒にオニキスで働いていた…

そこに従業員がまとめて3人入ってきた…（

こいつらはストーリーに関係ないので名前は省きます）

新人2人がブルー店で働く事になり、十さんはオニキスで働き、もう1人の新人もオニキスで働く事になった。

でも…澤だけはチューリップ固定だったな…

仕事中に…シヨウさんは良くチューリップに様子を見にくる…

シヨウさん「どおーだ今日の調子は？」

『ぼちぼちですね。』

などといつも軽い会話をしていた…

しかし…その日は…  
違った…

シヨウさん「ふく…今日話があるから2人で飲みに行くぞ!」

『はい!分かりました!』

仕事も終わり、いつもの寿司屋に着いた!

『お疲れ様です!』

シヨウさん「おつかれ!」

最初は他愛もない話をしてしたが、シヨウさんから切り出してきた…

シヨウさん「なあ…ふく…最近…金の動きがおかしいんだよ…いや  
…俺の財布から少しづつ無くなるんだよ…」

『ママさんには聞いたんですか?』

シヨウさん「聞いたけど…触って無いって…」

『じゃ〜誰が…』

シヨウさん「そこなんだよ…」

シヨウさんの財布にはいつも金が入っていた。大体50万〜100万ぐらいで10万づつ束になっているのだ。しかも財布は誰でも触れる訳では無い。財布を持った事がある人間はママさん、オーさん、俺、辞めたトツぐらいしか居ないがトツは無いだろう。トツが辞め

た後の話だし…

勿論俺はやって無い…  
金の減り方はこうだ…

ある日仕事から帰ってきて財布の中身を1枚1枚確認すると…  
10万の束が9万になっていたのだ。  
最初は自分のミスかもしれないから気を付けるようにした…

が…また間違えている…いやそれはない。今度は10万の束が8万  
になってる。

これは中々間違える人は居ないし、シヨウさんは間違えないように  
数えている。

そして…それが6回も起きたのだ…

疑いもない…これは他の誰かの仕業なのである。

消去方で行くと…

俺は無い…

ママさんも無い…

オーさんは違う店だから無い…

とすると怪しいのは…

オニキスで働いている2人だ…

とりあえず出勤したらバックをオニキスでは無く、チューリップに  
置く事にした…

すると置いてあった3日間はお金が減らなかつた。

まず…間違い無いだろう…

今度は…オニキス従業員2人の片方が休みの時にバックをオニキス  
に置いてみた…

計1回づつ…

結果…

新人1号が休みの日に減って、

十さんが休みの日はお金が減らなかった。

これで…ほぼ確定した！

犯人は十さんだ！

## 事件2

シヨウさん「こう言う結果になった以上…オーさんにも話すしかないな…」

シヨウさんが信用出来る人間は俺しか居ない為にもいつもオーさんより先に相談される…

オーさんは俺が知っているのに知らなかったら立場的にも納得しないだろう…

だから…

シヨウさん「明日仕事終わったら3人で飲みに行くぞ！」

『はい！』

シヨウさん「明日飲みに行く時ふくは知らなかったリアクションしろ！絶対に知っていた素振りは見せるなよ！」

『了解です！』

～次の日～

いつもの寿司屋で集合した！

俺が1番遅い為オーさんには説明しただろう…

『お疲れ様です！』

オーさん「おう！おつかれ！まあ〜座れよ。」

シヨウさん「実はさ…」

説明し始めた。

上手くリアクション取れるのか？俺！

『ま…マジっすか！ちょい俺ぶっ飛ばしに行つて来ます！』

改心の出来だった…

…

…

…

シヨウさんの冷たい視線が…

痛い…

シヨウさん…やっちゃったよ…いつ…って顔してる…

そんなに悪かったのか…？

…

…

オーさん「まあまあ落ちつけ！ふく！ぶっ飛ばしたいのは分かるがとりあえず…待て！」

！？

引っ掛かった！

俺的には当たり前だが…シヨウさんはビククリしている！

シヨウさん…笑いを咳で誤魔化してるし…

ひでえ…

シヨウさん「十さんから告白させたいんだけど…どーにか出来ないかな？」

…と言う事で作戦を立てた…

十さんの前でシヨウさんが「最近金が盗まれている」と軽く言う。

ここで告白しなければ

財布を持って警察に行くので今全従業員の指紋を取っていると言う。

ここで告白しなければ

指紋採取して警察に本当に持っていき調べて貰う。

と言う事になった…

「作戦決行日」

皆いつも通り働いていた…

シヨウさんが出勤して上でやり取りして下のチューリップにやってきた…

シヨウさん「…いや…普通に指紋を取らせてくれたよ…あいつしか居ないよな？」

『自供したく無いんじゃないですか？』

シヨウさん「うーん…普通やってる人間が指紋渡すか？」

『どーですかね？仕方なく渡したんじゃないですか？』

シヨウさん「そうかな…まあとりあえず上に戻るわ…」

…

…

…

シヨウさんが直ぐに戻ってきた！

何かあったのか？

『シヨウさん…どーしたんですか？』

シヨウさん「多分間違はなくあいつが犯人だ！」

『何ですか？上で何があったんですか？』

シヨウさん「上に戻ってよ…十の隣りに行ったら…」

『行ったら…？』

…

…

…シヨウさん「十の脇…臭かった…」

『えっ？それだけですか？』

シヨウさん「それだけだ…」

…

確かに…嫌な汗を欠いたら臭くなる…  
多分…相当臭かったんだろっ…

『そんなに臭かったんですか？』

シヨウさん「ああ…かなり臭かった…ふくよりも臭かった…」

そっそう…客が来ないと俺も臭くなる…  
って…俺を例え話にすんなっ！

…

でも確定っぽいな…

〜次の日〜

財布にはシヨウさん以外に俺とオーさん、ママさんの指紋も出る為に俺達の指紋と十さんの指紋を持って警察署にやってきた…

しかし…

ここでハプニングが起きたのだ…

シヨウさんの財布は革製なので指紋が出ないらしい。

やって貰ったが…

見事に出なかった。

これは困った…

証拠がない…それとも指紋が出ないのを知っていて指紋を渡したのか…難しくなってきた…

しかし…シヨウさんは証拠がある！と言い放ったのだ！

『どんな証拠ですか？』

何か嫌な予感がしていた…

シヨウさん「脇が臭かった！」

やっぱり…

『それだけですか？』

シヨウさん「それだけだ…」

…

ここまで言うなら尋常な匂いでは無かったのだから…

シヨウさん「とりあえずカマを掛けてみるよ！」

『どんな？』

シヨウさん「今日結果が分かったって…言ってみるよ！それで反応無ければ今日仕事終わったらブルーに呼び出す。まあ反応あっても呼び出すけどな！」

決戦は今日ですか…

楽しみだな…

脇臭くなるのかな…？

シヨウさんにあそこまで言わせた匂いってどんな匂いなんだ？

『じゃー終わったらブルーに行きます！』

シヨウさん「あんまり人が居ると喋らなそうだから、俺とオーさんでいいよ！」

『えっ！？マジっすか？行きたいんですけど…』

シヨウさん「結果は教えてやるから我慢しろ！とりあえず…白状し

なくても、してもクビにするからな！」

俺も行きたかった…

どんな匂いなんだろう…

〜この日の夜〜

シヨウさん「十…警察の結果出たから…終わったらブルー店に行くぞ！」

十さん「はい…分かりました…」

オーさんが十さんを迎えにきた…逃がさない為だ…  
何か…俺も一緒にすげー盛り上がりたい…

…

…

…

送りが終わった頃電話が掛かってきた。

ここからはシヨウさんの話を聞いた話です。

ブルー店に着いて中に入り直ぐに本題に入った。

シヨウさん「警察から結果が出たよ…」

十さん「……………」

シヨウさん「まず財布から指紋が出たのは…ふくの指紋。これは飯とか食った後に財布渡して払って来てもらってるからだ。」

十さん「……………」

シヨウさん「オーさんの指紋も出た。これは女の子に給料渡す時に財布を持つからだ。あとはママね。これは俺と付き合ってるから出るのは当たり前だ……………」

十さん「はい……………」

シヨウさん「俺の指紋も出るのしょうがない。」

…

シヨウさん「あと…1人の指紋が出てきた……………」

十さん「はい……………」

シヨウさん「これ以上言わせる気か？」

…

十さん「はい…すみません…俺が…盗りました……………」

そして…土下座してきた。

土下座しようが許される事ではない……………」

オーさん「何使ったんだよ？」

十さん「借金返済です…」

オーさん「何回も盗ってるんだからそれだけじゃないだろ！」

十さん「あ…あと…飲み屋で使いました！」

シヨウさん「何回盗ったんだ？」

十さん「え…えっと…14回で…30万ぐらいです…」

！？

そんなに盗んでたのか！

これにはシヨウさんもキレて殴ってしまった…

シヨウさん「どーやって俺に返すんだよ？」

十さん「給料から引いてください！」

給料なんて出る訳ないだろ…

クビになるんだし…

オーさん「分かった！月10万づつで3ヶ月で返せ！」

！？

えっ？

シヨウさん「クビじゃないの？」

逃げられたらどーすんだ？

オーさん「クビにしたって返してくれないでしょ？だったら沢山こき使った方が得じゃない？」

絶対逃げるだろ…

シヨウさん「悪いけど俺と一緒に仕事出来ないよ！」

オーさん「じゃー俺が見るよ！」

そういう意味じゃないんだけど…

シヨウさん「オーさんがそれでいいならそれでいいよ。その代わりに逃げたら必ず探し出して…十…お前埋めるからな！」

この業界でこんな事があつたら普通はこれですまない…

まあ大体は…ボコボコだろう…

シヨウさんも納得出来なかつたみたいだった…

…という風に聞いたが肝心な事言われてない…

『シヨウさん…』

シヨウさん「何だ？」

『十の脇…臭かったすか？』

シヨウさん「すげー臭かったよ！最初から最後までヤバかったな！」

そんなに臭かったのか！  
俺も行きたかったな…

その後は…逃げずに十さんは働いた…  
勝手に決めたオーさんにシヨウさんはかなり納得して無かったけど  
ね…

この頃丁度エーちゃんの裁判も終わっていた…  
エーちゃんの言い分が通り、無事に自己破産が成立した。

結局…エーちゃんは370万ほどの借金が0…  
俺と合わせた借金が約600万それが残り130万になった…

これで返済には困らないだろう…  
後は返すだけ…思ったより楽そうだ！

これで子供にも貧乏な生活をさせなくて済む！  
なんか…前向きに暮らせて逝けそうな気がした…

…

…

…

この時だけは…

## 最低最悪な思い出

この章にあたっての注意事項

1 相当18禁な話です。

2 俺の小説の中で1番笑えない話です。

3 俺の行動に不快を感じる人も沢山いると思います。今までの俺の行動を読んで限界な人は読まないでください。

4 この話は俺の友達さえ知らない人が多い話です。でも何故書くかと言うと、今の俺がいるのはこれがかきつけたから…書かないと今の俺を説明する事が出来ない為です。友達さえ知らないと言う事は…友達にさえ言えない過去でもあります。正直…書きたくありません。だから上手く書けるか分かりません。

5 この章に関して中傷するのは辞めてください。

以上です。

6 月の中旬頃…店の方はまあまあ普通だった。

この時… エーちゃんは俺の店で働かないで隣り町のキャバクラで働いていた…  
時給1000の差はデカイ!

その他にも昼間は看護師をしていたので俺よりも忙しかったかもしれない…

そして…何よりも…一緒に居る時間が短かった…

昼間の仕事場は俺の実家に近かった為に息子はほとんど俺の実家に預けていて、エーちゃんが休みの日しか俺は息子に会えなかった…

どうしても会いたい時は実家に帰っていたけどね。

その日はエーちゃんが休みだった。

エーちゃん「ふくちゃん…私にさ…頑張ってたって言って…」

『ん?頑張ってたね!』

おかしな事を聞くもんだな…

エーちゃん「うん!私も頑張るよ!」

『充分頑張ってるけど?』

エーちゃん「もっと頑張るよ!」

『ほごほごしろよ!』

この会話を凄く覚えている…

多分…これが幕開けだった…

「エーちゃん「ふくちゃん！6月末から夜勤沢山入れたから頑張るよ！」

マジか…どんどん会う時間が減つてくな…

『分かった…あんまり無理するなよ！』

「エーちゃん「うん！大丈夫！」

本当にエーちゃんは働き者だ…

俺がもっと稼げるようになったら沢山楽させてあげよう！

その後は俺も忙しかった為に連絡も中々出来なく、気が付いたら夜勤当日になっていた…

あつ…今日からか…

連絡入れてあげないと…

…

『エーちゃん…今日からでしょ？』

「エーちゃん「うん！今日と明日の夜が夜勤だからね！昼間はふくちゃんの実家で寝てるよ！」

『無理しないように頑張つてね！』

「エーちゃん「ありがと！後で電話するよ！」

…

さあ〜そろそろ仕事だ…

俺も頑張ろう！

…

最近は店も夏のボーナスゾーンに向けて中々良い感じに混み始めだしていた…

このままのペースなら…

7月のボーナスゾーンは大変な事になりそうだな！

〜その日の夜中〜

店は勿論ラストまで！今日の売上バツチリ！

そこにエーちゃんから電話が入った！

エーちゃん「おつかれー！仕事終わった？」

『まだまだだよ！ステカンも打たないといけないしね…』

エーちゃん「そっか…頑張つてね！それでさ明日の昼間なんだけど病院の看護師が少ないからそのまま働こうと思うんだけど…いいかな？」

『それは体力的に無理じゃね？』

エーちゃん「何とか頑張るよー！」

『マジで無理すんなよ!』

エーちゃん「分かった!明日の夜勤が終わったらふくちゃんの実家で少し昼寝して…ふくちゃんが仕事行く前にはアパート戻るようにするよ!早く会いたいし…」

『そのまま寝て来ても良いよ!疲れるだろ?』

エーちゃん「じゃ〜その時の疲れ具合で決めるよ!」

『分かった!じゃー頑張つてね!』

…

…

…

頑張りすぎじゃね?

身体壊さなければ良いけどな…

…

…

俺もその日は疲れて直ぐに家に帰って寝てしまった…  
最近…疲れてるのかな?

休みほしいな…

他の従業員は週1で休みあるのに…

俺も働き過ぎじゃね？

〜次の日〜

出勤する前にエーちゃんからメールが入った！

エーちゃん「また夜中にでも時間が空いたら電話するよ！」

…

頑張ってるみたいだな…

そして…仕事もやっと終わり家に帰ろうとしている時に電話が鳴った！エーちゃんからだ！

なんか…タイミング良いな…

『おつかれー！』

エーちゃん「おつかれ！ちょっと疲れた。」

『平気か？』

エーちゃん「やっぱりふくちゃんの実家で昼寝していくよ。」

『ゆっくり寝て行きな！』

エーちゃん「そうする！」

…

そりゃ疲れるだろ…

明日は仕事早く終わらせてエーちゃんとカラオケでも行くかな…

（次の日）

物音がして目が覚めた…

…

エーちゃんだった！

『あつ…おかえり！』

エーちゃん「あつ起こしちゃった？」

『平気だよ。寝て来たの？』

エーちゃん「うん！バッチリ！」

…

出勤にはまだ時間あるな…

最近溜まってるし…

1発やるか！

…

…

…

気持ち良くない…

…

溜まってる筈なのに…

つか…ガバガバじゃね？

『悪い…あんまり気持ち良くない…』

エーちゃん「えっ…そう…」

『そろそろ仕事行くよ！今日仕事早く終わらせるからカラオケいかな？』

エーちゃん「うん…」

『仕事終わるぐらいにチューリップ来てね！』

エーちゃん「分かった…」

送りは澤と新人2号に頼んでエーちゃんとカラオケ行くか！

仕事は…客が延長しない為久し振りの2時上がり！

送りも頼んだし、今日はすげーゆっくり出来るな！

『じゃー澤！戸締り頼んだよ！』

澤「はい！お疲れ様でした！」

『おう！お疲れさん！』

さあ〜カラオケに出発だ！

…

カラオケ最中は…ノリノリ！朝方まで歌いまくった！

エーちゃんも俺も感無量…

なんか…全て…使い切った感じ…

帰りの車の中で

エーちゃん「コンビニ寄って！煙草買ってくる…」

『じゃー俺待ってるよ！』

エーちゃんは財布だけ持って買いに行った…

今日は疲れたな〜

…

ん？

エーちゃんのバックの中にプリントみたいな紙が2〜3枚入ってる…

なんだろ？

見てみるか…

…

…

…

これって…

デリヘルのネットのサイトのコピーじゃねーか！

…

システムと女の子のバツクの詳細だな…

エーちゃんが帰ってきた…

『何これ？デリヘルじゃね？』

エーちゃん「友達がデリヘルやりたいうつから調べてあげただ！」

『今どき自分でネットで調べる事も出来ない奴なんているの？』

エーちゃん「その娘は出来ないんだよ！」

『そっか…もしやりたいならうちのグループのピンサロ紹介しとけよ！』

エーちゃん「分かった！」

『次の夜勤いつ？』

エーちゃん「明後日かな！」

『ふうん…そっか…』

店の名前は覚えてぞ…

明後日か…病院まで行って居るか確認してみよ…

次の日…ちょっとシヨウさんに相談してみた…

『シヨウさん…実は…』

…

シヨウさん「なるほど…多分やってるな…」

『そう思いますか？でもエーちゃんに限っては無いと思うんですけどね…』

シヨウさん「この話を第3者から見たらどう思うっ？」

…

『ほほ…確定ですね…』

シヨウさん「だろ？」

『はい…』

シヨウさん「それに経験者は風俗に戻る可能性がかなり高いからな…ちょっと調べてみるべきだよ。」

『…そうですね…』

やっぱり相談しなければ良かった…

もっと…怪しく見えてきた…

信じてあげなきゃ…

この日と次の日はほとんど仕事が出来なかったから全部澤にやらせて俺はずっと座っていた…

考える時間があればあるほど…深く落ち込んでしまった…

そして…

エーちゃんが夜勤の日の仕事も終わり…直ぐにエーちゃんの夜勤の病院に向かった…

着いたのは…4時前…

エーちゃんの車は…

…

…

…

あった！

良かった…

とりあえずエーちゃんに電話してみよう…

『今病院の駐車場に居るんだけど…出てくれる？』

エーちゃん「いいよ！」

やっぱりやって無いじゃん！

今日はゆっくり寝れそうだ…

エーちゃんと一服して…エーちゃんも仕事に戻り、俺も実家に帰った…

## 最低最悪な思い出2

家に帰り寝る前にパソコンでもいじくる事にした。

そういえば…エーちゃんはパソコンに履歴が残るの知ってるのかな？

見てみよ！

…

…

…

確かに…システムや詳細のページを見ている…

ん？

…

なんだこのページ…

…！？

女の子の在籍のページだ…

何個か履歴があったので確認していった…

⋮

⋮

⋮

見なきゃ良かった…

⋮

⋮

⋮

絶望した…

⋮

⋮

⋮

俺は…

⋮

⋮

⋮

顔は手で隠している為見えなかったが…

明らかに…

…

…

…

エーちゃんだった…

心臓の音が鳴り止まない…

言葉も出て来ない…

…

直ぐにサイトに飛んだ…

ちゃん入店！

その日は…夜勤の日だった…

…

ちゃんをクリックした。

そこには…下着姿で顔を隠しているエーちゃんがいた…

ここからかなりエグい言葉を使って説明します。読みたく無い人は飛ばしてください。

プロフィールが詳しく書いてある…

く ちゃんく

22歳

この間までキャバ嬢してました！いっぱい癒してあげますね！

く 好きな事く

お酒飲む事

Hな事

く 好きな歌手く

エミネム

く 敏感な所く

乳首と…ひみつ！

く プレイ詳細く

(69)

(指入れ)

(生しく)

(素股)

(パイリ)  
(アル) ×  
(ゴックン)  
(ローター)  
(バブ)  
(顔し)  
(コスプレ)

∴

∴

∴

自然と涙が溢れた。

頭の中が∴真っ白だった∴

リアル過ぎてすみませんでした。

沢山涙を流した後∴

冷静になってページ詳細を見た。

∴

好きな歌手∴エミネムって俺が教えて好きになったやつじゃん！

CD捨てよ。

…

プレイ詳細…1つ以外全部 かよ！

…

…

でも顔隠してるから違う人かも…

…

よ～～～く…写真を見た！

同じ場所にホクロがある…

やっぱりエーちゃんじゃね？

ほぼ確定だな…

それからエーちゃんの仕事が終わるまで…

長かった…

寝ようとしたが寝れない。

する事がない…

ただ…考えてしまう…

何処に泊まったとか…

だから…ガバガバだったのかとか

(当時のデリヘルは本番をする為…今のデリヘルは知りません。)

何人接客したのかとか…

時間があるほど考えてマイナス思考になってしまっ…

そして…

また涙が溢れた…

もう…別れるしか…無いかな…

でも…まだ…エーちゃんと話すまでは…分からない…

証拠が出たのにも関わらず、まだエーちゃんの事を信じようとして  
いる俺がいた…

ただ…この写真が違う人であって欲しい。

信じようとしたのはその証拠を受け入れる事が出来なかっただけな  
のかもしれない…

自分の嫁がデリヘルサイトに乗っていたら…皆さんはどうですか？

多分…皆…信じないと思いますよ。

考えられない事が起きたら人間…混乱して…現実逃避ですよ…

『何かの間違いだよ』

まさに…そうでした。

エーちゃんの仕事が終わるまでは…

そろそろ時間だったので、歩いて迎えに行った。

…

エーちゃんの病院に到着…

5分もしないうちにエーちゃんが出てきた。

『おつかれ…』

エーちゃん「おつかれ。どうしたの?」

『とりあえず帰ろう。』

…

エーちゃんも何かを察したのか…

無言のまま帰宅した…

『これ…何?』

エーちゃんのプロフィールを見せた…

エーちゃん「何これ？知らないよ？」

『パソコンには履歴が出るの知ってる？これ履歴の中にあっただよ…』

エーちゃん「私見てないよ。」

見てない…か…

『この間友達に調べてあげたって言ってたよね？偶然なのかな？これエーちゃんが調べたサイトと同じサイトなんだけど…』

エーちゃん「だから私知らないって！」

『分かった…じゃあ後でこの店に行ってみようぜ。大体店の写真には顔隠してないはずだから。店の写真で顔隠していたらネットには写真でないよね…』

エーちゃん「…分かった…行くよ。」

『分かった。その前に荷物全部見せてみるよ。』

エーちゃん「ちょ…ちょっと！」

『隠す物が無いなら抵抗するなよ…』

そして…

カバンの中にあっただのは…

最悪な物だった…

…

…

『これ…何だよ!!!!』

見た事無い携帯があった。

エーちゃん「それは…」

中を見ようとしたが電源が入らない…

バッテリーを見ると、バッテリーが入って無い…

直ぐに探した。

バッテリーは化粧品入れに入っていた…

『答える！これは何だ？』

…

…

…

エーちゃん「…ふくちゃんが言う通り…やってんだよ！わりーかよ

「！デリヘルやってんだよ！仕方ねーんだよ！こっちは金がねーんだ  
」」

…

…

逆ギレですか…？

『ガタガタうるせーんだよ！馬鹿かよテメー？』

エーちゃん「馬鹿なんだから仕方ないだろ！」

『馬鹿じゃねーよ…逝かれてるよ…』

…

『携帯見るよ。』

エーちゃん「好きにすれば？」

…

…

…

興奮してバッテリーを違う方向に入れてしまって、取れなくなっ  
てしまった…

『くそ…取れねえ…取れねえんだよ!』

エーちゃんの頭を掴んで逆ギレした!

皆も分かるようにキレたら手のつけようが無い…

そのまま髪を掴んで振り回した…

…

エーちゃん…もう…泣いている…

ブチブチ髪が切れていく…

『おい!テメー俺を舐めてんのか?』

エーちゃん「……………」

『何処まで俺を馬鹿にすれば気が済む…?』

俺は涙が溢れてエーちゃんを振り回すのを辞めていた…

駄目だ…

聞きたい事が…

山程ある…

何から聞こうか…

…

『いつから…働いてたの?』

…

エーちゃんは泣いて答えられない…

…

『いつから働いてたの?』

…

『おい!…聞いてんのかよ!…!』

…

エーちゃん「……この間の……夜勤の時から……」

…

『夜働いて昼間からまたラストまで働いたの?』

エーちゃん「…うん…」

『じゃー1日目の仕事終わりは何処に泊まった?』

エーちゃん「車の中で…寝た…」

…

『何人接客した？』

エーちゃん「6人…」

…

…

…

『本番は？』

エーちゃん「…してない」

『デリヘルで本番が無い場所なんてねーよ！』

エーちゃん「してないもん」

『してねー訳無いだろが！』

エーちゃんの頭を叩いた。

エーちゃん「したよ…」

…

…

『何で働いたの?』

…

エーちゃん「お金が無いからだよ…」

『お前が給料の半分だけで良いって言ったんだろ?金が無いなら相談しろよ!』

エーちゃん「……………」

…

…

…

エーちゃん「…本番してない…」

『まだ言ってるのか?それは有り得ない!』

エーちゃん「してない…」

『帰って来た日にしたけどガバガバだったじゃねーか!もうバレてんだから嘘は要らねえんだよ!』

エーちゃん「3人とした…」

…

…

…

もう…

何が…

真実で嘘なのか…

俺には…

分からないよ…

どうすれば…いいんだろ…

最低最悪な思い出3

…

…

『とりあえず…携帯直して…』

エーちゃん「はい…」

『いつから携帯持ってるの?』

エーちゃん「4月から…」

『そんな前から…何で…携帯持ったの…?』

エーちゃん「キャバクラ用に携帯買った…」

…

…

『そっ…』

…

…

エーちゃん「取れないよ…これ…」

『しるか！テメーの携帯だろうが！さっさと取れよ！』

…

…

それから30分は携帯からバッテリーを取ろうとしていただろうか…

その間…ずっと無言だった…

でも…俺は時間が経つにつれてまた怒りがフツフツと出てきた…

…

エーちゃん「あああああ！…もうお！」

…

バキッ…

…

携帯が半分に折れてる…

エーちゃん「あっ……」

『テメー！…何証拠隠滅してんだよ！…！』

もう…限界だった…

俺は…エーちゃんを蹴り飛ばした…

…

エーちゃんは吹っ飛びまた泣き出した…

エーちゃん「ごめんなさい…そう言つつもりじゃなくて…イライラして…力入れたら…」

俺の怒りは収まらない…

『しるか！』

…

…

…

くそっ…どーしていいのかわからねえ！

…

…今日…仕事休もう…

『ちよい電話してくる…』

…

『お疲れ様です。』

シヨウさん「おう…どうだった？」

『…してました…』

シヨウさん「…そうか…で…ふくはこれからどーすんだ？」

『どーしていいのかわかんないっす…』

シヨウさん「深く考えすぎなんだよ！ふくは…許すのか…許さないのかどっちかしか無いだろ！」

『そっか…』

シヨウさん「だろ！まあゆっくり考える。」

『はい…今日…仕事休んでもいいっすか？』

シヨウさん「おう。分かった。」

…

…

…

そっか…

どっちかしかないのか…

…

…

俺は許せるのか？

別れるにしても…

息子もいるし…

息子の為に出来れば別れたくないけど…

…

…

…

多分…

もうエーちゃんを信じる事は出来ないだろう…

エーちゃんを軽蔑するかもしれない…

とりあえず…先にエーちゃんがどう思っているのか…聞いてみようかな…

なるべく…

キレないようにしよう…

『ただいま…』

…

『お前はどーしてほしい…どーしたい？』

「エーちゃん」…ぶくちゃんの好きにしていよう…私に言う権利ないし…」

…

…

…

そう言われると…困るな…

…

まだ…決めれないな…

…

『11の件に関してどう思ったの？』

…

エーちゃん「ごめんとしか言えない…」

「それだけ？俺の立場から考えてみるよ…俺がどれだけ辛いか…お前に分かるか？嫁がネットで下着姿で…こんな事書いてあるんだぞ！」

ネットを見たら怒りが…

また…

エーちゃん「最低だよ…最低な女だよ…何で…こんな事…しちやっただろ…もう…死にたい…本当に…ごめんなさい…」

…

エーちゃん「ふくちゃんの言う通りにするよ…」

…

…

…

何か…謝られたら…怒りを何処にぶつけていいのか分からなくなっ  
た…

…

丁度…目の前に冷蔵庫があったので…4〜5回殴った。

殴ってる最中は怒りで痛みをカバー出来るが、殴り終わったら…コブシが…

い…いてえ〜

冷蔵庫…硬いね…

つか…手が…変色してるし…

手が…プルツプルツしてるし…

冷蔵庫は失敗したな…

そんな手を見て思わず笑っちゃった。

許してやろうかな？

でも…ただ許すのも納得いかないし、風俗はキチンと辞めないとな  
たやる可能性大だしな…

もう二度とやりたくないと思わせないと駄目だな…

俺に怒られるぐらいなら風俗に抵抗がないエーちゃんは風俗をまた  
やり兼ねない…

どうしよう…

とりあえず…一服だな。

!?

煙草が持てない!

俺の手! 頑張れ!

…

もう… 風俗はしたく無いか…

どーしたらそう思う?

俺がエーちゃんの立場なら… どーしたら嫌だ?

…

…

…

『 良いよ… 許しても… 』

エーちゃん「……………」

『 但し… まず俺はお前の事を信用出来ない。 軽蔑もすると思う。 これから先… 冷たい態度もとるし、冷たい事も言うかもしれない… 我慢出来るか? 』

エーちゃん「我慢するよ… ふくちゃんに悪いもんね… 出来る事なら… 何でもするよ…」

『分かった…あと…』

エーちゃん「…なに？」

『殴らせる…！』

エーちゃん「好きナだけ殴っていいよ…」

…

『そつだな…お前が俺を裏切った数だけ殴るよ…』

エーちゃん「いいよ…」

『最後に…エーちゃんの親にこの話…風俗の事話すけどいいか？これが呑めないなら…許す事は出来ない…』

エーちゃん「どうしても…言わないと駄目？」

『許すなら駄目だね…別れたいなら言わなくてもいいよ。』

エーちゃん「……………」

『別にいいよ…嫌なら別れるだけだし。逃げたきゃ逃げればいよ』

エーちゃん「…分かった…言つよ…」

『本当に良いんだね？』

「エーちゃん「いいよ…」」

『分かった。』

『…じゃあまず殴るわ…』

俺はエーちゃんを殴った…

1発目がいい所に入って鼻の根元が…曲がった…

全部殴り終わった頃にはもう左目が腫れて開かなくて紫色になっていた…

…

ちよつとやり過ぎたかな？

『大丈夫か？』

エーちゃん「平気…私が悪いから…仕方ないよ…」

『そつだな…じゃーエーちゃんの親に言いにいくか？』

エーちゃん「…分かった…」

…

…

エーちゃんの家に向かっている車の中でエーちゃんはまた泣いて  
た…

エーちゃん「何で…こんな事…したんだろ？」

『しらね。何考えていたんだろな？』

エーちゃん「親に言わないと駄目？」

『駄目…』

…

着いた…

…

多分…俺も…怒られるんだろうな…

…

予想通り…俺も怒られたが、エーちゃんはもっと絞られた。両親は  
俺の意図も分かってくれたみたいだ。

話終わった後…どっと疲れが出た…

今日は飲みたい気分だな…

やっと…終わった…

…

本当に終わったのかな？

もう何も無ければいいが…

…次の日…

エーちゃんの車を調べたらデリヘルグッズが出てきた。

分かっていた事だが、見たらやっぱりショックだった…

中身は…

ローション

イソジン

コンドーム

ん？

…

コンドーム？

『やっぱりしたんじゃない。』

エーちゃん「昨日はしたって言ったけど…してないよ…」

…  
『もつめんどくさい。何が本当で嘘か分からないから…ちょっと確かめて来るわ。』

エーちゃん「……………」

『稼いだ金渡して。それで確かめてくる。』

エーちゃん「分かった…」

…

…

…

店に着いた。

中に入り案内をつけて女の子とホテル向かった。

『この店は本番あんの？』

女の子「皆してるよ。店からコンドーム貰ってるしね！」

『ふーん…皆してるんだ…してない娘とか居ないの？』

女の子「多分…居ないんじゃないかな？」

…

怪しまれるから一通りのサービスをうけたがローテンションで立つ訳がない…

女の子「しなくていいの？」

『気分じゃないからいいよ。』

結局エーちゃんもやってんじやん…

俺は家に帰ってエーちゃんと話をした。

『やっぱしてたんじやん。何でここまで来て嘘付くの？その気持ち  
が分からねえよ…』

エーちゃん「……………」

『もう…めんどくせえー。どーでもいいよ…』

…

それからの日々はエーちゃんも相当辛かったと思う。

実際…かなり冷たい態度をとったり、冷たい事も沢山言った。勿論  
全ての仕事も辞めさせて、チューリップで従業員として働かせた。

でも俺は…正直…

やる気が無かった…

仕事なんてどーでも良かった。

店って面白いもので店長のやる気で売上も変わるのね。

どーでも良いと思ったたら店の売上に比例して利益はガクッと下がった。

## 番外編 5

俺ブチギレ編 1

客がピンで来た…

(1人)

もう出来上がっていたが…普通に案内した。時間は0時を周っている。

酔っ払っているがまあまあ使ってくれて延長も入った!

しかも店が暇で客が居なかった…2回目の延長を聞きに行った時に…事件が起きた…

『お客様そろそろ御時間になります、御延長如何でしょうか?』

客「帰る。」

かなり出来上がってるな…

『有難う御座いました。円になります』

客「ん?ああ?払ったのにまた払うのか?」

いきなり胸ぐら掴んで来た!

こりゃ何言っても無駄だな…こいつは絶対に暴れる!

『澤!上からシヨウさんとオーさん連れて来い!』

たまたまシヨウさんとオーさんが居たのだ！でも…何故俺が2人を呼んだのか…

相手は180cm以上でかなり体格が良い！

しかも手を出したら不味いので一方的に殺られるしかない！

警察が来るまでの時間稼ぎが欲しかったのだ！

澤が止めたら殴られて歯が抜けても困る！残り少ない歯だ！

『おい！放せよ！何考えてんだてめー！』

客「……………」

いきなり殴り掛かって来た！

俺は避けたが、澤なら歯が抜けていただろう！

ここでシヨウさんとオーさんが登場！

シヨウさん「何してんだ！」

押さえ付けたが吹っ飛ばされた…

オーさんは警察に電話して澤は女の子達に被害が出ないように送り出した！

客は俺しか見てない…

俺が標的だな…

客がテーブルを持ち上げて俺に投げて来た！

！？

避けたら壁に穴が空く！

食らうしかない…

…

だが…

流石野球好き…

キャッチした！

キャッチした俺もマジでビックリ！

澤なら食らっていたか、避けていたかどちらかだったな…

こりゃ警察来るまで骨が折れそうだ…

するとシヨウさんがキレて助走つけて飛び蹴りした！

！？

手出して良いのかよ！

出して言いなら出すけど？

オーさんは何処にいる？

…

…遠くから見てるだけかよ…

マジでうぜえ…

客は飛び蹴りがいい所に入り倒れていた！

そこに…やっとな…警察が来た！

でもそれと同時にまた暴れ出した！

またかよ！

でも今度の相手は警察だ！

最初は2人ほどしか警察官が居なかったが、みるみる警察官が増え  
ていき最終的には6人ほどになっていた！

客は状況が分かったのか…落ち着いてきて押さえ付けなくても暴れ  
なかった…が…

スルスルーっと俺に近付いて来て…

…

…

…

また殴り掛かってきた！

俺も避けたが…

避けた方向が不味かった…

テーブルがあつたのだ！

それで…そのまま殴られた…

次の瞬間…警察より先に動いたシヨウさんが客を殴った！

直ぐに警察官に押さえ付けられて泡を吹きながら

客「放せよ！」

など叫んでいた！

警察の前で殴つてもシヨウさんは怒られなかった。

だったら殴り返せば良かったよ…

『まだお金貰ってないんですけど…』

警察官は客の財布を出して金を払ってくれた！

それもありなのかよ！

その後…客は手錠を掛けられてワゴン車に放り投げられていた…

次の日…

暴れた客から謝りの電話が掛かって来て、ずいっと謝っていた…  
もう2度と来るなと伝えて電話を切った。

なんか…俺…殴られ損かよ…

オーさん伝説編

短い話を何個かします。  
まだトツが居た頃の話…

たまたま100均に行く予定があったのでオニキスにも寄って買い物があるか聞いてみた！

『100均行きますけど何か買って来ますか？』

オーさん「じゃーあそこに掛かってるサイズのフェイスタオル10枚買って来て！」

『分かりました！』

買い物も終わりタオルを届けにオニキスに行った！

『買って来ました！』

オーさん「見せてみる…おい！てめー何買って来てんだよ！」

?????

オーさん「これバスタオルじゃねーか！見てみるよ！」

そう言つて渡されたのは…フェイスタオルだった…

『これフェイスタオルですよ？』

オーさん「あそこのタオルと比べてみる！」

比べてみたら…

幅は同じ…

長さが…10cmぐらい長かった。

『フェイスタオルじゃないですか？』

オーさん「これをバスタオルつて言うんだよ！」

『はあ？これはフェイスタオルですよ！』

オーさん「おい！トツ！これバスタオルだろ？」

トツ「バスタオルです！」

トツ…頭のネジが飛んだのか？

『あゝそうですか…じゃーこれからオーさんの前だけこれをバスタオルって言いますよ！フェイスタオルですけどね！』

オーさん「そうしろ！」

本当に頭のネジが吹っ飛んでる奴だ…

く伝説2く

仕事が終わったのが朝で疲れていたので…直ぐに寝た…

…

…

電話が鳴ってる…

オーさんからだ…

『もしもし…』

オーさん「てめー！3コール以内に電話出るよ！」

『はい？じゃー次から出れる時だけ出ますよ！で…何の用ですか？』

オーさん「今からパチンコ屋並ぼうぜ！」

まだそんな時間かよ！

寝たばかりだつて！

『悪いですけど今日は行きません。』

お前もこの商売していたら分かんだが！夜行性にとって朝は夜中だろーが！

俺ブチギレ編2

3人組の客が来た…

ヤクザっぽい客だったが普通に案内した…

なんか…普通に案内ばかりしてるな…

それに…こういう客はやっぱり金を使う…金を使えば偉いと思  
ってるのか？

延長もして…

まあまあ金を落とした！

たまたまエーちゃんも付いていた。

2回目の延長は入らなくて客が帰る時事件が起きた…

女の子達は出口まで送るのだが…

ここで1番偉そうな客が俺の目の前で…

エーちゃんの胸を揉んだ！

流石にブチギレたね…

書いてる今も気分が悪い…

『おい！何してんだコラア！』

客「何だどこの野郎！」

『てめーだよ！馬鹿かお前？』

客「やんのか？上等だ！」

『てめーが喧嘩売ってんだろっが！』

ここで客が…

客「俺は だぞ？ 舐めんなよ！」

は書けません。

こいつ だったのか…でも俺は引けないよ！嫁が目の前で胸揉ま  
れたんだぞ！

『だから何だよ！んなもん関係ねーんだよ！』

世の中には引かない奴もいる…

すると態度が変わった…

客「ほう…ここのバックは何処だ？××か？今直ぐ呼び出せ！」

『馬鹿か？なんなら警察の方が都合いいんじゃないのか？呼んでや  
つてもいいぞ？』

客「下っ端にゃ用はねえーんだよ！」

『俺がこの店の責任者だ！何処見てんだよ！』

この客の連れは何気に常連で間に入ってきた！

客2「まあまあ兄さん！とりあえず帰りましょうよ！このままじゃお互い痛いですって！」

『帰るんならさっさと帰れよ！邪魔なんだよ！』

客「なんだと〜！」

『聞こえねえのか？2度とくんない！』

客2「さあ…帰りましょう！」

客「2度と来るか！ボケ！」

『馬鹿か？お前は出禁だよ！』

流石に自分の嫁が目の前で胸揉まれてキレない奴が何処にいったよ！でも…世の中広いから居るかもしれないけどね…

## 面接編

キャバクラで働いていて1番楽しいのは…面接だ！たまにおかしい奴も来る…そんなお話。

面接するにあたって、必ず聞く事は

『風俗で働きませんか?』

と言う事。これはグループで決まっている。

くその1く

20代半ばの女性

『初めまして!チュールリップ店長のふくと申します!宜しく御願  
いします!』

女「宜しく御願います。」

ここで履歴書に目を通す。

『接客業は初めてですか?』

女「はい。」

逆に未経験のほうの話しやすい。

『お金はどのくらいほしいの?』

女「貰えれば貰えるほど嬉しいです。」

『借金か何かあるの?』

女「特にありません。」

『なんで接客業してみようと思ったの?』

女「何ででしょう？分かりません…」

天然だな…

『接客業って言っても色々あるんですよ。風俗く飲み屋までうちのグループはあります。勿論業種によって給料も大幅に違いますし、仕事内容も違います。別の接客業のお話に興味ありますか？もし良かったら詳しく説明させてください。』

女「どっちの方が給料いいですか？」

『別の接客業の方かな。』

女「じゃくそっちで！」

！？

早！

こいつ金に困ってるな？

まゝ俺の役目はここまでだ…

『じゃく今から他の面接官呼びますので、お待ち頂けますか？』

シヨウさんに速攻電話して迎えに来てもらった。

結局…その日は体験入店して次の日からレギュラーで働く事になった…

だったら最初から風俗の面接に行けば良いのに…  
未経験だったから分らなかったのかな…

…いや…多分お金に困っていたんだろう…

## 面接編2

澤に駅の前まで迎えに行かせた。

戻ってきた澤は俺に目で合図している…

女の子は…可愛くないみたいだ…

女の子登場！

……………

アウトだ…体型が中肉中背じゃない…キャバクラで働ける限界を超えている…

『初めまして！チューリップ店長のふくと申します。』

女「宜しく御願います。」

気を持たせる発言は駄目だ…逆に可哀相だし…  
家が遠い…

『何故チューリップに面接を？』

女「仕事帰りに働きたかったので…」

多分…違うな…

他の店に断られてきたんだな…

『残念ですが、うちのキャバクラではお断りさせて頂きませんが、うちのグループには風俗もあります…もし良かったらお話御聞きになりませんか？』

女「やっぱり…駄目ですか…」

『今まで断られてきたんですか？』

女「はい…今まで風俗で働いていたのですが…結婚する事になり風俗を辞めました。」

『でも旦那さんが居るなら昼間の仕事で充分じゃないですか？』

女「夫には借金があるんです…私も昼間の仕事をしているのですが、それでもきつくて…」

なんか…俺みたいな家庭だな…

『どうしても夜の仕事がしたいなら、風俗か…スナックしかないよ。スナックの時給は安いけど普通のアルバイトよりかは給料入るよ。』

「スナックですか…」

『そうだね…あとは自己破産か債務整理したら生活も楽になるよ！俺が経験者だから！』

後は色々説明したが夫が自己破産と債務整理をしたくないらしく、結局知り合いのスナックで働かせて貰う事になった…

普通ならここまでしないけど何か親近感が湧いちゃったんだよね！  
最後は何回も御礼をして帰って行きました。

## チューリップ

夏のボーナスゾーンは見事に散った…

オーさんからかなり馬鹿にされたが、いつもみたいに仕事における情熱は沸いて来なかった。

でも…客が来ないのは精神的にダメージを食らう…

正直…今の俺には耐えられないプレッシャーだった…

オープンから今まで赤字は出した事はないが、最低利益の30万を出してしまった。

利益があるならいいじゃないか？と思う人も居ると思うが、実際はそうじゃない…

ボーナスゾーンと言う客が金を落とす時期でこれだと…先が思いやられる。

しかも…水商売は稼がなくてはやる意味がない。たった30万という利益は水商売には無に等しい…だったら他の商売したほうがまだマシだ…

そして…俺はその全てをエーちゃんにぶつけていた…

『全部テメーのせいだよ！』

エーちゃん「…ごめんなさい…」

そして8月も予想通り…撃沈した…

また…同じぐらいの利益だった…

シヨウさん「駄目だな…これが来月も続くようなら店閉めて違う商売するぞ。」

『…すいませんでした…』

だが…やる気が出ない…

もう…諦めるしかないのかな…

（9月）

女の子達の様子が変だ…

あゆ「店長…お店お客さん来なくて平気なの？」

『平気じゃないよ。もっとお客さん呼んでね！』

あゆ「うん！分かった！」

…

いつものあゆじゃねえ…

怪しいな…

今No.1に辞められるのは…かなり痛い…むしろあゆで持っているようなもんだ…

俺も最後の技…友達を呼んだが、これが不味かった。

嫌な事が続くもんだ…

友達の名前は「ひかる」。うちの店は自慢じゃないが可愛い娘がわりと居ると思う。他の俺の友達なんてマジ惚れして通った奴が居るぐらいだ。

まあ…結局…フラれて撃沈したが…

大体友達の好みは分かる…ひかるの好みはギャルだ！店で1番ギャルの若い可愛い娘を付けたら… もろストライク…出勤する時はかなりの確率でひかるも遊びに来るようになった！

…

…

ひかる「おう！ふくちゃん？今から行くわ！また安く頼むよ！」

『分かった！待ってるよ！』

その日は0時にやって来た！

事件は…その日に起きた…

ひかる「お疲れー！」

『お疲れーい！澤！案内して！』

今日は暑いし、気を利かせてひかると俺のビールを持っていった…

ひかる「何だよ！くんなよ！」

『最近ちよいとブルーだから一緒に飲ませろよ！』

ひかる「少しぐらいなら居てもいいよ！」

『おう！ずっといる！』

ひかる「やっぱ駄目！」

でも俺は酒を飲んで、居続けた！途中ビールでは物足りなくなつて  
ウイスキーロックをがつつり逝つた！

ひかるは2時まで居て店が終わつた後も飲む事になつた！

遠い女の子は澤に送って貰つて、近い女の子だけ俺が送る事にした  
が…

ひかるだけ待つてもらつるのは悪いから一緒に行つてもらつ事にし  
た。

…

帰り道…

『付き合つてもらつて悪かつたね！』

ひかる「別にいいよ！」

『またチューリップ行って飲み直そうぜ！』

ピリリリリ…

携帯が鳴ってる…

誰だ？

ん！引つ掛かって…電話が取れねえ！

…

…

やっと取れた！

エーちゃんからだ…

『もしもし…』

！？

前を見ていなかった！

細い道で車がすれ違うのがギリギリなのに右側に車が止まっていたのに気がつかなかった。

もう…止まらねえ…

避けるしかない…

車が右側にあつたので左にハンドルを切ったが…

…  
間に合わなかった…

…  
『う…うあゝぶつかる〜』

とっさに出た言葉がこれだった…

俺は…曲がり切れずに右側の運転席側をぶつけたがハンドルを左に切っている為にそのまま左のマンションの縁石に乗り上げ…

…  
車は…横転した…

…  
『ひかる！生きてるか？』

ひかる「い…いてえ…」

『車から早く出る！ガソリンが漏れていたら爆発するかもしれない』

ひかるは左側の窓を開けて登って外に出た。俺も続いて外に出た…

…  
なんか…聞こえる…

…  
携帯だ…

… エーちゃんだ。忘れていた…

『もしもし……』

エーちゃん「どうしたの！…！」

『事故った！』

エーちゃん「大丈夫なの??？」

『大丈夫じゃねーよ！！何で電話すんだよ馬鹿！テメーのせいで事故っただろが！！』

エーちゃん「…ごめん！何処で事故ったの？」

『チューリップの直ぐ近く……』

エーちゃん「直ぐに行く！」

…

とりあえず…俺の身体は…何とも無い…

ひかるは？

『ひかる！お前さつき痛いって言ってなかった？平気か？』

ひかる「…右足首がいてえ…」

『病院行くか？』

ひかる「保険代が高くなるから別にいいよ！」

『気にすんなよ！行こうぜ！』

ひかる「いや…平気だ！とりあえず…警察呼ぶか？」

『そつだな…』

警察が来る前に荷物を出さないと…

車に入って財布と煙草を持って出て来た…荷物がそれだけって…  
かなり寂しい車だな…

…

…

エーちゃんが来た…

エーちゃん「ふくちゃん！大丈夫？？」

『身体は平気だよ。ひかるは足が痛いみたいだけど…』

エーちゃん「ひかる君大丈夫？足見せて！」

ひかる「うん…」

…

…

…

エーちゃん「大丈夫そうだね…」

ひかる「ありがとう。そろそろ警察来るんじゃない？」

『だな…』

酒を飲んでいる為に秘密の道具を使った…

これで酒帯びで捕まる事は無いだろう。

…

…

結局…このあと直ぐに警察が来て実況見聞して車はレッカーされた…

終わったのは…5時…

仕方ねえか…

ん……………？

…

財布が…

無い……………

直ぐに現場に戻ったが財布は無かった…

最後に見たのは…

車から荷物を取り出して外で確認したのが最後だ…

また…やっちゃった…

売上こそ財布に入って無かったから良かったが…

現金が…

14万入っていた…

マジかよ…

最近ツイてなさすぎ…

なんだ？俺は誰かに呪われてるのか？

でも不幸中の幸い…

大した事無くて良かったよ…

足も無くなったし、エーちゃんの車借りるしかないか…

マーチ…

小さいな…

仕方ないか…

…

店の方は…やっぱりかなり微妙だ…

最近…悪い事ばかり起きるし、嫌な予感がする。

予想は…

…

…

的中した。

その日は女の子の給料日が終わって初めての花の週末土曜日…

あゆとあゆの仲が良かった女の子2人が同伴してきた！

今日は調子いいね〜！っと思っていたが…あゆの指名客が他にもや  
ってきた！

こんなのは久し振りだ！

それに釣られてフリーの客も沢山やって来てチューリップはかなり

忙しくなって俺も安心出来た…

…

…

…

でもチューリップにとってこれが最後の盛り上がった日になってしまった…

その日を境にあゆを含めて4人が来なくなった…  
来なくなった日…なんか…嫌な予感がしていた…  
時間になってもあゆは出勤して来なかった。

電話しても出ない。

やっぱり…こうなったか…

残った女の子の中で1番仲良かった女の子が出勤してきて、俺に手紙を渡した。

女「あゆから渡されました…店長に渡してって…」

『そっか…』

俺は…直ぐに手紙を読んだ…

…店長へ…

まず…謝ります。  
ごめんなさい…

でもバツクした事…きっと店長は優しいから怒ってないでしょう。

今いる女の子もそうですが皆この店、長いですよね？こんなのは珍しいですよ！1年近く居たなんて私は初めてでした。

なのに…何も言わないで…

本当にごめんなさい。

今まで色々な事が沢山ありましたよね？

店長と行ったカラオケ楽しかったです。

店長と行ったラーメンは本当においしかったです。

店長は凄く優しくして私の事を初めて理解してもらった人でした…

でも急に店長が変わってしまっって少し寂しかったです。

もう分かり合えないのかな？そう思って何回も辞めようと思いました。

でも…気が付いたら…店の娘とも仲良くなって、店にいるのが私にとってオアシスでした。

そう思ったら店長の態度はいつもと変わってなくて…

…

何が言いたいんだろね？

店長…私は…変れたのでしょうか？

辞めるのに手紙を書いたのは初めてです。これからは私も頑張れるので店長も頑張ってください！

今まで本当にありがとう。

くあゆよりく

びんせん2枚にわたって書いてあった…読んだ後は怒りなど無い。むしろスッキリしていた…逆に諦めがついたのだ…

…

…

…

もう…店は駄目だな…

シヨウさんに伝えないと…

シヨウさんは上の店に居たので直ぐに向かった。

『シヨウさん…話が…』

シヨウさん「なんだよ？」

『あゆを含めて4人辞めました。』

シヨウさん「もう…駄目だな…」

『すいませんでした。全部俺のせいです。』

シヨウさん「おう…今月一杯で閉めるぞ！次の商売は考えておく！  
もう気持ちを切り替えろ！」

『はい…』

…

…

今月一杯か…

そう言われると…

…

辛いな…

1年とちよつとの間だったけど…

頑張った分…辛さはデカイ…

とりあえず…女の子には直前まで言つのはやめよう…バックレられ  
ても困るしな…

澤には伝えておくか…

…

…

その後の店は酷いありさまだった…

客は来ないから売上が増える事もない。

オーさんからは嫌味を言われて…

俺に重くのし掛かった。

今の俺は耐えるのもやっと…毎日仕事が終わった後…1人チューリップで

明日があるさ

ガッツだぜ

空を見なよ

を泣きながら歌って自分にやる気を出させていた…

多分…歌が無ければその時の俺は明日に希望は無かったと思う。この歌のお陰で俺は首の皮が繋がっている状態だった…

俺に休める場所など無かった…

家に帰ってもエーちゃんがいるし…

仕事中は苦痛だし…

辛くて…寝る事も出来ない…

唯一気が休める場所は…トイレの中だったかな…トイレから出る時はまた戻らないといけないのか…と思っていた。

…

閉店3日前…

初めて女の子に話した。

『実はね…3日後にチュールリップ閉店するから…残り3日間頑張ってお客さん呼んでね!』

女「えっ!?本当ですか?」

『うん!本当だよ!』

女「…そっか…分かりました…3日間頑張ります!」

残りの3日間は常連さんが沢山来てくれた!中には3日間毎日来てくれたお客さんもいた…

なんか…お客さんも女の子もすげー温かくて、でもそれが辛くて…俺はトイレに行って泣いた…

そして…

最後の日も…

終りを迎えた…

…

女「店長！お疲れ様！」

そう言っつて花を渡してくれた。

『…ありがとう…』

女「店長はいつも頑張っていたもんね！」

『そうだね…』

女の子の送りは全部澤に頼んだ…

俺が送つてら多分…泣いていたからだ…

そして1人チューリップに残り…

俺は酒を飲んだ…

今まで…ほとんど休みもなく…俺は頑張ってきた。

俺はやつと…プレッシャーから開放された。

次の日はチューリップの後方付けだった。

売上表を付けて月のトータルを出したら…黒字だったが微々たるものだ。

とりあえず…赤字を出さなくて良かった…

澤はとりあえずオニキスで働いて俺は掃除が終わった後飯食ったり  
プラプラしていた。

そしてチューリップにシヨウさんとオーさんがやってきた。

『お疲れ様です!』

シヨウさん「じゃー次の商売でも決めるか!」

オーさん「とりあえずお前デリヘルやってたる? デリヘルは利益ど  
のくらい出るんだ?」

デリヘルかよ…

すげーやりたくない…

『そうですね…1日30本平均くれば1日の利益は平均25万ぐら  
いですから月で750万前後じゃないですかね…』

シヨウさん「すげーなそれ…」

『そこまで逝くのにかなり時間も必要ですよ…』

オーさん「だろっな…」

『半端ない労働ですし、俺1人じゃまず無理ですね…宣伝もかなり  
しないと客は来ないし…』

シヨウさん「上手く逝けばどのくらいで軌道に乗るんだ?」

『宣伝の量にもよりますが、かなりの量の宣伝しても…2〜3ヶ月掛かるんじゃないでしょうか?』

シヨウさん「とりあえず…お前の給料と澤の給料が稼げればいいよ! やらないよりはいいだろ?」

『そうですね…』

オーさん「じゃー決定な! 誰とやるかはシヨウさんと決めておくから!」

…

…

…

本当にやりたくない…

エーちゃんの事…思い出しちゃっし…

…

…

嫌だな…

## 地獄の日々

デリヘルをやる事になってしまった…

そして…

従業員が決まった。

立ち上げ時はオーさんと俺…

最悪なコンビだ…

それから俺はある程度の事はオーさんに教えたし、必要な物も全部俺が作り用意もした。

出勤予定表

売上表

ブラックリスト表

客の住所表

近場のホテルの電話表

地図

そして…肝心の電話番号登録…

俺の名義で携帯を買って携帯番号と代表者は俺で警察に登録した。

これがどーいう意味かわかりますか？

つまり…捕まればグループではなく俺だけが捕まると言う事なので

す。

幹部だから仕方ないかも知れません。でも…当たり前のように言われたのは疑問に思いましたよ…俺は結婚して子供も居るんですよ？

疑問は実はそれだけじゃありません。

他の従業員は給料25万に対して俺の給料は26万…

しかも他の従業員は休みがあるのに俺だけ休み無し…

正直…やってられないですよ…

そして従業員のミーティングの時…

オーさん「オニクスとブルーを昼間から営業する事にした！基本的に早番と遅番だが従業員が休みの日には通しもらおうので残業代を出すことにした！」

…聞いてないし…

オーさん「多分1人月の給料が30万ぐらい逝くと思っ！月によって誤差は出ると思うが頑張ってくれ！」

…

…

これを聞いた瞬間…

俺は…どーでも良くなった…

オニクスとブルーの営業時間は13時～24時…

それに対して俺のデリヘルは…11時〜日の出まで…  
残業代なし…

俺は何の為に働いているのですか？

仕事内容だって酷い物があった。

デンバリだって俺1人…

最初のうちは暗くなってから朝まで歩いてずっとデンバリしていた…

足は豆が出来て皮がめくれる…

最初に俺が1人じゃ無理って言ったのに結局1人…

ついに限界がきて俺はシヨウさんに電話した！

『お疲れ様です。今日ちょっと話したい事があるので時間空けて貰  
っていいですか？』

シヨウさん「分かった。後でチューリップに向かう。」

…

…

シヨウさんがやってきた。

『お早うございます。』

シヨウさん「おう。話ってなんだ？」

『俺前にも言いましたけど…1人じゃ無理っすよ！他の従業員が仕事終ったら貸してください！』

シヨウさん「…分かった…」

『それから給料の話ですけど、他の従業員が30万になるのに俺は変わらないんですか？』

シヨウさん「じゃーふくもオニキス手伝えばいいじゃん！」

『俺が働いている間のデリヘルはどーするんですか？』

シヨウさん「知らねえよ！」

知らねえって……

『…そうですか…分かりました…』

シヨウさん「確かにふくが1番頑張ってるよ！このデリヘル軌道に乗るまで我慢してくれないか？」

…

…

『…やれるだけ…頑張ってみますよ…』

仕事が朝までなのでシヨウさんとも飲みにいけない…

だから…いつの間に壁が出来ていたのかもしれない…

でも、今の俺にとって「知らねえよ」はとても辛かった…

それからの仕事は…

苦痛でしようがなかった…

目標がない…

人間にとって目標がないと頑張る事が出来ない…

俺は何の為に働いているんだ？

毎日一人でデンバリして…

何の為に？

酷い日なんて仕事が終わったのは朝9時…俺の出勤時間11時です  
けど？

でも…

初めて電話が鳴った時はすげー嬉しかったよ…

俺がしてきた事は無駄じゃ無かった。

お客さんの住所を聞くと…あっ昨日デンバリした所だ！

とか…電話が鳴る度に俺を助けてくれた…

でも…1人じゃ限界があった。いくら夜から朝までデンバリしたって、周れる範囲は決まっている。

しかもデンバリは直ぐに剥されるので張り直すのだけで1日が終わってしまう時があった。

そうすると電話など鳴らない。オーさんは何もしてないのに

オーさん「ちゃんとデンバリしてるのかよ！」

と言われた…

シヨウさんには人手を増やしてと頼んだのに増えない…

結局増えたのは次のミーティングの時だった。

ここでシヨウさんが言ってくれたのだが…オーさんが

オーさん「ふく1人で平気だろ？」

と言ったのだ！

この一言に俺はブチギレてしまった…

絶対にキレてはいけない場所で…

部下が部下達の前で上司にキレると言う事は、その上司の威厳を守る為にキレた者ははじめを付けないといけない。そんな会社だった。

俺はキレた場所が悪かった…

「俺1人じゃ無理なのにそれをやれって言う事ですか？それで…客が来なければ俺のせいですか？」

オーさん「お前何だ？その態度？」

シヨウさん「おいふく！お前の言いたい事も分かるがその態度はオーさんに謝れよ！」

…

… やってしまった…

『 …… すいませんでした…… 』

オーさん「今のはふくだからこれで済んだけどお前達が言ったらクビだから覚えておけ！」

俺がタイムンでキレル分には構わないが他の従業員がいる前でオーさんに歯向ったのは不味かった…

でも俺の意見をシヨウさんが通してくれたので皆は手伝ってくれ  
事になったのだ…

…

…

ミーティングが終わった後シヨウさんに呼ばれた。

シヨウさん「お前何やってんだよ！俺も焦ったよ！」

『 すいません…納得いなくて…… 』

シヨウさん「もういいよ！とりあえず今日から他の従業員も手伝うからな！頑張れよ！」

今日からだいぶ楽になりそうだな…

でも…実際はあまり変らなかった。

デンバリする量は増えたけど俺が貼る分は変らなかった。

いや…結果が欲しかったから手が空いてる時はずっとデンバリをしていたのだ。

その結果…

奇跡が起きた…

その日は週末だったからかもしれないが夕方から電話が沢山鳴った！

その電話は夜中まで鳴り続け…

ついに最高本数の20本を叩き出した！

純利益は…なんと…

12万！！

その日のグループ内で1番の記録だ！

デリヘルを始めてからこの日だけはゆっくり寝れた。

寝付きが良かったのは久し振りだった。

でもこの日を境に本数は激減…平均6本ぐらいになってしまった…

オーさんに歯向った俺は

オーさんからボロクソに言われ

シヨウさんにはため息をつかれ

エーちゃんからはデリヘルだけでは働いてほしくないと言われ

朝から朝まで働いて

休みが無くて…

今までの辛い事件も全て重なり…

俺の居場所は完全に無くなった…

何処にいても…

何をしていても…

休まる場所は無い…

…

…

…

もし…

…

仕事辞めよう…

## 地獄の日々2

その日は11月中旬…

デリヘルがオープンして1ヶ月半が経っていた…

俺はシヨウさんに言う事にした。

『シヨウさん…話があるんですけど…いいですか？』

シヨウさん「分かった。後で行く。」

辞めるのに普通の従業員は3ヶ月前に言わないといけないので、と  
りあえず来年の3月一杯で辞める事にしよう…

…

…

シヨウさんが出勤してきた…

…

緊張する…

『お早うございます。』

シヨウさん「おう…話って何だ？」

…

『実は…』

…

『もう限界です…辞めさせてください…』

シヨウさん「ああ？」

『出来れば直ぐに辞めたいんですけど、引き継ぎなどあるので来年の3月一杯で辞めさせてください…』

シヨウさん「……………」

シヨウさんが電話をしだした。

シヨウさん「お疲れーオーさん！あのさーふくが今直ぐ仕事辞めたいなんて舐めた事言っただけど…」

…

シヨウさん「……………分かった。待ってるよ。」

…

…

シヨウさん「今からオーさん来るってよ。」

マジかよ…

オーさん来るのか…

オーさんが来るまでの1時間はずっと無言だった…

そして…

オーさんが到着した…

オーさんは着くなり怒鳴り掛かった。

オーさん「テメーこの野郎！ふざけた事言いやがって！何が今直ぐ辞めたいだ！」

『引き継ぎもあるので3月一杯で辞めようと思うのですが…』

シヨウさん「テメーはさつき今直ぐ辞めたいって言っただろ！」

『今直ぐ辞めたいのは本当です。』

オーさん「舐めんのもいい加減にしろよ？」

シヨウさん「…で理由は？」

『…全部…もう…一杯一杯です…』

我慢していた気持ちが溢れ出した…

『俺は何の為にここで働いているんですか？給料は他の従業員よ

り少なくて…休みも無くて…朝から朝まで働いて…客が来なければ俺のせい…俺はシヨウさんの何なんですかつ？」

涙が出た…

言いたい事言ったから？

でも…まだある…

他にも沢山ある…

言いたい事は沢山ある…

シヨウさん「…金か？金ならくれてやるよ…幾ら欲しいんだ？」

『…要りませんよ…それに…エーちゃんにもデリヘルで働いている事文句言われ…もう限界なんですよ…』

オーさん「女の為に仕事辞めるのか？そう言えば昔エーちゃんはデリヘルやってたんだよな？1回やってる奴はまた風俗に戻るぞ？エーちゃんは戻りそうなタイプだな！そんな女の為に仕事辞めるのか？」

『エーちゃんはもうやらないって俺と約束しましたからしませんよ』

シヨウさん「絶対またやるね！」

…シヨウさん…その発言は…酷過ぎじゃないですか？

オーさんなんか…笑ってるし…

悔しい…

『やりませんよ!』

シヨウさん「じゃー飲み屋またやればいいじゃん!それなら働ける  
だろ?」

『だから…もう限界なんですよ…』

シヨウさん「分かった。ならチューリップを月100万で貸してやるよ!それならいいだろ?」

オーさん「いいじゃんか!抜ければ全部お前の利益だぞ!まー最初に必要な金はなさそうだけどな!」

…

…

正直…飲み屋はやりたかったが…

今は仕事を辞めたい。

もう疲れたんだよ…

チューリップは…やりません…嬉しいですけどやりませんよ…『

オーさん「お前馬鹿か?店のオーナーになれるんだぞ?」

シヨウさん「終わってるな…こいつ…」

オーさん「分かった…辞めていいよ…」

…

…

オーさん「普通の従業員は3ヶ月前に言わないと辞められないから幹部は1年な…1年経ったら辞めていいよ！」

1年って…

無理だよ…

身体がもたねえよ…

『…1年なんて保たないつすよ…限界って言ってるじゃないですか…』

オーさん「なんだ？お前？俺の方が大変だし俺の方が限界なんだよ！テメーのなんて限界じゃねえーんだよ！」

『俺の方が明らかに大変ですけど？限界じゃ無ければこんな話しませんよ…』

オーさん「まーどんなに辞めたくても1年は辞めさせないけどな…」

…

なんで…辞めるだけに…

こんなに引き止めるんだ？

俺はそんなに必要なのか？

必要だったらこんな仕打ちは無かっただろ？

…

…

何の為に……？

オーさん「俺達は普通の仕事じゃないんだ！そう言う世界なんだよ  
！」

『ヤクザって事ですか？』

オーさん「ヤクザではないがヤクザみたいなもんだ！わかんたろ？  
それくらい！」

『そうですか…ヤクザみたいなもんですか…』

オーさん「筋を通さないで辞めようなんて甘いんだよ！」

筋ってなんだ？

俺は今まで沢山尽くして来たのに…

『…筋通さないといけない世界なら…筋通せなかった事に詫び入れますよ…その代わり…辞めさせてもらいます…』

オーさん「何すんだ？」

…

『…指詰めますよ…筋を通せなかったから…その代わり…辞めますよ…』

オーさん「ヤクザじゃねーんだよ！それに誰が後始末すんだよ！テメーの指なんて要らねえよ！」

『さっきヤクザって言ったじゃねーかよ！』

…

…

ここで…シヨウさんが酷い事を言い出した…

俺は愕然とした…

まさか…シヨウさんがそんな事言うなんて…

シヨウさん「チューリップ潰したんだから300万用意したら今直ぐ辞めていいよ…」

…

今まで尽くして来て…

これかよ…

もう…

誰も…

信用出来ない…

オーさん「そうだな！300万用意して辞めればいいじゃんか！」

ヤクザじゃねえって言うときながらしてる事ヤクザじゃん…

…

…

『金なんか…払いませんよ…』

オーさん「じゃー1年頑張ってくれよ！」

…

…

シヨウさん「お前さっき金要らないって言ったよな？」

『…言いましたよ…』

シヨウさん「じゃー3月一杯まで給料無しで働くか1年間頑張るか  
どっちか選べよ!」

この発言で…

俺の心は…

完全に折れた…

1番信用していたシヨウさんに…

裏切られた…

…

…

…

涙が止まらない…

…

正直…このあと…何を話されたのか覚えてない。

何か沢山言ってたみたいだったけど…聞いていなかった…

ずっと…

考えていた…

俺は何だったんだろう

俺は利用されていただけだったんだ

…

…

そんな時…デリヘルの電話が鳴った。

客が入ったみたいだ。

オーさん「ふく！客が入ったから行って来い！じゃー話は1年間と  
言う事でいいな！」

『……………』

…

この日の仕事は何気に客が来て…夜は忙しかった。

終わったのは3時頃…

忙しかったのでショウさんも残って最後には俺とショウさんだけに  
なった。

なるべく…一緒に居たくない。

ショウさん「どーせ辞めるんだろ？1年も保たねえんだろ？」

また…話するの？

もう…

話したくない…

『お疲れ様でした…帰ります…』

…

本当はデンバリをしないといけなかったけど、俺に残っている気力は…

…

…

もう無かった。

帰りの車の中は…

ずっと…

泣いていた…

エーちゃんには裏切られ…

シヨウさんには裏切られ…

いつたい何処に俺の居場所はあるんだ？

とにかく休みたい…

何の問題無しに仕事を休めるのは何かないか？

一生懸命考えて…

向かって…

着いた場所は…

…

…

…

警察署だった…

もう夜中だったが、人は何人かいた。

『俺を…捕まえてくれないかな？』

警察「何したんだ？」

『まだ何も…とりあえず…2週間ぐらい入りたいから…何すれば入れる？強盗？』

警察「何で入りたいんだ？詳しく話してみる！」

『…話したくない…』

警察「じゃー無理だよ！」

『…疲れたから…』

警察「そうか…疲れたのか…でも警察署に来ても何もしてやれないぞ…本当に疲れて、もう駄目なら病院に行ってみろ！相談に乗ってくれるぞ！」

そうか…病院か…

『…ありがと…帰るわ…』

今日は遅いから朝にでも行こう…

行く場所もないし、俺は家に帰った。

家に帰ると居間に飯の支度がしてあって何時でも食べれる状態だった。

今日は本当に疲れたよ…

とりあえず…酒でも飲もう…

酒を飲むと…

今までの思い出がよみがえってきた…

チューリップを始めた頃の事…

シヨウさんに俺と一緒に仕事やらないか？と言われた事…

店がすげー盛り上がった事…

そして…

エーちゃんの事…

チューリップが潰れた事…

今日…裏切られた事…

また…涙が溢れ出した。

…

…

…

辛い…

早く…朝になつて欲しい…

…

俺の物音を聞いたのかエーちゃんが起きてきた。

エーちゃん「お疲れ様。」

エーちゃんの顔を見た瞬間…頭に血が登った！

こいつも…

…

…

裏切り者だ！

俺はテーブルあった皿を全部投げ付けた！

エーちゃんは驚いて逃げた。

誰も居ないのに俺は皿を…料理を投げ続け…

気が付いたら部屋一面ガラスの破片で一杯になっていた…

エーちゃんがドアの向こうから

エーちゃん「そろそろ終わったなか？」

『……………』

エーちゃん「じゃー片付けるよ！」

『…朝…病院行ってくるよ…』

エーちゃん「分かった。付いていくよ。」

### 地獄の日々3

…朝まで寝れなかった。

朝になり酒の匂いを漂わせながら病院に向かった。

病院は精神科、心療内科予約がないので凄く待つ事に…

…

…

やっと呼ばれて中に…

エーちゃんには外で待ってて貰った。

医者「今日はどうしました？」

『……………入院させてもらえませんか…………？』

医者「どうして？」

俺は今までの経緯を全て話した…

医者「なるほどね…残念だけどうちじゃ無理ね！ベット空いて無いし…」

『なら…他の病院紹介してもらえませんか？』

医者「しても入院させてくれる場所なんて無いよ！…」

『何ですか……』

医者「君の場合…危険要素が大きいからね。君が入院したら会社の人は確認しに来るかもしてないんでしょ？」

『確認しに来る可能性はありますけど……』

医者「他の患者さんに迷惑が掛かって困るから…」

『…分かりました…』

医者「薬は出しとくからね！」

…

…

駄目なのか…

もう…昼前だ…

仕事にいかないと…

『駄目だったよ……そろそろ仕事に行かないと…』

エーちゃん「シヨウさんには電話しといたよ！」

『何が？』

エーちゃん「今日は休みますって！」

『…マジで？何て言ってた？』

エーちゃん「ふくを電話に出せって！だから今入院の手続きしてるって言っといたよ！」

…

もう…後戻り出来ないか…

どっちにする…

裏切ったのは向こうだ…

なら…今日は休んで色々な病院周ろう。

1度家に帰ってネットで病院を探した。

何処に電話しても…予約制だったが1件だけ今日予約が取れた！

直ぐに向かって診察をつけたが相手にしてもらえなかった…

素で…

絶望した…

俺には居場所がない

休める場所がない…

誰も信用出来ない…

家に戻りまた病院を探し出した。

エーちゃん「私が探すとくからふくちゃん寝たら？」

…

…

そうしようかな…

俺は…生まれて初めて安定剤と睡眠薬って言う物を飲んだ…

直ぐに…ガツンときた。

俺はそのまま倒れるように寝始めた。

…

…

エーちゃん「ふくちゃん起きて！朝だよ！病院いこ！」

朝？昨日は夕方には寝ていたけどもう朝なの？

『…頭がぼーっとする…』

エーちゃん「初めて飲んだんでしょ？そりゃ利くよ！」

『…で…病院って？』

エーちゃん「予約が取れたから行こう！」

…

そうだった…

俺は仕事休んじゃったんだ…

もう考えたくないな…

早く病院に入院して

全てを忘りたい…

エーちゃん「今日が駄目でも明日も病院予約してあるから！」

『……………そう…』

…

…

結論から言うと2件周って2件共入院は無理だったが、入院させてくれそうな病院を教えてくれた…

早速行ってみる事に…

…

…

着いたらビックリ…

かなりボロボロ小学校みたいだった。

まあ入院させてくれるならいいや…

…

俺は紹介状があったのですんなり診察してもらえる事になった。

医者「…大体分かりました。良いですよ！入院して！」

!?

『本当ですか？』

医者「但し…部屋が1つしか空いて無いからその部屋でいいなら良いですよ！」

『何処でもいいですよ！』

医者「じゃーまずその部屋を見てきてください。それで決めましょうー！」

看護師に連れていかれ…まず病院の施設を案内された。

やっぱり…汚い病院だ。

何処見てもボロボロだし…本当に平気なのか？

そして…俺は目を疑った…

看護師「ここが入院した時の部屋になります。」

『…………この部屋にずっと居ないといけないんですか？』

看護師「そうですね。この部屋から出る事は出来ません…」

その部屋は他の病棟と違く、看護師や職員の廊下沿いにある。

何が嫌って…全面ガラス張り…

トイレも部屋に完備…敷居も無く、ただ床にポツンとあるだけ…

部屋の広さ5〜6畳ぐらい…

ほかは床に布団が敷いてあるだけの何にもない部屋だ…

『丸見えですけど…？』

看護師「そうですね…」

『……………』

看護師「1度先生の所に戻りましょう。」

…

…

本当に…あの部屋で生きていけるのか？

正直…かなり悩んだ…

エーちゃん「あれは…凄いね…」

『ああ…』

エーちゃん「明日も違う病院あるから保留にすれば？」

『……そうするよ…』

…

…

医者「どーでした？」

『…凄い部屋ですね…何か持ち込んだり出来ませんか？例えば…本とか…』

医者「駄目ですね…」

『じゃー煙草は？』

医者「駄目です。」

…

『じゃー明日までに決めるので保留にして貰えませんか？』

医者「分かりました。」

…

…

…

明日の病院が駄目なら…  
ここにしよう…

その日はまた帰って薬を飲んだが…今度は全然利かない！  
俺は結局寝れなかった…

…次の日…

予約してある病院に行ったが駄目だった。

本当に悩んだ…

あの空間で俺は何をしていればいいのか？

見られ続けて頭はおかしくならないか？

とか…

でも…今の苦痛に比べたら案外…楽かもしれないな…

よし…

『昨日の病院に入院するよ…』

エーちゃん「あそこに？…分かった…行こう…」

病院についた。

これでやっとゆっくり出来る…

少しの間…何も考えないでゆっくりしよう…

…

…

俺の名前が呼び出され、医者部屋の部屋へ通された。

『昨日の部屋で良いので入院させて貰えませんか？』

医者「昨日の部屋なら他の患者さんが入りましたよ！」

…

…

『そうですか…分かりました…』

医者「自宅療養しては如何ですか？」

「仕方ないですよね…分かりました。」

医者「じゃー強い薬を3日分出しときますので利かなかった直ぐに  
来てください。」

結局…自宅療養かよ…

最悪だ…

初日に入院しとけば良かったよ…

俺は携帯は持ち歩いて居なかった…

どーせ沢山電話が鳴るだろうし、オーさんやシヨウさんの名前自体  
も見たく無かったからだ。

家に着いて携帯を見ると…

やっぱり…シヨウさんやオーさんの電話で埋まっていた…

中には…チューリップの女の子からも着信が入ってる…

まだ…電話に出る訳にはいかないな…入院してる事になってるし…

エーちゃん「このまま仕事辞めちゃえば？」

…その発想は考えて無かったな…

でも俺が今辞めたら…

デリヘルは誰がやるんだ？

澤には無理だし…

やっぱり…俺しか居ないか…

…

…

…

でも…やりたくない…

もう…考えたくもない…

薬でも飲んでゆっくりしよう…

別に眠く無かったが薬を飲んだ。

でもこれが…

俺を本当に救ってくれた…

薬が効いてくると酷い状態になる…

歩けなくなる

喋れなくなる

時間の感覚が麻痺する

そして…何も考えなくなる…

これは俺にとって1番の安らぎだった…

薬が効いている時は安らぎなのだが、かなり危険でもある。例えば

…電話だ。

俺は一切電話には出なかった。友達の電話もだ…

友達からも裏切られたらどうしよう…

もしかしたらシヨウさんと一緒に居るんじゃないか？

電話に出たらシヨウさんにチクるんじゃないか？

誰も…友達さえも…

信用出来ない…

特にトツやリーの電話には絶対に出たく無かった…

勿論…トツやリーは家の電話も知っていたので電話は鳴ったが居留  
守っていた。

…

…

だが…薬が効いている時は…違う…

何も考えて無いから出てしまう時がある。

それは3日目の薬がバリバリ効いていた時だった。

…

…

あれ？携帯が鳴ってる…

リーからだ…

リー「もしもし！ふくちゃん？」

『あゝ…久し振り…』

リー「お前仕事どーしたの？」

『…よくわかんね…シヨウさんに…裏切られた…』

リー「何があったの？」

『あゝよくわかんね…けど…裏切られた…』

リー「お前酔っ払ってんの？」

『飲んで無いよ…』

リー「何やってんの？薬か？」

『病院から貰った薬…』

リー「本当に何があったんだよ！」

『わり…上手く話せないから…エーちゃんに変わるから聞いて…』

…

…

あとはエーちゃんに説明して貰った。

…

エーちゃん「電話は私が持つてるよ！薬飲んでる時は危ないよ！」

確かに…危ないな…

～次の日～

リーがトツに説明したと連絡が入った。

リーの話によるとトツにはかなり迷惑が掛かっていたみたいだった！

シヨウさんとオーさんから電話が入り…

「ふくと連絡とって」

と言われ、連絡をしたが俺は出ない…

意味が分からないトツ…

そしてチューリップに呼び出されて

また電話させられたが…

俺は出ない…

トツ「何があつたんですか？」

シヨウさん「バックレやがった！」

トツもこれにはかなりビックリしたらしい…

リーには

リー「お前トツの電話出ないで正解だったよ！」

トツは理由を知らなかったから俺を騙した訳ではない。

でもトツも理由を聞いたから協力してくれた…

それからトツはちよくちよく呼び出されて電話させられたが、リーを通じて俺の電話には出るなと教えてくれたので俺は助かった。

トツ本人には未だに聞いた事ないが、多分あの時、2人は俺の事をボロクソに言っていたと思う。

今この場を借りて言いますが、

2人共ありがとう

多分…リーとトツが居なければ今の俺はいなかったと思う。

…

…

これから説明していくが  
あの頃の俺は本当にどーかしていたよ…  
本当に病んでいた…

## 番外編 6

ヒロロン編

俺の友達にヒロロンと言う奴がいる。店の閉店する事が決まった後に電話があった。

ヒロロン「今から遊びに行っていていい？会社の人とだけど…」

『いいよー！じゃーまってるよー！』

ヒロロン「でさ…帰り送ってほしいんだけどいい？」

今日は俺も実家に帰るから近いし送ってやるか！

『今日は地元に戻るから別にいいよー！』

ヒロロン「悪いねー！」

『おう！気にすんな！』

今の会話に不自然はあっただろうか？

俺は未だに納得いってない…

ヒロロンが0時30分頃3人でやってきた。

ヒロロン「おつかれ！」

『お疲れーい!』

ヒロロン「今日さ…会社の人も居るからかなり安くして!」

『分かったいいよ!』

…

…

…

でも使い方が酷い…

流石にカバーしきれない。逆にある程度使うから多少まけてくれるって意味かな?

そして…

延長…

…

…

こいつらやるな!

そう俺に思わせたが…次の延長の時、事態はいつペンする…

『延長どーする?』

ヒロロン「そろそろ帰るのかな…」

『分かった…じゃー会計をここに置いてくよ！後で持ってきて！』

ヒロロン「分かった！」

…

…

…

裏に戻った俺をヒロロンは追ってきた…

ヒロロン「これ高すぎるだろ！」

『え？半額ぐらいまけてやったぞ！もうまけてやれない！だって2時間で3人でフードは好きな物頼む、カラオケは歌う、ドリンクは沢山飲ませる…本当だったら5万コースだぞ！それを2万でいいって言ってるんだ！ヒロロンの顔も充分立ててやっただろ！』

ヒロロン「1万ぐらいだと思ったよ…」

『スナックでも2万より高く付くぞ！』

全く舐めすぎ…

ヒロロン「じゃー今から皆送ってほしいんだけど…いい？」

『はい？ヒロロンだけじゃねーの？』

ヒロロン「ちげーよ！皆だよ！」

『はっ？お前舐めてんだろ？しかも今日はエーちゃんと帰るし、マ  
ーチだから皆乗れねーよ！』

ヒロロン「さっき送ってくれるって言ったじゃん！皆に伝えちゃっ  
たよ！」

『……分かったよ！送ってやるよ……で家は何処なんだよ？』

ヒロロン「1人は凄く近い！もう1人はちょっと遠い……」

『じゃー近い人送ったらエーちゃん迎えに戻って来るけどいいか？』

ヒロロン「分かった！」

つか…馬鹿にしすぎ…

…

…

…

1人を送った後直ぐに戻ってエーちゃんを乗せた…

次の人はタクシーで帰ったら1万円コースだ…

マジ気分が悪い…

最後にヒロロンを送ったが

ヒロロン「また飲みに行くよ！次はもつとまけてよ！」

…

…

ついに…キレた…

（でも友達だから軽く）

『もう…来なくていいよ…お前ふざけすぎ！テメーの顔は立ててやっただから少しは感謝しろよ！』

ヒロロン「なんか不味い事した？」

『…分からないなら別にいいよ！でも俺の店には来なくていいよ！じゃーな！』

地元の中で1番最低な客だった…

ちなみに今はヒロロンに違う事で怒り中…もう地元の飲み会は俺からは誘いません。

酒飲むと空気が読めなくなる奴いるよね？教えてやっても気が付かないし…ヒロロンがまさにそうでした…

客同士の喧嘩編1

大体の客は従業員や俺など喧嘩になりそうになっても手を出す奴は中々居ない…逆に言ったら相手側も揉めたら大変な事になるのを分かっている証拠だが、客同士にはそのような壁はない。しかも酔っ払い同士…お互いに引く事もない。

その日は常連の客が結構来ていてホールは満席だった。

時間もラスト…客もハケて残ったのは常連同士の2組が残った。

片方の客が2人組で結構若くてチンピラ（以後A）

もう片方は1人の客で親父（以後B）

客はこの2組…お互いに酔っ払っている…

なんかAとBで意気投合して盛り上がっている。そして途中Aが俺の元にやってきた。

A1「Bが奢ってくれて言うから会計あっちに回しといてよ！」

『大変申し訳ないのですがうちの店ではその様な事はやっておりません。トラブルの元になるので御了承ください。』

A1「分かったよ！」

なんか…めんどくさくなるような予感…

…

澤「店長！客同士で揉めています！」

『馬鹿か？俺に言う前に止めに入れよ！』

嫌な予感は的中…理由は知らんが勘弁してほしい…

ホールに着いた瞬間…

BにA1が蹴りを入れた…

顔面もろヒット…

間に合わなかった。Bはそのまま気絶…

A達もヤバいと思ったたらしく金を置いて急いで帰ろうとしたが…  
そんなの俺が逃がさねえ！

『澤！警察呼んどけ！あとBのほう頼んだ！』

澤「は…はい！」

『お客さん…何してるの！駄目だよ！気絶しちゃってるよ！』

他人事だから俺はキレてない。

時間を稼がないと…

『とりあえず何があったんですか？』

A1「あいつむかつくんだよ！生意気だし！」

『えっ？それだけ？』

A1「それだけだな！」

困った…話が続かない…

『でも暴力は駄目ですよ！俺が間に入りますから謝りませんか？』

A1「何で謝らないといけないんだよ！絶対謝らないよ！」

『まゝお客さんの言う事も分かりますけどね！俺がお客さんの立場なら俺も謝らないですよ！』

そろそろ来るな…

…

…

カラン！

来た！

A1「お前警察呼んだの？」

『お客さんの立場も分かりますけど俺の立場も分かってください。』

…

上手くいった

A 達はそのまま連れて逝かれた。まあ酔っ払い同士の喧嘩だから大  
事にならないだろう。

B のほうはその後直ぐに起きたが病院には行かずに警察に行った。

客同士の喧嘩は警察に任せるに限る！

巻き込まれたらめんどくさいしね！

つか…チューリップがある町が柄が悪いから揉め事が多いんだよ！  
トツのブルーでは揉め事なんてないしね…

## 客同士の喧嘩編 2

登場人物が多くて混乱するかも…

これは…最悪だった…

何が最悪って…

友達 VS 常連さんだからだ…

俺の友達には絶対に喧嘩すんなって言うてあるのだが…

その日はまた 0 時ぐらいに来て 2 時ぐらいまで安く飲ませて仕事  
が終わったら皆で飲み直そうって話だった…

この時間帯に重なったのが常連の 2 人組…

この客はかなりの常連で週 2 ～ 3 回来てしかも金を落とす。

それに比べて俺の友達は 10 人ぐらいで来やがった…

ホールでは問題なく過ごして居たのだ。

事件は…

…

…

外で起きた…

先に出たのは俺の友達で、外の近くのスペースで待っていてくれた。  
いた。

そして常連さんも帰る事になって外に出て酔っ払って路駐していた  
車に蹴りを入れたのだ…

友達1号「あれ？あいつ今ふくちゃんの車に蹴り入れてなかった？」

2号「マジで？」

1号「多分間違ない！」

2号「逝くべ！」

…

2号「おい！こら！テメー誰の車に蹴りいれてんだよ！」

常連「えっ？蹴って無いけど？」

2号「車へこんでるじゃねーかよ！」

常連「やってないって！」

この発言に2号ブチギレ…

それを見た3号が俺を呼びに来た！

3号「ふくちゃん！2号が常連と揉めてる！」

『マジで？』

速攻現場に向かったら…

もう常連は皆に囲まれて2号は常連の胸ぐらを掴んでる！

ヤバい！！

2号に関しては地元で1、2を争うぐらい…いかちい奴だ…  
キレたら誰も…止められない…

速攻間に入って止めた！

『待て待て！この人達はかなり大事なお客さんなんだ！何があった  
が知らねえけど止める！』

2号「こいつがふくちゃんの車蹴ってへこませたんだぞ！」

…

…

事情が変わった…

車を見ると…かなりへこんでる！

でも…このまま俺と揉めたらこの客は来なくなる…

それは…不味い…

仕方ねえ…泣くか…

『別にいいよ！このぐらい！だからこれでこの話はお終い！ほら…散れ散れ！』

常連「まあ俺はやってないけどね…」

この発言にまた2号がブチギレた…

いや…俺の友達全員がブチギレた…

皆で常連の胸ぐらや髪、服を掴んで暴れ出した…

止めに入ったけど収集つかず…青ざめた…

そこに近くの交番から警察が登場！

そりゃ10人以上が暴れたら警察も登場するわ！

警察「何してんだ！ストップ！ストップ！」

警察の登場に皆止まった。

常連は…服が破れて酷い事になってる…

1号が警察に事情を説明したが常連はまた否定…皆またブチギレ…

その状況に警察ブチギレ…

俺以外…皆ブチギレ…

『とりあえず…友達は店の入口で待ってる！あとは常連と話すから』

3号「とりあえず…下がろうぜ！」

警察「お前達はこの線から出て来るな！話が収まらない！」

とりあえず…落ち着いた所で澤を呼んで全員の送りを頼んだ…この状況に…俺もイライラしてきた…

警察「目撃者もいるんだ！あんまり話をややこしくするな！」

常連「してないって！」

…

友達は…線ギリギリで皆吠えてる。

常連「ちよつと店長2人で話さない？」

『…いいですよー！』

俺は本当に許すつもりだった。

『お客さん…俺は別にいいですよ！ただね…お客さんが俺に謝ってくれないと友達押さえきれないんですよ…』

常連は俺に腕を回して…呟いた…

常連「店長…良く思い出せよ…車は元々へこんでいたんだろ！」

ちよいとイラッとしたが、

『へこんで無いですよ！』

すると…

回した腕に力を入れてきてヘッドロックされた…

…

流石にこれには俺もブチギレた…

客には揉めたとしても絶対に胸ぐら掴んだりした事ないのに…  
胸ぐら掴んで

『何してんだ！コラア！』

友達…吠えまくり…

「殺れ！」

「ぶっ飛ばせ！」

「俺も混ぜろ！」

『悪いけどもう許せないから…』

常連「ごめん！ごめん！店長！俺が悪かったよ！」

『もう遅えよ…』

…  
警察「話はどうなった？」

『決裂しましたよ。』

警察「じゃー交番行こうか！」

仕方ないか…

…

…

警察「目撃者もいる…車に足跡残ってる…認めないなら今から実況見聞するぞ。いいのか？」

常連「分かった！分かった！弁償すればいいんだろ？でも相手はヤクザだし、ぼったくるんだろ？店長？」

『別にぼったくって欲しいならぼったくってやるよ！そういう態度どーにかならないの？』

常連「…幾ら払えば良いの？今ある現金でどーにかしてくれんなら全部認めるよ！」

つか…もうめんどくせーな…

この客はチューリップに100万以上落してるし…それで許してるか…

『いいですよ!』

常連「じゃーここに6万あるから…」

6万じゃ安いけどな…

『それで示談でいいよ!じゃーお巡りさん証人になって!書類書いたら帰るわ!』

警察は金のやりとりは入って来ないが、示談になった場合の証人にはなってくれるし書類も作ってくれる。

俺は書類にサインと拇印をしてさっさと帰った…

…

…

2号「どーなつた?」

『めんどくさいから示談した…この金で皆で飲みに行こうぜ!今日は俺の奢りね!』

…

居酒屋に行ったが…

6万が一瞬で飛んで逝った…

でも常連はまた店に顔を出してくれたので、上手く収まったのかな? 本当に最悪な出来事だったよ…

不思議ちゃん編

チューリップがオープンして1ヶ月が過ぎた頃1人の女の子が入店した。

募集の電話が鳴った時はすげー丁寧で年齢は19歳だったので面接はかなり楽しみだった。

（面接当日）

迎えに行った俺は愕然とした…

可愛くねえ…

体型は中肉中背なので別に良いのだが…

服装が…あ…怪しい…

Gパンなのだが…くるぶし見えていますから…

Gパンのサイズ相当違って、パツンパツンですから…

とりあえず店に連れて行き面接する事に…

シヨウさん「あれはアウトだろ…」

『ですね…』

シヨウさん「でも人数が欲しいからな…人数が揃うまで雇うか？」

当時の店は質より量だったのでとりあえず入店させる事にした。  
面接はごく普通に進んで行ってその日から入店と言う事になったの  
だが未経験と言うので、接客の練習をする事にした…

…

…

接客の練習中…会話が続かない！

『今いくつ？』

不思議ちゃん「19です…」

『学生？』

不思議ちゃん「何でそんな事聞くんですか？彼氏もいるし私困りま  
す！」

…

『…練習なんだけど…それと絶対に彼氏が居る事は言ったら駄目！』

不思議ちゃん「…そうなんですか？分かりました…」

『続けるよ？…学生なんだ！じゃー彼氏とか居るの？』

不思議ちゃん「…あの店長さんは私に気があるんですか？」

…

駄目だ…

終わってる…

何でそんな事を聞いてくるんだ？

マジ…教えるの大変そう…

練習の前にキャバクラが何なのか教えた。

不思議ちゃん「そういう場所なんですか。分かりました。」

『そう。じゃー次は接客マナーね！』

不思議ちゃん「はい…」

俺と不思議ちゃんの距離がだいぶ遠かったので近付いて接客中の距離を教えようとした…

俺が近付いた瞬間…

近付いた距離だけ逃げて座った…

…

もう一回チャレンジ！

また…近付いた瞬間近付いた距離だけ逃げて座った…

『何で逃げるの？』

不思議ちゃん「近付いて来たので…」

『残念だけど接客が出来ないようじゃ入店は出来ないよ？真面目にやってくれる？』

不思議ちゃん「本当に変な事しませんか？」

『しないよ！！』

不思議ちゃん「じゃー頑張ります…」

…

…

とりあえず接客最低限の事は教えた…

この時はみーちゃんが居たのでみーちゃんに教育係を頼んだ！でもこれが何気に上手く逝った！

2人組の客とかみーちゃんと不思議ちゃんに付けると大体延長が入る！

でも相変わらず不思議ちゃんの接客は微妙だがそこはみーちゃんの腕でカバーしていた…

客「不思議ちゃんは処女なの？」

不思議ちゃん「な…なんて事聞くんですか！」

みーちゃん「止めて！不思議ちゃんは純粹なんだから汚さないで！ねっ！不思議ちゃん！」

流石みーちゃん…上手い躲し方だ！

出勤する時もおかしな態度を取る…

普通なら「お早うございます」と入ってくるのだが、不思議ちゃんは1度通り過ぎて壁から顔だけ出して「お早うございます。」と言うのだ！ちゃんと注意をして直させたが俺も不思議な行動にイライラしていた。

不思議な行動を言い出したらキリがないが1番困ったのは…送りの時だ…

仕事も終わり送る時…

不思議ちゃん「私…歩いて帰りますから…」

女の子一同ビツクリ！

『家遠いよね？歩いて帰ったら1時間以上掛かるし、危ないから送っていくよ！』

不思議ちゃん「家とか知って何するつもりですか？」

『何もしないよ！』

みーちゃん「平気だよ！店長は変な人だけどそこまで変な人じゃないから！」

みーちゃん…それ酷くね？

しぶしぶ不思議ちゃんも乗り込んで送る事になった。

…

入店から1ヶ月…

女の子が揃い出したのでクビにする事にした。

『不思議ちゃん！ちよつと良いかな？』

不思議ちゃん「はい…」

『入店して1ヶ月経ったけど接客態度も変わらないし、指名も1度もとつて無いから明日から来なくていいよ！』

不思議ちゃん「はい…分かりました…店長さんは私の事好きだったみたいですけど私は好きじゃありませんから…」

『残念だけど俺も好きじゃないよ！結婚してるし…』

不思議ちゃん「結婚していて私の事狙っていたんですか？」

『…もう…どーでもいいよ…』

やっとクビに出来た…

長い道のりだったよ…

不思議ちゃんはワキガだったので貸していた洋服は速攻クリーニングに出した。

後から聞いた話によると…好みの男性には

不思議ちゃん「私の3番目の彼氏になりませんか？」

と聞いていたようだ…

トツも言われたらしい。  
俺は言われなかったが…

## 心の病

人間努力すればするほど挫折した時の心のダメージは大きいものだ。

俺は1年4ヶ月しか働いてないが（スカウト期間を入れたらもつと）休んだ日数は7日間。

ぐっすり寝れる時なんてほぼ無い。

1日の労働時間は13〜20時間ぐらい。勿論もつと短い時もあるが本当に稀。逆に寝ないで仕事のほうがかかり多かった。

しかも給料は安い。

ここまで読めば分かると思うがこの他にもかなり尽くしてきた。

名義貸し多数（話には出てないがシヨウさんの知り合いの会社に名義を貸して働いている事になってたりとか…この話は後のストーリーで出てきます。）

シヨウさんに頼まれた事はほとんどこなしてきた…

小説に書けないような事まで…色々…

俺の事知ってる人には

「何でそこまで頑張れるの？」

とか良く言われた。

今の自分でも思う。過去の自分に会えたら『何でそんなに頑張れるの?』って聞きたいぐらい尽くしてきた。

裏切られた時の俺の心境 + エーちゃんの事件

この時の俺の心は半端じゃないダメージを受けていた。

毎日家に居た。外には一步も出ない。

勿論夜行性なので寝るのは朝方で起きるのは昼頃…  
なるべく家族にも会わないように部屋からも出なかった。

そんな生活が10日ほど過ぎた時エーちゃんの携帯にシヨウさんから電話が入った。

シヨウさん「もう辞めても良いから鍵だけ持って来て!」

と言ったのだ…

これには俺もビックリした。

辞めても良いって言われて俺の心もやっと開放された…

これで自由になれる…

もう考えなくて済む…

でも…

1度チューリップに行かないといけない…

俺は行きたくない。

2度と顔を見たくもない。

郵便で送るか？

どーする？

するとエーちゃんが

エーちゃん「私が持つて行くよ！約束しちゃったから！」

『……………』

それは危な過ぎるでしょ？

『危ないんじゃない？』

エーちゃん「平気だよ！鍵返すだけだしね！それに荷物もあるでしょ？持つて帰つてくるよ！」

『シヨウさんは信用出来ないよ！』

エーちゃん「大丈夫だから！さっさと終わらせちゃおう！じゃー今から行つてくるね！」

…

…

本当に平気なのか？

エーちゃんから今から入ると電話が入った。

それから…約1時間…

遅い…

…

そんな時やつと電話が入った。

エーちゃん「荷物とつてきたよ！」

『遅かったじゃん。平気だった？』

エーちゃん「平気だったよ！ちょっと説教されたけどね。ちゃんと辞めれたよ！良かったね！」

…

これで肩の荷が降りて俺の体調も良くなると思ったが…

悪化する一方だった…

寝れない…

人と会話出来ない…

薬も効かなくなってきた…

ますます人間不審になってきた。

親さえも信用出来ない。

誰も俺の事を分かってくれない…

こんな気持ちになると薬に頼るのだが効かなくなってきたので病院に行って薬を変えて貰った。

どんどん薬が強くなる。

薬が強くなればなるほど副作用も強くなる。

薬を飲んでない時は動くのがだるい。だるい割りには空を飛んでるようにフラフラする…

でも飲まない不安になるので飲んでしまう。

唯一信用出来るのは薬だけだった。

そんな状況の時…

親父の一言で…

事件が起きた…

俺はその日珍しく家族で夕飯を食った。

いつもは一人で食っているのだがその日はたまたま気分が乗っていたのだ…

楽しく食事をしていたが、何故か俺の仕事の話になっていった…

残念だがこういう時は仕事の話などしてほしくない。

また思い出してしまうからだ。

『…その話は…辞めてくれない？気分が悪い…』

親父「そろそろ仕事探したらどーだ？」

『……………』

親父「明日あたり職安いったら？」

『……………』

親父「ふく…………お前考えが甘え過ぎなんじゃないか？」

この一言で…

俺は食うのを止めた。

結局…誰も…分かってくれない…

病んでる人間にとって1番辛い言葉だった。

こついう状況になった事が無い人には分からないと思う。

経験者が言うから間違いないが、俺の場合は…

誰かに分かってもらいたい…

俺がどんなに頑張ってきたか…

どんなに自分を犠牲にしてきたか…

人を信用出来ない世界で生きてきた俺にとって、唯一信用出来る人達に裏切られた気持ちを…

分かってもらいたいだけ…

正直…血縁でも他人にも分からないよね…

そんな気持ち…

俺の立場になって初めて分かるような事だもんね。

でも当時の俺にとってこの一言は重くのし掛かった。

…

…

…

分かってくれない奴は…

皆…敵だ…

俺は何も言わずに自分の部屋に戻った。

親にまで分かってもらえない…

この心境を分かってくれる人は居ない…

俺は1人ぼっちだ…

涙が止まらない。

もう…

生きるのに疲れた…

楽になりたい…

…

…

俺は出されていた薬を全て飲んだ。

1ヶ月分出されていた2種類と残っていた薬全部で80〜90錠。

飲み終わったあと腹がパンパンだったよ。

…

…

俺…このまま死んじゃうのかな？

世話になった人に手紙でも書こう…か…

まず…息子に書いた。

友達を大事にしる

借金はするな

女を大事にしる

俺みたいになるな

もし…挫折する事があつたら俺に話掛ける。俺だけはお前を分かつてやれる…とか

次はエーちゃん

ありがとう。

でも憎んでいます。

息子を宜しく。

本当はもっと長いけど…

次は…

シヨウさんに書いた。

すいませんでした。

バツクレた事は凄く後悔してます。

でも…何で…裏切つたんですか？

ただ…利用していただけなんですか？

俺はシヨウさんと一緒に店を出したかったです…

それが出来なくなったのはバツクレた俺のせいですよ？

今まで本当にお世話になりました。有難う御座いました。

…

…

ここらへんから薬が効き出してきた。

最後に友達に手紙を書こうとした所で電話がなった…

友達2号からだ…

いつもなら出ないが、この時に限っては無性に話がしたくて電話に出た…

友達2号「おう！久し振り！リーから聞いたけど大丈夫か？」

『大丈夫じゃないよ。もう疲れた。楽になりたい。』

友達2号「何言ってるんだよ！変な事すんなよ？」

『もう…遅いな…』

友達2号「何した？」

『持ってた薬全部飲んだ…』

友達2「お前…今から行くから待ってる！」

…

…

良い奴だな…

多分友達2号が家に電話したんだろう…エーちゃんが部屋にやっってきた…

エーちゃん「ふくちゃん何したの？」

『………薬全部飲んだだけ…今お前とは話したく無いから出ていけよ……』

…

この会話を最後に残念ながらあまり覚えてない。

所々は覚えているのだが時間の感覚がない為誰が何時来たとかよく分からない。

でも気が付いたら友達2号が来てくれていた…

この頃には友達の手紙は書き終わっていた。

友達2号「全部話してみるよ。話してスッキリしちゃえよ。」

多分俺は友達と久し振りに会えた事が嬉しかったんだろっ…

『酒でも飲もうよ!』

全然話が噛合わない。。。。

変な風にテンションが高かった。

## 心の病 2

なんだろうね…

ただ友達に会えただけなのに…

スッキリした…

多分色々話をしたと思うけどあまり覚えてない。

気が付いたら仕事があるのに駆け付けてくれたリーがいて…トツもいて…

何処に向かうのか分からないが皆に連れて行かれて外に出た。

着いたのは病院だった…

こっから何も覚えてない…

後から聞いた話によると、胃の洗浄をして点滴を打っただけらしい。

だが…相手は…俺だ…

素直に胃の洗浄や点滴をやらせる筈が無かった。

俺は…暴れたらしい…

医者に痰を吐いたり…

医者のROLEXを壊そうとしたり…  
点滴を自分で抜いて帰ろうとしたり…  
その度に皆が押さえ付けてくれた。

流石…俺と言っべきか…

皆…すまん…

本当に迷惑を掛けた。

本当に何も覚えてない。

何時帰ったんだろうね？

次の日起きた後…すげーだるかった…

よく自殺しようとしてる人に「何で？」とか「頑張れよ！」とか「  
そんぐらいで何考えてるの？」って言う人居るけど…

それで立ち上がれる人って…そこまで落ちて無いんだよね。

まだ頑張れる気力がある人なんだよ。

もつと落ちた人には逆効果だよ。

頑張れないから悩んで…自殺も躊躇しない。頑張れてたら悩む必要  
ないんだから…

落ち込んで…

頑張れない気持ちを分かって欲しくて…

でも話したくないから相手は分からなくて…

複雑だよね。

もし知り合いがそうだった時には、話を聞いてあげてください。

それで、「辛かったんだね。」「頑張ったんだね。」「って言ってあげてください。

もしかしたら「テーマに何が分かるんだよ。」「って言われるかもしれないけど、「君が頑張った事と辛かった事は分かるよ。」「って言えばその人も心を開くと思いますよ。

俺はそうでした。

薬を飲んで自殺未遂した後は多少スッキリした。

でも薬がないと不安だから病院に貰いに行ったら

すげー怒られた。

マジ恐かったよ…

精神科の先生って目が怖いよね…

思わず目を逸らしちゃったよ…

あの件以来俺は少しずつではあるが体調も落ち着いてきた。

分かってくれなくても心配してくれる友達が居る事がとても嬉しかった。

だがまだ働けるほど回復してない為、俺の代わりにエーちゃんが働いてくれた。俺は…

昼間は散歩に出たり、  
息子と軽く遊んだり、  
映画を借りて見たり…と生活をしていた。

そんな時…

エーちゃん「気分転換にデイズニーランドでも行かない？」

少し悩んだが、

『…いいよ。』

行く事にした。

〜デイズニーランド当日〜

俺と息子は助手席で運転はエーちゃんだ！勿論行くなら朝から閉店まで居たい！息子にとって初デイズニーだからかなり楽しみだ！

デイズニーランドでは思った通りの反応をしてくれた！親としても嬉しいかぎりだ！

夕方…息子が昼寝している間に俺も少し休憩を取る為、喫煙所で煙草を吸っていた時…気が付いた！

ベビーカーに乗っている息子の様子が変だ…

最近…よく目をかいている。

目が痒いのか？

目に異変がないか見てみたが特に異常は無さそうだ。

今度はまつ毛を引っ張ってみた…

…

…

…

！？

なんだこれ！！！！

少し話がさかのぼるが…

エーちゃんが俺に内緒で風俗で働いた後の話だ…

原因はどっちか分からないが、1ヶ月以上経った辺りからお互い股間が痒い…

いや…股間というより…毛が痒い。

最初はただ痒いだけかと思っていたがムズムズが尋常じゃない！  
感覚的には

『今絶対に動いた！何かいる！』

って感じ…

一度ムズムズした場所を見てみたら…

いた…

そう。毛ジラミだ。

よく見たら…毛に卵らしき物が沢山付いている…

青ざめたよ…マジで…

厄介だったのは卵ね！奴等は薬で殺しても卵は死なないからまた復活するし…

退治すのに時間が掛かるから俺もエーちゃんも…

丸坊主にしたよ…

しかも…シモの毛だけじゃなく脇毛も。頭の毛は薬で直した。

つか…剃った後、毛が生えて来る時が…一番凄く痒い！

下着も全部捨てたんだけどね。治るのに時間掛かった。

そんな経緯があった。

それで息子のまつ毛を引つ張つた話に戻る…

まつ毛を引つ張つたら…

いやがった！5〜6匹！

ビックリしたよ！

良く見ると卵まであったので爪で全部とつた！

そして…反対のまつ毛にも…5〜6匹！

そりゃ痒い訳だよ！まだ上手く話せないから発見が遅れたけど、まつ毛って…

流石の俺も沢山人が居たのに

『うおっ！…！』

つて声あげちゃつたよ！

『え…エーちゃん！み…見て！見て！これ！』

エーちゃん「なにこれ！」

発狂した声

周りの人もかなり注目！

いや〜エーちゃんのリアクションも分かるよ！

自分の息子のまつ毛に虫が住んでいたら誰でも発狂するよ！

とりあえず…その日はディズニーランドだしそれ以上は退治出来なかった。

多分…まつ毛に居るって事は頭にもいるはず！

〜次の日〜

バリカンを用意してマルコメ君にした！

つか…やっぱり…居た！

バリカンを5厘で掛けた為、奴等も毛穴に隠れても逃げられ無かったのだろっ…

いたる所で潰れたり、半分になってたりして死んでいた…

痒かったよな…長い間良く頑張ったよ…

移った原因は多分布団だな。

その日の内に布団も洗って、部屋にもバルサン焚いた。

全く…酷い目にあっただよ…

皆も毛ジラミには気を付けよう！  
性病の中でも最悪な病気だよ！

久し振りの遠出にスッキリしたのか元気が出てきた！

だが相変わらず薬は飲んでいるが…

気が付いたらもう年も明けて正月になっていた…

正月は久し振りに酒を飲んだ！体調が回復している証拠だ！

いや…むしろ飲み過ぎたよ。金粉入りの日本酒を何升飲んだんだろ！

でも久し振りの酒は上手かったな…

気分も良くて

そろそろ働こうかな

そう思えた。

でも知らない人と仕事するのは嫌だし…辛い仕事はしたくない。何  
とかならないかな？

かと言ってもう水商売はしたくないからリーの所には戻りたくない  
し…親父にでも相談してみるか…

『親父！何か良い仕事ない？』

親父「ん？じゃー俺の仕事やってみるか？」

『うん…考えておく。』

親父の仕事か…

考えたこと無かったな…

何時までもエーちゃんに食わせて貰って何かわりーし…

悩むな…

もうちょい考えるか…

まゝ考えた所でプレッシャーが掛かるよね！

病んでるとはいえ、結婚もしてるのに子供も居るのに大黒柱が働かないで嫁に食わせて貰ってるって…

最近は調子良いし、親父の会社で働いてもいいかな…

ここから昼間の仕事をする為にまず夜行性を直す努力をし始めた！

夜行性を直すのは寝るのを1日我慢して夜寝れば直る！後は薬だ…

こっちのほうじゃ辛かったな…

薬を使わないと不安になるし、不安になるとまた鬱になる。

もう薬に関しては、ゆっくり辞める事にした。無理に辞めて不安に襲われたら辛いしね…

とりあえず…昼間の仕事をやる準備は揃った！

でも親父の仕事をやるって逃げ道みたいで嫌だったけどリハビリが  
てら1度働いて次の仕事に弾みを付ける事にした！

そして親父に働くと伝えて2月から働く事になった…

まゝエーちゃんはまだ働くのは先にしたらと心配していたが…

本当にエーちゃんは良い女だよ。この時はまだ全然エーちゃん  
の気持ちを考えて事など無かった…

もっと考えてやるべきだったよ…

## 昼間の仕事

俺は2月から通いだした。

通勤時間は実家から車で片道約1時間半掛かるが朝の景色は何気に新鮮だった。

でも最初だけね…毎日通うと道も混んでるし、人も多いしイライラするよね…

仕事内容はちよいと特殊だ。誰もが使わないような  $\sin$   $\cos$   $\tan$  (サイン)  $\cot$  (コサイン)  $\tan$  ジェント) も使うし、元素記号も使う…余り詳しく書かないが、化学の世界で物を作り、加工して企業に売っている。

まゝ一言で言えば職人だ。

しかも短大は出て無いが、俺がいた科の実習はこの仕事をやる上で基礎を教えていたので俺は全くの初心者では無かった。

仕事初日…俺はビックリした…  
仕事内容が楽すぎる…

『えっ?もう終わりですか?』

上司「終わりだよ!」

昼間の仕事ってこんなに楽なのか？

『いつもこんな作業の流れですか？』

上司「そうだよ！」

…

…

マジかよ…

水商売に比べたらあまりにもやり甲斐が無い…

こんなので本当に給料貰って良いのか？思っぐらいだ。

給料は18万スタート。週休2日、ボーナス2回、社会保険…

でも…正直…まだ仕事するにはまだ早かった。

体力的には問題ないのだが、精神的に疲れてくる…

仕事がやりたくなつたのはただ身体の調子が良かっただけだった。

夜は寝れなくなるし、薬も止まらない…

そう簡単に夜行性が治る訳がない…

しかも…薬が次の日まで残ってしまつので非常に厄介だ。

仕事があるのに寝れないプレッシャー

薬を飲むと次の日に残るプレッシャー

そのストレスは全部…

エーちゃんに向けられていた…

…

この頃の俺は鬱だし、今の俺にも何を考えていたのか分からないが、  
全ての原因はエーちゃんだと思いついていたのだろう…

しかし…エーはそれさえも受け止めてくれていた。

凄く優しいさだよ。

そんな状況で…

また…事件が起きた…

…

上司「ふくちゃん！君さ社会保険入れないよ？どーいう事？」

『マジですか？』

上司「すでに加入してるって！」

『…ちよつと調べてみます…』

素で混乱した…

つまり…俺が別の会社で働いているって事だ…

俺はここに居るのに？

名前を語られているのか？

訳が分からん…

次の日…休みを貰って調べに行く事に…

～次の日～

社会保険の事務所に調べに行った。

事務所の人に説明すると…

事務員「プライバシーの保護の為教える事は出来ません。」

「プライバシーの保護って…俺本人だけど？」

免許を見せたが…怪しんでいる…

そりゃ…そうだ…

働いてない会社で働いている事になっている。って言うても信用出来る訳がない…

「これって…非常に不味い問題なんじゃないの？本人がここに居るんだよ？社会保険の誰かが関与してるって事はないの？それとも社

会保険のミスかい？あなただけで判断出来る状況なら別にいいけど…これはあなたで判断出来ないケースじゃない？出来ないなら上司呼んで来てくれる？』

事務員「しよ…少々お待ちください…」

多分…社会保険のミスだろう…

事務上司「お待たせいたしました。」

『話は聞いたと思うけど…俺は何処で働いている事になってるの？』

事務上司「…って会社で御勤めされた事ありませんか？」

『無いよ…そつちの間違いとかじゃなくて？』

事務上司「それは無いと思います。」

『どんな仕事なの？』

事務上司「芸能プロダクションですな…」

芸能プロダクション？

…

…

しまった…

これ…シヨウさん関係だ…

…

この芸能プロダクションっていうのは海外からタレント（女の子）を連れて来てフィリピンパブとかに働かせる会社だ…

働いている日数が長ければ長いほどタレントを日本に連れてこれる…

2〜3年後にフィリピンパブをオープンさせるからその準備に名義だけ芸能プロダクションに置けって言われてたんだ…

どーしょ…

事務上司「知りませんか？」

『えっ…分かりませんね…』

どーしょ…とりあえず電話番号教えてもらうか…

『じゃー後は自分で電話して聞いてみますので連絡先と代表者の名前教えてもらえますか？』

…

…

連絡しないと不味いよな…

1度電話してみるか…

とりあえず…揉めてシヨウさんに迷惑が掛からない様にしないと…

…

エーちゃんも心配していたので事情を説明した…

エーちゃん「なるほど…」

『ちよつと電話してみる。』

エーちゃん「いいよ！私が電話するー！」

『話がこじれたら不味いから俺が電話するよ…』

エーちゃん「ふくちゃんの方が危ないよ！私が電話するから休んでなよー！」

『…分かった…じゃー任せるよ…』

何か…一気にどん底まで落とされた気分だった…

やっと開放されたと思ったのに、まだ付きまとうの？

自由にしてくれよ。

…

その後直ぐエーちゃんが電話してくれた。

代表に事情を話すと向こうも分かってくれたみたいで直ぐに名前を

消してくれると言ってくれた。

エーちゃんは安心してたが…

俺はまだ鬱なので気分が落ちたら這い上がるのに時間が掛かる。

鬱って最悪だよ…

まゝ今考えたらこんない会社ないけどね！

俺の代わりに税金払って…年金払って…1年と数ヶ月…  
有り難い話だよ！

何で当時はこうやって考え無かったのか不思議だ！

まゝそれだけ考える余裕が無かったんだね。

鬱の俺はエーちゃんに必要以上迫った。仕事を辞めさせて俺の会社の近くの病院に勤めさせたり…

自分も何を求めているか分からない。

エーちゃんが新しい職場に慣れ始めた頃エーちゃんの様子がおかしくなってきた。

俺からの嫉妬、束縛…多分限界に達していたんだろう…

態度が冷たくなってきた。

エーちゃんに用事が無ければ会話もする事がない…

お互いに鬱だったかもしれない。

…  
「エーちゃん」今度の金曜日実家に泊まりにいくよ！土曜日の昼間に  
は帰るから息子宜しく！」

『分かった…』

なんとなく…怪しかった…

いや…鬱だから気になったかもしれない。

俺はエーちゃんの携帯を覗いてみた。

…

…

知らないメアドに送信履歴がある…

「先生は今度の金曜日空いてます？金曜日勉強教えてもらってもいい  
ですか？」

…

…

…

またか…

『これ何？またかい？』

エーちゃん「……………」

『実家に帰るのは嘘だったんだね…』

エーちゃん「だってそうしないとぶくちゃん駄目って言うし、信用してくれないし…」

『このメアドは？どっかにメモしてあるの？』

エーちゃん「覚えた。」

『ふーん…。それつてもつと怪しくないか？こんな事する奴だから信用出来ないんだよ。』

エーちゃん「怪しくないよ。何もしてないし…」

『何て返信があったの？』

エーちゃん「何もない。」

『それで行くつもりだったの？』

エーちゃん「うん…」

『話聞いてても関係が見えてこないな。会って話しても平気でしょう？何も無いんだし、今回は相手がいるんだし…』

別に会うつもりはないけど少し牽制してみた。

エーちゃん「分かった。会ってみれば分かると思うよ！何も関係無  
いって！むしろ会ってくれたほうがいいや！」

えっ？そんな反応かよ！

会うつもりはないのに…

めんどくさい事言っちゃったな。

## 昼間の仕事2

…どーしょ…

今回は別にキレてないし…

会っても話す事ねーよ…

でもエーちゃん…やけにムキになってるな。なんかありそうな気がするんだけどな…

会うなら会って話聞いてみるか…

…

相手も忙しいので土曜日の午後に病院に行って話す事にした。

相手にとっても迷惑な話だ。

普通なら相手にしないし、話もしてくれないはず…

でもよほど良い人なのだろう。

アポなしで行って話をしてくれた。

先生「初めまして。話があるって聞いたけど？」

『そんな大事な話って訳じゃないですけど…昨日の金曜日にエーちゃんとか何か約束しましたか？メールを送ったはずなんですけど…』

先生「メールは入ってきたよ。でも約束はしてないな…」

『じゃあエーちゃんが一方的にって事ですね？』

先生「そうだね。でも俺も君の立場なら気になるよ。」

『はは…俺の場合は違いますよ…俺頭おかしいだけです…俺も何がしたいのか分からないし、いつも嫌な方向に物事がいつて……』

…

…

『今日はお忙しい所すいませんでした。有難う御座います。』

先生「気にしないでいいよ！頑張って！」

…

何してんだる俺…

本当に頭がおかしいな…

自分でも頭がおかしいって分かっていた。何でこう考えるのか？とか自分で分かっているながらも、

まだ鬱が影響して、裏切られる前に予防しないと怖い…が頭から離れない。自分でも否定はしてるんだが考えている事と行動はバラバラになっていった。

多分…この時は薬をほとんど飲んで無かったからかもしれない。

でも飲んでいたらこんな馬鹿な行動はしなかっただろう。

俺の人生の汚点だよ…

その後のエーちゃんは外来から手術室に移動になった。あの先生の所だ。

エーちゃんも手術室は初めてだったので家で勉強を沢山していた。

でも俺的にはかなり不安だった…

手術室は時間が読めないのだから帰りが遅くなったりするし、何よりあの先生の専属の助手なので仕事のほとんどを先生と過ごす…

そんな日々が1ヶ月ほど過ぎた。

なんか…エーちゃんが仕事に行くのを楽しんでいるように見える…

口では帰りも遅くなるのだからかなり文句言っているが行動とは違っていた。

それは仕事内容を見ていない俺でさえ分かるのだから職場の看護師達からみたら丸分かりだろう。

エーちゃん「今日仕事終わったら会議があるから遅くなる。」

『なんの会議？』

エーちゃん「わからないけど看護師同士で話し合いするみたい。」

『分かった…』

帰りが遅くなるのは嫌だが仕方ない。

会議の日…エーちゃんは9時ぐらいに帰ってきた。

『どんな事話たの？』

エーちゃん「最悪だったよ…何か私だけ患者扱いだし…」

『なんで？』

エーちゃん「私が先生の助手してるのが気に入らないらしい…」

『…それで？』

エーちゃん「他の看護師から見ると私は先生にベタベタしてるって！いつも一緒にいるって！別にベタベタしてないしさ！助手なんだから一緒にいるのは仕方ないじゃん！」

『ふーん。』

エーちゃん「ムカついたから手術室から違う場所に移動してもらおう事にした。」

『そうなんだ…』

エーちゃん「その話をママにしたら…ママは私が先生の事を好きなんじゃないかって言うし…酷くない？」

『そうかな？俺やお母さんが見てもそう思うのに職場の人が見たらバレバレなんじゃないの？普通に仕事してたらそんな事言われなくてしょ…文句言われるほど…ベタベタしてるんだよ。俺の時と一緒に好きなのに気が付いて無いんじゃない？』

その一言を言ったら何も言わずにエーちゃんはうつむいてしまった。

俺もそれ以上は何も言わなかった。

多分…凶星だったのだろう…

俺も別にショックは受けなかった。なんとなく分かっていたし…もうエーちゃんの事を好きじゃ無かったのかもしれない…

その後のエーちゃんは看護師とも仲が悪く居場所がない為辞める事を決意した。

エーちゃんも誰からも信用されないから寂しかったと思うよ。

なんの相談もなく、自分で決めて…

そして…

…

…

その日の朝俺とエーちゃんは仕事場が近いのでいつものようにエーちゃんを病院の前まで送った。

『着いたよ。』

エーちゃん「ありがとう！」

…

…

エーちゃん「ふくちゃんごめんね。」

『何がごめんなの？』

エーちゃん「何でもないよ！」

なんとなく不思議な気持ちだった…

何で謝るんだろ？

何か…ありそうだな…

俺はなんとなく…昼休みの時実家に電話してみた…

母「エーちゃん帰ってるわよ！あんた何したの？荷物まとめてるわよ！」

…

やっぱりな……

いつかこうなると思っていたけど…

…

こういふ事が…

あの「ごめんね」には意味があったんだ…

エーちゃんに電話を代わって貰った。

『何でいんの？』

エーちゃん「ふくちゃんに送って貰ってそのまま辞めてきた。」

『何で？』

エーちゃん「もう疲れたよ。全部……。私は何処まで我慢すればいいの？もう限界だよ…。」

『…で？荷物まとめてんの？』

エーちゃん「もう…出て行くよ。」

『息子はどうすんの？』

エーちゃん「勿論連れて行くよ…」

…

それは…困る…

『いや…無理無理。連れて行くなつて!』

エーちゃん「私も無理だから!」

…

…

『じゃー今帰るから息子の事話そうよ。』

エーちゃん「分かった…」

今息子を連れて行かれたら立ち直れない…

どーしょ…

どーにか息子と一緒になれないかな…

…

…

でも…エーちゃんも同じ気持ちなのかな?

なら多分エーちゃんも引かないだろうな…

帰る間約1時間半…

その間ずっと考えていた。

最初のうちは

あの馬鹿は何考えてるのか？

限界だろーが何だろーが我慢するって約束したんだから我慢しろよ！

息子を連れて行く何て許さない！

とか考えていたが時間がある為少しづつ冷静になってきて…

あいつも限界だけど俺の方が限界なんだ！から…

あいつも限界なのか…

分かってやれなかったな…

追い詰めたのは俺なのか？

俺が…悪いな…

あいつの気持ち…考えた事無かった…

きつと…俺みたいにエーちゃんも辛かったんだよ…

いつもは長い道のりもこの時だけは短かった。いつの間にか着いていた。

1時間半あったのでエーちゃんはもう車に荷物を運び終わって部屋の中は綺麗な状態だった。

『ただいま。』

エーちゃん「おかえり。」

…

…

色々話す事あるのに…

ずっと無言だった。

どのくらい無言だったかな…あまり良く覚えてないが、次に口を開いたのはエーちゃんだった…

エーちゃん「話す事無いなら…そろそろ出て行くよ…」

『…息子連れていくんだろ？』

エーちゃん「うん…」。

『色々考えたけどやっぱり無理だ…連れていくな。』

エーちゃん「私も無理!」

…

その後…2時間ぐらいは息子の事を話しただろうか…

お互いに折れず…話は平行線のまま、また無言になって…

話疲れてエーちゃんも俺も寝てしまい、気が付いたら夜になっていた…

結局その日は出て行かずまた話合いをしてから出て行く事になった…

でも俺もエーちゃんも何回話しても同じ事の繰り返しで折れず…

エーちゃん「何か…幾ら話しても纏まらないね…」

『いや…多分ずっと纏まらないだろ。』

エーちゃん「はあ…考えるのもめんどくさくなってきた…もう出て行くのは辞めるよ…」

『…分かった…』

つまらない話だが、俺にとつたらエーちゃんの気持ちを初めて考えた良い出来事だった…

そしてこの話合いで得た物が今後の俺を変えるきっかけになって行くのであった…

## 番外編 7

俺とトツ編

まだトツが働いている頃の話。

オニキスの古いステカンがビルの屋上に放置してあった…

それをビルのオーナーが文句を言ってきたので片付ける事になったのだが…

その数…およそ1000枚

しかも纏まっているなら片付けるのも楽なのだが、屋上中に無造作に散らばっている…

いや…屋上に向かう階段からステカンが埋まってる！

そして…その仕事を任されたのが…俺とトツだ！

処分っていつでも電話番号も乗ってるし捨てる事は出来ない！かと言って業者に頼んだら凄い額になりそうだ…

『トツどーする？』

トツ「うーん…番号と名前さえ分からなければ問題ないんでしょ？」

『だな…あれしかないか？』

トツ「冬だしね…いいんじゃないのか？後は場所だけだな…」

『場所なら任せろ！エーちゃんの実家の近くに良い場所がある！』

…

…

その日の仕事が終わった後早速作業に取り掛かった！

まずはトツがビルの下にいて歩行者が居ないか確認する。

俺が上から投げ落とす。

下でトツが拾って端に纏める。

ある程度集まったら車に詰める。

大体の作業はこんな感じだ。

勿論1日じゃ終わらないし、初日は軽めにしといた。

『さて…車にも詰めたし出発するか！』

…

『ここらへんなんだけど…ちょい探索してみるか？』

トツ「確かに…良い場所だけど…暗過ぎるね…何も見えねえ！」

『あそこの橋の下でやるか!』

∴

場所は川に掛かっている大きな橋の下∴

車で降りるのも大変だ!

∴

『よし!やってみるか!準備すんぞ!』

∴

∴

ステカンを捨てる事が出来ないので俺達は燃やす事にしたのだ!

つか∴それしかない∴

時期は冬だし、

場所は川だし、

警察が来たって焚き火してましたと誤魔化せる!

まゝ誤魔化しても連行されそうだが∴

ステカンでキャンプファイヤーの準備は整った!後は行きに買ってきた灯油をぶちまけて∴

いざ！点火！

…

…

トツ「お〜あつたけえ！」

その日は様子見だったので量も少ないから時間も30分ぐらいで燃え尽きた…

30分もの間ずっとトツとぬくぬくしていた。

『結構余裕じゃね？』

トツ「もっと持ってくれば良かったな！」

『後900本ぐらいか…今週一杯で終わりそうだな！』

トツ「1日200本ペースで行こうぜ！」

こりゃ楽勝だな！

その週に限って何かすげー忙しい…

俺とトツのスケジュールが中々合わないの燃やす事が出来ない！

ま〜直ぐ終わりそうだし、ゆっくり処分していくか！

しかし…俺のやる事でそんなに上手く行く事がある訳がない！

シヨウさん「ふく！ステカン後2日で処分してくれない？屋上に物を置きたいんだって！」

あと…2日か…

き…厳しいな…

『分かりました！頑張ってみます！』

シヨウさん「頑張るじゃなくて絶対な！」

『わ…分かりました！』

早速トツに事情を説明…今日の夜中から作業する事に…

その日の仕事は結構早く終わったので400本ほど持って出発した！400本になると1台じゃ足りない為2台になってしまった。

…

現地到着！

あまり燃やし過ぎると目立ってしまっし、時間もあるのでゆっくり燃やした…

計…1時間半…結構掛かったよ…

もう5時半だし…

あと500本か…逝けるのか？

〜次の日〜

この日はトツも俺も仕事は長引いた…

急いで車に詰めて出発するも時刻は4時…

つか…このままじゃ明るくなるよ…

…

到着…

早速準備に取り掛かる！

トツ「時間ないし全部燃やさない？」

『逝けるか？』

トツ「何とかなるよ！」

確かに…時間もないし…チャレンジしてみるか！

残り全部を纏めた。あまり高く作ると火も高く上がるので今回は山の形にして点火した！

…

流石500本だ…あまり燃えない…

トツ「少し灯油掛ければ？」

『確かに全然燃えてないな…掛けてみるよ！』

トツ「おう！任せた！」

トツの「何でも人に任せる病」

ステカンめがけて灯油をぶちまけた！

…

トツ「まだ足りない！もう1回！」

もっかいぶちまけた！

…

やべ…掛け過ぎた！

ステカンの山は

一気に燃えて…

橋まで20mはある高さまで火柱が上がった！

トツ「ふくちゃん！やり過ぎ！絶対橋の上から丸見えだった！」

焦ったよ…マジで…

『とりあえずステカンの山崩せば火柱は上がらないだろ！崩してくる！』

トツ「任せた！」

また出た…

…

…

だ…駄目だ！

熱っつい！

『トツ！駄目だ！ち…近寄れない！』

トツ「…逃げんべー！」

『まじかよー！』

トツ「早くしろ！逃げるぞー！」

『ちょっと待てよ！どうにかしないと！』

トツ「置いて行くぞー！」

『ちょっと待てよ！もっかいチャレンジしてみる！』

足元にあったデカイ石を何個か投げた！

…

…

『駄目だ！トツ！手伝え！』

つて…

居ねーのかよ！

『逃げてんじゃねーよ！』

…

トツ「早くしろ！」

駄目だ… 1人じゃどーにもならない…

幸い… 川だし…

逃げるしかない！

『待って俺も逃げる！』

…次の日…

燃えかすを見に行った！

問題なく全部燃えていた…

それにしてもビビったな…

しかもトツの野郎俺を置いて逃げやがったし…

少しは消すの手伝えよ！

川とはいえファイヤーするのは危険ですので真似しないでください。今は反省しています。トツはどーだか知らんけど…

## トツ編

トツが辞める前の話。

トツは自分の仕事が終わるとちよこちよこチューリップに遊びに来ていた。

遊びに？いや邪魔しに来ていた。

ビールは飲むわ…レーズンバターは食うわ…

客も来ねえし…

素でうぜえ！

トツ「レーズンバター次買って来る時俺のも買って来といて!」

『自分で買えよ!』

トツ「頼むよ!」

『分かったよ!』

次の日: 買い物に行った時に仕方ないから店の金から買ってやった。

そしてトツの仕事が終わった後また来やがった…

『買ったぞ!』

トツ「マジで!?!いつもつまみ食い程度しか出来なかったから1本丸ごと食うのが夢だったんだよね!」

夢って…自分で買えよ…

そのレーズンバターは長さが15cmぐらいで直径2cmの円のレーズンバターだった。丸ごと食ったらかなりの量だ…

つか…丸ごと食いついてるし…

トツ「…やべえ…クソうめえ!」

…一瞬で全部完食しやがった!すげ…

…

…

…

10分もするとトツの顔色がおかしい…

真っ青だ…

トツ「…気持ち悪い…」

『当たり前だろ！レーズンバターって普通にバターだぞ！それを丸ごと食う奴なんていねーよ！』

トツ「だって…食べたかったんだもん…」

『見てるこっちが気持ち悪かったつーの！それを…クソうめえ…なんて言ってるし、俺はビツクリしたよ！』

トツ「駄目だ…気持ち悪い…もう二度と食わねえ…」

馬鹿だ…こいつ…

何でも摘む程度が1番旨いんだよ！

皆もレーズンバターを丸ごと食べないように気を付けよう！

トツみたいになるぞ！

## 克服編

前にアッコのカキであたってから貝類には気を付けるようにしていた…

でも前は大好物だったのに1度でも当たると食べたく無くなるって言うのが凄く分かった…

テレビでカキが出るだけで吐きそうになる…

でも…負けたままで…

殺られっぱなしで…

引き下がりたくない！

何時の日かきつと克服してやろう！そう心に決めていた…

チャンスは直ぐにやってきた…

シヨウさんと良く飲みに行く頃だ。

その日はシヨウさんとママさん、俺、エーちゃんの4人でいつもの寿司屋にやってきた。

シヨウさん「今日のお勧め持ってきて！」

…

…

出てきたのは…なんと…

生力キ…

一瞬吐きそつに…

『お…俺力キで前にあたって逝きかけたんで…見るのも駄目なんですけど…』

シヨウさん「俺も前に当たった事あるよ！気合いで乗り切ったよ！今じゃ問題無く食べれるよ！」

『まじっすか！気合いか…』

…

…

皆…美味しいと言っている…

本当に美味しいのか？

また当たったら嫌だし…

気合いか…

連続で当たる奴なんて滅多にいねーよな！

『よし！食べてみます！』

…

…

あまり…美味しくない…

前回ほど不味くは無いが美味くも無い…

『う…美味いっすね！』話を合わせた。その後は寿司も沢山食べて  
アパートに帰って直ぐに寝た…

…

…

何時間寝たんだろう…

なんか…身体の様子がおかしい…

ヤバい！吐く！

トイレにダッシュ！

…

なんとか間に合った…

でも気持ち悪いのが続いている…

全部出したのに…まだ吐きそうだ。

つか…胃液すらもう出ねえ…

エーちゃん「大丈夫？」

『駄目…水持つてきて…』

水を飲んで吐く…

それを繰り返した…

なんて…ツイてない男だ…

2回連続で当たるって…

中々いないよ…

寝れたのは…結局朝9時頃…4時間ほど寝て起きたら身体がダルい…

体温を測ってみると38度…

風邪なら問題無く出勤するが、カキの当たり方は辛さが違う…

でも休む訳にはいかない…

仕方なく震えながら仕事に出た。途中何度も吐いたし、客からは顔色悪いよ！とも言われた。

この件以来生カキは食べてない。今はカキフライなら食べれるよう

になった！（これでもかなり努力しました）

近いうちに…またチャレンジしてみます。

次も当たったらマジで2度と食わない…

でも…俺の事だ…また当たりそう…

ぼったくり編1

まだリーの会社でまだ働いている頃の話。

今回の話はぼったくりと言うよりぼったくりに近い話だ！

ジユゴンってあだ名の友達がいる。見た目がジユゴンだから皆にそう呼ばれている。

その日は仕事も休みで俺とトツとジユゴンで昼間からスロットを打ちに行った。

閉店まで打って

俺が5万勝ち！

トツも5万勝ち！

ジユゴンが20万勝ち!!

ジユゴン「今日俺が半分出すから飲みにかね？」

『行く!』

トツ「行く!」

その日は皆勝ってるのでちょっとリッチにいつもより高い店に行く事になった!

く到着く

この店は1時までしか営業してないのでラストまで居る事にした。

さあ〜幕開けである…

まず女の子は3人付いた。俺達も普通にドリンクなど飲ませて楽しんでた。ここまでは普通だ。

つか…一気飲みばっかさせてくる…

何杯飲めば良いんだよ!

30分もしないうちにハウスポトルを2本空けてしまった…

流石にペースが早過ぎ!

俺もトツもジユゴンも皆酔っ払ってきた…

逆に言えばエンジンが掛かってきたとも言っ！

女の子「失礼しま〜す！」

女の子が3人やってきた…

どーやら俺達の酒を作ってくれるらしい。

とりあえずきた以上ドリンクを飲ませてあげないと可哀相だ…

つかいちいち俺達が許可すんのもめんどくさい。

トツ「ドリンク飲みたかったら俺達に断らないで勝手に頼んでいいよ〜！」

ま〜いつものパターンだ…

俺達もエンジンが掛かってきたし、軽くフードもたのんだ。

…

…

やべ…フルーツ頼みたい病が出てきた…

勢いで行くか！

隣りの女の子に

『皆に内緒でフルーツ頼んで！』

…

…

店員「お待たせしました！フルーツ盛りで御座います！」

で…でえ…

ジユゴン「誰がフルーツ頼んだんだよ！」

少し高い店なのでビビってる。

俺もトツも軽くスルー。

結構盛り上がってきたな…

ん？

様子がおかしくね？

『なあ…トツ…女の子増えてね？』

トツ「あれ？増えてる…」

1、2、3、…9、10…

10人！？

つか…ドリンクも頼んでるし…

いくらなんでも多過ぎだろ！

…まっジユゴンの奢りだし…別にいいか…

…

…

…そして時間になった…

…そこそこ楽しめたな…

…いったい幾らになったんだ？

店員「御会計が16万円になります。」

16万！？

1時間半しか居ないのに？

た…たけえ…

『先に出しとくよ。後で頂戴！』

…

…帰りは10人に送られた…

…

トツ「やり過ぎ…」

少しキレてる

ジユゴン「誰だよ！フルーツ頼んだ奴！」

被害が大きい為かなりキレてる

トツ「フルーツ要らねえよ！」

やべ…皆フルーツにキレてる…

『だ…誰だよ…フルーツ頼んだ奴…』

ジユゴン「犯人お前か！」

俺は嘘が下手らしい…

矛先を変えなければ…

『ちよつと待て…フルーツなんてたかが1万ちよつとだぞ！犯人はドリンクだって！誰だよ！ドリンク勝手に頼んでいいって言った奴』

トツ「つか…女の子付き過ぎなんだよ！1杯1500円で平均3杯飲んでたら45000円だぞ！タックス込みで5万は超えるって！」

ジユゴン「3杯は少ないな…女の子も回転してたし、10人じゃない…もつと多かった…」

ある意味ぼったくりだよ…

客に断らないで女の子付けて…

しかも…俺とトツ気が付いて無かったし…話もしてなかったし…  
店もやり過ぎだよ…

まゝ俺達も馬鹿って言えば馬鹿なんだが…

でも良心的な店じゃ無かった事は間違いないな。

勉強になりました。

女の子にキレた編

チューリップに勤めて居た頃女の子に数回キレたことがある。

その中でも記憶に残った話を何個かしたいと思います。

その日は常連さんが来ていた。いつも大体2〜3時間飲んでくれる。

2回目の延長が入った後、少しホールを覗いてみたら…

なんとハプニングが起こった…

客がトイレに行くのに立ち上がった。女の子も案内するのに立ち上がるんだが…

客がバランスを崩してまた座ってしまった…

その時掴んでしまったのが…

女の子の洋服…

そのまま洋服はずり落ちて…

…

おっばいポロリ…

…

両方とも全部…

…

うむ。中々デカイ。

…

直ぐに洋服を上げたし客も素で謝っていた。

他のお客さんに見られた可能性はあるが…

客がトイレに行ったあと女の子が俺の所に来た…

女「店長！おっばい出ちゃいました！」

『見てたよ！良いものを見せてもらいました。有難う！しかも中々良い形だったよ！』

女「見てたんですか？」

『バツチリ見たよ!』

女「まゝ店長に見られたのは別にいいですど…。でもお客さんに見られたのが…悔しくて…何で見てたのに注意してくれなかったんですか？」

『わざとじゃ無かったし、ちゃんと謝ってたじゃん!あれは仕方ないよ…』

女「店長はおっぱいが出たのに仕方ないで許しちゃうんですか?あのお客さん出禁にしてください!お客さんと私どっちが大事なんですか!」

何か…言い方がむかつくな…

確かに…難しいが…

こればかりは店によっても違つと思つ。

『どっちも大事だよ。それと故意にやったならそりゃ出禁にするよ。でも相手は酔つ払ってるし千鳥足なのは分かるよね?謝らなかつたら注意するけど今回はちゃんと謝ったから許してあげなよ。』

女「許せません。」

…

…

『そりゃ…言いたい事分かるけど…俺の意見は変えないよ。ごめんね。我慢してくれない?』

女「これで許せませんって言ったら?」

…

『残念だけど辞めるしかないね。確かに難しい判断だけど今回は…許してあげるべきだよ。』

女「…分かりました。許します。その代わり焼肉連れて行ってくださいー!」

『焼肉?あ…うん。いいよ…』

焼肉で許せるのか…

ならもっかい見たいな…

店としては女の子の居やすい空間を作り過ぎると客が離れていく。

女の子には悪いけど今回のケースは仕方ないよ…

…

…

ごめん…この話…あまり俺キレてないや。

ブチギレ編

チューリップに1人の娘が入ってきた。

名前はジュリ

その娘はかなり真面目な娘で水商売は初めて…下ネタは顔が真っ赤になる…

仕事も頑張ってくれていて中々頼りになっていた。

しかも女の子を紹介してくれると言っ！

有り難い！

しかも連れて来てビックリ！

可愛い…

その娘も水商売が初めてなのでなるべくジュリと同じ出勤日にしてあげた！

～事件当り～

その日も新人とジュリは出勤していた。

オープンからにぎわっていて新人とジュリ以外は皆客に付いていた。

そこにピンの常連が来たのだが…この客がまた厄介なのだ…

金は使わないし、Hな話ばかりするので女の子達から嫌われていた。でも金は使わないが、タッチはしてこないし、ちょこちょこ通ってくれているので店にとっては大事なお客さんだ。

女の子はジュリと新人…さて…どっちを付けるか…

ジュリは…Hな話は嫌いだ…

新人は…まだ日が浅い。躲しきれなくて会話に困っても不味い…

ジュリに関しては1ヶ月以上働いているし、水商売やっていく上でまた1歩階段を上がって欲しいし…ジュリにするか…

新人にはまだあの客は早いな…

『ジュリ付いて!』

…

…

中々普通に話してるな…

問題なさそうだ。

『澤!異常があったら教えて!』

…

そろそろ時間だな。

問題なさそうだし…良かったよ。

澤「チェック入りました。」

大体この客は1時間で帰る。

ジュリが客を送った後更衣室に向かった。

…

…

澤「ジュリが更衣室で泣いてます！」

『…まじか…』

…

更衣室に行くと新人もいた。

『ジュリ!どした?何があつた?』

泣いて答えられない。

新人「ちよつとどーいう事ですか!!あのお客さんがHな事言つての店長分かってましたよね?何でジュリちゃん付けたんですか?ジュリちゃんが下ネタ嫌いなもの知ってるのに酷過ぎませんか!!本当に信じられない!!」

いきなり喧嘩ごしに言われてカチンときたが、とりあえずスルーした。

『ジュリ！何があつたんだよ？ちょっと話してくれる？』

ジュリ「大丈夫ですから…もう戻りますから…」

新人「ジュリちゃんがどんな話されたのか知ってますか？どんな体位が好きだ？とか何処が感じるのか？とか言われたんですよ！！店長はお客さんに注意もしないんですか？おかしいですよ！！！！」

…

流石に俺もブチギレた…

『ジュリ！お前タッチされたのか？されてねーだろ！それになお前等…何処で働いてると思ってるんだ？ここはキャバクラだぞ？風俗じゃねーんだから客だつて触つてこないんだよ！たかが下ネタで文句言いやがつて…酔っ払ってる男を相手にしてんだ！下ネタの会話が出て当たり前のような場所なんだよ！下ネタが泣くほど嫌だったらキャバクラで働ける訳ねーだろ！もう今日は帰れ！下ネタ言われても平気な心構えが出来たらこい！出来なければもう来なくていいよ！！！！』

新人の顔が引きつってる。

俺がキレたのにビックリしたのか？

それにしても生意気すぎる…なんだあいつ…いきなり喧嘩ごしで…全く…キャバクラで働くのはあいつ等にはまだ早いな…

結局：その後は働く事は無かったが電話は掛かってきた。

「私には合わない世界です。」

キャバクラだって高い時給出してらんだからそれなりのリスクはある。

キャバクラで働くなら心構えも必要だ。

これから働く人もいるかもしれないけどキャバクラだって大変な仕事ですよ！

そして…

エーちゃんは出て行かなかったが別に関係が良くなる訳ではないので、相変わらず会話は少なかった。

要するに…関係が元に戻らないといつか出ていく…

多分…次は間違いなく別れる事になる。

だからと言って俺はわがままだし、納得出来ない事があつたら容赦無く文句言うだろう…

いくらエーちゃんの気持ちを考えるようになっても俺自身が変わらないと何も変わる事は無い…

そんな事は分かっている…

でもまだガキなんだよね…

素直に変わる事も…

先の事を考える事も…

ちんけなプライドが邪魔してそれ以上前に進む事が出来なかった…

そんな時たまたま寄った古本屋でルーキーズを大人買いした。

久し振りだしもう1度読み直してみよ！

そんな軽いノリで買ったのだが…

この本のあるフレーズが今の俺の心にすげーシミた…

…

…

…

人に好かれたいなら  
人を好きになる事だ。

優しくされたいなら  
優しくしよう。

自分を信じてほしいなら  
人を信じよう。

…

…

今まで全て逆の事をしてきた俺は、

風俗にいたり…

キャバクラにいたり…

エーちゃんを裏切り…

そして… エーちゃんに裏切られ…

エーちゃんに冷たい態度をとって…  
仕事のやる気が無くなれば…

チューリップは潰れて…

シヨウさんには冷たくされて…

もう限界だった俺はシヨウさんと一緒に仕事をやると約束したのに  
『辞める』と言って約束を破ったら…

シヨウさんには裏切られ…

その全てをエーちゃんにぶつけてたら…

エーちゃんにも限界がくる…

全ては今までのツケを払っていただけだった…

そーだったんだ…

簡単な事じゃないか…

そりゃ… 辛い人生なのは当たり前だな。最低な事をやってきたら最低な出来事が帰ってくるよ…

…

これが自分のしてきた事の代償なのか…

俺は本当に最低な事をやって来たんだな…

何か…そう考えたら…

今まで悩んでた事が馬鹿らしくて…

鬱って…俺のせいだよ！とか自分で突っ込み入れて…

おかしくておかしくて仕方が無かった…

その日を境に俺は変れた。

エーちゃんには優しくしたし信用もした。

自分から積極的に動いた。

勿論…エーちゃんだけにじゃない。他人にも全て同じ事をしたよ。

今までのツケもあるし、直ぐ結果が出る訳じゃないけど…

気が付いたら…

不思議とエーちゃんとの間に壁は無くなって…会話も増えて…

今までのようにって訳にはいかないけど、家族3人で飯を食いに行ったり、動物園行ったりもするようになってきた。

すると…今度はエーちゃん自身が変わり始めた…

俺には優しくしてくれるようになってきたし、2人で飯を食いに行

こう何て言い出したり…

勿論飯食いに行ったよ！

居酒屋だけどね！

『2人でくんの久し振りじゃね？』

エーちゃん「かなり久し振りだよね！今日は飲もうね！」

久し振りに楽しく飲む酒は美味しい！本当にこんなに美味しい酒を飲んだのは1年ぶりぐらいだった…

エーちゃん「ふくちゃんさ…なんか変わったよね。」

『分かる？俺の人生全てが変わったよ！』

エーちゃん「何かあったの？」

『あつたね！秘密だけど変わったって言われると嬉しいもんだね！俺変わったんだって実感沸くよ！』

考え方が変わるだけで周りも全て変わるし、何より皆親切になった！

昔は車乗ってるると直ぐ喧嘩していたけど…それは俺が割り込んだり、譲ってあげなかったから喧嘩していただけであって俺が譲れば相手も譲ってくれる。

簡単な話だ…

何でもっと早くに気がつかなかっただろうね…

…

…

その頃…また過去のツケが周ってきた…

…

連続で…

最初は…知らない車の税金支払いが家に届いた…

ナンバー見ても分からない…

でも…ピンつときた！

…

…

これ…オーさんの車だ…

めんどくせーな…

でも俺が払う訳にはいかないし…

とりあえず…税金の手紙オーさんの店に送っとくか…

オーさんの事だし…払ってくれるだろ！

とりあえず…エーちゃんにも相談してオーさん宛てに送った。

これで一安心かと思いきや…

…

今度は…警察から実家に電話が掛かってきた…

流石に警察からの電話はどどるよね…

覚えがないし…

最近悪い事してないし…

…

…

『はい。電話代わりました。ふくですが…』

警察「署の者ですが、君がふく君ね？分かってると思うけど次出頭しなければ逮捕状ですからね！」

逮捕！？

意味わかんね???

『言ってる意味が分かんないんですが…』

警察「手紙送られて来てるでしょ！」

『手紙？知りませんよ！もしかして前の住所に送ってませんか？』

警察「この電話番号の住所にも送っているよ！」

『…見てないから説明してもらえます？』

警察「今から一年半ぐらい前さ　道路で…君オービスにスピード違反で写真撮られてるんだよ。」

…

一年半前？確かにその道は通るけど…車貸してた時もあったし…

俺じゃないかもしれない…

『それ本当に俺ですか？』

警察「それを確認してほしいから警察署にきてもらえる？」

『分かりました。お伺いします。』

…

…

俺…撮られた事あったっけな…

覚えてないな…

写真みればわかるし、焦る事じゃなさそうだな…

…

仕事帰り、警察に言われ時間に出頭すると…警察がすげーデカイ封筒を持ってきた。多分B4かA4サイズだと思う。そして封筒から取り出したデカイ写真を見せてきた。

…

…

!?

…

助手席に…

トツがいて爆笑している…

運転席には…

横を向いているが間違いなく俺がいた…

…

…

しかも爆笑してるし…

かなりハツキリと言い訳出来ないぐらい…

見た瞬間…

『俺で間違いありません。』

って言ってしまったほど…

すっかり忘れていた。

仕事帰りトツと話が盛り上がり、間違えてオービスがある道に入っちゃったんだよな…

それに気が付かないで話して爆笑している時に…

赤く光った覚えが…

…

その後手紙も届かなかったから気のせいにしていただけ…

あの赤い光は気のせいじゃ無かったのか…

警察「時速50キロオーバーね！近いうちに裁判所から手紙が届くからちゃんと出頭して！」

『50キロオーバーって免許取り消しですか？』

警察「違つよ！危ないけどね！点数は残ってるんでしょ？」

『良かった…』

警察「あと…写真見る限り前方不注意にシートベルトだね！」

『はは…勘弁してくださいよ…』

そんなに点数引かれたら免許取り消しだつて！

警察もそこら辺は分かつてくれた…

『罰金は？』

警察「裁判所で決まるよ！」

…

裁判所か…罰金幾らになるんだろ…

少し経つと裁判所から手紙が届いた。

勿論出頭したよ…

何でも1年以上バックレてたらしいから厳しい判決になるらしい…

話とか調書とか録られるのかと思っていた…

裁判官？「何で出頭しなかったの？」

『知りませんでした。この間電話があつて初めて知って出頭しました。』

裁判官? 「分かりました…じゃー罰金10万円ね。」

『…はい…分かりました。』

裁判官? 「また近いうちに交通裁判所から呼ばれるから。」

『また罰金ですか?』

裁判官? 「やった事の間違ひがないかを話すだけだよ。」

『それだけ?』

裁判官? 「それだけ。じゃーちゃんと出頭してくださいね。お疲れ様でした。」

…

…

『えっと…話はおわりですか?』

裁判官? 「終わりです。」

はや!!

5分で終わったよ!

長くなると思ったから仕事休んじゃったじゃねーか！

：

家に帰って速攻支払いに行った。

昼間の仕事をしてから金には困っていなかったので払う事ができた。

水商売と違って金が流れない！むしろ貯金しながら借金返しても余裕がある。

昼間の仕事はすげーよ！

水商売やってると使う機会が多いから下っ端は金が溜まらないのかな？

溜まる人もいるだろうが、俺みたいに家族持ちには向かない仕事だったな。

いや…俺に向かない仕事だったのかな？

そして…2

交通裁判所ではあつた事を認めただけでこれまた直ぐに終わった…

1ヶ月もしない内に試験場から手紙が届いたので、予定日に出頭した。

人数も沢山いるし、する事する事まじ時間が掛かる…

しかも…皆の書類と違って俺のだけデカデカと特別とか判子押してあるし…

意味わかんね…

とりあえず教官に聞いてみるか…

…

『すいません。この特別のマークは何ですか？』

教官「ちよつと見せて…」

…

…

教官「うーん…君が何をしでかしたか分からないけど、普通の人な

ら120日免停で…君は180日免停だね。」

!?

素で切れそうになったがここは我慢…

昔の俺ならキレてたな。

結局俺は特別マークがある為に180日免停で講習受けて100日免停に軽減された…

約3ヶ月かよ…

まじ俺が何したんだよ！

出頭命令知らなかっただけでこれかよ…

でも…これも過去のツケ…

さっさと精算しないと…

皆も出頭命令聞かないと後で痛い目に合うから気を付けよう！

3ヶ月はかなり長かったが、久し振りの電車通勤も新鮮で中々良かった！

最初の1週間ぐらいだけ…

後は毎日満員電車だし、梅雨の時期だったから歩くのめんどくさいし、時間経つにつれて夏になってクソ暑いし臭いし…

…  
…  
でもその後の生活は順調だった。

「エーちゃんも違う病院で働きだして、借金もかなり多く返していった…」

「利息がないので返せば返すほど元金は減る。ボーナスなんて全額借金返済にあてたり…」

「実家に住んでるのもあって生活は楽だった。旅行も行ったたり、家族でデイズニーランドも行ったたりできたしね。」

…  
…  
「そして…時期も段々秋になり、冬になり、年が明けた頃…会社に1本の電話があった…」

「税務署からだった…」

…  
「税務署「お宅の会社にふくさんが勤めていると思ひますが…」」

「上司「はい。勤めています…」」

税務署「実は…ふくさんの給料の差し押さえをさせてもらいます。」

上司「えっ！？本人いるんで代わりますか？」

税務署「御願います。」

…

『電話代わりました。』

税務署「ふくさんですか？」

『はい…』

税務署「ナンバー　　の車お持ちですよね？」

…

…

オーさんの車だ…

『持ってないですよ。』

税務署「でも名義は貴方ですよね？」

『はい。』

税務署「なら税金払ってください。」

『俺の車じゃないから払いませんよ。』

税務署「名義人が払う義務があります。直ぐに払ってもらえないなら給料差し押さえますよ。」

『無理無理。住所と名前教えるからそっちに支払い送ってもらえます？』

税務署「分かりました。」

『支払いが無かったらまた電話してもらえます？』

税務署「お支払いが無い場合は名義人が払う事になりますので。」

『分かりました。』

…

…

…

どーいう事だよ！

送ったのに払ってないのかよ！

…

しかも…良く考えたら…去年の暮れに車検切れてんじゃない？事故  
つたらやべえ…

どーしょ…

これって…大問題じゃね？

と…とりあえず…エーちゃんに相談してみるか…

…

エーちゃん「どーしょつか…」

『悩むね…とりあえず払ってくれるかもしれないから待とうか…』

エーちゃん「そうだね…でも車検はどーするの？」

『名義変更してもらうのが1番なんだけどな…どっち道税金払わないと何も出来ないね…』

エーちゃん「じゃー少し待つか…」

『つーか車検通す時税金払って無ければ、払わないといけないから…通せばいいんだよな…でも、税務署が送ったから様子みるか。』

…

その後3週間が経った頃税務署から連絡がきた。

…

税務署「手紙は送ったのですが、支払いされて無いですね…」

『…分かりました。とりあえず払います。』

税務署「1度警察に相談してみたらどうですか？」

警察か…

なるほど…またイーちゃんに相談するか。

…

…

そして…イーちゃんと相談した結果1度連絡して駄目なら警察に相談してみる事に決まった。

…

車の事も心配だったが実は…

丁度この頃…

借金を全部返済し終わったのだ！

1年ちよつとの間…

毎月約10万ぐらい…無理な時は5万…そしてボーナスも全額返済…

その他にも貯金が30万…

すげー頑張ったよ…

これが嬉しくて嬉しくて…

完璧に車の事を忘れてしまった…

でも…素で頑張ったよ…返す物が無ければ、あとは溜まる一方だぜ！

最高だよね！

なんかそれを考えたら借金するのって馬鹿らしく思えて…

逆に何で借金したんだろ？

不思議に思えたよ。

やっぱり俺みたいな馬鹿は1度痛い目に合わないとは分らないんだよね…

本当に良い勉強になったよ…

借金も無くなったし久し振りに飲みに行ったりしていたら…車の事なんて俺もエーちゃんもすっかり忘れてしまった…

車の事を思い出したのは…

5月…

税金支払いの手紙が届いた時だった…

どんだけ忘れてんだよ。

手紙見た時…

「あつ…」って言っちゃったぐらい…

むしろイーちゃんなんて

イーちゃん「こんな事もあつたね！」

つて…過去形だし！

残念だけど現在進行形だからね。

『とりあえず…また送って駄目なら警察に相談するか…』

イーちゃん「そうだね。さっさと終わらせちゃおう！」

…

後日

オーさんには支払い書と簡潔に纏めた内容の手紙を添えて送った。  
これで何も反応が無ければ警察に相談するしかない。

でも…俺とイーちゃんはまだ車の件を軽く見てた…

警察に相談すれば全て丸く収まると…

そう思っていた…

結局…

オーさんは…税金を払ってくれなかった…

『仕方ないから警察に相談してくるよ。』

エーちゃん「分かった。」

…

早速警察に相談しに向かった。

…

警察に着いて事情を説明すると3人の警官が集まって色々な本を出してきた。

警官「うーん…その話だと別に盗まれた訳でもないし、お手上げだよ…」

『お手上げって…俺もお手上げだから相談しに来てるんですけど…』

警官「そう言われてもね〜我々警察も君の力にはなれないよ。」

『じゃーどーすれば良いんですか!』

警官「だから!我々に言われても困るって言ってるの!」

…

…

警察なんて事件にならないと動いてくれない…

相談した俺が馬鹿だった…

…

…

どーすれば良いんだ？

警察に相談すれば解決すると思っていたのに…

ふりだしに戻っちゃったよ…

そして…3

『駄目だったよ…』

エーちゃん「なんで？」

『警察は事件にならないと動いてくれないみたい…』

エーちゃん「マジで？相談しに行った意味無いじゃん！」

『ないね…』

エーちゃんと話し合っても打開策がない以上何も進まない。

もう…直接オーさんに会いに行くしかないのかな…

そんな悩む日々を過ごしていたらエーちゃんがある物を見つけ  
てきた。

エーちゃん「ふくちゃん！仕事帰りにたまたま目に付いた弁護士事  
務所に入ってみただけど…」

『本当？行ったの？』

エーちゃん「うん。それで事情を説明したら…弁護士は相手が行方  
不明以外ならすんなり行くって！頼んでみる？」

『マジで？1度話してみたいな！』

エーちゃん「分かった！電話して予約してみるよ！」

…

…

なんか…希望が見えてきた！

良かった…

早速予約を入れて弁護士に会いに行った！

…

…

事務所に着いてビックリした…

高層ビルの50階にある…

す…すげ…

…

部屋に案内されて弁護士がきた。

弁護士「初めまして。宜しく御願います。」

『こちらこそ宜しく御願います。』

弁護士「早速本題に入りましょう。大体は経緯を聞いたのですが、このオーさんって方はまだその会社に勤めているんですか？本人が居るのと居ないのではかなり違ってくるので…」

『多分…勤めていると思います…』

弁護士「100%とは言い切れませんよね？」

『はい…』

弁護士「分かりました。あと本人と連絡が取れたとしてどうしたいですか？」

『最低でも名義変更…出来れば廃車にして欲しいですね…』

弁護士「本人さえ捕まればどっちでもいけますね。警察にも相談したんですよね？」

『はい。したんですが相手にしてもらえなくて…』

弁護士「警察も馬鹿にしていますね…こんな話どっちが悪いかわかるのよね。」

『弁護士さんが言うなら心強いです。この件を依頼してもよろしいですか？』

弁護士「いいですよ！しっかり型を付けましょう！」

…良かった！

借金の時の弁護士と違って上から目線じゃ無いし…

とても頼りになりそうだ！

その日は相談だったので何も持ってきて無かったが次回は、車検書、住民票とかその他色々を持ってくる事になった。

しかも相談料を払わなくていいって言うし…

貧乏人にとってヒーローみたいな弁護士だよ…

しかし…これで俺もエーちゃんも安心出来ると思っていたが…

相手は…

あのオーさんだ…

すんなり行っていたらこんな場所に来る訳が無い。

…

…

その後直ぐに言われた書類を用意して2回目の相談に向かった。

ここでの議題は…オーさんが勤めて居るのか居ないのかだ。

俺が勤めて居るって言った所で確証はない。

もしオーさんの居場所が分からなければ、オーさんの実家もしくは、  
オーさんの居場所を探すしかない。

そうになると料金がかなり跳ね上がる…

それは…避けたい…

出来るだけ安く…を考えると…

自分達で動くしかない。

でも丁度イーちゃんの実家に行く用事があつたのでオーさんが勤め  
ている店の前を通って確かめてみる事にした…

イーちゃん「本当に居るのかな？」

『多分…居ると思うよ。』

その日は朝早かった為店にいる訳ないのでオーさんが前に契約して  
いた駐車場の前を通ってみる事にした。

…

…

『ここじゃなかったっけ？』

イーちゃん「あつた！あの車じゃない？」

『本当だ…あつた…』

よし！これで居る事は間違い！

あとは弁護士に任せるだけだ！

…

居る事を弁護士に説明したら、弁護士も1度手紙を送ってみる事な  
った。

内容は簡潔に言つと届いてから1週間以内に車の件で1度連絡をく  
れと言つものだ。

…

…

が…1週間経つても連絡が来ない…

弁護士からの手紙なのに…

バックレてるだけなのか？

それとも手紙を読んでないのか？

どちらにしる困つた…

連絡さえくれば話も進むのだが連絡が来なければ話も進まない…

しかしこの結果に弁護士がキレた…

弁護士「家の場所分かるんですね？」

『はい。』

弁護士「ちよつとオーさんって方我々を馬鹿にしていますよね！もう直接会って来ますよ！」

『えっ！？平気なんですか？』

弁護士「本来なら私の日当を出してもらうのですが、今回は構いません。」

…

なんと弁護士が行ってくれる事になった！

ただ場所が分からないので俺かイーちゃんが行く事になったが、俺は書類など揃えたりするので仕事を休んだりしていたのでこれ以上休む事は難しい…

（市役所や区役所、陸運局：周る所が沢山あつた為に休んだ）

今回はイーちゃんが休みだったので弁護士の道案内を頼んだ。

そして弁護士はオーさんと会って

1 今までの税金代を支払う事

2 車を廃車にする事

3 もし条件を飲まなかったら財産の差押さえをする

を言う事になった…

この弁護士は何気に強い…

妥当オーさんにノリノリだ…

直接会いに行く時何かあったら不味いので警察に連絡入れてから行く事になった。

警察は弁護士に弱い…

1時間以内に弁護士から連絡が無ければ直ぐに現場にくるよつにと伝えた。

弁護士もぬかりない。

当日…エーちゃんは弁護士と一緒にタクシーでオーさん宅まで案内して近くの喫茶店で待つ事に…

30分も経たない内に弁護士が来た…

思ったより早い…

エーちゃん「どうでしたか？」

弁護士「残念ですが居なかつたのでオーさんの奥さんと名乗る方に手紙を渡しておきました。」

エーちゃん「有難う御座います。」

弁護士「これで連絡が無かったらもう実力行使に出ましよう。」

今までのパターンからして連絡は来なかったが、今回は弁護士が直接行ったので連絡もくるだろう。

今回は弁護士が直接来た事でオーさんも電話せざる負えなかったみたいだ。

直ぐに電話があった。

直接電話で話た訳じゃないからよく分からないが、オーさんは弁護士にブチギレたらしい…

弁護士いわく、ボロクソに文句を言われて最後には、「払えばいいんだろ！だったら払ってやるよ！」と言われたみたいだ…

だが…これで決着が着いた！

その後は少し廃車を渋っていたが、最終的には車も廃車にしてくれて税金代もトータル12万ぐらい払ってくれた。

これでもかなり省略して書いたが、実際には弁護士に頼んでから約1年経っていた。

この弁護士はとても良い人で本来なら50万以上掛かってたのに…

たった…

6万円にまけてくれた…

この期間の間3週間に1度は話をしに行っていたので相談料も払ってない…

かなりの赤字だ。

どんだけ良い人なんだよ…

多分金持っている人から料金をとっているんだろうな…

現在…

弁護士の件から半年経ったころ…もう年末だ…

毎日往復3時間掛けて仕事先に通うのはもったいない…

そう思い年明けにでも会社の近くに家を借りて引っ越す方向で考えていた…

でも家賃払うなら家買って家賃払ってると思った方が得だと親に助言されて、1度家を探してみる事にした。

でも何気に家を探すのって…楽しい！

別に急いでいる訳じゃ無かったが何件も周っている内にとても良い物件に出合った…

いや…実際にはまだ家が経ってない更地だったが、こういう物って縁が無いと買えないし…

なんか…とんとん拍子で話が進んで行く。

これは家を買えって事なのか？

幸いにも貯金は300万ある。

一生住む家…

そんな大きな買い物をするのは勇気がいる。

断つてもいいが…年齢がいつてから買うと後が辛い…

35歳で買えば35年ローンで終るのが70歳だ…

今は26歳…

ローンが終るのは61歳…10歳の差はデカイ！

買うなら…

今だ！

しかもそのタイミングで…

エーちゃんが妊娠している事が発覚！

今回は何も阻む事情がないので勿論産む事になった！

…

そうなると…尚更家が欲しい…

3人家族なら実家でも問題無いが、4人になると俺の部屋では狭すぎる…

この事情も俺の背中を押した。

…

でも仮に買う事になったとしても俺達は債務整理に自己破産のコン  
ビだ…

調べられたら何処の銀行も貸してくれる訳がない。

不動産会社の俺の担当の人にも事情を説明して1度仮審査をしても  
らう事になった…

俺1人のローンでいって幸いにも債務整理のやり方が良いやり方で、  
債務整理をしても俺はブラックになって無かつたらしく…

普通に仮審査は通った…

仮審査が通れば本審査もほとんど通る…

仮審査が通った時点で…

俺達は家を買う事に決めた。

多少…本審査を通すのに時間が掛かったが、問題もなく無事に先に  
進めた。

後はもう…少しづつ家具を揃えたり、内装など話合ったりするだけ  
の日々だった。

そんな日々が…なんだか…味わった事の無い気持ちで…

なんて…言ったら良いんだろう…

これが…

幸せなのかな…

今までも何度か『幸せだ！』と感じた事もある。

若い頃…彼女と旅行に行つて気分が高まつた時とか、ただお互いの気持ちを通じ合つたり、何もしてなくても腕枕をして抱き合つていた時とか…

確かに『幸せだ。』と思つたが今までの物とは違つ…

本当の幸せつて…

こういう気持ちなのか…

毎日が安心出来て…

居心地が良くて…

俺が探していた物が全てそこにあつた…

…

その後…雨の影響とか色々あつて完成が2ヶ月ちょっと過ぎたが、

無事に完成した…

そして…

完成とほぼ同時期に…

2人目の子供…次男が誕生した。  
因みに同じ場所で生んでやっぱり生まれた瞬間は同じラーメン屋に  
いました。

長男もいたから昼飯食べなさいといけなかったし…  
本当は立ち会いたかったけどね…

そして…今年…

長男は来年小学生。

次男は2歳。

今まで沢山馬鹿をやってきたが、  
こんな俺でも26歳でマイホームを手に入れる事が出来たのは…  
やっぱり…考え方が変わった事かな。

俺の場合は1度痛い目に合わないと考え方が変わらない奴だし、  
そうだった意味では遠回りをしたと思う。

もっと早く気が付いていたら…

エーちゃんにも楽をさせてあげられたらろう。

あの時…別れていたら…

今の『幸せ』は無かったし、未だに夜の仕事もしていたと思う。

本当に別れなくて良かったと今は思う！

俺より大変な人生を送っている人も沢山居ると思うし、  
これから先もつと大変な人生になるかもしれないけど…

俺はもう戻らない。

家族を守っていきます。

俺…今…

すげー『幸せです』

最後に…

『今でもエーちゃんの事が大好きです。』

』

## あとがき

この小説書けて良かった！

色々な人にこの小説？を読んで貰いたくこのサイトに書きました。  
これを読んで受け止めて欲しい事も沢山あります。

実際俺みたいに変わる人もいるし、変わらない人もいるかもしれ  
ない。

それでも…人間…頑張ればここまで幸せを掴む事ができます。  
人によってやり方は違うと思うし、時期も違うと思う。

仮に歳をとってから「変わるには遅すぎる」なんて思っている人は  
大間違い。

変わる事に遅すぎるなんてありません。

逆に今までと違う世界が見えて楽しいかもしれませんか？

もし…周りに最低な奴がいても長い目で見てやってください。

俺みたいに変わるかも…

さて…

これで普通に終わりにしたらつまらないので、少し面白い事考えま  
した。

実は…

この小説書けているのをエーちゃんは知っています。

『読まないほうがいいよ。』

と言ったのですが、それでも読みたいと言っているので全部書いたら読ませる約束しました…

と…言う事なので…

皆の感想書きたいと思います。

『トツの感想』

トツは他人事にあまり興味はないから感想何てもらえないと思っていた。

…

…

やっぱりそうだった。

『小説の感想は？』

トツ「ん？いいんじゃないね？」

『面白かったのかよ?』

トツ「あゝ面白い面白い。もう電話切っていい?」

『ちよつと待て!感情がこもって無い!』

トツ「何言ってるんだよゝ凄く気持ちが入ってるよゝ」

『うぜえ…じゃー感想は俺に任せろ!』

トツ「任せた!」

と言つ事で…

トツの感想は…

「童顔な顔して脱いだら凄いです。むしろヘビー級です。」

でした。

『リーの感想』

リーならトツより真面目な感想が聞けそうだ。

…

『小説の感想聞かせてよ!』

リー「聞いてくれよ!」

『うん。』

リー「彼女出来た!18歳!」

…感想は?いやむしろ…18歳って…お前どーやって知り合ってたよ!

す…すげー…

『18歳とは…すげーよ!』

リー「でも多分続かねえ!」

『そ…そうか…それで小説の感想は?』

リー「感想は……………」

『分かった!そのまま書いてくよ!』

リー「宜しく!」

リーの感想は

「トツのあそこデカイ！参った！」  
でした。

流石リーとトツの感想だけあって中々レベル高かったよ…  
本当にあいつらと居ると手が焼けるよ…

『エーちゃんの感想』

お互いにどーかしていた時期だったからね…  
まっ…過去の事掘り返しても意味ないしね！  
今が幸せならOKじゃないかな！

過去があつての今だからね！  
私も別れなくて良かったと今凄い思ってる。

これからも頑張っで行こうね！  
私も大好きだよ！

との事です。

確かにその通りに思うよ。でも途中は…  
ちよっとシヨックを受けていた内容もあつたみたい…

そりゃ…仕方ないよね…

以上です。

これから頑張る人へ

最後まで諦めないでください。  
きっと貴方の事を分かってくれる人は必ず居ます。  
私も応援していますよ。

世界の人々が健康で幸せな人生を送れるよう…願いを込めて…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2634f/>

---

最低からの脱出劇

2010年10月9日13時50分発行